講義コー	ド	*	専攻分野 最新医学研究コース					
講義題目	l	難病治療に	おける社会	活動		必修/選択	必修	
担当教員		遊道和雄	:	担当教員連絡	先	内線 4208		
単位数		2 単位(前期1・	後期1)	履修年次		1年		
テーマと目的	内	難病治療におけ	る社会活動を理	理解する				
講義計画		難病の認定制度、	ネットワーク、療	美相談、身体障	害者認定、息	患者会との関わり、災	经 害時対策	
達成目標		① 難病患者の疫 ② 難病患者の支 ③ 難病患者会、	援活動の理解					
教科書•参	考書	リウマチ基本テキン社団法人 日本リ]、2006年)			
準備学習(予習・	復習•時間)	授業後にレポート	トを作成すること	1 時間				
成績評価法		出席と講義内の発表および受講態度による総合評価						
卒業認定・質の方針との		難病治療に関する知識に基づいて、自己の研究			研究を遂行し	√論述する能力を [₹]	習得する。	
			講義	内 容				
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内容	(出席卿)	
1	厚生労働	働省の指定の難病		1	難病患者の診療の注意点			
2	介護保険	倹と難病		2	難病の診断(1)			
3	難病の狙	文学		3	難病の診断(2)			
4	難病の甲	申請/身体障害者	の申請	4	難病患者のケア			
5	市・県と	の関わり		5	ケースプロ	ノゼンテーション	(1)	
6	難病支持	爰と友の会		6	ケースプロ	ノゼンテーション	(2)	
7	講演·療	養相談の実際		7	ケースプロ	ノゼンテーション	(3)	
8	難病のラ	データベース構築	(1)	8	災害時の	対策(1)		
9	難病のラ	データベース構築	(2)	9	災害時の	対策(2)		
10	難病の	トットワーク作り(1)	10	災害時の	対策(3)		
11	難病の	トットワーク作り(2	(;)	11	難病診療	の提携		
12	関節リウ	マチをモデルとした	た患者支援	12	難病支援	の社会的意義(1	L)	
	45 44 AA	<u>د ۱۱ د ۱۳ ما د بارد</u>	++-	10	難病支援の社会的意義 (2)			
13	緑維筋症	痛症をモデルとした	患者支援	の任云的思義(4	2)			
13 14		角症をモアルとした ーーー ェット病をモデルとし		13 14)難病支援	2)	

講義コー	٠٢	*	専攻分野	F	最新医生	学研究コ	ース		
講義題目	1	免疫学•生体	防御学棚	論			必修/選択	必修	
担当教員		遊道和雄		担	当教員連絡	先	内線 4012		
単位数		2 単位(前期1・	後期1)	履	修年次		1年		
テーマと目的	的	生体に備わったが	免疫系のシス	テム	を理解し、剪	雄治性疾患	との関係について	学ぶ	
講義計画		免疫系を構成す する。各種難治性					、その解析法を体 トる。	本系的に説明	
達成目標		免疫系を構成する難治性疾患にお		•					
教科書•参	考書	標準免疫学(医学 Clinical Immunol		by l	Rich, Mosby	7)			
準備学習(予習・	復習•時間)	授業後にレポート	~を作成するこ	ځ	1 時間	İ			
成績評価法	÷	出席と講義内での	出席と講義内での発表および			総合評価			
卒業認定・		免疫学 に関する知識に基づい			こ、自己の研	究を遂行し	論述する能力を習	習得する。	
			講	蹇	为 容				
前期(回)		内 容	(出席卿))	後期(回)		内容	(出席卿)	
1	免疫シス	マテムとは			1	免疫系細	受系細胞のシグナル伝達		
2	自然免疫	支			2	サイトカイ	イトカインとレセプター		
3	獲得免疫	支			3	免疫記憶	免疫記憶		
4	免疫の多	多様性とその分子基	基盤		4	アポトーシスとストレス応答			
5	免疫制御	卸系			5	感染免疫	感染免疫		
6	骨髄から	の免疫細胞の発生	生、分化		6	自己免疫	反応と疾患		
7	T 細胞の	機能			7	移植免疫	 反応		
8	B 細胞の	機能			8	血液幹細	胞移植の理論		
9	抗原提力	示のシステム			9	アレルギー	一の病態生理		
10	樹状細胞	包の特徴と機能			10	腫瘍免疫			
11	骨髄から	の免疫細胞の発生	生、分化		11	免疫と加	鈴		
12	食細胞、	NK 細胞			12	粘膜免疫			
13	NKT 細胞	抱			13	生殖免疫			
14	補体の権	帯造と機能			14	免疫制御	の方法論		
15	前期の割	まとめと討論、発表			15	後期のま	とめと討論、発表		

講義コー	i,	*	専攻分野	最新医	学研究コ	ース		
講義題目		遺伝子•細胞	』制御学特	論		必修/選択	必修	
担当教員		唐澤里江		担当教員連絡	先	内線 4027		
単位数		2 単位(前期1・	後期1)	履修年次		1年		
テーマと目的	Ŕ	難治性疾患制御	のための遺伝	子制御法、細胞	包操作法の	理論と実際を学ぶ	3	
講義計画		分子細胞生物学	の体系的・網絡	羅的理解と遺伝	云子操作、約	田胞培養の基本を	詳述する	
達成目標				田胞制御、その重要性を理解する 尾践を可能にし、難治性疾患の制御へ応用を図る				
教科書•参為	考書	分子生物学集中 Molecular cloning		出利憲、羊土社) 7 manual (Sambrook & Russell, Cold Spring Harbor Press				
準備学習(予習・:	復習•時間)	授業後にレポート	を作成するこ	と 1時間				
成績評価法		出席と講義内での	の発表および	受講態度による	総合評価			
卒業認定・等		自立して研究を行	テい、論文を作	成して発表す	る能力			
			講義	内 容				
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内容	(出席卿)	
1	分子生物	勿学•生化学的研究	で手法の概要	1	発現べク	ターの構築 (1)		
2	DNA の	構造と機能(1)		2	発現ベク	発現ベクターの構築(2)		
3	DNA の	(#) d4 34 (d)		70.70	メーの情楽 (2)			
4		構造と機能(2)		3		ターの構築(2)		
	RNA の	構造と機能 (2) 構造と機能 (1)		3 4	遺伝子クン			
5				-	遺伝子クン遺伝子クン	コーニング(1)		
	RNA の	構造と機能(1)		4	遺伝子クロ遺伝子クロ	コーニング(1)	(1)	
5	RNA の材 遺伝子列	構造と機能 (1) 構造と機能 (2)		4 5	遺伝子クロ遺伝子クロ遺伝子クロ遺伝子の	コーニング (1) コーニング (2) コーニング (3)		
5	RNA の相 遺伝子列 遺伝子列	構造と機能 (1) 構造と機能 (2) 発現 (1)		4 5 6	遺伝子クロ 遺伝子クロ 遺伝子のロ 遺伝子配	ローニング (1) ローニング (2) ローニング (3) 列のシークエンス		
5 6 7	RNA の材 遺伝子多 遺伝子多 DNA のお	構造と機能 (1) 構造と機能 (2) 発現 (1) 発現 (2)		4 5 6 7	遺伝子クロ 遺伝子クロ 遺伝子のロ 遺伝子配 遺伝子配 動物細胞	ローニング (1) ローニング (2) ローニング (3) 列のシークエンス 列のシークエンス		
5 6 7 8	RNA の材 遺伝子列 遺伝子列 DNA の対	構造と機能(1) 構造と機能(2) 発現(1) 発現(2) 増幅、PCR(1)		4 5 6 7 8	遺伝子クリ遺伝子クリ遺伝子クリ遺伝子配遺伝子配動物細胞動物細胞	ローニング (1) ローニング (2) ローニング (3) 列のシークエンス 列のシークエンス の培養法 (1)	(2)	
5 6 7 8 9	RNA の材 遺伝子列 遺伝子列 DNA の対 DNA の対	構造と機能 (1) 構造と機能 (2) 発現 (1) 発現 (2) 増幅、PCR (1) 増幅、PCR (2)	· (1)	4 5 6 7 8 9	遺伝子クロ遺伝子クロ遺伝子クロ遺伝子配遺伝子配動物細胞動物細胞 細胞工学	ローニング (1) ローニング (2) ローニング (3) 列のシークエンス 列のシークエンス の培養法 (1) の培養法 (2)	(2)	
5 6 7 8 9	RNA の材 遺伝子列 遺伝子列 DNA の対 DNA の対 核酸ハイ	構造と機能 (1) 構造と機能 (2) 発現 (1) 発現 (2) 増幅、PCR (1) 増幅、PCR (2) 増幅、PCR (3)		4 5 6 7 8 9	遺伝子グ遺伝子グ遺伝子グ遺伝子配遺伝子配動物細胞 動物細胞 二学	ローニング (1) ローニング (2) ローニング (3) 列のシークエンス 列のシークエンス の培養法 (1) の培養法 (2)	(2)	
5 6 7 8 9 10 11	RNA の材 遺伝子列 遺伝子列 DNA の対 DNA の対 核酸ハイ	構造と機能 (1) 構造と機能 (2) 発現 (1) 発現 (2) 増幅、PCR (1) 増幅、PCR (2) 増幅、PCR (3)	× (2)	4 5 6 7 8 9 10 11 12	遺伝子グ遺伝子グ遺伝子グ遺伝子グ遺伝子和 動物細胞 工 型	コーニング (1) コーニング (2) コーニング (3) 列のシークエンス 列のシークエンス の培養法 (1) の培養法 (2) 、モノクローナルも	(2)	
5 6 7 8 9 10 11 12	RNA の材 遺伝子列 遺伝子列 DNA の対 DNA の対 核酸ハイ 核酸ハイ 遺伝子系	構造と機能 (1) 構造と機能 (2) 発現 (1) 発現 (2) 増幅、PCR (1) 増幅、PCR (2) 増幅、PCR (3) イブリダイゼーション	× (2) 論と実際 (1)	4 5 6 7 8 9 10 11 12 13	遺伝子如遺伝子如遺伝子如遺伝子和配遺伝子子配動物細胞工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工工	コーニング (1) コーニング (2) コーニング (3) 列のシークエンス 列のシークエンス の培養法 (1) の培養法 (2) 、モノクローナルも 、モノクローナルも 的手法の概要とま	(2)	

講義コー	ド	*	専攻分野	最新	医学研究=	ュース	
講義題目		関節リウマチ	の免疫異常	的概論		必修/選択	必修
担当教員		遊道和雄		担当教員	車絡先	内線 4029	
単位数		2 単位(前期1・	後期1)	履修年次		1年	
テーマと目的	灼	関節リウマチの免	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	 解し、滑膜組	間胞の培養を行	· う	
講義計画		関節リウマチの発 関節リウマチの滑		をと継代 しんしゅうしん			
達成目標		 関節リウマチ 関節リウマチ 基礎を学ぶ 			, .	することにより細胞	1免疫学の
教科書・参	考	Kelly's Text boo	k of Rheumato	ology (7th	Edition,2006)		
準備学習(予習・	復習•時間)	授業後にレポー	トを作成するこ	と 1時間			
成績評価法		出席と講義内での	の発表および	受講態度に	よる総合評価		
卒業認定・学		関節リウマチにお 論述する能力を			する知識に基	づいて、自己の研	F究を遂行し、
			講	喜内 容			
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回	1)	内 容	(出席卿)
1	関節リウ	マチの疫学		1	関節リウ	マチの滑膜細胞の	観察
2	自己免疫			2	細胞培養	の基礎(1)	
3	自己抗体	<u></u>		3	細胞培養	の基礎 (2)	
4	炎症のサ	ナイトカイン		4	細胞培養	の基礎 (3)	
5	疾患遺伝	云子		5	関節リウー	マチの滑膜細胞の	分離(1)
6	蛋白分角	解酵素		6	関節リウー	マチの滑膜細胞の	分離(2)
7	関節の相	構造(関節滑膜)		7	関節リウー	マチの滑膜細胞の	分離 (3)
8	関節の権	構造(骨と骨髄)		8	関節リウー	マチの滑膜細胞の	培養(1)
9	関節リウ	マチの病理像(滑]膜組織)	9	関節リウ	マチの滑膜細胞の	培養 (2)
10	関節リウ	マチの病理像(刺	次骨•骨組織)	10	関節リウ	マチの滑膜細胞の	培養 (3)
11	関節リウ	マチの抗サイトカイ	パン療法(1)	11	関節リウ	マチの滑膜細胞の	継代(1)
12	関節リウ	マチの抗サイトカイ	イン療法 (2)	12	関節リウー	マチの滑膜細胞の	継代 (2)
13	関節リウ	マチ滑膜細胞のア	゚゙゙゙゚゙゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚	13	関節リウー	マチの滑膜細胞の	継代 (3)
14	関節リウ	マチ治療の将来の)展望	14	関節リウマ	アチの滑膜細胞の	東結保存(1)
15	関節リウ	マチの免疫異常の	うまとめ	15	関節リウマ	アチの滑膜細胞の	東結保存(2)

講義コー	ド	*	専攻分野	最新医	学研究コ	ース		
講義題目		遺伝子•蛋白	機能解析	学		必修/選択	必修	
担当教員		佐藤 工		担当教員連絡	先	内線 4007		
単位数		4 単位(前期 2・	後期 2)	履修年次		2年		
テーマと目的	ń	治療標的分子を同ために、遺伝子や				、その病態発現機 際を学ぶ	構を解析する	
講義計画		分子細胞生物学的	内解析、ゲノムケ	解析、プロテオ・	ーム解析の』	原理や操作方法を	既説する	
達成目標		分子細胞生物学的 ゲノム解析、プロラ				を得する		
教科書•参考	考書	分子生物学集中記 Molecular cloning		利憲、羊土社) manual (Sambrook & Russell, Cold Spring Harbor Press)				
準備学習(予習・	復習•時間)	関連の参考資料、 指摘された箇所を				る 1時間		
成績評価法		出席と講義内での	の発表および多	受講態度による	総合評価			
卒業認定•	学位授与	遺伝子•蛋白機能	と解析学に関	する知識に基づ	ざいて、自己	この研究を遂行し記	命述する能力	
の方針との	関連性	を習得する。						
	l		講義	内 容				
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内容	(出席卿)	
1	分子生物	物学的研究手法の	概要	1	遺伝子組	組み換え実験の理論		
2	DNA の	構造と機能		2	遺伝子グ	子クローニング(1)		
3	RNA の	構造と機能		3	遺伝子クロ	子クローニング (2)		
4	タンパク!	質の構造と機能		4	#1170 포상 ==	酵素・修飾酵素の使用法		
5	遺伝子列	 沒現調節機構	パク質の構造と機能			・修飾酵素の使用	法	
6	D314 bb1			5		・修飾酵素の使用ターの設計・作製		
	DNA 抽	出の実際		5 6	発現べクタ		(1)	
7	DNA 抽版 核酸の定				発現べクタ	ターの設計・作製	(1)	
7 8	核酸の定			6	発現べクタ	ターの設計・作製ターの設計・作製	(1)	
	核酸の定	量		6 7	発現べクク 発現ベクク レポーター ChiP アップ	ターの設計・作製ターの設計・作製	(1)	
8	核酸の定 PCR プラ	至量		6 7 8	発現べクク 発現ベクク レポーター ChiP アップ	ターの設計・作製ターの設計・作製ーアッセイ法セイの原理と実際	(1)	
8 9	核酸の定 PCRプラ PCR	E量 イマーの設計方法 PCR		6 7 8 9	発現べクタ 発現ベクタ レポーター ChiP アップ ウエスタン	ターの設計・作製ターの設計・作製ーアッセイ法セイの原理と実際	(1)	
8 9 10	核酸の定 PCRプラ PCR 定量的 F	全量 ・イマーの設計方法 PCR 出の実際		6 7 8 9 10	発現べクタ 発現ベクタ レポーター ChiP アップ ウエスタン 免疫組織 ELISA	ターの設計・作製ターの設計・作製ーアッセイ法セイの原理と実際	(1)	
8 9 10 11	核酸の定 PCR プラ PCR 定量的 F RNA 抽品	全量 ・イマーの設計方法 PCR 出の実際 ・作製		6 7 8 9 10 11	発現べクタ 発現ベクタ レポーター ChiP アップ ウエスタン 免疫組織 ELISA	ターの設計・作製ターの設計・作製・アッセイ法とイの原理と実際でブロッティング 染色	(1)	
8 9 10 11 12	核酸の定 PCRプラ PCR 定量的 F RNA 抽品 cDNA の	全量 イマーの設計方法 PCR 出の実際 の作製		6 7 8 9 10 11 12	発現べクタ 発現ベクタ レポーター ChiP アップ ウエスタン 免疫組織 ELISA マイクロア ゲノム解析	ターの設計・作製ターの設計・作製・アッセイ法とイの原理と実際でブロッティング 染色	(1)	

講義コー	ド	*	専攻分野 最新医学研究コース				
講義題目	l	ナノバイオテ	クノロジー	概論(I)		必修/選択	必修
担当教員		藤井亮爾		担当教員連絡	先	内線 4029	
単位数		2 単位(前期1・	後期1)	履修年次		2年	
テーマと目的	内	ナノテクノロジーの	の医療への貢	献と新技術創象	製へ向けた	基礎的知識を修得	する
講義計画		ナノテクノロジー(問題点を詳述す		ける現状を踏っ	まえ、ナノテ	クノロジーの医療原	応用の現状と
達成目標				最新技術を理解 用の現状を理解		と修得する。 京を考察する知識を	を修得する。
教科書•参表	岑書	別途指示					
準備学習(予習・	復習•時間)	授業後にレポート	トを作成するこ	と 1時間			
成績評価法		出席と講義内の	発表または受	講態度による総	合評価		
卒業認定・等		ナノバイオロジー する。	ナノバイオロジーに関する知識に基づいて、自己の研究を遂行し論述する能 する。				
			講	6 内 容			
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内容	(出席卿)
1	ナノテク	ノロジー研究の歴り	史と現状(1)	1	ナノ妻材	(分子)の医療応用	1 (4)
					7 7 24.1/1	のコーク区域心内	(1)
2	ナノテク	ノロジー研究の歴り	史と現状(2)	2		(分子)の医療応用	
3		ノロジー研究の歴り オテクノロジー: 約		2 3	ナノ素材		(2)
	ナノバイ		浴論	3	ナノ素材生体・組織	(分子)の医療応用	(1): 構造
3	ナノバイ	オテクノロジー: 糸	総論 経済学的視点	3	ナノ素材 生体・組織	(分子)の医療応用 機構築とナノ分子	(1): 構造(2): 精製
3	ナノバイ ナノバイ ナノバイ	オテクノロジー: 糸オテクノロジー: 糸	総論 経済学的視点 問題点と展望	3 4	ナノ素材 生体・組織 生体・組織 生体・組織	(分子)の医療応用 戦構築とナノ分子 戦構築とナノ分子	(1): 構造 (2): 精製 (3): 分析
3 4 5	ナノバイ ナノバイ ナノバイ 生体高タ	オテクノロジー: 糸 オテクノロジー: 糸 オテクノロジー: 艮	総論 経済学的視点 問題点と展望 1)	3 4 5	ナノ素材 生体・組織 生体・組織 生体・組織 生体・組織	(分子)の医療応用 戦構築とナノ分子 戦構築とナノ分子	(1): 構造 (2): 精製 (3): 分析 (4): 機能
3 4 5 6	ナノバイ ナノバイ ナノバイ 生体高分 生体高分	オテクノロジー: 糸 オテクノロジー: 糸 オテクノロジー: 艮 ナ子化学の基礎(総論 経済学的視点 問題点と展望 1) 2)	3 4 5 6	ナノ素材 生体・組約 生体・組約 生体・組約 生体・組約	(分子)の医療応用 機構築とナノ分子 機構築とナノ分子 機構築とナノ分子	(1): 構造 (2): 精製 (3): 分析 (4): 機能
3 4 5 6 7	ナノバイ ナノバイ ナノバイ 生体高分 生体高分	オテクノロジー: 終 オテクノロジー: 終 オテクノロジー: 門 オ子化学の基礎(子子化学の基礎(総論 至済学的視点 問題点と展望 1) 2) 3)	3 4 5 6 7	ナノ素材 生体・組織 生体・組織 生体・組織 機能ナノタ	(分子)の医療応用 機構築とナノ分子 機構築とナノ分子 機構築とナノ分子 機構築とナノ分子	(1): 構造 (2): 精製 (3): 分析 (4): 機能 生
3 4 5 6 7 8	ナノバイ ナノバイ 生体高分 生体高分 生体高分	オテクノロジー: 終 オテクノロジー: 能 オテクノロジー: 問 オテクノロジー: 問 オテ化学の基礎(オテ化学の基礎(オテ化学の基礎(総論 経済学的視点 問題点と展望 1) 2) 3)	3 4 5 6 7 8	ナノ素材 生体・組織 生体・組織 生体・組織 機能ナノシ 機能ナノシ	(分子)の医療応用 機構築とナノ分子 機構築とナノ分子 機構築とナノ分子 機構築とナノ分子 サインカ子 サインの基礎:構造	(1): 構造 (2): 精製 (3): 分析 (4): 機能 告
3 4 5 6 7 8 9	ナノバイ ナノバイ 生体高分 生体高分 高分子(高分子(オテクノロジー: 終 オテクノロジー: 能 オテクノロジー: 問 オテクノロジー: 問 オテ化学の基礎(オテ化学の基礎(オテ化学の基礎(オテ化学の基礎(総論 圣済学的視点 問題点と展望 1) 2) 3) 1)	3 4 5 6 7 8 9	ナノ素材 生体・組約 生体・組約 生体・組約 機能ナノタ 機能ナノタ 機能ナノタ	(分子)の医療応用 機構築とナノ分子 機構築とナノ分子 機構築とナノ分子 機構築とナノ分子 分子の基礎: 構造 分子の基礎: 精製	(1): 構造 (2): 精製 (3): 分析 (4): 機能 查
3 4 5 6 7 8 9	ナノバイ ナノバイ 生体高分 生体高分 高分子イ 高分子イ	オテクノロジー: 終 オテクノロジー: 能 オテクノロジー: 限 オテクノロジー: 限 オテクノロジー: 限 オテ化学の基礎(オテ化学の基礎(と学の医療応用(と学の医療応用(総論 圣済学的視点 引題点と展望 1) 2) 3) 1) 2) 3)	3 4 5 6 7 8 9	ナノ素材 生体・組 生体・組 生体・組 機能ナノ 機能ナノ 機能ナノ 機能ナノ	(分子)の医療応用 機構築とナノ分子 機構築とナノ分子 機構築とナノ分子 機構築とナノ分子 分子の基礎:構造 分子の基礎:精造 分子の基礎: 特勢	(1): 構造 (2): 精製 (3): 分析 (4): 機能 查 型 行 E
3 4 5 6 7 8 9 10 11	ナノバイナノバイナノバイ生体高が生体高が高分子に高分子に高分子に高分子に高分子に高分子に高分子に高分子に高分子に高分子に	オテクノロジー: 糸オテクノロジー: 糸オテクノロジー: 昆オテクノロジー: 昆子化学の基礎(子化学の基礎(と学の医療応用(と学の医療応用(と学の医療応用(と学の医療応用(と)	総論 経済学的視点 引題点と展望 1) 2) 3) 1) 2) 3 療展開(1)	3 4 5 6 7 8 9 10 11	ナノ素材 生体・組紀 生体・組紀 生体・組紀 生体・組紀 機能ナノタ 機能ナノタ 機能ナノタ 機能ナノタ 機能ナノタ	(分子)の医療応用 機構築とナノ分子 機構築とナノ分子 機構築とナノ分子 機構築とナノ分子 砂子の基礎:構造 分子の基礎:精製 分子の基礎:精製 分子の基礎:機能	(1): 構造 (2): 精製 (3): 分析 (4): 機能 查 证 (1) (2)
3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	ナノバイナノバイナノバイ生体高が生体高が高分子である。 高分子で高分子である。 おいま こうかん こうかん こうかん こうかん こうかん こうかん こうかん こうかん	オテクノロジー: 終 オテクノロジー: 終 オテクノロジー: 限 オテクノロジー: 限 子化学の基礎(分子化学の基礎(と学の医療応用(と学の医療応用(と学の医療応用(と学の医療応用(と学の医療応用(総論 経済学的視点 引題点と展望 1) 2) 3) 1) 2) 3 療展開(1)	3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	ナノ素材 生体・組 生体・組 生体・組 機 機 能 は 機 能 は け し り り り り り り り り り り り り り り り り り り	(分子)の医療応用 機構築とナノ分子 機構築とナノ分子 機構築とナノ分子 機構築とナノ分子 分子の基礎:構造 分子の基礎:精製 分子の基礎:特製 分子の基礎:機能 分子の基礎:機能	(1): 構造 (2): 精製 (3): 分析 (4): 機能 查 证 (1) (2)

講義コート	k	*	専攻分野	最新医	学研究コ	ース		
講義題目		ナノバイオテ	クノロジー	概論 (II)		必修/選択	必修	
担当教員		杉下陽堂		担当教員連絡	先	内線 4029		
単位数		2 単位(前期1・	後期1)	履修年次		2年		
テーマと目的	J	ナノバイオテクノロ	コジーの医療に	芯用を研究する	ための基礎	と と と と と と と と と と と と と と と と と と と	を得する。	
講義計画		ナノバイオテクノロ	コジーの医療し	こ向けた取り組	みを通して	、有用性と問題点	を詳解する。	
達成目標		ナノバイオテクノロ と遂行の能力を修		の詳解を通じて	、最新知見	の修得ならびに研	f究計画立案	
教科書·参考	書	別途指示						
準備学習(予習・復	夏智・時間)	授業後にレポート	を作成するこ	と 1時間				
成績評価法		出席と講義内の多	発表または受調	構態度による総	合評価			
卒業認定•学	位授与	ナノバイオテクノロ	コジーの医療		『識に基づい	ハて、自己の研究	を遂行し論述	
の方針との	関連性	する能力を習得っ	する。					
			講	多内容				
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内 容	(出席卿)	
1	ナノバイ	オテクノロジー応用: 	: 皮膚(序)	1	ナノバイオ	テクノロジー応用:	軟骨(序)	
2	皮膚組織	歳と髙分子: 構造		2	軟骨組織	と高分子: 構造		
3	皮膚組織	機と高分子:機能		3	軟骨組織	軟骨組織と高分子: 機能		
4	皮膚組織	機能維持・再生と	:高分子	4	軟骨組織	軟骨組織機能維持・再生と高分子		
5	皮膚組織	歳の再生医療(1)		5	軟骨組織の再生医療(1)			
6	皮膚組織	歳の再生医療(2)		6	軟骨組織	の再生医療(2)		
7	ナノバイ	オテクノロジー応用	月: 骨(序)	7	ナノバイオ	テクノロジー応用:	血管 (序)	
8	骨組織と	:高分子: 構造		8	血管組織	血管組織と高分子: 構造		
9	丹妇缢 し			血管組織と高分子:機能				
	月 水丘 附以 C	:高分子: 機能		9	血管組織	と高分子: 機能		
		:高分子: 機能 :高分子: 機能		9	7	と高分子:機能 と高分子:機能		
10	骨組織と		5分子		血管組織		高分子	
10	骨組織と	高分子: 機能	分子	10	血管組織血管組織	と高分子: 機能	高分子	
10 11 12	骨組織と 骨組織を 骨組織の	高分子: 機能 機能維持・再生と高	5分子	10	血管組織血管組織血管組織	と高分子: 機能機能維持・再生と	高分子	
10 11 12	骨組織を 骨組織の 骨組織の	高分子: 機能 機能維持・再生と高 の再生医療(1)	i分子	10 11 12	血管組織血管組織血管組織血管組織	と高分子:機能 機能維持・再生と の再生医療(1)	高分子	

講義コー	٠ ٢	*	専攻分野	۶	学研究コ	ース			
講義題目	1	再生医療概	論 - 細	胞剂	台療学 -		必修/選択	必修	
担当教員		杉下陽堂		担	当教員連絡	先	内線 4274		
単位数		2 単位(前期1・	後期1)	履何	修年次		2年		
テーマと目に	的	再生医療の歴史	的背景および	現北	犬を理解し、	疾患への	** お用方法を学ぶ。		
講義計画		細胞培養法、疾 に詳述する。	患動物作製法	と、斜	田胞移植法:	およびそれ	ぞれを用いた解析	斤法を体系的	
達成目標		1. 再生医療で用 2. 細胞、疾患モ			•		する。		
教科書•参	考書	1. 再生医療のた 2. 再生医療への		•		MOOK 株	株式会社メデイカルドウ)		
準備学習(予習・	復習•時間)	授業後にレポー	トを作成するこ	ځ:	1 時間				
成績評価法		出席と講義内の	発表または受	講態	度による総	合評価			
卒業認定・空		再生医療学に関	ゔ゙゚゚゙゙゙゙゙゙゙゙゙	いて、自己の	の研究を遂行	テレ論述する能力	を習得する。		
			講	髮 卢	为 容				
前期(回)		内 容	(出席卿)	:	後期(回)		内容	(出席卿)	
1	胚性幹絲	細胞 (1)			1	病態モデル動物(1)			
2	胚性幹絲	細胞(2)			2	病態モデル動物(2)			
3	体性幹約	細胞(1)			3	病態モデ	ル動物(3)		
4	体性幹約	細胞(2)			4	薬物療法(1)			
5	iPS 細胞	(1)			5	薬物療法(2)			
6	iPS 細胞	(2)			6	薬物療法	(3)		
7	細胞培養	菱 (1)			7	細胞移植	療法(1)		
8	細胞培養	菱 (2)			8	細胞移植	療法(2)		
9	脂肪細胞	包への分化誘導			9	細胞移植	療法 (3)		
10	軟骨細胞	包への分化誘導			10	再生医療	のためのバイオマラ	テリアル(1)	
11	骨細胞~	への分化誘導			11	再生医療	のためのバイオマラ	テリアル(2)	
12	神経細胞	包への分化誘導			12	再生医療	のためのバイオマラ	テリアル(3)	
13	In vitro	分化誘導と検証((1)		13	移植細胞	生着と分化の検証	E (1)	
14	In vitro	分化誘導と検証((2)		14	移植細胞	生着と分化の検証	E (2)	
15	前期総合	合討論と発表			15	後期総合	討論と発表		

講義コー	۲	*	専攻分野	F	最新医	学研究コ	ース		
講義題目		ドラッグデリィ	ジリーシスプ	テム	概論		必修/選択	必修	
担当教員		藤井 亮爾		担	当教員連絡	先	内線 4027		
単位数		2 単位(前期1・	後期1)	履何	修年次		2年		
テーマと目的	5	ドラッグデリバリー	・システム概念	を担	里解し、疾患	患治療への最善処方論を学ぶ。			
講義計画		医療におけるドラ を体系的に詳述		ーシ	ステムの重!	要性と薬理	効果評価法および	ドその解析法	
達成目標		1. 薬物療法に生2. 細胞、モデル					概念を理解する。 と結果の解析法を	理解する。	
教科書•参考	書	1. DDSの基礎と 2. ドラッグデリバリー	,			開とその活用	法(株式会社メデイス	<i>ル</i> ドウ)	
準備学習(予習・行	复習•時間)	授業後にレポート	~を作成するこ	ځ:	1 時間				
成績評価法		出席と講義内の多	出席と講義内の発表または受講態度による総合評価						
卒業認定•学			ドラッグデリバリーシステム学に関する知識に基づいて、自己の研究を遂行し論述 *** *********************************						
の方針との	関連性	能力を習得する。	能力を習得する。 						
前期(回)		 内 容	(出席卿)		· 在 後期(回)		 内 容	 (出席卿)	
1	ドラッグラ	 デリバリーシステム(1		 ル動物(1)	(14/11/07	
2		イングと薬物治療			2		 ル動物(2)		
3	ターゲテ	イングと薬物治療	(2)		3	病態モデ	ル動物 (3)		
4	徐放性と				4	薬物療法	各論(1)		
5	徐放性と	±薬物治療(2)			5	薬物療法	各論 (2)		
6	薬物キャ	リアと細胞内動態	(1)		6	薬物療法	各論 (3)		
7	薬物キャ	リアと細胞内動態	(2)		7	細胞内動	態解析法(1)		
8	薬物キャ	リアと体内動態(1)		8	細胞内動	態解析法(2)		
9	薬物キャ	・リアと体内動態(2)		9	細胞内動	態解析法(3)		
10	生理活性	生物質の化学修飾	(1)		10	体内動態	解析法(1)		
11	生理活性	生物質の化学修飾	(2)		11	体内動態	解析法(2)		
12	化学修食	術生理活性物質 の	動態(1)		12	データ解	折法(1)		
13	化学修食	施生理活性物質 の	動態(2)		13	データ解	折法(2)		
14	化学修食	施生理活性物質の	動態(3)		14	データ解	<u> </u>		
15	前期総合	計論と発表			15	後期総合	討論と発表		

講義題目 遺伝子・細胞制御学 実習 必修/選択 単編 4008 単位教 4008 単位教 4008 単位教 4008 単年 第年 2年	講義コー	ード	*	専攻分野 最新医学研究コース						
単位数 1単位(前期・後期) 履修年数 2年 テーマと目的 分子生物学、細胞工学の基本技術を実習する 講義計画 基本的な分子細胞生物学的実験を実際に行う DNA、RNAの抽出や増幅の原理を理解したうえで適切に操作できる細胞培養の基礎と解析法を学ぶ分子生物学集中離義中継(井田利憲、羊土社) 分子生物学集中講義中継(井田利憲、羊土社) Molecular cloning: a laboratory manual (Sambrook & Russell, Cold Spring Harbor Press) 授業後にレポートを作成すること 1時間 成績評価法 出席と講義内の発表または受講態度による総合評価 卒業認定・学位授与の方針との関連性 遺伝子・細胞制御学に関する知識に基づいて、自己の研究を遂行し論述する能力を習得する。 講義内の発表または受講態度による総合評価 資保子・細胞制御学に関する知識に基づいて、自己の研究を遂行し論述する能力を習得する。 1 哺乳類細胞からの DNA の抽出 1 遺伝子発現の実際(1) 2 RNA 抽出の実際(1) 2 遺伝子発現の実際(2) 3 RNA 抽出の実際(1) 2 遺伝子発現の実際(2) 4 校務の定量 4 初代細胞培養 5 cDNA の作製(1) 5 細胞分離の原理と操作(1) 6 cDNA の作製(2) 6 FACS の原理と操作(1) 7 RT-PCR(1) 7 FACS の原理と操作(2) 9 様々な PCR(1) 9 ウエスタンブロッティング (1) 9 様々な PCR(2) 10 ELISA (1) 11 発現ペクターの設計(1) 11 ELISA (2) 12 発現ペクターの作製(1) 13 免疫組織染色(2) 14 発現ペクターの作製(2) 14 各種細胞の機能解析	講義題目	l	遺伝子•細胞	別制御学	実	¥ E		必修/選択	必修	
デーマと目的 分子生物学、網胞工学の基本技術を実習する 講義計画 基本的な分子細胞生物学的実験を実際に行う DNA、RNA の抽出や増幅の原理を理解したうえで適切に操作できる 無本的な遺伝子組み換えを自分で計画し実行できる 細胞培養の基礎と解析法を学ぶ 分子生物学集中講義中継(井田利憲、羊土社) Molecular cloning; a laboratory manual (Sambrook & Russell, Cold Spring Harbor Press) 費備学習(予言・優言・時間) 授業後にレポートを作成すること 1 時間 成績評価法 出席と講義内の発表または受講態度による総合評価 卒業設定・学位授与の方針との関連性 遺伝子・細胞制御学に関する知識に基づいて、自己の研究を遂行し論述する能力を習得する。 講義内容 内容 (出席⑩) 後期(回) 内容 (出席⑩) 1 哺乳類細胞からの DNA の抽出 1 遺伝子発現の実際(1) 2 遺伝子発現の実際(2) 3 細胞株の細胞培養 4 核酸の定量 4 初代細胞培養 4 初代細胞培養 5 cDNA の作製(1) 5 細胞分離の原理と実際 6 cDNA の作製(2) 6 FACSの原理と操作(1) 7 RT-PCR(1) 7 FACSの原理と操作(2) 8 RT-PCR(2) 8 ウエスタンブロッティング(1) 9 様々なPCR(1) 9 ウエスタンブロッティング(2) 10 様々なPCR(2) 10 ELISA(1) 11 発現ペクターの設計(2) 12 免疫組織染色(1) 13 発現ペクターの作製(2) 14 各種細胞の機能解析	担当教員		藤井亮爾		担	当教員連絡	先	内線 4008		
講義計画 基本的な分子網胞生物学的実験を実際に行う DNA、RNA の抽出や増幅の原理を理解したうえで適切に操作できる基本的な遺伝子組み換えを自分で計画し実行できる網胞培養の基礎と解析法を学ぶ分子生物学集中講義中継(井田利憲、羊土社) Molecular cloning; a laboratory manual (Sambrook & Russell, Cold Spring Harbor Press) 授業後にレポートを作成すること 1時間	単位数		1単位(前期・後	期)	履	修年次		2年		
達成目標 DNA、RNA の抽出や増幅の原理を理解したうえで適切に操作できる基本的な遺伝子組み換えを自分で計画し実行できる細胞培養の基礎と解析法を学ぶ分子生物学集中講義中継(井出利憲、羊土社) Molecular cloning; a laboratory manual (Sambrook & Russell, Cold Spring Harbor Press)	テーマと目的	的	分子生物学、細胞	包工学の基本	技術	析を実習する	3			
達成目標 基本的な遺伝子組み換えを自分で計画し実行できる 細胞培養の基礎と解析法を学ぶ 教科書・参考書 分子生物学集中講義中継(井出利憲、羊土社) Molecular cloning; a laboratory manual (Sambrook & Russell, Cold Spring Harbor Press) 準備学習(予習・復習・時間) 授業後にレポートを作成すること 1時間 成績評価法 出席と講義内の発表または受講態度による総合評価 卒業認定・学位授与 の方針との関連性 遺伝子・細胞制御学に関する知識に基づいて、自己の研究を遂行し論述する能力を習得する。 前期(回) 内容 (出席⑩) 後期(回) 内容 (出席⑩) 1 哺乳類細胞からの DNA の抽出 1 遺伝子発現の実際(1) 2 園伝子発現の実際(2) 3 RNA 抽出の実際(1) 2 遺伝子発現の実際(2) 3 細胞体の細胞培養 4 核酸の定量 4 初代細胞培養 5 cDNA の作製(1) 5 細胞分離の原理と実際 6 cDNA の作製(2) 6 FACS の原理と操作(1) 7 FACS の原理と操作(2) 7 RT-PCR(1) 7 FACS の原理と操作(2) 9 8 RT-PCR(2) 8 ウエスタンブロッティング(2) 10 ELISA(1) 9 様々な PCR(2) 10 ELISA(1) 11 ELISA(2) 12 発現ベクターの設計(2) 12 免疫組織染色(2) 14 発現ベクターの作製(2) 14 各種細胞の機能解析	講義計画		基本的な分子細		₹験	を実際に行	う			
数科書・参考書 Molecular cloning; a laboratory manual (Sambrook & Russell, Cold Spring Harbor Press)	達成目標		基本的な遺伝子	組み換えを自	分	•		:操作できる		
成績評価法	教科書·参	考書				,	,	sell, Cold Spring I	Harbor Press)	
卒業認定・学位授与の方針との関連性 遺伝子・細胞制御学に関する知識に基づいて、自己の研究を遂行し論述する能力を習得する。 前期(回) 内容 (出席⑩) 後期(回) 内容 (出席⑩) 1 哺乳類細胞からの DNA の抽出 1 遺伝子発現の実際(1) 2 RNA 抽出の実際(1) 2 遺伝子発現の実際(2) 3 RNA 抽出の実際(2) 3 細胞株の細胞培養 4 核酸の定量 4 初代細胞培養 5 cDNA の作製(1) 5 細胞分離の原理と実際 6 cDNA の作製(2) 6 FACS の原理と操作(1) 7 RT-PCR(1) 7 FACS の原理と操作(2) 8 RT-PCR(2) 8 ウエスタンプロッティング(2) 10 様々な PCR(1) 9 ウエスタンプロッティング(2) 10 様々な PCR(2) 10 ELISA(1) 11 発現ベクターの設計(1) 11 ELISA(2) 2 発現ベクターの作製(1) 13 免疫組織染色(2) 14 発現ベクターの作製(2) 14 各種細胞の機能解析	準備学習(予習・	復習•時間)	授業後にレポート	を作成するこ	ځ:	1 時間				
の方針との関連性 習得する。 前期(回) 内容 (出席®) 後期(回) 内容 (出席®) 1 哺乳類細胞からの DNA の抽出 1 遺伝子発現の実際(1) 2 RNA 抽出の実際(1) 2 遺伝子発現の実際(2) 3 RNA 抽出の実際(2) 3 細胞株の細胞培養 4 核酸の定量 4 初代細胞培養 5 cDNA の作製(1) 5 細胞分離の原理と実際 6 cDNA の作製(2) 6 FACS の原理と操作(1) 7 RT-PCR(1) 7 FACS の原理と操作(2) 8 RT-PCR(2) 8 ウェスタンブロッティング(1) 9 様々な PCR(2) 10 ELISA(1) 10 様々な PCR(2) 10 ELISA(2) 12 発現ベクターの設計(1) 11 免疫組織染色(1) 13 発現ベクターの作製(1) 13 免疫組織染色(2) 14 発現ベクターの作製(2) 14 各種細胞の機能解析	成績評価法	•	出席と講義内の発表または受講態度による				合評価			
前期(回) 内容 (出席®) 後期(回) 内容 (出席®) 1 哺乳類細胞からの DNA の抽出 1 遺伝子発現の実際(1) 2 RNA 抽出の実際(1) 2 遺伝子発現の実際(2) 3 RNA 抽出の実際(2) 3 細胞株の細胞培養 4 核酸の定量 4 初代細胞培養 5 cDNA の作製(1) 5 細胞分離の原理と実際 6 cDNA の作製(2) 6 FACS の原理と操作(1) 7 RT-PCR(1) 7 FACS の原理と操作(2) 8 RT-PCR(2) 8 ウエスタンブロッティング(1) 9 様々な PCR(1) 9 ウエスタンブロッティング(2) 10 様々な PCR(2) 10 ELISA(1) 11 発現ベクターの設計(1) 11 ELISA(2) 12 発現ベクターの設計(2) 12 免疫組織染色(1) 13 発現ベクターの作製(2) 14 各種細胞の機能解析						織に基づい	て、自己の	研究を遂行し論え	述する能力を	
1 哺乳類細胞からの DNA の抽出 1 遺伝子発現の実際(1) 2 RNA 抽出の実際(1) 2 遺伝子発現の実際(2) 3 RNA 抽出の実際(2) 3 細胞株の細胞培養 4 核酸の定量 4 初代細胞培養 5 cDNA の作製(1) 5 細胞分離の原理と実際 6 cDNA の作製(2) 6 FACS の原理と操作(1) 7 RT-PCR(1) 7 FACS の原理と操作(2) 8 RT-PCR(2) 8 ウエスタンプロッティング(1) 9 様々な PCR(1) 9 ウエスタンプロッティング(2) 10 様々な PCR(2) 10 ELISA(1) 11 発現ベクターの設計(1) 11 ELISA(2) 12 発現ベクターの設計(2) 12 免疫組織染色(1) 13 発現ベクターの作製(1) 13 免疫組織染色(2) 14 発現ベクターの作製(2) 14 各種細胞の機能解析				講	多。	为 容				
2 RNA 抽出の実際 (1) 2 遺伝子発現の実際 (2) 3 RNA 抽出の実際 (2) 3 細胞株の細胞培養 4 核酸の定量 4 初代細胞培養 5 cDNA の作製 (1) 5 細胞分離の原理と実際 6 cDNA の作製 (2) 6 FACS の原理と操作 (1) 7 RT-PCR (1) 7 FACS の原理と操作 (2) 8 RT-PCR (2) 8 ウエスタンブロッティング (1) 9 様々な PCR (1) 9 ウエスタンブロッティング (2) 10 様とな PCR (2) 10 ELISA (1) 11 発現ベクターの設計 (1) 11 ELISA (2) 12 発現ベクターの設計 (2) 12 免疫組織染色 (1) 13 発現ベクターの作製 (1) 13 免疫組織染色 (2) 14 発現ベクターの作製 (2) 14 各種細胞の機能解析	前期(回)		内容	(出席卿)		後期(回)		内 容	(出席卿)	
3 RNA 抽出の実際 (2) 3 細胞株の細胞培養 4 核酸の定量 4 初代細胞培養 5 cDNA の作製 (1) 5 細胞分離の原理と実際 6 cDNA の作製 (2) 6 FACS の原理と操作 (1) 7 RT-PCR (1) 7 FACS の原理と操作 (2) 8 RT-PCR (2) 8 ウエスタンプロッティング (1) 9 様々な PCR (1) 9 ウエスタンプロッティング (2) 10 様々な PCR (2) 10 ELISA (1) 11 発現ベクターの設計 (1) 11 ELISA (2) 12 発現ベクターの設計 (2) 12 免疫組織染色 (1) 13 発現ベクターの作製 (1) 13 免疫組織染色 (2) 14 発現ベクターの作製 (2) 14 各種細胞の機能解析	1	哺乳類絲	囲胞からの DNA の	抽出		1	遺伝子発	- 発現の実際(1)		
4 核酸の定量 4 初代細胞培養 5 cDNAの作製(1) 5 細胞分離の原理と実際 6 cDNAの作製(2) 6 FACSの原理と操作(1) 7 RT-PCR(1) 7 FACSの原理と操作(2) 8 RT-PCR(2) 8 ウエスタンブロッティング(1) 9 様々な PCR(1) 9 ウエスタンブロッティング(2) 10 様々な PCR(2) 10 ELISA(1) 11 発現ベクターの設計(1) 11 ELISA(2) 2 発現ベクターの設計(2) 12 免疫組織染色(1) 13 発現ベクターの作製(1) 13 免疫組織染色(2) 14 発現ベクターの作製(2) 14 各種細胞の機能解析	2	RNA 抽	出の実際(1)			2	遺伝子発	子発現の実際(2)		
5cDNA の作製 (1)5細胞分離の原理と実際6cDNA の作製 (2)6FACS の原理と操作 (1)7RT-PCR (1)7FACS の原理と操作 (2)8RT-PCR (2)8ウエスタンブロッティング (1)9様々な PCR (1)9ウエスタンブロッティング (2)10様々な PCR (2)10ELISA (1)11発現ベクターの設計 (1)11ELISA (2)12発現ベクターの設計 (2)12免疫組織染色 (1)13発現ベクターの作製 (1)13免疫組織染色 (2)14発現ベクターの作製 (2)14各種細胞の機能解析	3	RNA 抽	出の実際(2)			3	細胞株の	眼株の細胞培養		
6 cDNA の作製 (2) 6 FACS の原理と操作 (1) 7 RT-PCR (1) 7 FACS の原理と操作 (2) 8 RT-PCR (2) 8 ウエスタンブロッティング (1) 9 様々な PCR (1) 9 ウエスタンブロッティング (2) 10 様々な PCR (2) 10 ELISA (1) 11 発現ベクターの設計 (1) 11 ELISA (2) 12 発現ベクターの設計 (2) 12 免疫組織染色 (1) 13 発現ベクターの作製 (1) 13 免疫組織染色 (2) 14 発現ベクターの作製 (2) 14 各種細胞の機能解析	4	核酸の気	芒量			4	初代細胞	細胞培養		
7 RT-PCR (1) 7 FACS の原理と操作 (2) 8 ウエスタンブロッティング (1) 9 様々な PCR (1) 9 ウエスタンブロッティング (2) 10 様々な PCR (2) 10 ELISA (1) 11 発現ベクターの設計 (1) 11 ELISA (2) 2 発現ベクターの設計 (2) 12 免疫組織染色 (1) 13 発現ベクターの作製 (1) 13 免疫組織染色 (2) 14 発現ベクターの作製 (2) 14 各種細胞の機能解析	5	cDNA Ø	作製(1)			5	細胞分離			
8 RT-PCR (2) 8 ウエスタンブロッティング (1) 9 様々な PCR (1) 9 ウエスタンブロッティング (2) 10 様々な PCR (2) 10 ELISA (1) 11 発現ベクターの設計 (1) 11 ELISA (2) 12 発現ベクターの設計 (2) 12 免疫組織染色 (1) 13 発現ベクターの作製 (1) 13 免疫組織染色 (2) 14 発現ベクターの作製 (2) 14 各種細胞の機能解析	6	cDNA σ	作製(2)			6	FACS のり	原理と操作(1)		
9様々な PCR (1)9ウエスタンブロッティング (2)10様々な PCR (2)10ELISA (1)11発現ベクターの設計 (1)11ELISA (2)12発現ベクターの設計 (2)12免疫組織染色 (1)13発現ベクターの作製 (1)13免疫組織染色 (2)14発現ベクターの作製 (2)14各種細胞の機能解析	7	RT-PCF	(1)			7	FACS の	原理と操作(2)		
10様々な PCR (2)10ELISA (1)11発現ベクターの設計 (1)11ELISA (2)12発現ベクターの設計 (2)12免疫組織染色 (1)13発現ベクターの作製 (1)13免疫組織染色 (2)14発現ベクターの作製 (2)14各種細胞の機能解析	8	RT-PCF	(2)			8	ウエスタン	/ブロッティング (<u>]</u>	L)	
11 発現ベクターの設計 (1) 11 ELISA (2) 12 発現ベクターの設計 (2) 12 免疫組織染色 (1) 13 発現ベクターの作製 (1) 13 免疫組織染色 (2) 14 発現ベクターの作製 (2) 14 各種細胞の機能解析	9	様々なⅠ	PCR (1)			9	ウエスタン		2)	
12 発現ベクターの設計 (2) 12 免疫組織染色 (1) 13 発現ベクターの作製 (1) 13 免疫組織染色 (2) 14 発現ベクターの作製 (2) 14 各種細胞の機能解析	10	様々なⅠ	PCR (2)			10	ELISA (1	1)		
13 発現ベクターの作製(1) 13 免疫組織染色(2) 14 発現ベクターの作製(2) 14 各種細胞の機能解析	11	発現べん	7ターの設計 (1)			11	ELISA (2	2)		
14 発現ベクターの作製 (2) 14 各種細胞の機能解析	12	発現べん	7ターの設計 (2)			12	免疫組織	染色(1)		
	13	発現べん	アターの作製(1)			13	免疫組織	染色(2)		
15 発現ベクターの作製 (3) 15 総合計論と発表	14	発現べん	7ターの作製(2)			14	各種細胞	の機能解析		
And the state of t	15	発現べん	ターの作製(3)			15	総合討論	と発表		

講義コー	ド	※ 専攻分野 最新医学研究コース							
講義題目	I	運動器再生	•再建治療	学	概論(I)		必修/選択	選択	
担当教員		遊道和雄		担	当教員連絡	先	内線 4029		
単位数		2 単位(前期 1・	後期 1)	履何	修年次		1年		
テーマと目的	约	運動器疾患の病 修得する。	因に根ざした	再4	上医療の基準	本を理解し	、発展させるための	り基礎知識を	
講義計画		運動器疾患の病	因・病態を総	括し	、運動器の	再建、再生	に向けた治療法を	:詳解する。	
達成目標		再生医療を主眼	に据えた運動	器彩	実患治療の	最新知見を	修得する。		
教科書·参表	垮書	別途指示							
準備学習(予習・	復習•時間)	授業後にレポー	トを作成するこ	ځ	1時間				
成績評価法		出席と講義内の	発表または受	講態	度による総	合評価			
卒業認定・	学位授与	運動器再生・再検治療学に関する知識に基づい					己の研究を遂行し記	倫述する能力	
の方針との	関連性	を習得する。							
\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \		I de			夕			(11.4.0)	
前期(回)	>=====================================	内 容	(出席卿)		後期(回)		内 容 	出席卿)	
1		D特性 (1: 解剖:			1	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	プリガース サイス ファイス ファイス ファイス ファイス ファイス ファイス ファイス ファ		
2		D特性 (2: 組織:			2		且織再生医療の現状 (1) 		
3		失患の病因・病態			3		組織再生医療の現状 (2)		
4		英患の病因・病態 			4		組織再生医療の最新展開		
5		失患の病因・病態 			5		軟骨組織再生医療の現状 (1)		
6		失患の病因・病態 			6		再生医療の現状		
7		失患治療: 再建術	• •		7		再生医療の現状		
8		失患治療: 再建徐			8		再生医療の最新原		
9		吳患治療: 再建 徐			9		・再生の現状(1		
10		失患治療:再生医療 			10		・再生の現状 (2		
11	運動器	失患治療:再生医療	家の現状(2)		11	靭帯再建	・再生の最新展開		
12	運動器	失患治療:再生医療	寮の現状(3)		12	骨関節組	織の複合的再建治	去 ————————————————————————————————————	
13	運動器再	手生医療の問題点			13	骨関節組	織の複合的再生	医療	
14	前期総合	計論と発表 (1)			14	後期総合	討論と発表 (1)		
15	前期総合	計論と発表 (2)			15	後期総合	討論と発表 (2)		

講義コード	*	専攻分野	最新医生	学研究コ	ース		
講義題目	運動器再生	・再建治療	学概論(II))	必修/選択	選択	
担当教員	遊道和雄		担当教員連絡	先	内線 4029		
単位数	2 単位(前期 1・	後期1)	履修年次		1年		
テーマと目的	運動器疾患に対 器再生法を理解			自己組織化	・ 比技術を用いた複	合的組織•臟	
講義計画	自己組織化技術	を用いた複合	的(階層的)組	織・臓器再	生の最新知見を討	¥解する。	
達成目標	1. 自己組織化技 2. 自己組織化技						
教科書•参考書	別途指示						
準備学習(予習・復習・時間)	授業後にレポー	トを作成するこ	と 1時間				
成績評価法	出席と講義内の	発表または受	講態度による総	合評価			
卒業認定•学位授与	自己組織化技術	で関する知識	畿に基づいて、	自己の研究	どを遂行し論述する	る能力を習得	
の方針との関連性							
26### (I=1)			後内容 ※#(日)	T	н <i>р</i>	/ULEE	
前期(回) 1 自己組約	内 容 ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** **	(出席卿) ————————————————————————————————————	後期(回)	白口织纳	内 容 化とナノカーボン	(出席卿) 	
	戦化技術について 数化技術について		2		化とナノカーボン		
	戦化技術の産業応		3	+			
	戦化技術の最新展				2組織化とナノカーボン分子 (3) カーボン分子の医療応用につい		
自己組織	北口及所ジスを成 战化技術の医療応用				化技術による階層		
5 (既存技			5		生について(序)	च- कालकर्ष [©]	
6 自己組織	総化技術による運動	器再建(1)	6	階層的	骨組織再生(1)		
7 自己組織	比技術による運動	器再建(2)	7	階層的	骨組織再生(2)		
8 自己組織	战化技術による運動	器再建(3)	8	階層的	軟骨組織再生 (1	L)	
9 自己組織	比技術による運動	器再建(4)	9	階層的	軟骨組織再生(2	2)	
10 自己組織	機化技術と運動器	再生 (小括)	10	統合的	骨軟骨組織再生	(1)	
11 自己組織	戦化技術の医療応	用将来構想	11	統合的	骨軟骨組織再生	(2)	
12 自己組織	战化技術医療応用の	0問題点 (1)	12	階層性	骨軟骨再生の問題	直点	
				階層性骨軟骨再生の具体的応用法			
13 自己組織	战化技術医療応用の	D問題点 (2)	13	階層性	骨軟骨再生の具体	k的応用法	
	战化技術医療応用の 合計論と発表 (1)		13 14	-	骨軟骨再生の具体 計論と発表 (1)	上的応用法	

講義コー	ード	*	専攻分野	最親	医气	学研究コ [、]	ース		
講義題目		ヒトT細胞白	血病ウイル	、スと疾患	!概	論	必修/選択	選択	
担当教員		佐藤知雄		担当教員	連絡	先	内線 4021		
単位数		2 単位(前期 1・	後期 1)	履修年次	履修年次 1年				
テーマと目的	的	全国に120万人名 疾患との関わりに		細胞白血	房 ウイ	ルス(HTLV	~1)感染症を理解	し、それによる	
講義計画	HTLV-1の発見から現在までの研究の歴史、HT ・ 感染症と宿主免疫との関係、HTLV-1による免疫 ・ や発癌との関わりについて概説、HTLV-1関連約						態との関係、HTLV-		
達成目標	HTLV-1 を含めたレトロウイル								
教科書·参	対科書・参考書 HTLV-1 と疾患 (文光堂)								
準備学習(予習・	学習(予習・復習・時間) 授業後にレポートを作成するこ								
成績評価法	成績評価法 出席と講義内の発表または受討					合評価			
卒業認定・4		成人 T 細胞白血 能力を習得する。		関する知識	戦に基	くづいて、自	己の研究を遂行	し 論述する	
			講	と 内 容					
前期(回)		内 容	(出席卿)	後期(回)		内 容	(出席卿)	
1	HTLV-1	l 研究の歴史		1		HTLV-1	の動物モデル		
2	ヒトレトロ	ウイルス研究の現	状	2		ATLとHTLV-1 感染免疫			
3	HTLV-1	しの自然史と疫学		3		HAM の免疫異常			
4	HTLV-1	しの感染経路		4		HTLV-1 感染細胞の特徴			
5	HTLV-1	し のウイルス学		5		HTLV-1	感染とT 細胞分化	í	
6	HTLV-1	しの分子生物学(基礎と臨床)	6		HTLV-1	感染と制御性 T 糾	胞	
7	HTLV-1	L 関連脊髄症(HAI	M)の臨床	7		HTLV-1	感染と樹状細胞		
8	HAM の	病態と治療		8		HTLV-1	感染とNKT 細胞		
9	HAM の	免疫遺伝学		9		HTLV-1	感染と NF- κ B 活	性化	
10	HTLV-1	関連ぶどう膜炎、	唾液腺炎	10		HTLV-1	による炎症機構		
11	HTLV-1	関連関節炎、肺療		11		HTLV-1	による発癌機構		
12	成人T	細胞白血病(ATL)	の診断	12		HTLV-1	 のエピジェネティク	' ス	
13	ATL Ø	化学療法		13		HAM と A	TL の分子標的浴		
14	ATL のi			14		HAM の再			
15	ATL の	細胞生物学		15		нам, ат	L 患者との交流		

Į	厚攻分野/コース (英文名)	最新医学研究コース (Advanced Course for Medical Research)
	研究指導教員	明石 嘉浩
研究・教育の概略	め責任をもって一員としてである。そのために必要な 午前中は循環器疾患におび、午後では各疾患にお た。また循環器疾患は全ま ことが可能なようにカリキョ また医学特論では循環器 らう予定である。 それらの習得した知識に	兄が多く、指導医や研修医なども加わり、チーム医療が必要とされる。そのた ご加わり、上級医の指示、指導ももとに適切な医療をすすめていくことが大切 は知識や技術を系統的に理解し、実践できるようにすることが目的となる。 おける病態、症候、診断法、治療法などを、臨床の現場で経験した症例より学 はける循環器特有の診断法、画像診断、カテーテル検査などを学ぶにようにし 身疾患の一環として発症することも少なくないので、全身疾患を系統的に見る よラムを設定した。 の臨床的なエキスパートを学外から呼び、アップデートな実践的な話をしても より収集した情報から問題点を抽出し、個々の情報に意味づけをして優先順 計画がたてられるようになれるよう教育していく。
研究項目		動療法に関する研究 悪呼吸症候群の研究
準備学習(予習·復習)	電図、エコー、核医学、C での選択方法を学ぶ。不 断と治療法に関して学ぶ	経験する疾患の治療ガイドラインを確認する。虚血性心疾患に関しては、心T、MRI等の非侵襲的検査の組み合わせ方と、心臓カテーテル検査に至るま整脈疾患に関しては、心電図の読み方、そこから予想される不整脈起源、診。心不全に関しては急性期と慢性期の違いの理解、急性心不全における血・を学び、慢性期には内服薬の使い方と心移植への橋渡しに関して学ぶ。

講義コー	ド	*	専攻分野	学研究コ	ース				
講義題目		循環器病態	学(I)			必修/選択	必修		
担当教員		田邉 康宏		担当教員連絡	先	内線 3313			
単位数		2単位(前期 1・	後期 1)	履修年次	1年				
テーマと目的	Ŕ	症例に基づいて	基本的な循環	器疾患の病態	を把握する				
講義計画		色々な基本的な	循環器疾患症	例を通して病態	まを理解し 管	管理方法を検討す	る		
達成目標			. 基本的な循環器疾患について病態を論理的に説明できる . 基本的な循環器疾患の病態に基づいた管理を計画できる						
教科書•参表	考書	別途指示							
準備学習(予習・	復習•時間)	循環器疾患に関する病態や診断に関して、Braunwald Heart Disease を用いて予習・復習を行う。 1時間							
成績評価法		出席とプレゼンテーション内容、態度などを総合的に判断する							
卒業認定・学位授与 の方針との関連性 循環器病態学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する							習得する		
			講義	内 容					
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内容	(出席卿)		
1	心疾患~	へのアプローチの仕	土方 ①	1	循環器疾	患 心電図の役割	について ①		
2	心疾患~	へのアプローチの仕	土方 ②	2	循環器疾	循環器疾患 心電図の役割について ②			
3	心疾患~	へのアプローチの仕	土方 ③			心電図の装着法について ①			
4	循環器級	生事の定候 ①		3	心電図の	装着法について	1		
5				4		装着法について 装着法について	_		
	循環器經	英患の症候 ②			心電図の		2		
6	.,,		見診	4	心電図のモニター	装着法について	2 L 1		
6	循環器級	英患の症候 ②		5	心電図のモニターがモニターが	装着法について	2 L 1		
	循環器物	英患の症候 ② 医患の身体所見 右	触診	5 6	心電図のモニターが	装着法について 心電図でわかること 心電図でわかること	2 L 1		
7	循環器% 循環器% 循環器%	英患の症候 ② 英患の身体所見 を 英患の身体所見 を	触診 ①	4 5 6 7	心電図のモニターが徐脈性不徐脈性不	装着法について が電図でわかること で で かること 整脈とは ①	2 L 1		
7 8	循環器然 循環器然 循環器然	英患の症候 ② 英患の身体所見 を 英患の身体所見 が 英患の身体所見 が 英患の身体所見 を	対 対 対 対 対 で お ②	4 5 6 7 8	心電図のモニターが徐脈性不徐脈性不	装着法について 心電図でわかること 心電図でわかること 整脈とは ① 整脈とは ②	② 上 ①		
7 8 9	循環器然 循環器然 循環器然 循環器然	英患の症候 ② 英患の身体所見 を 英患の身体所見 が 英患の身体所見 が 英患の身体所見 が 大息の身体所見 が 大息の身体所見 が	性診 應診 ① 應診 ② 應診 ③	4 5 6 7 8 9	心電図のモニターが徐脈性不徐脈性不頻脈性不	装着法について 心電図でわかること 心電図でわかること 整脈とは ① 整脈とは ② 整脈とは ②	2 2 1 2 2		
7 8 9	循環器然 循環器然 循環器然 循環器然	英患の症候 ② 英患の身体所見 を 英患の身体所見 を 英患の身体所見 を 英患の身体所見 を 英患の身体所見 を 大息の身体所見 を 大息の身体所見 を	性診 應診 ① 應診 ② 應診 ③	4 5 6 7 8 9	心電図のモニターが徐脈性不徐脈性不頻脈性不規脈性不	装着法について	2 2 2 2 2		
7 8 9 10	循環器然循環器然循環器器 循環器器	英患の症候 ② 英患の身体所見 を 英患の身体所見 所 英患の身体所見 所 英患の身体所見 所 英患の身体所見 所 英患の身体所見 所 大息の身体所見 所 大息の身体所見 所	触診 施診 ① 施診 ② 施診 ③ 打診 まとめ	4 5 6 7 8 9 10 11	心電図のモニターが徐脈性不徐脈性不頻脈性不規脈性不	装着法について	2 2 2 2 2		
7 8 9 10 11 12	循環器 循環器 循環器 器 器 器 器 器 器 器 器 器 器 器 器 器 器	英患の症候 ② 英患の身体所見 を 英患の身体所見 を 英患の身体所見 を 英患の身体所見 を 英患の身体所見 を 英患の身体所見 を 大息の身体所見 を 大息の身体所見 を 大息の身体所見 を	触診 施診 ① 施診 ② 施診 ③ 打診 まとめ 方 ①	4 5 6 7 8 9 10 11 12	心電図のモニターが徐脈性不徐脈性不頻脈性不虚血性心虚血性心	装着法について が	2 2 2 2 2		

講義コー	ド	*	* 専攻分野 最新医学研究コース						
講義題目		循環器病態	学(Ⅱ)			必修/選択	必修		
担当教員		明石 嘉浩		担当教員連絡	先	内線 3313			
単位数		2単位(前期 1・	後期 1)	履修年次		2年			
テーマと目的	勺	症例に基づいて	基本的な循環	器疾患の病態	を把握する				
講義計画		色々な基本的な	循環器疾患症	例を通して病態	態を理解して	管理方法を検討す	る		
達成目標			. 基本的な循環器疾患について病態を論理的に説明できる 2. 基本的な循環器疾患の病態に基づいた管理を計画できる						
教科書·参表	考書	別途指示							
準備学習(予習・	復習•時間)	循環器疾患に関する病態や診断に関して、Braunwald Heart Disease を用いて予習・復習を行う。 1時間							
成績評価法		出席とプレゼンテ	fする						
	卒業認定・学位授与 の方針との関連性 の方針との関連性						習得する		
			講	多内容					
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内容	(出席卿)		
1	心疾患~	へのアプローチの(土方 ①	1	循環器疾	盾環器疾患 心電図の役割について ①			
2	心疾患~	へのアプローチの仕	・疾患へのアプローチの仕方 ① ・疾患へのアプローチの仕方 ②						
3	心疾患へのアプローチの仕方 ② ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			2	循環器疾	患 心電図の役割			
ა	心疾患~	·		3		患 心電図の役割に 装着法について	について ②		
4		·			心電図の		について ② ①		
	循環器級	へのアプローチの <u>f</u>		3	心電図の	装着法について	について ② ① ②		
4	循環器物	へのアプローチの位	土方 ③	3 4	心電図の 心電図の モニター	装着法について	(こついて ② ① ② と ①		
4 5	循環器約 循環器約	へのアプローチの(実患の症候 ① 疾患の症候 ②	土方 ③	3 4 5	心電図の ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	装着法について 装着法について 心電図でわかるこ	(こついて ② ① ② と ①		
4 5 6	循環器系 循環器系 循環器系	へのアプローチの位 実患の症候 ① 実患の症候 ② 実患の身体所見 右	土方 ③ 見診 触診	3 4 5 6	心電図の 心電図の モニター/ モニター/ 徐脈性不	装着法について 装着法について 心電図でわかるこ。	(こついて ② ① ② と ①		
4 5 6 7	循環器然 循環器然 循環器然 循環器然	へのアプローチの位 医患の症候 ① 医患の症候 ② 医患の身体所見 を 医患の身体所見 を	土方 ③ 見診 触診 聴診 ①	3 4 5 6 7	心電図の ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	装着法について 装着法について 心電図でわかるこ。 心電図でわかるこ。 整脈とは ①	(こついて ② ① ② と ①		
4 5 6 7 8	循環器然 循環器然 循環器然 循環器然 循環器然	へのアプローチの位	土方 ③ 見診 触診 聴診 ① 聴診 ②	3 4 5 6 7 8	心電図の ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	装着法について 装着法について 心電図でわかるこ。 心電図でわかるこ。 整脈とは ① 整脈とは ②	(こついて ② ① ② と ①		
4 5 6 7 8 9	循環器然 循環器 器	へのアプローチの位 疾患の症候 ① 疾患の症候 ② 疾患の身体所見 を 疾患の身体所見 が 疾患の身体所見 が 疾患の身体所見 が 疾患の身体所見 が 疾患の身体所見 が 疾患の身体所見 が	土方 ③ 見診 触診 聴診 ① 聴診 ② 聴診 ③	3 4 5 6 7 8 9	心電図の心電図のでは、一を一を一を手が、一を手が、一を手が、一を手が、一を手が、一を手が、一を手が、	装着法について 装着法について 心電図でわかるこ。 心電図でわかるこ。 整脈とは ① 整脈とは ② 整脈とは ②	について ② ① ② と ① と ②		
4 5 6 7 8 9	循環器 循環器 循環器 器 器 器 器 器 器 器 器 器 器 器 器 器 器	へのアプローチの位 疾患の症候 ① 疾患の症候 ② 疾患の身体所見 を 疾患の身体所見 を 疾患の身体所見 を 疾患の身体所見 を 疾患の身体所見 を 疾患の身体所見 を 疾患の身体所見 を 疾患の身体所見 を 疾患の身体所見 を	土方 ③ 見診 触診 聴診 ① 聴診 ② 聴診 ③	3 4 5 6 7 8 9	心電図の心電図のでは、一年に対している。一年に対している。これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、	装着法について 装着法について 心電図でわかるこ。 整脈とは ① 整脈とは ② 整脈とは ② 整脈とは ①	について ② ① ② と ① と ② と ②		
4 5 6 7 8 9 10 11	循環器器	へのアプローチの位 疾患の症候 ① 疾患の症候 ② 疾患の身体所見 を 疾患の身体所見 を	土方 ③ 見診 触診 聴診 ① 聴診 ② 聴診 ③ 打診 まとめ	3 4 5 6 7 8 9 10 11	心電図の心電図のでは、一年に対している。一年に対している。これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、	装着法について 装着法について 込電図でわかるこ。 整脈とは ① 整脈とは ② 整脈とは ② 整脈とは ② 変脈とは ② 疾患の心電図 ② 疾患の心電図 ②	について ② ① ② と ① と ② と ②		
4 5 6 7 8 9 10 11 12	循環器器 器器器 器器器器器器器器器器器器器器器器器器器器器器器器器器器器器器	へのアプローチの位 疾患の症候 ① 疾患の症候 ② 疾患の身体所見 を 疾患の身体所見 を	土方 ③ 見診 触診 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	心電図の心電図のでは、一年の一年の一年の一年の一年の一年の一年の一年の一年の一年の一年の一年の一年の一	装着法について 装着法について 込電図でわかるこ。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	について ② ① ② と ① と ② と ②		

講義コー	ド	*	専攻分野	最新医生	学研究コ	ース		
講義題目	l	循環器症候	学(I)	·		必修/選択	必修	
担当教員		明石 嘉浩		担当教員連絡	各先	内線 3313		
単位数		2単位(前期 1・	後期 1)	履修年次		1年		
テーマと目的	约	症例に基づいて	基本的な循環	器疾患の症状	を把握する			
講義計画		色々な基本的な	色々な基本的な循環器疾患症例を通して症状を理解し管理方法を					
達成目標			. 基本的な循環器疾患について症候を論理的に説明できる . 基本的な循環器疾患の症候に基づいた診断、治療を計画できる					
教科書•参表	善	別途指示						
準備学習(予習・	復習•時間)	循環器疾患に関 習を行う。 1時間	盾環器疾患に関する病態や診断に関して、Braunwald Heart Disease を用いて予習 目を行う。 1時間					
成績評価法		出席とプレゼンラ	ーション内容	合的に判断	折する			
卒業認定・等		- 循環器症候学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する						
			講	& 内 容				
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内容	(出席卿)	
1	虚血性心	心疾患の症候のと	5え方 ①	1	循環器疾患と浮腫 ①			
2	虚血性心	ン疾患の症候のと	5え方 ②	2	循環器疾患と浮腫 ②			
3	不整脈の	り症候のとらえ方(1	3	循環器疾患と動悸 ①			
4	不整脈の	り症候のとらえ方(2	4	循環器疾患と動悸 ②			
5	弁膜症0	の症候のとらえ方(1)	5	循環器疾患と呼吸困難 ①			
6	弁膜症0	の症候のとらえ方(2	6	循環器疾患と呼吸困難 ②			
7	心筋症0	の症候のとらえ方	1)	7	循環器疾患と胸痛 ①			
8	心筋症0	の症候のとらえ方(2	8	循環器疾	患と胸痛 ②		
9	大動脈	失患の症候のとらえ	法方①	9	循環器疾	患とチアノーゼ		
10	大動脈	失患の症候のとらえ	方 ②	10	循環器疾	患と血圧異常 ①)	
11	肺循環障	章害の症候のとらえ	方	11	循環器疾	患と血圧異常 ②)	
12	左心不全	全の症候のとらえた	ī ①	12	循環器疾	患と脈拍異常 ①)	
13	左心不全	全の症候のとらえた	ī 2	13	循環器疾	患と脈拍異常 ②)	
14	右心不全	全の症候のとらえた	ī ①	14	循環器疾	患と失神 ①		
15	左心不全	全の症候のとらえた	ī 2	15	循環器疾	患と失神 ②		

講義コー	٠ <u>٢</u>	*	専攻分野	※ 専攻分野 最新医学研究コース				
講義題目	1	循環器症候	学(Ⅱ)			必修/選択	必修	
担当教員		原田 智雄		担当教員連絡	先	内線 3313		
単位数		2単位(前期 1・	後期1)	履修年次		2年		
テーマと目的	的	症例に基づいて	基本的な循環	器疾患の症状	を把握する			
講義計画		色々な基本的な	色々な基本的な循環器疾患症例を通して症状を理解し管理方法を					
達成目標			1. 基本的な循環器疾患について症候を論理的に説明できる 2. 基本的な循環器疾患の症候に基づいた診断、治療を計画できる					
教科書·参	考書	書 別途指示						
準備学習(予習・	復習•時間)	循環器疾患に関する病態や診断に関して、Braunwald Heart Disease を用いて予習・行 習を行う。 1時間						
成績評価法	法 出席とプレゼンテーション内容、態度などを総合的に判断する							
卒業認定・学位授与 の方針との関連性 「循環器症候学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する							習得する	
			講	& 内容				
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内 容	(出席卿)	
1	虚血性心	心疾患の症候のと	うえ方 ①	1	循環器疾	患と浮腫 ①		
2	虚血性心	心疾患の症候のと	うえ方 ②	2	循環器疾患と浮腫 ②			
3	不整脈の	D症候のとらえ方(1	3	循環器疾患と動悸 ①			
4	不整脈の	D症候のとらえ方(2	4	循環器疾患と動悸 ②			
5	弁膜症0	D症候のとらえ方(1	5	循環器疾患と呼吸困難 ①			
6	弁膜症の	D症候のとらえ方(2	6	循環器疾患と呼吸困難 ②			
7	心筋症の	D症候のとらえ方(1	7	循環器疾患と胸痛 ①			
8	心筋症の	D症候のとらえ方(2	8	循環器疾	患と胸痛 ②		
9	大動脈	英患の症候のとらえ	大方 ①	9	循環器疾	患とチアノーゼ		
10	大動脈	失患の症候のとらえ	大方 ②	10	循環器疾	患と血圧異常 ①)	
11	肺循環障	章害の症候のとらえ	大方	11	循環器疾	患と血圧異常 ②)	
12	左心不会	全の症候のとらえた	<u> </u>	12	循環器疾	患と脈拍異常 ①)	
13	左心不会	全の症候のとらえた	7 2	13	循環器疾	患と脈拍異常 ②)	
14	右心不全	全の症候のとらえた	<u> </u>	14	循環器疾	患と失神 ①		
15	左心不全	全の症候のとらえた	 7	15	循環器疾	患と失神 ②		

講義コー	F	*	専攻分野	最新医	学研究コ	ース			
講義題目		循環器診断	学(I)			必修/選択	必修		
担当教員		明石 嘉浩		担当教員連絡	各先	內線 3313			
単位数		2単位(前期 1・	後期 1)	履修年次		1年			
テーマと目的	勺	症例に基づいて	基本的な循環	器疾患の診断	戦略を把握	する			
講義計画		色々な基本的なする	循環器疾患症	三例を通して診	断方法につ	oいて理解し、管理	里方法を検討		
達成目標		1. 基本的な循環器疾患について診断方法を論理的に説明できる 2. 基本的な循環器疾患の病態に基づいた診断戦略を計画できる							
教科書·参表	•参考書 別途指示								
準備学習(予習・	循環器疾患に関する病態や診断に関して、Braunwald Heart Disease を用いて予習 習を行う。 1時間						いて予習・復		
成績評価法		出席とプレゼンテ	ーション内容	、態度などを約	合的に判断	折する			
卒業認定・学位授与 の方針との関連性 循環器診断学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する。							習得する		
			講義	內 容					
前期(回)		内 容	(出席卿)	後期(回)		内 容	(出席卿)		
1	循環器經	疾患と心電図 ①		1	Brugada ¾	Brugada 症候群の診断について			
2	循環器經	疾患と心電図 ②		2	WPW 症候群の診断について				
3	循環器經	疾患と心電図 ③		3	脚ブロックの診断について				
4	循環器經	疾患の胸部単純写	真 ①	4	虚血性心	虚血性心疾患の診断法について			
5	循環器經	疾患の胸部単純写	真 ②	5	弁膜症の診断方法について				
6	徐脈性る	下整脈の診断方法	1	6	心臓超音	心臓超音波検査でどこまでわかるか			
7	徐脈性る	下整脈の診断方法	2	7	心臓超音波検査でわからないこと				
8	頻脈性	下整脈の診断方法	①	8	M モード	法でわかること			
9	頻脈性る	下整脈の診断方法	2	9	B モード	去でわかること			
10	心電図	P波からなにがわ	かるか	10	ドップラー	・法でわかること			
11	心電図	QRS 波からなにか	ぶわかるか	11	経食道工	コーでわかること			
12	心電図	T 波からなにがわ	カゝるか	12	心疾患と	CT 検査			
13	心電図	ST 部分からなにな	がわかるか	13	大動脈疾	患の診断方法			
14	心雷図	U 波からなにがわ	かるか	14	肺循環障	 害の診断方法			
14		0 1200 3 000 10 10			心疾患と MRI 検査				

講義コー	ド	*	専攻分野	最新医	学研究コ	ース			
講義題目	I	循環器診断	学(II)	·		必修/選択	必修		
担当教員		原田 智雄		担当教員連	————— 絡先	内線 3313			
単位数		2単位(前期1・	後期 1)		2年				
テーマと目的	的	症例に基づいて	基本的な循環	折戦略を把握	する				
講義計画		色々な基本的な後	盾環器疾患症	方法につい	て理解し、管理方法	生を検討する			
達成目標			. 基本的な循環器疾患について診断方法を論理的に説明できる 2. 基本的な循環器疾患の病態に基づいた診断戦略を計画できる						
教科書·参	考書	別途指示							
準備学習(予習・	復習•時間)	循環器疾患に関する病態や診断に関して、Braunwald Heart Disease を用いて予習・ 習を行う。 1時間							
成績評価法	出席とプレゼンテーション内容、態度などを総合的に判断する								
卒業認定・学位授与 の方針との関連性 「個環器診断学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する							習得する		
			講	& 内容	_				
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内容	(出席卿)		
1	循環器經	疾患と心電図 ①		1	Brugada)	Brugada 症候群の診断について			
2	循環器級	失患と心電図 ②		2	WPW 症候群の診断について				
3	循環器級	失患と心電図 ③		3	脚ブロック	脚ブロックの診断について			
4	循環器級	失患の胸部単純写	真 ①	4	虚血性心	虚血性心疾患の診断法について			
5	循環器級	失患の胸部単純写	真 ②	5	弁膜症の	弁膜症の診断方法について			
6	徐脈性る	下整脈の診断方法	1	6	心臓超音波検査でどこまでわかるか				
7	徐脈性る	下整脈の診断方法	2	7	心臓超音波検査でわからないこと				
8	頻脈性る	下整脈の診断方法	1	8	M モード	法でわかること			
9	頻脈性る	下整脈の診断方法	2	9	B モード	生でわかること			
10	心電図	P 波からなにがわ	かるか	10	ドップラー	-法でわかること			
11	心電図	QRS 波からなにか	ぶわかるか	11	経食道工	コーでわかること			
12	心電図	T 波からなにがわ	かるか	12	心疾患と	CT 検査			
13	心電図	ST 部分からなに	がわかるか	13	大動脈疾	患の診断方法			
14	心電図	U 波からなにがわ	かるか	14	肺循環障	音の診断方法			
15	心電図	QT からなにがわ	 かるか	15	心疾患と	MRI 検査			

講義コー	ド	事攻分野 最新医			学研究コ [、]	ース	
講義題目	l	循環器治療	学(I)			必修/選択	必修
担当教員		出雲 昌樹		担当教員連絡	先	内線 3313	
単位数		2単位(前期 1・	後期 1)	履修年次		1年	
テーマと目的	内	症例に基づいて	基本的な循環	器疾患の治療	内容を把握	する	
講義計画		色々な基本的な後	盾環器疾患症	列を通して治療に	方法について	て理解し管理方法を	を検討する
達成目標		1. 基本的な循環器疾患について治療方法を論理的に説明できる 2. 基本的な循環器疾患の病態に基づいた治療を計画できる					
│ │教科書・参≉	考書	別途指示					
準備学習(予習・	復習•時間)	循環器疾患に関する病態や診断に関して、Braunwald Heart Disease を用いて予習 習を行う。 1時間					
成績評価法		出席とプレゼンラ	ーション内容	、態度などを総	合的に判め	riする	
	と認定・学位授与 循環器治療学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習					 9得する	
			講	& 内容			
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内容	(出席卿)
1	循環器經	埃患の治療法の基	本について	1			
				1	頻脈性不	整脈のカテーテル	√治療 ①
2	虚血性心	心疾患の治療の基	本	2		整脈のカテーテル 整脈のカテーテル	-
3		心疾患の治療の基 心疾患の薬物療法			頻脈性不		治療 ②
	虚血性心	·	1	2	頻脈性不	整脈のカテーテル	·治療 ② ·治療 ③
3	虚血性心	心疾患の薬物療法	2	2 3	頻脈性不 頻脈性不 徐脈性不	整脈のカテーテル 整脈のカテーテル	·治療 ② ·治療 ③ ①
3	虚血性心虚血性心	心疾患の薬物療法 心疾患の薬物療法	2 3	2 3 4	頻脈性不 頻脈性不 徐脈性不 徐脈性不	整脈のカテーテル 整脈のカテーテル 整脈の薬物療法	·治療 ② ·治療 ③ ① ②
3 4 5	虚血性心虚血性心虚血性心虚血性心	心疾患の薬物療法 心疾患の薬物療法 心疾患の薬物療法	① ② ③ ル治療 ①	2 3 4 5	頻脈性不 頻脈性不 徐脈性不 徐脈性不	整脈のカテーテル 整脈のカテーテル 整脈の薬物療法 整脈の薬物療法	治療 ② 治療 ③ ① ② 治療 ① ② 治療 ①
3 4 5 6	虚血性心虚血性心虚血性心虚血性心	心疾患の薬物療法 心疾患の薬物療法 心疾患の薬物療法 心疾患のカテーテ	① ② ③ い治療 ① い治療 ②	2 3 4 5 6	頻脈性不 頻脈性不 徐脈性不 徐脈性不 徐脈性不	整脈のカテーテル整脈のカテーテル整脈の薬物療法 整脈の薬物療法 整脈の薬物療法	治療 ② 治療 ③ ① ② 治療 ① ② 治療 ①
3 4 5 6 7	虚血性心虚血性心虚血性心虚血性心虚血性心	○疾患の薬物療法 ○疾患の薬物療法 ○疾患の薬物療法 ○疾患のカテーテ ○疾患のカテーテ	①②い治療 ①い治療 ②い治療 ③	2 3 4 5 6 7	頻脈性不 頻脈性不 徐脈性不 徐脈性不 徐脈性不 徐脈性不	整脈のカテーテル 整脈のカテーテル 整脈の薬物療法 整脈の薬物療法 整脈のカテーテル 整脈のカテーテル	治療 ② 治療 ③ ① ② 治療 ① ② 治療 ①
3 4 5 6 7 8	虚血性心虚血性心虚血性心虚血性心虚血性心	心疾患の薬物療法 心疾患の薬物療法 心疾患の薬物療法 心疾患のカテーテク 心疾患のカテーテク	① ② ③ い治療 ① い治療 ② い治療 ③ い治療 ③	2 3 4 5 6 7 8	頻脈性不 頻脈性不 徐脈性不 徐脈性不 徐脈性不 除細動に 除細動に	整脈のカテーテル整脈のカテーテル整脈の薬物療法 整脈の薬物療法 整脈の薬物療法 整脈のカテーテル を脈のカテーテル	治療 ② 治療 ③ ① ② 治療 ① ② 治療 ① 治療 ②
3 4 5 6 7 8 9	虚血性心虚血性心虚血性心虚血性心虚血性心虚血性心	心疾患の薬物療法 心疾患の薬物療法 心疾患のカテーテル 心疾患のカテーテル 心疾患のカテーテル 心疾患のカテーテル 心疾患のカテーテル 心疾患の非薬物療	① ② ③ ル治療 ① ル治療 ② ル治療 ③ 法 ① 法 ②	2 3 4 5 6 7 8 9	頻脈性不 頻脈性不 徐脈性不 徐脈性不 徐脈性不 徐脈性不 徐 脈 性 不 除 細 動 に ショック 治	整脈のカテーテル整脈のカテーテル整脈の薬物療法 整脈の薬物療法 整脈の薬物療法 整脈のカテーテル を脈のカテーテル ついて ① ついて ②	治療 ②
3 4 5 6 7 8 9	虚血性心虚血性心虚血性心虚血性心虚血性心虚血性心虚血性心虚血性心虚血性心虚血性心	心疾患の薬物療法 心疾患の薬物療法 心疾患の薬物療法 心疾患のカテーテク 心疾患のカテーテク 心疾患のカテーテク 心疾患の非薬物療 心疾患の非薬物療	① ② ② い治療 ① い治療 ② い治療 ③ 法 ① 法 ② 法 ③	2 3 4 5 6 7 8 9	頻脈性不 頻脈性不 徐脈性不 徐脈性不 徐脈性不 除細動に ショックの	整脈のカテーテル整脈のカテーテル整脈の薬物療法 整脈の薬物療法 整脈の薬物療法 整脈のカテーテル を脈のカテーテル ついて ① ついて ②	治療 ②
3 4 5 6 7 8 9 10	虚血性心虚血性心虚血性心虚血性心虚血性心虚血性心症血性心症血性心症血性心症血性心症血性心症血性心症血性心	心疾患の薬物療法 心疾患の薬物療法 心疾患の薬物療法 心疾患のカテーテ 心疾患のカテーテ 心疾患のカテーテ 心疾患の非薬物療 心疾患の非薬物療 心疾患の非薬物療	① ② ③ ル治療 ① ル治療 ② ル治療 ③ 法 ① 法 ② 法 ③	2 3 4 5 6 7 8 9 10 11	頻脈性不 頻脈性不 徐脈性不 徐脈性不 徐脈性不 徐脈性不 除細動に ショックの 致死的不	整脈のカテーテル整脈のカテーテル整脈の薬物療法整脈の薬物療法整脈のカテーテルを脈のカテーテルついて① ついて② 療の基本的考えた	治療 ② 治療 ③ ① ② 治療 ① 治療 ① 治療 ② ・治療 ② ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	虚血性症虚血性症虚血性症症血性性性性性性性性性性性性性性性性性性性性性性性性性	心疾患の薬物療法 心疾患の薬物療法 心疾患の薬物療法 心疾患のカテーテ 心疾患のカテーテ 心疾患のカテーテ 心疾患の非薬物療 心疾患の非薬物療 心疾患の非薬物療 、疾患の非薬物療	① ② ③ ル治療 ① ル治療 ② ル治療 ③ 法 ① 法 ② 法 ③	2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	頻脈性不徐脈性不徐脈性性不徐脈性性不然。一次を変を変を変を変を変を変を変を変を変を変を変を変える。	整脈のカテーテル整脈のカテーテル整脈の薬物療法整脈の薬物療法整脈のカテーテルを脈のカテーテルついて① ついて② 療の基本的考えが治療の薬物治療	治療 ② 治療 ③ ① ② 治療 ① 治療 ② ・治療 ② ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

講義コー	・ド	※ 専攻分野 最新医学研究コース						
講義題目	1	循環器治療	学(II)			必修/選択	必修	
担当教員		石橋 祐記		担当教員連絡	先	内線 3313		
単位数		2単位(前期 1・	後期 1)	履修年次		1年		
テーマと目的	的	症例に基づいて	基本的な循環	内容を把握	する			
講義計画		色々な基本的な行	盾環器疾患症例	て理解し管理方法	を検討する			
達成目標			. 基本的な循環器疾患について治療方法を論理的に説明できる 2. 基本的な循環器疾患の病態に基づいた治療を計画できる					
教科書·参	考書	別途指示						
準備学習(予習・	復習•時間)	循環器疾患に関する病態や診断に関して、Braunwald Heart Disease を用いて予習 習を行う。 1時間						
成績評価法	出席とプレゼンテーション内容、態度などを総合的に判断する							
卒業認定・学位授与 の方針との関連性 循環器治療学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得す						習得する		
			講	入 容				
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内 容	(出席卿)	
1	心不全0	の治療の基本的考	えかた ①	1	弁膜症の最近の動向 ①			
2	心不全の	の治療の基本的考	えかた ②	2	弁膜症の最近の動向 ②			
3	心不全の	の薬物治療 ①		3	弁膜症と薬物治療 ①			
4	心不全の	の薬物治療 ②		4	弁膜症と薬物治療 ②			
5	心不全の	の薬物治療 ③		5	大動脈弁	狭窄症の治療戦闘	格 ①	
6	心不全0	の非薬物療法につ	いて ①	6	大動脈弁狭窄症の治療戦略 ②			
7	心不全0	の非薬物療法につ	いて ②	7	大動脈弁	閉鎖不全の治療質	戦略 ①	
8	急性心	下全と慢性心不全	の違い ①	8	大動脈弁	閉鎖不全の治療質	戦略 ②	
9	急性心	下全と慢性心不全	の違い ②	9	僧帽弁狭	窄症の治療戦略	①	
10	急性心	下全の治療計画法	1	10	僧帽弁狭	窄症の治療戦略	2	
11	急性心	下全の治療計画法	2	11	僧帽弁閉	鎖不全の治療戦闘	咯 ①	
12	慢性心	下全の治療計画法	1	12	僧帽弁閉	鎖不全の治療戦闘	格 ②	
13	慢性心	下全の治療計画法	2	13	感染性心	内膜炎の治療戦闘	格 ①	
14	心不全と	こ心臓リハビリテー	ション ①	14	感染性心	内膜炎の治療戦闘	格 ②	
15	心不全と	心臓リハビリテー	ション ②	15	収縮性心	膜炎の治療戦略		

講義コー	ド	等攻分野 最新医学硕			学研究コ	ース			
講義題目	l	循環器治療	学(Ⅲ)			必修/選択	必修		
担当教員		田邉 康宏		担当教員連絡	先	内線 3313			
単位数		2単位(前期 1・	後期 1)	履修年次		2年			
テーマと目的	内	症例に基づいて	基本的な循環	器疾患の治療	内容を把握	する			
講義計画		色々な基本的な後	色々な基本的な循環器疾患症例を通して治療方法について理解し管理方法を検討						
達成目標		1. 基本的な循環器疾患について治療方法を論理的に説明できる 2. 基本的な循環器疾患の病態に基づいた治療を計画できる							
│ │教科書・参≉	考書	別途指示							
準備学習(予習・	復習•時間)	循環器疾患に関する病態や診断に関して、Braunwald Heart Disease を用いて予習 習を行う。 1時間							
成績評価法		出席とプレゼンラ	ーション内容	、態度などを総	合的に判め	itする			
卒業認定・等						 翌 得する			
			講	& 内 容					
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内容	(出席卿)		
1	循環器經	英患の治療法の基	本について	1					
2	虚而性心				頻脈性不	整脈のカテーテル	/治療 ①		
	虚血性心疾患の治療の基本			2		整脈のカテーテル 整脈のカテーテル			
3		込疾患の治療の基 込疾患の薬物療法			頻脈性不		治療 ②		
3 4	虚血性心	·	1	2	頻脈性不	整脈のカテーテル	·治療 ② ·治療 ③		
	虚血性心	心疾患の薬物療法	2	2 3	頻脈性不 頻脈性不 徐脈性不	整脈のカテーテル整脈のカテーテル	·治療 ② ·治療 ③ ①		
4	虚血性心虚血性心	心疾患の薬物療法 心疾患の薬物療法	① ② ② ③	2 3 4	頻脈性不 頻脈性不 徐脈性不	整脈のカテーテル 整脈のカテーテル 整脈の薬物療法	·治療 ② ·治療 ③ ① ②		
4 5	虚血性心虚血性心虚血性心虚血性心	心疾患の薬物療法 心疾患の薬物療法 心疾患の薬物療法	① ② ③ ル治療 ①	2 3 4 5	頻脈性不 頻脈性不 徐脈性不 徐脈性不	整脈のカテーテル整脈のカテーテル 整脈の薬物療法 整脈の薬物療法	治療 ② ·治療 ③ ① ② ·治療 ①		
4 5 6	虚血性心虚血性心虚血性心虚血性心	心疾患の薬物療法 心疾患の薬物療法 心疾患の薬物療法 心疾患のカテーテ	① ② ③ い治療 ① い治療 ②	2 3 4 5 6	頻脈性不 頻脈性不 徐脈性不 徐脈性不 徐脈性不	整脈のカテーテル整脈のカテーテル整脈の薬物療法整脈の薬物療法整脈の薬物療法	治療 ② ·治療 ③ ① ② ·治療 ①		
4 5 6 7	虚血性心虚血性心虚血性心虚血性心虚血性心	○疾患の薬物療法 ○疾患の薬物療法 ○疾患の薬物療法 ○疾患のカテーテ ○疾患のカテーテ	① ② ③ い治療 ① い治療 ② い治療 ③	2 3 4 5 6 7	頻脈性不 頻脈性不 徐脈性不 徐脈性不 徐脈性不 徐脈性不	整脈のカテーテル整脈の薬物療法 整脈の薬物療法 整脈の薬物療法 整脈の薬物療法 整脈のカテーテル	治療 ② ·治療 ③ ① ② ·治療 ①		
4 5 6 7 8	虚血性心虚血性心虚血性心虚血性心虚血性心	心疾患の薬物療法 心疾患の薬物療法 心疾患の薬物療法 心疾患のカテーテク 心疾患のカテーテク	① ② ③ い治療 ① い治療 ② い治療 ③ い治療 ③	2 3 4 5 6 7 8	頻脈性不 頻脈性不 徐脈性不 徐脈性不 徐脈性不 除細動に 除細動に	整脈のカテーテル整脈のカテーテル整脈の薬物療法 整脈の薬物療法 整脈の薬物療法 整脈のカテーテル 整脈のカテーテル	治療 ② 治療 ③ ① ② 治療 ① ② 治療 ① 治療 ②		
4 5 6 7 8 9	虚血性心虚血性心虚血性心虚血性心虚血性心虚血性心	心疾患の薬物療法 心疾患の薬物療法 心疾患のカテーテル 心疾患のカテーテル 心疾患のカテーテル 心疾患のカテーテル 心疾患のカテーテル 心疾患の非薬物療	① ② ③ 心治療 ① 心治療 ② 心治療 ③ 込治療 ③ 法 ① 法 ②	2 3 4 5 6 7 8 9	頻脈性不 頻脈性不 徐脈性不 徐脈性不 徐脈性不 徐脈性不 徐脈性で 除細動に ショック治	整脈のカテーテル整脈のカテーテル整脈の薬物療法 整脈の薬物療法 整脈の薬物療法 整脈のカテーテル を脈のカテーテル ついて ① ついて ②	治療 ②		
4 5 6 7 8 9	虚血性心虚血性心虚血性心虚血性心虚血性心虚血性心虚血性心虚血性心虚血性心虚血性心	心疾患の薬物療法 心疾患の薬物療法 心疾患の薬物療法 心疾患のカテーテク 心疾患のカテーテク 心疾患のカテーテク 心疾患の非薬物療 心疾患の非薬物療	① ② ③ ル治療 ① ル治療 ② ル治療 ③ 法 ① 法 ② 法 ③	2 3 4 5 6 7 8 9	頻脈性不 頻脈性不 徐脈性不 徐脈性不 徐脈性不 除細動に ショックの	整脈のカテーテル整脈のカテーテル整脈の薬物療法整脈の薬物療法整脈のカテーテルを脈のカテーテルついて① ついて② 療の基本的考えが	治療 ②		
4 5 6 7 8 9 10 11	虚血性心虚血性心虚血性心虚血性心虚血性心虚血性心症血性心症血性心症血性心症血性心症血性心症血性心症血性心	心疾患の薬物療法 心疾患の薬物療法 心疾患の薬物療法 心疾患のカテーテ 心疾患のカテーテ 心疾患のカテーテ 心疾患の非薬物療 心疾患の非薬物療 心疾患の非薬物療	① ② ③ ル治療 ① ル治療 ② ル治療 ③ 法 ① 法 ② 法 ③	2 3 4 5 6 7 8 9 10 11	頻脈性不 頻脈性不 徐脈性不 徐脈性不 徐脈性不 徐脈性不 除細動に ショックの 致死的不	整脈のカテーテル整脈のカテーテル整脈の薬物療法整脈の薬物療法整脈のカテーテルを脈のカテーテルついて① ついて② 療の基本的考えた	治療 ② 治療 ③ ① ② 治療 ① 治療 ② ・治療 ② ・・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・・ ・		
4 5 6 7 8 9 10 11 12	虚血性症虚血性症虚血性症症血性性性性性性性性性性性性性性性性性性性性性性性性性	心疾患の薬物療法 心疾患の薬物療法 心疾患の薬物療法 心疾患のカテーテ 心疾患のカテーテ 心疾患のカテーテ 心疾患の非薬物療 心疾患の非薬物療 心疾患の非薬物療 、疾患の非薬物療	① ② ③ ル治療 ① ル治療 ② ル治療 ③ 法 ① 法 ② 法 ③	2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	頻脈性不 徐脈性不 徐脈性 本不 徐脈性 本不 徐脈性 体脈 性 本 除細 動 クラック の 死 の 死 の 不 不	整脈のカテーテル整脈のカテーテル整脈の薬物療法整脈の薬物療法整脈のカテーテルでのカテーテルででである。 できる	治療 ② 治療 ③ ① ② 治療 ① 治療 ① 治療 ② いた ① えかた ② ① ②		

講義コー	·ド	*	専攻分野 最新医学研究コース						
講義題目		循環器治療	学(IV)				必修/選択	必修	
担当教員		石橋 祐記		担旨	当教員連絡	先	内線 3313		
単位数		2単位(前期 1・	後期 1)	履修	多年 次	2年			
テーマと目的	的	症例に基づいて	基本的な循環	する					
講義計画		色々な基本的な領	盾環器疾患症	列を追	通して治療力	方法につい	て理解し管理方法を	を検討する	
達成目標			. 基本的な循環器疾患について治療方法を論理的に説明できる . 基本的な循環器疾患の病態に基づいた治療を計画できる						
教科書·参	考書	別途指示							
準備学習(予習・	復習•時間)	循環器疾患に関 習を行う。 1時間	盾環器疾患に関する病態や診断に関して、Braunwald Heart Disease を用いて予習・役 習を行う。 1時間						
成績評価法	ŧ	出席とプレゼンテーション内容、態度などを総合的に判断する							
	業認定・学位授与 方針との関連性 「行動との関連性」 「行動をの関連性」 「行動をの関連性 「行動をの関連性 「行動をの関連性 「行動をの関連性 「行動をの関連性 「行動をの関連性 「行動をの関連性 「行動をの関連性 「行動をの 「行動を 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「							習得する	
			講	遠 内	7 容				
前期(回)		内容	(出席卿)	1	後期(回)		内容	(出席卿)	
1	心不全0	D治療の基本的考	えかた ①		1	弁膜症の最近の動向 ①			
2	心不全の	つ治療の基本的考	えかた ②		2	弁膜症の最近の動向 ②			
3	心不全の	D薬物治療 ①			3	弁膜症と薬物治療 ①			
4	心不全の	D薬物治療 ②			4	弁膜症と薬物治療 ②			
5	心不全の	D薬物治療 ③			5	大動脈弁狭窄症の治療戦略 ①			
6	心不全0	D非薬物療法につ	いて ①		6	大動脈弁	狭窄症の治療戦	格 ②	
7	心不全0	D非薬物療法につ	いて ②		7	大動脈弁	閉鎖不全の治療質	銭略 ①	
8	急性心	下全と慢性心不全の	の違い ①		8	大動脈弁	閉鎖不全の治療質	銭略 ②	
9	急性心	下全と慢性心不全の	の違い ②		9	僧帽弁狭	窄症の治療戦略	1	
10	急性心	下全の治療計画法	1		10	僧帽弁狭	窄症の治療戦略	2	
11	急性心	下全の治療計画法	2		11	僧帽弁閉	鎖不全の治療戦闘	格 ①	
12	慢性心	下全の治療計画法	1		12	僧帽弁閉	鎖不全の治療戦闘	格 ②	
13	慢性心	下全の治療計画法	2		13	感染性心	内膜炎の治療戦闘	格 ①	
1				- 1		I		_	
14	心不全と	心臓リハビリテー:	ション ①		14	感染性心	内膜炎の治療戦	格 ②	

講義コー	·۲	*	専攻分野	最新医	学研究コ	ース			
講義題目	l	循環器疾患特論実習 必修/選択 必修					必修		
担当教員		長田 尚彦		担当教員連絡	 各先	内線 3313			
単位数		1 単位(前期・後	後期)	履修年次		1年			
テーマと目的	的	症例に基づいて	、循環器の専	明的な知識を	架める				
講義計画		色々な基本的な の知識を習得す		例を通して、行	通して、循環器に特有の検査、診断、治療について				
達成目標					診断技術を理解できる 治療技術を理解できる				
教科書•参	考書	別途指示			<u>. </u>				
準備学習(予習・	復習•時間)	循環器疾患に関 習を行う。 1時間		断に関して、E	Braunwald Heart Disease を用いて予習・復				
成績評価法		出席とプレゼンラ	テーション内容	、態度などを約	合的に判断	折する			
卒業認定•	学位授与	循環器疾患の診	*断と治療の知	識に基づいて	、自立して研	研究を遂行し論述:	する能力を習		
の方針との	関連性	得する							
	T		講	多内容————————————————————————————————————					
前期(回)		内 容	(出席卿)	後期(回)		内容	(出席卿)		
1	心臓カラ	ーテル検査の実	際について	1	カテーテ	ル治療について			
2	心臓カラ	ーテル検査の合	併症について	2	バルーン	のみの拡張につレ	ヾて(POBA)		
3	スパスム	誘発検査		3	ステント浴	療について			
4	冠動脈P	ウエコー検査につ	いて	4	DES 治療	について			
5	核医学校	食査について ①		5	カテーテ	カテーテル治療と抗血小板治療			
6	核医学校	検査について ②		6	EPS 検査	EPS 検査について			
7	運動負荷	帯心電図について	1	7	EPS 検査	でわかること			
8	運動負荷	帯心電図について	2	8	徐脈性不	整脈と EPS			
9	ホルター	・心電図検査につ	いて ①	9	頻脈性不	整脈と EPS			
10	ホルター	・心電図検査につ	いて ②	10	頻脈性不	整脈とアブレーシ	ョン ①		
11	LP 検査	とは		11	頻脈性不	整脈とアブレーシ	ョン ②		
12	睡眠時無	無呼吸症候群とは		12	冠動脈 C	T 検査について			
13	睡眠時無	無呼吸症候群と心	 	13	心臓 MRI				
13	1000	W. 1 2/11 DOM C. C.					l		
14		無呼吸症候群検査		14	閉塞性動	脈硬化症につい	C		
	睡眠時無		方法について	14		脈硬化症につい [・]			

講義コー	ド	*	専攻分野	最新医生	学研究コ	ース			
講義題目	I	循環器疾患。	上薬物治療	各論		必修/選択	選択		
担当教員		佐々木 憲一		担当教員連絡	內線 3313				
単位数		2単位(前期 1・	後期 1)	履修年次	1年				
テーマと目的	内	症例に基づいて	基本的な循環	器疾患におけ	る薬物治療の実際を把握する				
講義計画		色々な基本的な	循環器疾患症	例を通して、薬	薬物治療の実際を説明していく				
達成目標				.,	D意義を論理的に説明できる 薬物治療を実際処方できるようになる				
教科書•参	考	別途指示							
準備学習(予習・	復習•時間)	循環器疾患に関 習を行う。 1時間		断に関して、B	raunwald H	leart Disease を用	いて予習・復		
成績評価法		出席とプレゼンテ	ーション内容	、態度などを総	合的に判断	折する			
卒業認定•	学位授与	循環器疾患の薬	物治療の知識	哉に基づいて、	自立して研	「究を遂行し論述	する能力を習		
の方針との	関連性	得する							
			講義	大 容	Τ				
前期(回)		内 容	(出席卿)	後期(回)		内 容	(出席卿)		
1	高血圧剂	台療の実際につい	て ①	1	急性心不	全とhANP 治療			
2	高血圧剂	台療の実際につい	て ②	2	急性心不	全とカテコラミン			
3	高血圧剂	台療の実際につい	て 	3	急性心不	全と血管拡張薬			
4	高血圧剂	台療における ACE	阻害薬	4	急性心不	全のその他の薬剤	刊治療		
5	高血圧剂	台療における ARB		5	慢性心不	全の ACE 阻害薬			
6	高血圧剂	台療における利尿薬	東	6	慢性心不	全の ARB			
7	高血圧剂	台療における Ca 拮	討抗薬	7	慢性心不	全のβ遮断薬			
8	高血圧剂	台療におけるβ遮	斯薬	8	慢性心不	全と強心薬			
9	高血圧剂	台療におけるその個	也薬剤	9	慢性心不	全のその他の薬剤	I J		
10	狭心症剂	台療における ACE	阻害薬	10	抗不整脈	薬の使い方につい	て		
11	狭心症剂	台療におけるβ遮	 断薬 	11	上室性不	整脈とI群抗不動	 医脈薬		
12	狭心症剂	台療における Ca 拮	吉抗薬	12	上室性不	整脈とⅢ群抗不團			
13	狭心症剂	台療における抗血ノ	小板薬	13	心室性不	整脈と I 群抗不動	医脈薬		
14	慢性心	下全と急性心不全の	の薬物の差異	14	心室性不	整脈とⅢ群抗不動	医脈薬		
15	急性心	下全と利尿薬		15	不整脈治	療とジギタリスにつ	ついて		

講義コー	ド	*	専攻分野	最新医生	学研究コ	ース			
講義題目	I	循環器疾患と画像診断各論 必修/選択 選択							
担当教員		長田 尚彦		担当教員連絡	先	内線 3313			
単位数		2単位(前期 1・	後期 1)	履修年次	2年				
テーマと目的	内	症例に基づいて	基本的な循環	器疾患におけ	る画像診断の実際を把握する				
講義計画		色々な基本的な	例を通して、画	画像診断の実際を説明していく					
達成目標)意義を論理的に説明できる 『像診断が適切に予約できるようになる				
教科書·参	考	別途指示							
準備学習(予習・	復習•時間)	循環器疾患に関 習を行う。 1時間		断に関して、B	raunwald H	Ieart Disease を用	いて予習・復		
成績評価法		 出席とプレゼンラ	ーション内容	、態度などを総	合的に判断	折する			
卒業認定•	学位授与	循環器疾患の画	i像診断の知識	戦に基づいて、	自立して研	f究を遂行し論述 [、]	する能力を習		
の方針との	関連性	得する							
			講	E 内 容 					
前期(回)		内 容	(出席卿)	後期(回)		内 容	(出席卿)		
1	冠動脈流	造影の基本的読影	について ①	1	冠動脈力	テーテル治療の第	と際		
2	冠動脈流	造影の基本的読影	について ②	2	冠動脈力	テーテル治療の種	重類について		
3	左室造脈	どについて		3	冠動脈力	テーテル治療と内	科治療 		
4	心内圧的	曲線の読み方 ①		4	冠動脈力	テーテル治療のオ	を来について		
5	心内圧的	曲線の読み方 ②		5	冠動脈 C	Tの臨床的意義に	こついて		
6	胸部単純	4写真の読み方(D	6	冠動脈疾	患とMRI 検査に [、]	ついて		
7	胸部単純	英写真の読み方(2	7	心臓内腫	瘍と超音波検査			
8	肺塞栓症	Eの胸部 CT 検査	の読み方	8	心内血栓	と超音波検査			
9	大動脈	失患の胸部 CT 検	査の読み方	9	先天性心	疾患と超音波検査	<u> </u>		
10	大動脈	実患の MRI 検査の	役割について	10	成人の先	天性心疾患 ①			
11	大動脈	失患の経食道超音	波検査	11	成人の先	天性心疾患 ②			
12	閉塞性重	動脈硬化症の血管	造影検査 ①	12	頸動脈工	コーの臨床的意義	隻 ①		
13	閉塞性重	動脈硬化症の血管	造影検査 ②	13	頸動脈工	コーの臨床的意義	隻 ②		
14	閉塞性重	動脈硬化症の血管	超音波検査	14	腎血管性	高血圧の画像診	新		
15	閉塞性重	伽脈硬化症の血管	内治療	15	腎血管性	高血圧のカテーラ	テル治療		

講義コート	'n	*	専攻分野	最新医学	学研究コ	ース			
講義題目		循環器疾患と	上全身性疾	患特論		必修/選択	選択		
担当教員		中島 育太郎		担当教員連絡	先	内線 3313			
単位数		2単位(前期 1・1	前期 1・後期 1) 履修年次 2年						
テーマと目的	1	症例に基づいて	基本的な循環	器疾患におけ	る画像診断	の実際を把握する	5		
講義計画		色々な基本的な行	盾環器疾患症	例を通して、全	身性心疾息	患を評価できるよう	になる		
達成目標					生疾患を説明できる 生疾患を鑑別でき、診断計画が可能になる				
教科書·参考	書	別途指示							
準備学習(予習・復	[習•時間)	循環器疾患に関 [*] 習を行う。 1時間		断に関して、B	に関して、Braunwald Heart Disease を用いて予習・1				
成績評価法		出席とプレゼンテ	ーション内容	、態度などを総	合的に判断	fする			
卒業認定•学	位授与	循環器疾患を合	 併する全身性	疾患の知識に	基づいて、	自立して研究を達			
の方針との	関連性	る能力を習得する	5						
			講義	內 容					
前期(回)		内容	(出席印)	後期(回)					
		P1	(田川田)	区列(四)		内 容 ————————————————————————————————————	(出席卿)		
	動脈硬化		(Muman)	1		内 容 レと心臓について			
1			(四加曼)		アルコーバ				
1 2	動脈硬化	ととは	(Ш/ш 🕪)	1	アルコール	レと心臓について			
1 2 3	動脈硬化動脈硬化	とと活動脈		1 2	アルコー/ 喫煙と心! サルコイド	レと心臓について 歳について	①		
1 2 3 4	動脈硬化動脈硬化動脈硬化	ととは とと冠動脈 とと全身疾患	こは ①	1 2 3	アルコー/ 喫煙と心! サルコイド サルコイド	レと心臓について 歳について ・ーシスと心疾患	① ②		
1 2 3 4 5 5	動脈硬化動脈硬化動脈硬化動脈硬化	ととは とと冠動脈 とと全身疾患 とを予防するために	こは ①	1 2 3 4	アルコー/ 喫煙と心! サルコイド サルコイド アミロイド・	レと心臓について 歳について 「ーシスと心疾患 「ーシスと心疾患	① ② D		
1 2 3 4 5 6 5 6	動脈硬化動脈硬化動脈硬化動脈硬化動脈硬化動脈硬化糖尿病と	ととは とと冠動脈 とと全身疾患 とを予防するために とを予防するために	こは ①	1 2 3 4 5	アルコー/ 喫煙と心! サルコイド サルコイド アミロイド・	レと心臓について 歳について ニーシスと心疾患 ニーシスと心疾患 ーシスと心疾患	① ② 〕 ②		
1 2 3 4 5 6 7 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	動脈硬化動脈硬化動脈硬化動脈硬化動脈硬化動脈硬化糖尿病と糖尿病と	ととは とと冠動脈 とと全身疾患 とを予防するために とを予防するために	こは ①	1 2 3 4 5 6	アルコー/ 喫煙と心! サルコイド サルコイド アミロイド・アミロイド・	レと心臓について 歳について ニシスと心疾患 ニシスと心疾患 ーシスと心疾患 ーシスと心疾患	① ② D ②		
1 2 3 4 5 6 7 8 8 7	動脈硬化動脈硬化動脈硬化動脈硬化動脈硬化動脈硬化糖尿病と糖尿病と	ととは とと冠動脈 とと全身疾患 とを予防するために とを予防するために ・心疾患 ① ・心疾患 ②	こは ①	1 2 3 4 5 6 7	アルコー/ 喫煙と心! サルコイド サルコイド アミロイド・ アミロイド・ 甲状腺機 甲状腺機	レと心臓について 歳について ニシスと心疾患 ニシスと心疾患 ーシスと心疾患 ーシスと心疾患 能異常と心疾患 能異常と心疾患	① ② D ② ① ②		
1 2 3 4 5 6 7 8 9 9	動脈硬化動脈硬化動脈硬化動脈硬化動脈硬化物脈硬化物脈腫病をとれている。	ととは とと冠動脈 とと全身疾患 とを予防するために とを予防するために ・心疾患 ① ・心疾患 ② ・心疾患 ①	こは ①	1 2 3 4 5 6 7 8	アルコー/ 喫煙と心が サルコイド サルコイド アミロイド・ アミロイド・ 甲状腺機 筋ジストロ	レと心臓について 臓について ニシスと心疾患 ニシスと心疾患 ーシスと心疾患 ・シスと心疾患 能異常と心疾患 能異常と心疾患 能異常と心疾患	① ② D ② ① ②		
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	動脈硬化動脈硬化動脈硬化動脈腫腫腫腫腫腫腫腫腫腫腫腫腫腫腫腫腫腫腫腫腫腫腫腫腫腫	ととは とと冠動脈 とと全身疾患 とを予防するために とを予防するために ・心疾患 ① ・心疾患 ② ・心疾患 ① ・心疾患 ②	こは ①	1 2 3 4 5 6 7 8	アルコー/ 喫煙と心が サルコイド サルコイド アミロイド・ アミロイド・ 甲状腺機 筋ジストロ	レと心臓について 臓について ニシスと心疾患 ニシスと心疾患 ーシスと心疾患 ・シスと心疾患 能異常と心疾患 能異常と心疾患 に異常と心疾患 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	① ② D ② ① ②		
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11	動脈硬側動脈腫の側側動脈脈腫の腫瘍をは、水ののでは、水ののでは、水ののでは、水ののでは、水ののでは、水ののでは、水ののでは、水のののでは、水ののののでは、水ののののでは、水ののののでは、水のののでは、水ののののでは、水のののでは、水のののでは、水のののでは、水のののでは、水のののでは、水のののでは、水ののでは、水ののでは、水ののでは、水ののでは、水ののでは、水ののでは、水ののでは、水ののでは、水ののでは、水ののでは、水ののでは、水ののでは、水ののでは、水のでは、水	ととは とと冠動脈 とと全身疾患 とを予防するために とを予防するために ・心疾患 ① ・心疾患 ② ・心疾患 ② ・心疾患 ②	には ① には ②	1 2 3 4 5 6 7 8 9	アルコー/ 喫煙と心が サルコイド アミロイド・ アミロイド・ 甲状腺機 筋ジストロ 抗ガン剤 ストレスと	レと心臓について 臓について ニシスと心疾患 ニシスと心疾患 ーシスと心疾患 ・シスと心疾患 能異常と心疾患 能異常と心疾患 に異常と心疾患 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	① ② D ② ① ②		
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	動動動糖糖膠膠遺遺心脈硬硬硬のほととは、原原伝伝疾病病病よとより	ととは とと記動脈 とと全身疾患 とを予防するために とを予防するために ・心疾患 ① ・心疾患 ② ・心疾患 ② ・心疾患 ② ・心疾患 ② ・、心疾患 ② ・、心疾患 ② ・、心疾患 ② ・、心疾患 ②	では ① には ② 療 ①	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	アルコー/ 喫煙と心が サルコイド アミロイド 甲状腺機 筋ジストロ 抗ガン剤 ストレスとの	レと心臓について 歳について ニシスと心疾患 ニシスと心疾患 ーシスと心疾患 ・シスと心疾患 能異常と心疾患 能異常と心疾患 に異常と心疾患 でない疾患 に異常と心疾患 に異常と心疾患 に異常と心疾患 に異常と心疾患 でない疾患	① ② D ② ① ②		
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13	動動動糖糖膠膠遺遺心心脈脈脈脈尿尿原原伝伝疾疾腫の病病病分子患患	ととは とと記動脈 とと全身疾患 とを予防するために とを予防するために ・心疾患 ① ・心疾患 ② ・心疾患 ② ・心疾患 ② ・、心疾患 ②	では ① には ② 療 ①	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11	アルコー/ 喫煙と心! サルコイド アミロイド アミロイド 甲状腺機 筋ジストロ 抗ガン剤 ストレスと たこつぼり たこつぼり	レと心臓について 歳について ニシスと心疾患 ニシスと心疾患 ーシスと心疾患 ・シスと心疾患 能異常と心疾患 能異常と心疾患 でない疾患 に異常と心疾患 に異常と心疾患 でない疾患 に異常と心疾患 に異常と心疾患 に異常と心疾患 に異常と心疾患 に異常と心疾患 にない疾患	① ② D ② ①		

草	厚攻分野/コース (英文名)	最新医学研究コース (Advanced Course for Medical Research)
,	研究指導教員	立石 敬介
研究・教育の概略	疾患をベースに病態理解 共通した教育を行う。 また、同時に近年その進 への対応ができる内容とで 各疾患ごとの講義、カンフ	アレンスを中心に、研究内容を理解するための抄読会、研究のいただき、消化器内視鏡との関連を学ぶ。
研究項目	 消化器病総論 内視鏡学総論 消化器内視鏡学 消化器内視鏡学 	
準備学習(予習·復習)		連領域を読んでおくこと。 scopy (Thieme Medical Pub; 3版) ウ (日本メディカルセンター,改訂第2版)

講義コー	·۲	*	専攻分野	最新医	学研究コー	ース			
講義題目	I	消化器病総	論 I			必修/選択	必修		
担当教員		渡邊綱正		担当教員連絡	各先	内線 3380			
単位数		2 単位(前期 1	,後期1)	履修年次		1年			
テーマと目的	的	基本的な消化器	・肝臓疾患の	病態を考案・ 理	単解する。				
講義計画		消化器•肝臟疾息	案・理解し、管理	理解し、管理方法および治療方針を検討する。					
達成目標		1. 基本的な消化 2. 基本的な消化				•			
教科書•参	考書	別途指示							
準備学習(予習・名	復習•時間)	教科書 Gastroe でおくこと。 1時	_	ndoscopy と消	化器内視鏡	ハンドブックの関	連領域を読ん		
成績評価法	•	出席と講義内での	の発表および	受講態度による	5総合評価と	する。			
卒業認定・等		上部消化管疾患	の知識に基っ	いて、自身の	研究を遂行し	〜論述する能力を	習得する		
			講	喜内 容					
前期(回)		内 容	(出席卿)	後期(回)	1	内 容	(出席卿)		
1	治療⑮」	血漿交換および血液液	争化療法(1)	1	食道疾患⑥	食道裂孔ヘルニス	て、その他		
2	治療⑮」	血漿交換および血液液	争化療法(2)	2	食道疾患⑦	食道憩室			
3	治療⑥	経頚静脈的肝内門脈	大循環短絡術	3	食道疾患®	食道•胃静脈瘤			
4	治療⑰~	バルーン下逆行性経	静脈的塞栓術	4	食道疾患⑨	食道異物			
5	治療® 3	对外衝擊波結石破砕	(ESWL)	5	胃•十二指肌	易疾患① 急性また	は慢性胃炎		
6	治療19 マ	イクロウェーブ凝固療法/プ	ラジオ波焼灼療法	6	胃•十二指肌	場疾患② 胃潰瘍(穿孔含む) (1)		
7	食道疾患	① GERD (1)		7	胃•十二指	場疾患② 胃潰瘍(១	穿孔含む) (2)		
8	食道疾患	① GERD (2)		8	胃•十二指用	易疾患③ 十二指腸	遺瘍(裂孔含む)		
9	食道疾患	② Barrett 食道(1))	9	胃•十二指用	易疾患④ 吻合部潰	瘍		
10	食道疾患	② Barrett 食道(2))	10	胃•十二指	場疾患⑤ 胃悪性腫	瘍(1)		
11	食道疾患	③ アカラシア(1)		11	胃•十二指肌	場疾患⑤ 胃悪性腫	瘍 (2)		
							l		
12	食道疾患	③ アカラシア (2)		12	胃•十二指	場疾患⑥ 胃良性腫	鴻		
12 13		③ アカラシア (2)④ 食道悪性腫瘍 (1)	12	-	易疾患⑥ 胃良性腫 易疾患⑧ 十二指腸			
	食道疾患		·		胃·十二指		腫瘍		

講義コー	ド	*	専攻分野	最新医	学研究コ	ース	
講義題目	l	消化器病総	論Ⅱ			必修/選択	必修
担当教員		渡邊綱正		担当教員連絡	先	内線 3380	
単位数		2 単位(前期 1,	後期1)	履修年次		1年	
テーマと目的	内	基本的な消化器	・肝臓疾患の	 	解する。		
講義計画		消化器·肝臟疾息	息の病態を考え	裳・理解し、管理	理方法およ	び治療方針を検討	する。
達成目標			1. 基本的な消化器疾患について病態を理論的に考案し説明できる。 2. 基本的な消化器疾患の病態に基づいた治療・管理を計画できる。				
教科書·参	考	別途指示					
準備学習(予習・	復習•時間)	教科書 Gastroe でおくこと。 1時	=	indoscopy と消	化器内視錄	シスプラックの関	連領域を読ん
成績評価法		出席と講義内での	の受講態度お	よび技術習得は	による総合	平価とする。	
卒業認定・等		消化管疾患の知	識に基づいて	、自身の研究	を遂行し論	述する能力を習得	する
			講	と 内 容			
前期(回)		内 容	(出席卿)	後期(回)		内 容	(出席卿)
1	胃・十二指	皆腸疾患⑪ 十二指腸	謝室	1	腸疾患④	腸結核	
2	胃・十二指	皆腸疾患⑫ 蛋白漏出	性胃腸症	2	腸疾患⑤	薬物起因性腸炎	
3	胃・十二指	皆腸疾患⑬ 胃切除後	を症候群	3	腸疾患⑥	非特異性腸潰瘍	
4	胃・十二排	皆腸疾患⑭ Mallory-	Weiss 症候群	4	腸疾患⑦	アフタ性大腸炎	
5	胃•十二排	皆腸疾患⑮ Function	al dyspepsia	5	腸疾患®	大腸ポリープ(1)	
6	胃・十二指	皆腸疾患⑯ 消化管 a	ngiectasia	6	腸疾患®	大腸ポリープ (2)	
7	腸疾患①	腸炎(腸管感染症、細菌	性食中毒を含む)	7	腸疾患⑧	大腸ポリープ (3)	
8	腸疾患②	Crohn 病(1)		8	腸疾患⑧	大腸ポリープ (4)	
9	腸疾患②	Crohn 病(2)		9	腸疾患⑨	大腸悪性腫瘍(1)	
10	腸疾患②	Crohn 病(3)		10	腸疾患⑨	大腸悪性腫瘍(2)	
11	腸疾患②	Crohn 病(4)		11	腸疾患⑨	大腸悪性腫瘍(3)	
12	腸疾患③	潰瘍性大腸炎(1)		12	腸疾患⑨	大腸悪性腫瘍(4)	
13	腸疾患③	潰瘍性大腸炎(2)		13	腸疾患⑩	小腸腫瘍	
14	腸疾患③	潰瘍性大腸炎(3)		14	腸疾患⑪	上腸間膜動脈症候郡	¥
15	腸疾患③	潰瘍性大腸炎(4)		15	腸疾患⑫	イレウス/穿孔	

講義コー	ド	*	専攻分野	最新	医学	研究コ	ース	
講義題目		消化器病総調	淪Ⅲ	'			必修/選択	必修
担当教員		松本伸行		担当教員	連絡兒	 先	内線 3380	
単位数		2 単位(前期 1,	後期1)	履修年次	ζ		1年	
テーマと目的	勺	基本的な消化器・	・肝臓疾患の	病態を考案	柔・理 解	 军する。		
講義計画		消化器•肝臟疾患	の病態を考	案・理解し	、管理	方法およ	び治療方針を検討	する。
達成目標		1. 基本的な消化 2. 基本的な消化						
教科書·参為	 	別途指示						
準備学習(予習・行	復習•時間)	教科書 Gastroer でおくこと。 1時	=	Endoscopy	と消化	比器内視錄	覚ハンドブックの関	連領域を読ん
成績評価法		出席と講義内での)発表および	受講態度に	による終	総合評価	とする。	
卒業認定・等		大腸疾患•肝疾患	の知識に基	づいて、自	身の研	研究を遂行	テレ論述する能力:	を習得する
			講	轰 内 容				
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内 容	(出席卿)
1	腸疾患⑬	過敏性腸症候群(1	L)	1		肛門疾患(〕 痔核、痔瘻、裂肛	•
2	腸疾患⑬	過敏性腸症候群(2	2)	2		肛門疾患の	② 肛門癌	
3	腸疾患⑭	吸収不良症候群		3		肛門疾患の	③ 直腸癌 (1)	
4	腸疾患⑮	虚血性腸炎(1)		4		肛門疾患の	③ 直腸癌 (2)	
5	腸疾患⑮	虚血性腸炎(2)		5		肛門疾患の	③ 直腸癌 (3)	
6	腸疾患⑯	盲係蹄症候群		6		肝疾患①	急性肝炎	
7	腸疾患⑰	憩室症•憩室炎		7		肝疾患②	劇症肝炎	
8	腸疾患⑱	巨大結腸症		8		肝疾患③	慢性肝炎	
9	腸疾患⑩	消化管カルチノイド		9		肝疾患④	自己免疫性肝炎	
10	腸疾患⑳	消化管ポリポーシス	(1)	10		肝疾患⑤	原発性胆汁性肝硬	変
11	腸疾患⑳	消化管ポリポーシス	(2)	11		肝疾患⑥	肝硬変	
12	腸疾患②	遺伝性非ポリポーシス	性大腸癌(1)	12		肝疾患⑦	薬物性肝障害	
13	腸疾患②	遺伝性非ポリポーシス	性大腸癌(2)	13		肝疾患⑧	アルコール性肝障害	Ĕ
14	腸疾患②	遺伝性非ポリポーシス	性大腸癌(3)	14		肝疾患⑨	肝内胆汁うっ滞	
15	腸疾患②	遺伝性非ポリポーシス	性大腸癌(4)	15		肝疾患⑩	体質性黄疸	

講義コー	ド	*	専攻分野	最新医生	学研究コー	ース	
講義題目	l	内視鏡学総論	 I	·		必修/選択	必修
担当教員		立石敬介		担当教員連絡	先	内線 3470	
単位数		2 単位(前期 1,	後期1)	履修年次		1年	
テーマと目的	约	消化器内視鏡学の	の基本的な知	職を習得する。)		
講義計画		上部消化管および 理論的に理解し、		が内視鏡練習モ	デルを用い	て消化器内視鏡	の基本知識を
達成目標		1. 消化器内視鏡 2. 上部消化管お			本知識を習	得する。	
教科書・参	考	別途指示					
準備学習(予習・	復習•時間)	教科書 Gastroen でおくこと。 1時間	_	Indoscopy と消	化器内視鏡	ハンドブックの関	連領域を読ん
成績評価法		出席と講義内での	発表および	受講態度による	総合評価と	する。	
卒業認定・4		内視鏡基礎の知識	離に基づいて	、自身の研究を	と遂行し論述	する能力を習得	する
			講	& 内 容			
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)	F	内 容	(出席卿)
1	内視鏡学の	の一般事項① 胸部単約	苑 X 線検査(1)	1	内視鏡学の	一般事項⑩ 浣腸、	高圧浣腸
2	内視鏡学の	の一般事項① 胸部単純	ルX線検査(2)	2	内視鏡学の	一般事項① 腹腔线	穿刺と排液
3	内視鏡学の	の一般事項② 腹部単純	ルX線検査(1)	3	内視鏡学の	一般事項⑫ 薬物療	療法(1)
4	内視鏡学の	の一般事項② 腹部単純	ルX線検査(2)	4	内視鏡学の	一般事項⑫ 薬物療	療法(2)
5	内視鏡学	の一般事項③ 直腸指	診検査(1)	5	診断・治療法	去、手技① 肝機能	検査一般
6	内視鏡学	の一般事項③ 直腸指	診検査(2)	6	診断・治療法	ま、手技② 肝炎ウ	イルスマーカー
7	内視鏡学	の一般事項④ 救急処	上置一般(1)	7	診断・治療法	去、手技③ 膵酵素	
8	内視鏡学	の一般事項④ 救急処	上置一般 (2)	8	診断・治療法	长、手技④ 免疫学	的検査(1)
9	内視鏡学	の一般事項⑤ 輸血	(1)	9	診断・治療法	长、手技④ 免疫学	的検査 (2)
10	内視鏡学	の一般事項⑤ 輸血	(2)	10	診断・治療法	ま、手技⑤ 腫瘍マ	ーカー (1)
11	内視鏡学	の一般事項⑥ 輸液	(1)	11	診断・治療法	ま、手技⑤ 腫瘍マ	ーカー (2)
12	内視鏡学	の一般事項⑥ 輸液	(2)	12	診断・治療法	、手技⑥ 細菌培	
13	内視鏡学	の一般事項⑦ 高カロ	 リー 輸 液	13	診断・治療法	长、手技⑦ 寄生虫	列 列 列
14	内視鏡学	の一般事項⑧ 経管栄	 笑養または PEG	14	診断・治療法	长、手技⑧ 便潜血	 反応
15	内視鏡学	の一般事項⑨ 胃洗浄	 ♣ (胃チューブ等)	15	診断・治療法	、手技⑨ Helicobac	 cter pylori 検査

講義題目 内視鏡学総論 II 必修/選択 必修 担当教員 立石敬介 担当教員連絡先 内線 3470 単位数 2 単位 (前期 1, 後期 1) 履修年次 1 年 テーマと目的 消化器内視鏡学の基本的な知識を習得する。 上部消化管および下部消化管内視鏡練習モデルを用いて消化器内視鏡の基本知理論的に理解し、習得させる。 2. 上部消化管および下部消化管内視鏡の基本知識を習得する。 3. 消化器内視鏡の原理を理解する。 2. 上部消化管および下部消化管内視鏡の基本知識を習得する。 数科書・参考書 別途指示 数科書 Gastroenterological Endoscopy と消化器内視鏡ハンドブックの関連領域をでおくこと。 1時間 成績評価法 出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。 本業認定・学位授与の方針との関連性 講義内での発表および受講態度による総合評価とする。 内視鏡に必要な解剖の知識に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得 前期(回) 内容 (出席郵) 後期(回) 内容 (出席郵) (出席郵) (出席郵) (出席年 ※ 総検査① 食道 (2) (出席単 ※ 総検査② 胃、十二指腸 (6) 1 消化管 ※ 総検査② 胃、十二指腸 (7) 3 消化管 ※ 総検査① 食道 (3) 3 消化管 ※ 総検査② 胃、十二指腸 (9) 5 消化管 ※ 総検査② 胃、十二指腸 (10) 6 消化管 ※ 総検査② 食道 (6) 6 消化管 ※ 総検査② 胃、十二指腸 (10) 6 消化管 ※ 総検査② 食道 (6) 6 消化管 ※ 総検査② 胃、十二指腸 (10) 6 消化管 ※ 総検査② 食道 (6) 6 消化管 ※ 総検査② 胃、十二指腸 (10) 1 1 1 1 1 1 1 1 1	
単位数 2単位(前期1,後期1) 履修年次 1年 テーマと目的 消化器内視鏡学の基本的な知識を習得する。	
テーマと目的 消化器内視鏡学の基本的な知識を習得する。 上部消化管および下部消化管内視鏡練習モデルを用いて消化器内視鏡の基本知理論的に理解し、習得させる。 1. 消化器内視鏡の原理を理解する。 2. 上部消化管および下部消化管内視鏡の基本知識を習得する。 2. 上部消化管および下部消化管内視鏡の基本知識を習得する。 3. 治化管とよび下部消化管内視鏡の基本知識を習得する。 数科書・参考書 別途指示 教科書 Gastroenterological Endoscopy と消化器内視鏡ハンドブックの関連領域をでおくこと。 1時間 成績評価法 出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。 本業認定・学位授与の方針との関連性 内視鏡に必要な解剖の知識に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得 講義 内容	
講義計画 上部消化管および下部消化管内視鏡練習モデルを用いて消化器内視鏡の基本知 理論的に理解し、習得させる。 達成目標 1. 消化器内視鏡の原理を理解する。 2. 上部消化管および下部消化管内視鏡の基本知識を習得する。 教科書・参考書 別途指示 準備学習(予習・複習・時間) 教科書 Gastroenterological Endoscopy と消化器内視鏡ハンドブックの関連領域をでおくこと。 1時間 成績評価法 出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。 卒業認定・学位授与の方針との関連性 内視鏡に必要な解剖の知識に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得の方針との関連性 講義内容 内容 前期(回) 内容 (出席⑩) 内容 (出席⑪) 1 消化管 X線検査① 食道(1) 1 消化管 X線検査② 胃、十二指腸(6) 2 消化管 X線検査① 食道(2) 2 消化管 X線検査② 胃、十二指腸(8) 4 消化管 X線検査① 食道(4) 4 消化管 X線検査② 胃、十二指腸(9) 5 消化管 X線検査① 食道(5) 5 消化管 X線検査② 胃、十二指腸(10) 6 消化管 X線検査② 食道(6) 6 消化管 X線検査② 胃、十二指腸(11)	
講義計画 理論的に理解し、習得させる。 1. 消化器内視鏡の原理を理解する。 2. 上部消化管および下部消化管内視鏡の基本知識を習得する。 教科書・参考書 別途指示 教科書 Gastroenterological Endoscopy と消化器内視鏡ハンドブックの関連領域をでおくこと。 1時間 成績評価法 出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。 卒業認定・学位授与の方針との関連性 内視鏡に必要な解剖の知識に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得 1 消化管 X線検査① 食道 (1) 1 消化管 X線検査② 胃、十二指腸 (6) 2 消化管 X線検査① 食道 (2) 2 消化管 X線検査② 胃、十二指腸 (7) 3 消化管 X線検査① 食道 (3) 3 消化管 X線検査② 胃、十二指腸 (9) 4 消化管 X線検査① 食道 (4) 4 消化管 X線検査② 胃、十二指腸 (9) 5 消化管 X線検査② 食道 (5) 5 消化管 X線検査② 胃、十二指腸 (10) 6 消化管 X線検査① 食道 (6) 6 消化管 X線検査② 胃、十二指腸 (11)	
達成目標 2. 上部消化管および下部消化管内視鏡の基本知識を習得する。 教科書・参考書 別途指示 養備学習(予習・複習・時間) 教科書 Gastroenterological Endoscopy と消化器内視鏡ハンドブックの関連領域をでおくこと。 1時間 成績評価法 出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。 卒業認定・学位授与の方針との関連性 内視鏡に必要な解剖の知識に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得 1 消化管 X線検査① 食道 (1) 1 消化管 X線検査② 胃、十二指腸 (6) 2 消化管 X線検査① 食道 (1) 1 消化管 X線検査② 胃、十二指腸 (7) 3 消化管 X線検査① 食道 (3) 3 消化管 X線検査② 胃、十二指腸 (8) 4 消化管 X線検査① 食道 (4) 4 消化管 X線検査② 胃、十二指腸 (9) 5 消化管 X線検査① 食道 (5) 5 消化管 X線検査② 胃、十二指腸 (10) 6 消化管 X線検査① 食道 (6) 6 消化管 X線検査② 胃、十二指腸 (11)	印識を
 準備学習(予習・複習・時間) 放績評価法 出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。 卒業認定・学位授与の方針との関連性 内視鏡に必要な解剖の知識に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得が期(回) 内容 (出席®) 後期(回) 内容 (出席®) 消化管 X線検査① 食道(1) 消化管 X線検査② 食道(2) 消化管 X線検査② 食道(3) 消化管 X線検査② 食道(4) 消化管 X線検査② 食道(5) 消化管 X線検査② 食道(5) 消化管 X線検査② 育、十二指腸(10) 消化管 X線検査② 食道(6) 消化管 X線検査② 胃、十二指腸(11) 	
#備学習(予習・複習・時間) 成績評価法 出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。 卒業認定・学位授与 の方針との関連性 内視鏡に必要な解剖の知識に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得 講義 内 容 前期(回) 内 容 (出席⊕) 後期(回) 内 容 (出席 1 消化管 X 線検査① 食道 (1) 1 消化管 X 線検査② 胃、十二指腸 (6) 2 消化管 X 線検査② 食道 (2) 2 消化管 X 線検査② 胃、十二指腸 (7) 3 消化管 X 線検査① 食道 (3) 3 消化管 X 線検査② 胃、十二指腸 (8) 4 消化管 X 線検査① 食道 (4) 4 消化管 X 線検査② 胃、十二指腸 (9) 5 消化管 X 線検査① 食道 (5) 5 消化管 X 線検査② 胃、十二指腸 (10) 6 消化管 X 線検査① 食道 (6) 6 消化管 X 線検査② 胃、十二指腸 (11)	
卒業認定・学位授与の方針との関連性 内視鏡に必要な解剖の知識に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得 講集 内容 内容 (出席⑩) 後期(回) 内容 (出席⑪) 1 消化管 X線検査① 食道(1) 1 消化管 X線検査② 胃、十二指腸(6) 2 消化管 X線検査① 食道(2) 2 消化管 X線検査② 胃、十二指腸(7) 3 消化管 X線検査① 食道(3) 3 消化管 X線検査② 胃、十二指腸(8) 4 消化管 X線検査① 食道(4) 4 消化管 X線検査② 胃、十二指腸(9) 5 消化管 X線検査① 食道(5) 5 消化管 X線検査② 胃、十二指腸(10) 6 消化管 X線検査② 食道(6) 6 消化管 X線検査② 胃、十二指腸(11)	を読ん
内視鏡に必要な解剖の知識に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得	
前期(回) 内容 (出席郵) 後期(回) 内容 (出席 1 消化管 X 線検査① 食道 (1) 1 消化管 X 線検査② 胃、十二指腸 (6) 2 消化管 X 線検査① 食道 (2) 2 消化管 X 線検査② 胃、十二指腸 (7) 3 消化管 X 線検査② 食道 (3) 3 消化管 X 線検査② 胃、十二指腸 (8) 4 消化管 X 線検査② 食道 (4) 4 消化管 X 線検査② 胃、十二指腸 (9) 5 消化管 X 線検査② 食道 (5) 5 消化管 X 線検査② 胃、十二指腸 (10) 6 消化管 X 線検査② 食道 (6) 6 消化管 X 線検査② 胃、十二指腸 (11)	导する
1 消化管 X 線検査① 食道 (1) 1 消化管 X 線検査② 胃、十二指腸 (6) 2 消化管 X 線検査② 食道 (2) 2 消化管 X 線検査② 胃、十二指腸 (7) 3 消化管 X 線検査① 食道 (3) 3 消化管 X 線検査② 胃、十二指腸 (8) 4 消化管 X 線検査① 食道 (4) 4 消化管 X 線検査② 胃、十二指腸 (9) 5 消化管 X 線検査① 食道 (5) 5 消化管 X 線検査② 胃、十二指腸 (10) 6 消化管 X 線検査① 食道 (6) 6 消化管 X 線検査② 胃、十二指腸 (11)	
2 消化管 X 線検査① 食道 (2) 2 消化管 X 線検査② 胃、十二指腸 (7) 3 消化管 X 線検査① 食道 (3) 3 消化管 X 線検査② 胃、十二指腸 (8) 4 消化管 X 線検査① 食道 (4) 4 消化管 X 線検査② 胃、十二指腸 (9) 5 消化管 X 線検査① 食道 (5) 5 消化管 X 線検査② 胃、十二指腸 (10) 6 消化管 X 線検査① 食道 (6) 6 消化管 X 線検査② 胃、十二指腸 (11)	集御)
3 消化管 X 線検査① 食道 (3) 3 消化管 X 線検査② 胃、十二指腸 (8) 4 消化管 X 線検査② 胃、十二指腸 (9) 5 消化管 X 線検査① 食道 (5) 5 消化管 X 線検査② 胃、十二指腸 (10) 6 消化管 X 線検査① 食道 (6) 6 消化管 X 線検査② 胃、十二指腸 (11)	
4 消化管 X 線検査① 食道 (4) 4 消化管 X 線検査② 胃、十二指腸 (9) 5 消化管 X 線検査① 食道 (5) 5 消化管 X 線検査② 胃、十二指腸 (10) 6 消化管 X 線検査① 食道 (6) 6 消化管 X 線検査② 胃、十二指腸 (11)	
5 消化管 X 線検査① 食道 (5) 5 消化管 X 線検査② 胃、十二指腸 (10) 6 消化管 X 線検査① 食道 (6) 6 消化管 X 線検査② 胃、十二指腸 (11)	
6 消化管 X 線検査① 食道 (6) 6 消化管 X 線検査② 胃、十二指腸 (11)	
)
)
7 消化管 X 線検査① 食道 (7) 7 消化管 X 線検査② 胃、十二指腸 (12))
8 消化管 X 線検査① 食道 (8) 8 消化管 X 線検査② 胃、十二指腸 (13)	
9 消化管 X 線検査① 食道 (9) 9 消化管 X 線検査② 胃、十二指腸 (14))
10 消化管 X 線検査① 食道(10) 10 消化管 X 線検査② 胃、十二指腸(15)	
11 消化管 X 線検査② 胃、十二指腸(1) 11 消化管 X 線検査③ 低緊張性十二指腸造影)
12 消化管 X 線検査② 胃、十二指腸(2) 12 消化管 X 線検査③ 低緊張性十二指腸造影)
13 消化管 X 線検査② 胃、十二指腸(3) 13 消化管 X 線検査③ 低緊張性十二指腸造影	(1)
14 消化管 X 線検査② 胃、十二指腸(4) 14 消化管 X 線検査③ 低緊張性十二指腸造影	(1)
15 消化管 X 線検査② 胃、十二指腸(5) 15 消化管 X 線検査③ 低緊張性十二指腸造影	(1) (2) (3)

講義コー	·ŀï	*	専攻分野	最新医学	学研究コー	ス			
講義題目	1	消化管内視線	鏡学 I		护	公修/選択	必修		
担当教員		前畑忠輝		担当教員連絡	先	可線 3380			
単位数		2 単位(前期 1	,後期1)	履修年次	1	年			
テーマと目的	的	消化器内視鏡学	の基本的な知	口識を習得する。	,				
講義計画		上部消化管およっ理論的に理解し、		下内視鏡練習モ	デルを用いて	消化器内視鏡	の基本知識を		
達成目標		1. 消化器内視録 2. 上部消化管は			る。 ・内視鏡の基本知識を習得する。				
教科書•参	考書	別途指示							
準備学習(予習・	復習•時間)	教科書 Gastroe でおくこと。 1時	•	Endoscopy と消	化器内視鏡ハ	ンドブックの関	連領域を読ん		
成績評価法		出席と講義内での	の発表および	受講態度による	総合評価とす	る。			
卒業認定・4			上部)の知識(こ基づいて、自	身の研究を遂	行し論述する	能力を習得す		
			講	義 内 容					
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)	内	容	(出席卿)		
1	消化管内	視鏡① 食道、胃(1	.)	1	消化管内視鏡	② 十二指腸、小	腸(1)		
2	消化管内	視鏡① 食道、胃(2	2)	2	消化管内視鏡	② 十二指腸、小	腸 (2)		
3	消化管内	視鏡① 食道、胃(3	3)	3			,,		
4	消化管内	視鏡① 食道、胃(4			消化管内視鏡	② 十二指腸、小			
5			!))	4		② 十二指腸、小 ② 十二指腸、小	腸 (3)		
	消化管内	視鏡① 食道、胃(5		4 5	消化管内視鏡		腸 (3)		
6			5)		消化管内視鏡	② 十二指腸、小	腸 (3) 腸 (4) 腸 (5)		
6 7	消化管内	視鏡① 食道、胃(5	5)	5	消化管内視鏡 消化管内視鏡 消化管内視鏡	② 十二指腸、小 ② 十二指腸、小	腸 (3) 腸 (4) 腸 (5) 腸 (6)		
-	消化管内	視鏡① 食道、胃(5 視鏡① 食道、胃(6	5)	5	消化管内視鏡 消化管内視鏡 消化管内視鏡 消化管内視鏡	② 十二指腸、小② 十二指腸、小② 十二指腸、小	腸(3) 腸(4) 腸(5) 腸(6) 腸(7)		
7	消化管内消化管内	視鏡① 食道、胃(5 視鏡① 食道、胃(6 視鏡① 食道、胃(7	5) 7) 3)	5 6 7	消化管内視鏡 消化管内視鏡 消化管内視鏡 消化管内視鏡 消化管内視鏡	② 十二指腸、小② 十二指腸、小② 十二指腸、小② 十二指腸、小	腸 (3) 腸 (4) 腸 (5) 腸 (6) 腸 (7) 腸 (8)		
7 8	消化管内 消化管内 消化管内 消化管内	視鏡① 食道、胃(5 視鏡① 食道、胃(6 視鏡① 食道、胃(7 視鏡① 食道、胃(8	5) (5) (7) (8) (8) (8) (8) (8) (8) (8) (8) (8) (8	5 6 7 8	消化管内視鏡 消化管内視鏡 消化管内視鏡 消化管内視鏡 消化管内視鏡 消化管内視鏡	② 十二指腸、小 ② 十二指腸、小 ② 十二指腸、小 ② 十二指腸、小 ② 十二指腸、小	勝(3) 腸(4) 腸(5) 腸(6) 腸(7) 腸(8)		
7 8 9	消化管内 消化管内 消化管内 消化管内 消化管内	視鏡① 食道、胃(5 視鏡① 食道、胃(6 視鏡① 食道、胃(7 視鏡① 食道、胃(8 視鏡① 食道、胃(8	5) 7) 3) 0)	5 6 7 8 9	消化管内視鏡 消化管内視鏡 消化管内視鏡 消化管内視鏡 消化管内視鏡 消化管内視鏡 消化管内視鏡	② 十二指腸、小 ② 十二指腸、小 ② 十二指腸、小 ② 十二指腸、小 ② 十二指腸、小 ② 十二指腸、小	腸 (3) 腸 (4) 腸 (5) 腸 (6) 腸 (7) 腸 (8) 腸 (9)		
7 8 9 10	消化管内 消化管内 消化管内 消化管内 消化管内 消化管内	視鏡① 食道、胃(5 視鏡① 食道、胃(6 視鏡① 食道、胃(7 視鏡① 食道、胃(8 視鏡① 食道、胃(8 視鏡① 食道、胃(8	5) 7) 3) 0) 1)	5 6 7 8 9	消化管内視鏡 消化管内視鏡 消化管内視鏡 消化管内視鏡 消化管内視鏡 消化管内視鏡 消化管内視鏡 消化管内視鏡	② 十二指腸、小	勝(3) 腸(4) 腸(5) 腸(6) 腸(7) 腸(8) 腸(9) 腸(10)		
7 8 9 10	消化管内 消化管内 消化管内 消化管内 消化管内 消化管内 消化管内	視鏡① 食道、胃(5 視鏡① 食道、胃(6 視鏡① 食道、胃(7 視鏡① 食道、胃(8 視鏡① 食道、胃(8 視鏡① 食道、胃(9 視鏡① 食道、胃(1	5) 5) 7) 3) 0) 1) 2)	5 6 7 8 9 10 11	消化管内視鏡消化管内視鏡消化管内視鏡消化管内視鏡消化管内視鏡消化管内視鏡消化管内視鏡消化管内視鏡消化管内視鏡消化管内視鏡消化管內視鏡消化管內視鏡消化管內視鏡	② 十二指腸、小	勝(3) 腸(4) 腸(5) 腸(6) 腸(7) 腸(8) 腸(9) 腸(10) 腸(11) 腸(12)		
7 8 9 10 11 12	消化管内 消化管内 消化管内 消化管内 消化管内 消化管内 消化管内 消化管内	視鏡① 食道、胃(5 視鏡① 食道、胃(6 視鏡① 食道、胃(7 視鏡① 食道、胃(8 視鏡① 食道、胃(8 視鏡① 食道、胃(1 視鏡① 食道、胃(1 視鏡① 食道、胃(1	5) 5) 7) 3) 0) 1) 2) 3)	5 6 7 8 9 10 11 12	消化管内視鏡消化管内視鏡消化管内視鏡消化管内視鏡消化管内視鏡消化管内視鏡消化管内視鏡消化管内視鏡消化管内視鏡消化管內視鏡消化管內視鏡消化管內視鏡消化管內視鏡消化管內視鏡	② 十二指腸、小	勝(3) 腸(4) 腸(5) 腸(6) 腸(7) 腸(8) 腸(9) 腸(10) 腸(11) 腸(12) 腸(13)		

講義コー	ド	*	* 専攻分野 最新医学研究コース								
講義題目		消化管内視	鏡学Ⅱ	必修/選	択 必修						
担当教員		前畑忠輝		担当教員連絡	先	内線 3380					
単位数		2 単位(前期 1	単位(前期1,後期1) 履修年次 2年								
テーマと目的	þ	消化器内視鏡学	の基本的な知	職を習得する。							
講義計画			上部消化管および下部消化管内視鏡練習モデルを用いて消化器内視鏡の基本知識 理論的に理解し、習得させる。								
達成目標			. 消化器内視鏡の原理を理解する。 . 上部消化管および下部消化管内視鏡の基本知識を習得する。								
教科書·参考	書	別途指示	別途指示								
準備学習(予習·復	[習•時間)	教科書 Gastroenterological Endoscopy と消化器内視鏡ハンドブックの関連領域を読んでおくこと。 1時間									
成績評価法		出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。									
卒業認定・学 の方針との											
			講	& 内 容							
前期(回)		内 容	(出席卿)	後期(回)							
1					<u>'</u>	• ·H	(14)11/14)				
1	消化管内	視鏡③ カプセル内	規鏡(1)	1		鏡④ 大腸(
2	-	視鏡③ カプセル内存 視鏡③ カプセル内存		1 2	消化管内視		1)				
_	消化管内		規鏡(2)		消化管内視消化管内視	鏡④大腸(1)				
2	消化管内	視鏡③ カプセル内	規鏡 (2) 規鏡 (3)	2	消化管内視消化管内視消化管内視	鏡④ 大腸(三鏡④ 大腸(二	1) 2) 3)				
2 3	消化管内消化管内	視鏡③ カプセル内4 視鏡③ カプセル内4	規鏡 (2) 現鏡 (3) 現鏡 (4)	2 3	消化管内視 消化管内視 消化管内視 消化管内視	鏡④ 大腸(鏡④ 大腸(鏡④ 大腸(1) 2) 3) 4)				
2 3 4	消化管内消化管内消化管内消化管内	視鏡③ カプセル内存 視鏡③ カプセル内存 視鏡③ カプセル内存	規鏡 (2) 規鏡 (3) 規鏡 (4) 規鏡 (5)	2 3 4	消化管内視 消化管内視 消化管内視 消化管内視 消化管内視	鏡④ 大腸(鏡④ 大腸(鏡④ 大腸(鏡④ 大腸(1) 2) 3) 4) 5)				
2 3 4 5	消化管内 消化管内 消化管内 消化管内 消化管内	視鏡③ カプセル内存 視鏡③ カプセル内存 視鏡③ カプセル内存 視鏡③ カプセル内存	規鏡 (2) 規鏡 (3) 規鏡 (4) 規鏡 (5)	2 3 4 5	消化管内視 消化管内視 消化管内視 消化管内視 消化管内視 消化管内視 消化管内視	鏡④ 大腸(鏡④ 大腸(鏡④ 大腸(鏡④ 大腸(鏡④ 大腸(鏡④ 大腸(1) 2) 3) 4) 5)				
2 3 4 5 6	消化管内 消化管内 消化管内 消化管内 消化管内 消化管内	視鏡③ カプセル内存 視鏡③ カプセル内存 視鏡③ カプセル内存 視鏡③ カプセル内存 視鏡③ カプセル内存	規鏡 (2) 規鏡 (3) 規鏡 (4) 規鏡 (5) 規鏡 (6)	2 3 4 5 6	消化管内視 消化管内視 消化管内視 消化管内視 消化管内視 消化管内視 消化管内視 消化管内視	鏡④ 大腸(鏡④ 大腸(鏡④ 大腸(鏡④ 大腸(鏡④ 大腸(鏡④ 大腸(鏡④ 大腸(1) 2) 3) 4) 5) 6)				
2 3 4 5 6 7	消化管内消化管内消化管内消化管内消化管内消化管内消化管内消化管内消化管内	視鏡③ カプセル内4 視鏡③ カプセル内4 視鏡③ カプセル内4 視鏡③ カプセル内4 視鏡③ カプセル内4 視鏡③ カプセル内4	規鏡 (2) 規鏡 (3) 規鏡 (4) 規鏡 (5) 規鏡 (6) 規鏡 (7)	2 3 4 5 6 7	消化管内視 消化管内視 消化管内視 消化管内視 消化管内視 消化管内視 消化管内視 消化管内視 消化管内視	鏡④ 大腸(鏡④ 大腸(鏡④ 大腸(鏡④ 大腸(鏡④ 大腸(鏡④ 大腸(鏡④ 大腸(1) 2) 3) 4) 5) 6) 7)				
2 3 4 5 6 7 8	消化管内消化管内消化管内消化管内消化管内消化管内消化管内消化管内消化管内消化管内	視鏡③ カプセル内存 視鏡③ カプセル内存 視鏡③ カプセル内存 視鏡③ カプセル内存 視鏡③ カプセル内存 視鏡③ カプセル内存	規鏡 (2) 規鏡 (3) 規鏡 (4) 規鏡 (5) 規鏡 (6) 規鏡 (7) 規鏡 (8)	2 3 4 5 6 7 8	消化管内視消化管内視消化管内視消化管内視消化管内視消化管内視消化管内視消化管内視	 鏡④ 大腸(1) 2) 3) 4) 5) 6) 7) 8)				
2 3 4 5 6 7 8 9	消化管内消化管内消化管内消化管内消化管内消化管内消化管内消化管内消化管内消化管内	視鏡③ カプセル内存 視鏡③ カプセル内存 視鏡③ カプセル内存 視鏡③ カプセル内存 視鏡③ カプセル内存 視鏡③ カプセル内存 視鏡③ カプセル内存	規鏡 (2) 規鏡 (3) 規鏡 (4) 規鏡 (5) 規鏡 (6) 規鏡 (7) 規鏡 (8) 規鏡 (9)	2 3 4 5 6 7 8 9	消化管内視消化管内視消化管内內視消化管內內視消化管內內視消化管內內視消化管內內視消化管內內視消化管內內視消化管內內視消化管內視消化管	 鏡④ 大腸(1) 2) 3) 4) 5) 6) 7) 8) 9)				
2 3 4 5 6 7 8 9	消化管内消化管内消化管内消化管内消化管内消化管内消化管内消化管内消化管内消化管内	視鏡③ カプセル内存 視鏡③ カプセル内存 視鏡③ カプセル内存 視鏡③ カプセル内存 視鏡③ カプセル内存 視鏡③ カプセル内存 視鏡③ カプセル内存 視鏡③ カプセル内存 視鏡③ カプセル内存	規鏡 (2) 規鏡 (3) 規鏡 (4) 規鏡 (5) 規鏡 (6) 規鏡 (7) 規鏡 (8) 規鏡 (9) 規鏡 (10)	2 3 4 5 6 7 8 9	消化管内内视剂的人物,不是一个人的,我们就是一个人的,我们就是一个人,我们就是一个人,我们就是一个人,我们就是一个人,我们就是一个人,我们就是一个人,我们就是一个人,我们就是一个人,我们就是一个人,我们就是一个人,我们就是一个人,我们就是一个人,我们就是一个人,我们就是一个人,我们就是一个人,我们就是一个人,我们就是我们就是一个,我们就是我们就是一个人,我们就是我们就是一个人,我们就是我们就是我们就是我们就是我们就是我们就是我们就是我们就是我们就是我们就是	 鏡④ 大腸(1) 2) 3) 4) 5) 6) 7) 8) 9) 10)				
2 3 4 5 6 7 8 9 10	消化管内消化管内消化管内消化管内消化管内消化管内消化管内消化管内消化管内消化管内	視鏡③ カプセル内存 視鏡③ カプセル内存 視鏡③ カプセル内存 視鏡③ カプセル内存 視鏡③ カプセル内存 視鏡③ カプセル内存 視鏡③ カプセル内存 視鏡③ カプセル内存 視鏡③ カプセル内存 視鏡③ カプセル内存	規鏡 (2) 規鏡 (3) 規鏡 (4) 規鏡 (5) 規鏡 (6) 規鏡 (7) 規鏡 (8) 規鏡 (9) 規鏡 (10) 規鏡 (11)	2 3 4 5 6 7 8 9 10	消化管件内内视视的 消化管件内内内视视的 消化管管内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内内	 鏡④ 大腸(: 	1) 2) 3) 4) 5) 6) 7) 8) 9) 10) 11)				
2 3 4 5 6 7 8 9 10 11	消化管内消化管内消化管内消化管内消化管内消化管内消化管内消化管内消化管内消化管内	視鏡③ カプセル内を視鏡③ カプセル内を	規鏡 (2) 規鏡 (3) 規鏡 (4) 規鏡 (5) 規鏡 (6) 規鏡 (7) 規鏡 (8) 規鏡 (9) 規鏡 (10) 規鏡 (11) 規鏡 (12)	2 3 4 5 6 7 8 9 10 11	消化管管内内内视视的,并不是一个人。这个人,不是一个人。这个人。这个人,不是一个人。这个人,不是一个人。这个人,不是一个人。这个人,不是一个人。这个人,不是一个人。这个人,不是一个人,就是一个人,不是一个人,这一个人,这一个人,不是一个人,这一个人,这一个人,这一个人,这一个人,这一个人,这一个人,这一个人,这	 鏡④ 大腸(: 	1) 2) 3) 4) 5) 6) 7) 8) 9) 10) 11) 12) 13)				

講義コー	ド	*	専攻分野	最新医	学研究コース					
講義題目	l	消化管内視線	鏡学Ⅲ		必修/選択 必修					
担当教員		前畑忠輝		担当教員連絡	內線 3380					
単位数		2 単位(前期 1	単位(前期1,後期1) 履修年次 2年							
テーマと目的	内	消化器内視鏡学	化器内視鏡学の基本的な知識を習得する。							
講義計画			:部消化管および下部消化管内視鏡練習モデルを用いて消化器内視鏡の基本知識を 目論的に理解し、習得させる。							
達成目標			消化器内視鏡の原理を理解する。 上部消化管および下部消化管内視鏡の基本知識を習得する。							
教科書•参孝	 	別途指示								
準備学習(予習・行	復習•時間)	教科書 Gastroe でおくこと。 1時	斗書 Gastroenterological Endoscopy と消化器内視鏡ハンドブックの関連領域を読ん さくこと。 1時間							
成績評価法		出席と講義内での	席と講義内での受講態度および技術習得による総合評価とする。							
卒業認定・等		膵の内視鏡の知	萃の内視鏡の知識に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する							
			講	& 内容						
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)	内 容 (出席卿)					
1	消化吸収	試験: 糞便脂肪染色		1	X線検査② 血管造影 (1)					
2	蛋白漏出	試験(α1-アンチトリ	プシン試験)	2	X線検査② 血管造影 (2)					
3	pH モニタ	リング検査		3	画像診断① 超音波検査・診断(1)					
4	食道内圧	検査 (1)		4	画像診断① 超音波検査・診断 (2)					
5	食道内圧	検査(2)		5	画像診断② 超音波誘導下穿刺および生検(1)					
6	X 線検査①	內視鏡的逆行性膵胆管	造影(ERCP)(1)	6	画像診断② 超音波誘導下穿刺および生検(2)					
7	X 線検査①) 内視鏡的逆行性膵胆管	造影(ERCP) (2)	7	画像診断③ CT (1)					
8	X 線検査①) 内視鏡的逆行性膵胆管	造影(ERCP) (3)	8	画像診断③ CT (2)					
9	X線検査①) 内視鏡的逆行性膵胆管	造影(ERCP) (4)	9	画像診断④ 磁気共鳴画像(MRI、MRCP)(1)					
10	X 線検査①) 内視鏡的逆行性膵胆管	造影(ERCP) (5)	10	画像診断④ 磁気共鳴画像(MRI、MRCP)(2)					
11	X 線検査①	內視鏡的逆行性膵胆管	造影(ERCP) (6)	11	内視鏡① 胆道鏡および膵管鏡検査					
12	X 線検査①)内視鏡的逆行性膵胆管	造影(ERCP) (7)	12	内視鏡② 腹腔鏡検査					
			視鏡的逆行性膵胆管造影(ERCP)(8) 13 肝生検							
13	X 緑検査①) 内倪蜆的进行性脺胆官	7垣影(ERCP) (8)	13						
13 14		, 內視鏡的逆行性膵胆值		10	膵外分泌機能検査(BT-PABA(PFD)試験)					

講義コー	٠ ٢	*	専攻分野	最新医生	学研究コ	ース				
講義題目	1	内視鏡実習				必修/選択	必修			
担当教員		安田 宏		担当教員連絡	 先	内線 3380				
単位数		1 単位 (前期 0.5	5,後期 0.5)	履修年次		2年				
テーマと目的	的	消化器内視鏡学	の基本的な技	で術を習得する。)					
講義計画			:部消化管および下部消化管内視鏡練習モデルを用いて消化器内視鏡の基本技術を 胆論的に理解し、習得させる。							
達成目標			消化器内視鏡の原理を理解する。 上部消化管および下部消化管内視鏡の基本手技を習得する。							
教科書•参	考書	別途指示								
準備学習(予習・	復習•時間)	教科書 Gastroe でおくこと。 1時	_	Endoscopy と消	化器内視錄	竟ハンドブックの関	連領域を読ん			
成績評価法	÷	出席と講義内での	の発表および	受講態度による	総合評価	とする。				
卒業認定・4		内視鏡の基本的	知識に基づい	て、自身の研究	究を遂行し	論述する能力を習	得する			
			講	奏内容						
前期(回)		内 容	(出席卿)	後期(回)		内 容	(出席卿)			
1	治療①食	道バルーンタンポナー	ゼによる止血 (1)	1	治療⑤ 食	E道静脈瘤結紮術(B	VL) (1)			
2	治療①食	道バルーンタンポナー	ゼによる止血 (2)	2	治療⑤ 食	连道静脈瘤結紮術(E	VL) (2)			
3	治療①食	道バルーンタンポナー	ゼによる止血 (3)	3	治療⑤食	E道静脈瘤結紮術(B	VL) (3)			
4	治療①食	道バルーンタンポナー・	ゼによる止血 (4)	4	治療⑤食	E道静脈瘤結紮術(B	VL) (4)			
5	治療①食	道バルーンタンポナー・	ぜによる止血 (5)	5	治療⑤食	E道静脈瘤結紮術(B	VL) (5)			
6	治療② [内視鏡的食道拡張術	(1)	6	治療⑥ 内	引視鏡的粘膜切除術	(EMR) (1)			
7	治療②	勺視鏡的食道拡張術	(2)	7	治療⑥内	引視鏡的粘膜切除術	(EMR) (2)			
8	治療② [内視鏡的食道拡張術	(3)	8	治療⑥ 内	引視鏡的粘膜切除術	(EMR) (3)			
9	治療② [内視鏡的食道拡張術	(4)	9	治療⑥ 内	引視鏡的粘膜切除術	(EMR) (4)			
10	治療②	内視鏡的食道拡張術	(5)	10	治療⑥ 内	引視鏡的粘膜切除術	(EMR) (5)			
11	治療③ 1	食道静脈瘤硬化療法	(EIS) (1)	11	治療⑥ 内	引視鏡的粘膜切除術	(EMR) (6)			
					+					
12	治療③ 1	食道静脈瘤硬化療法	(EIS) (2)	12	治療⑥ 内	对視鏡的粘膜切除術	(EMR) (7)			
12 13		食道静脈瘤硬化療法 食道静脈瘤硬化療法		12 13		招鏡的粘膜切除術 招鏡的粘膜切除術				
	治療③((EIS) (3)		治療⑥ 内		(EMR) (8)			

講義コー	٠ ٢	*	専攻分野	最新医学研究コース								
講義題目	1	内視鏡治療統	総論 I	·		必修/選択	必修					
担当教員		安田 宏		担当教員連絡	先	内線 3380	·					
単位数		2 単位(前期 1,	単位(前期1,後期1) 履修年次 2年									
テーマと目に	的	内視鏡治療の理	内視鏡治療の理論を理解する。									
講義計画		種々の内視鏡治	重々の内視鏡治療・手技を理解し、治療・管理方法を検討する。									
達成目標			. 基本的な内視鏡治療について理論的に説明し、治療・管理が計画できる。 2. 内視鏡治療難治例に対して基礎知識を応用し、病態理解および治療・管理が できる。									
教科書·参	考書	別途指示										
準備学習(予習・	復習•時間)	教科書 Gastroenterological Endoscopy と消化器内視鏡ハンドブックの関連領域をでおくこと。 1時間										
成績評価法	.	出席と講義内での	の発表および	受講態度による	総合評価と	さする。						
卒業認定・		治療内視鏡の知	識に基づいて	、自身の研究を	を遂行し論法	述する能力を習	得する					
			講	島内 容	講義内容							
S. R. S.												
前期(回)		内 容	(出席卿)	後期(回)		内 容	(出席卿)					
前期(回) ————————————————————————————————————	治療⑦;	内 容 内				内 容						
			離術(ESD)(1)	1	治療® ポ)					
1	治療⑦	内視鏡的粘膜下層剥I	離術(ESD) (1) 離術(ESD) (2)	1 2	治療® ポ	リープ切除術(1))					
1 2	治療⑦	內視鏡的粘膜下層剥 內視鏡的粘膜下層剥	離術(ESD) (1) 離術(ESD) (2) 離術(ESD) (3)	1 2 2 3	治療® ポ 治療® ポ 治療® ポ	リープ切除術 (1))					
1 2 3	治療⑦;治療⑦;治療⑦;	內視鏡的粘膜下層剥 內視鏡的粘膜下層剥 內視鏡的粘膜下層剥	離術(ESD) (1) 離術(ESD) (2) 離術(ESD) (3) 離術(ESD) (4)	1 2 2 3 4	治療® ポ 治療® ポ 治療® ポ 治療® ポ	リープ切除術 (1) リープ切除術 (2) リープ切除術 (3))					
1 2 3 4	治療⑦「治療⑦」	內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥開	離術(ESD) (1) 離術(ESD) (2) 離術(ESD) (3) 離術(ESD) (4) 離術(ESD) (5)	1 2 2 3 3 4 5 5	治療® ポ 治療® ポ 治療® ポ 治療® ポ 治療® ポ	リープ切除術 (1) リープ切除術 (2) リープ切除術 (3) リープ切除術 (4))					
1 2 3 4 5	治療⑦に治療⑦に治療⑦に治療⑦に	內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥開	離術(ESD) (1) 離術(ESD) (2) 離術(ESD) (3) 離術(ESD) (4) 離術(ESD) (5) 離術(ESD) (6)	1 2 2 3 3 4 5 5 6	治療® ポ 治療® ポ 治療® ポ 治療® ポ 治療® ポ 治療® ポ	リープ切除術 (1) リープ切除術 (2) リープ切除術 (3) リープ切除術 (4) リープ切除術 (5)						
1 2 3 4 5 6	治療⑦「治療⑦」 治療⑦「治療⑦」 治療⑦「治療⑦」	內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥開	離術(ESD) (1) 離術(ESD) (2) 離術(ESD) (3) 離術(ESD) (4) 離術(ESD) (5) 離術(ESD) (6) 離術(ESD) (7)	1 2 3 3 4 5 5 6 6 7	治療® ポ 治療® ポ 治療® ポ 治療® ポ 治療® ポ 治療® ポ 治療® ポ	リープ切除術 (1) リープ切除術 (2) リープ切除術 (3) リープ切除術 (4) リープ切除術 (5)						
1 2 3 4 5 6 7	治療⑦に治療⑦に治療⑦に治療⑦に治療⑦に治療⑦に治療⑦に治療⑦に	內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥開	離術(ESD) (1) 離術(ESD) (2) 離術(ESD) (3) 離術(ESD) (4) 離術(ESD) (5) 離術(ESD) (6) 離術(ESD) (7) 離術(ESD) (8)	1 2 3 3 4 5 5 6 6 7 8 8	治療® ポ 治療® ポ 治療® ポ 治療® ポ 治療® ポ 治療® ポ 治療® ポ 治療® ポ	リープ切除術 (1) リープ切除術 (2) リープ切除術 (3) リープ切除術 (4) リープ切除術 (5) リープ切除術 (6)						
1 2 3 4 5 6 7 8	治療⑦に治療⑦に治療⑦に治療⑦に治療⑦に治療⑦に治療⑦に治療⑦に治療⑦に	內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥開	離術(ESD) (1) 離術(ESD) (2) 離術(ESD) (3) 離術(ESD) (4) 離術(ESD) (5) 離術(ESD) (6) 離術(ESD) (7) 離術(ESD) (8) 離術(ESD) (9)	1 2 2 3 3 4 4 5 5 6 6 7 8 8	治療® ポ 治療® ポ 治療® ポ 治療® ポ 治療® ポ 治療® ポ 治療® ポ 治療® ポ 治療® ポ	リープ切除術 (1) リープ切除術 (2) リープ切除術 (3) リープ切除術 (4) リープ切除術 (5) リープ切除術 (6) リープ切除術 (7)						
1 2 3 4 5 6 7 8	治療⑦に治療⑦に治療⑦に治療⑦に治療⑦に治療⑦に治療⑦に治療⑦に治療⑦に治療⑦に	內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥開	離術(ESD) (1) 離術(ESD) (2) 離術(ESD) (3) 離術(ESD) (4) 離術(ESD) (5) 離術(ESD) (6) 離術(ESD) (7) 離術(ESD) (8) 離術(ESD) (9)	1 2 2 3 3 4 4 5 5 6 6 7 8 8 9 9	治療⑧ ポ ポ	リープ切除術 (1) リープ切除術 (2) リープ切除術 (3) リープ切除術 (4) リープ切除術 (5) リープ切除術 (6) リープ切除術 (7) リープ切除術 (7))					
1 2 3 4 5 6 7 8 9	治療⑦に治療⑦に治療⑦に治療⑦に治療⑦に治療⑦に治療⑦に治療⑦に治療⑦に治療⑦に	內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥開	離術(ESD) (1) 離術(ESD) (2) 離術(ESD) (3) 離術(ESD) (4) 離術(ESD) (5) 離術(ESD) (6) 離術(ESD) (7) 離術(ESD) (7) 離術(ESD) (9) 恐術(ESD) (10)	1 2 2 3 3 4 4 5 5 6 6 7 8 8 9 10	治療⑧ ポ ポ 治療⑧ ポ ポ 治療® ポ ポ 治療® ポ ポ ポ ポ ポ ポ ポ ポ ポ ポ ポ 治療® ポ ポ ポ 治療® ポ ポ	リープ切除術 (1) リープ切除術 (2) リープ切除術 (3) リープ切除術 (4) リープ切除術 (5) リープ切除術 (6) リープ切除術 (7) リープ切除術 (8) リープ切除術 (9))))))))))					
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	治療⑦に治療⑦に治療⑦に治療⑦に治療⑦に治療⑦に治療⑦に治療⑦に治療⑦に治療⑦に	內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥離 內視鏡的粘膜下層剥離 內視鏡的粘膜下層剥離	離術(ESD) (1) 離術(ESD) (2) 離術(ESD) (3) 離術(ESD) (4) 離術(ESD) (5) 離術(ESD) (6) 離術(ESD) (7) 離術(ESD) (7) 離術(ESD) (9) 恐術(ESD) (10) 恐術(ESD) (11)	1 2 2 3 3 4 4 5 5 6 6 7 8 8 9 10 11	治療⑧ ポポ治療⑧ ポポ治療® ポポ治療® ポポカ療® ポポカ療	リープ切除術 (1) リープ切除術 (2) リープ切除術 (3) リープ切除術 (4) リープ切除術 (5) リープ切除術 (6) リープ切除術 (7) リープ切除術 (8) リープ切除術 (9)))))))))))))))					
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11	治療の「治療の「治療の「治療の「治療の「治療の「治療の「治療の「治療の「治療の「	內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥開 內視鏡的粘膜下層剥離 內視鏡的粘膜下層剥離 內視鏡的粘膜下層剥離 內視鏡的粘膜下層剥離 內視鏡的粘膜下層剥離 內視鏡的粘膜下層剥離	離術(ESD) (1) 離術(ESD) (2) 離術(ESD) (3) 離術(ESD) (4) 離術(ESD) (5) 離術(ESD) (6) 離術(ESD) (7) 離術(ESD) (7) 離術(ESD) (10) 語術(ESD) (10) 語術(ESD) (11) 語術(ESD) (12)	1 2 3 3 4 4 5 5 6 6 7 8 8 9 10 11 12	治療® ポポカ療® ポカ療療® ポカ療療® ポカ療療® ポカケック ポカケック ボカー・ボール ポカケック ボール カウェ	リープ切除術 (1) リープ切除術 (2) リープ切除術 (3) リープ切除術 (4) リープ切除術 (5) リープ切除術 (6) リープ切除術 (7) リープ切除術 (8) リープ切除術 (9) リープ切除術 (10 リープ切除術 (11 リープ切除術 (12))))))))) ()) ()) ()) ())					

講義コー	ド	*	専攻分野	最新医生	学研究コース						
講義題目	l	内視鏡治療統	総論Ⅱ		必修/選技	尺 必修					
担当教員		安田 宏		担当教員連絡	先 内線 3380						
単位数		2 単位(前期 1,	単位(前期1,後期1) 履修年次 2年								
テーマと目的	的	内視鏡治療の理	引視鏡治療の理論を理解する。								
講義計画		種々の内視鏡治	重々の内視鏡治療・手技を理解し、治療・管理方法を検討する。								
達成目標			. 基本的な内視鏡治療について理論的に説明し、治療・管理が計画できる。 . 内視鏡治療難治例に対して基礎知識を応用し、病態理解および治療・管理が計画 できる。								
教科書•参	考書	別途指示									
準備学習(予習・	復習•時間)	教科書 Gastroenterological Endoscopy と消化器内視鏡ハンドブックの関連領域を読んでおくこと。 1時間									
成績評価法											
卒業認定・		治療内視鏡の知	識に基づいて	、自身の研究を	を遂行し論述する能力を習	3得する					
			講義	内容							
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)	内 容	(出席卿)					
1	治療⑨ [为視鏡的止血処置(i	1)	1	治療⑪ 経皮的ドレナージ(胆	道•腫 瘍•嚢 胞)(1) ————					
2	治療⑨ [为視鏡的止血処置(2 	2)	2	治療⑪ 経皮的ドレナージ(胆	道·腫瘍·嚢胞) (2)					
3	治療⑨ [为視鏡的止血処置(3)	3	治療⑪ 経皮的ドレナージ(胆	道·腫瘍·囊胞) (3)					
4	治療⑨ [为視鏡的止血処置(4 ————————————————————————————————————	4)	4	治療⑪ 経皮的ドレナージ(胆	道•腫瘍•囊胞)(4) ————————————————————————————————————					
5	治療⑨ [为視鏡的止血処置(! 	5)	5	治療⑪ 経皮的ドレナージ(胆	道·腫瘍·囊胞) (5)					
6	治療⑨ [为視鏡的止血処置((6)	6	治療⑫ 肝動脈塞栓療法	(TAE) (1)					
7	治療⑨	为視鏡的止血処置(' ————————————————————————————————————	7)	7	治療⑫ 肝動脈塞栓療法	(TAE) (2)					
8	治療⑨ [为視鏡的止血処置(8 ————————————————————————————————————	8)	8	治療⑫ 肝動脈塞栓療法	(TAE) (3)					
9	治療⑨ [为視鏡的止血処置(s ————————————————————————————————————	9)	9	治療⑬ 動注化学療法(1)					
10	治療⑨	为視鏡的止血処置(i	10)	10	治療⑬ 動注化学療法(2)					
11	治療⑩ /	HP除菌療法(1) ————————————————————————————————————		11	治療⑬ 動注化学療法(3)					
12	治療⑩ /	HP除菌療法(2)		12	治療④ 静脈内局所注入療	f法(PEI など) (1)					
13	治療⑩	HP除菌療法(3)		13	治療⑭ 静脈内局所注入療	F法(PEI など) (2)					
I	1			1	1						
14	治療⑩	HP除菌療法(4) 		14	治療・り内視鏡的治療手技お	よびドレナージ(1)					

講義コー	ド	*	専攻分野	最新医	学研究コース				
講義題目	l	消化器病	ҕ総論IV	·	必修/選択 選択				
担当教員		松本伸行		先内	線 3380				
単位数		2 単位(前	期 1, 後期 1)	 手					
テーマと目的	的	基本的な消	化器・肝臓疾患の	病態を考案・理	 解する。				
講義計画		消化器・肝臓疾患の病態を考案・理解し、管理方法および治療方針を検討する。							
達成目標			. 基本的な消化器疾患について病態を理論的に考案し説明できる。. 基本的な消化器疾患の病態に基づいた治療・管理を計画できる。						
教科書•参考書 別途指示									
教科書 Gastroenterological Endoscopy と消化器内視鏡ハンドブックの関連領域を誘 でおくこと。 1時間									
成績評価法 出席と講義内での受講態度および技術習得による総合評価とする。									
卒業認定・等		肝疾患·膵疹	英患の知識に基づ	いて、自身の研	究を遂行し論述	立する能力を習	得する		
			講	義 内 容					
前期(回)		内 容	(出席卿)	後期(回)	内	容	(出席卿)		
1	肝疾患⑪	NASH/脂肪	FF	1	胆道疾患⑤ 胆道	腫瘍(十二指腸乳頭	(部腫瘍を含む)		
2	肝疾患⑫	代謝性肝障害	F	2	胆道疾患⑥ 膵	・胆管合流異常			
3	肝疾患⑬(云染性単核症、 サ	イトメガロウイルス感染症	3	胆道疾患⑦ 先	天性胆道拡張症	Ē		
4	肝疾患⑭	肝寄生虫症		4	胆道疾患⑧ 原	発性硬化性胆管	等 炎		
5	肝疾患⑮	肝膿瘍		5	膵疾患① 急性	膵炎			
6	肝疾患⑮	肝嚢胞		6	膵疾患② 慢性	膵炎(膵石症)			
7	肝疾患⑰	肝悪性腫瘍		7	膵疾患③ 自己	免疫性膵炎			
8	肝疾患®	肝良性腫瘍		8	膵疾患④ 膵癌	;			
9	肝疾患(9)	特発性門脈圧	 亢進症	9	膵疾患⑤ 膵嚢	胞(嚢胞線種・	腺癌を含む)		
10	肝疾患20	肝外門脈閉塞		10	膵疾患⑥ 膵管	内乳頭粘液性腫	重瘍 (IPMN)		
11	肝疾患②	Budd-Chiari 3		11	膵疾患⑦ 膵内	分泌腫瘍			
12	胆道疾患①	胆石症 (胆囊・)	総胆管・肝内胆石症含む)	12	膵疾患⑧ 膵の	非上皮性腫瘍			
13	胆道疾患	② 胆囊炎・胆・		13	膵疾患⑨ 膵発	生異常			
14	胆道疾患	3 胆 囊 腺筋腫	 症	14	腹腔•腹壁疾患	① 癌性腹膜炎			
15	胆道疾患	④ 胆嚢ポリー:	プ	15	腹腔・腹壁疾患	② ヘルニア			

講義コー	ド	*	* 専攻分野 最新医学研究コース								
講義題目	l	内視鏡学総	論Ⅲ			必修/選択	選択				
担当教員		立石敬介		担当教員連絡	各先	内線 3470					
単位数		2 単位(前期 1,	,後期1)	履修年次		2年					
テーマと目的	内	消化器内視鏡学	の基本的な知	1識を習得する	o						
講義計画			:部消化管および下部消化管内視鏡練習モデルを用いて消化器内視鏡の基本知識 理論的に理解し、習得させる。								
達成目標			消化器内視鏡の原理を理解する。 上部消化管および下部消化管内視鏡の基本知識を習得する。								
教科書·参	考	別途指示	途指示								
準備学習(予習・行	復習•時間)	教科書 Gastroe でおくこと。 1時	科書 Gastroenterological Endoscopy と消化器内視鏡ハンドブックの関連領域を読ん おくこと。 1時間								
成績評価法		出席と講義内での	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。								
卒業認定・等											
			講	養 内 容							
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内容	(出席卿)				
1	消化管X約	線検査③ 低緊張性十二	上指腸造影(6)	1	消化管X和	泉検査⑤ 大腸(1)					
2	消化管X	線検査③ 低緊張性十二	上指腸造影(7)	2	消化管X組	泉検査⑤ 大腸(2)					
3	消化管X系	線検査③ 低緊張性十 二	上指腸造影(8)	3	消化管X和	泉検査⑤ 大腸(3) 					
4	消化管X	線検査③ 低緊張性十二 	上指腸造影(9)	4	消化管X和	泉検査⑤ 大腸(4) 					
5	消化管X系	線検査③ 低緊張性十二 	上指腸造影(10) 	5	消化管X利	泉検査⑤ 大腸(5) 					
6	消化管 X	線検査④ 小腸(1)		6	消化管X組	泉検査⑤ 大腸(6) 					
7	消化管 X	線検査④ 小腸(2)		7	消化管X和	泉検査⑤ 大腸(7)					
8	消化管X	線検査④ 小腸(3)		8	消化管X組	泉検査⑤ 大腸(8)					
9	消化管X	線検査④ 小腸(4)		9	消化管X組	泉検査⑤ 大腸(9)					
10	消化管 X	線検査④ 小腸(5)		10	消化管X利	泉検査⑤ 大腸(10)				
11	消化管 X	線検査④ 小腸(6)		11	消化管X約	泉検査⑤ 大腸(11)				
12	消化管X	線検査④ 小腸(7)		12	消化管X線	泉検査⑤ 大腸(12)				
13	消化管 X	線検査④ 小腸(8)		13	消化管X和	泉検査⑤ 大腸(13)				
14	消化管 X	線検査④ 小腸(9)		14	消化管X約	泉検査⑤ 大腸(14)				
15	消化管X	線検査④ 小腸(10))	15	消化管X	泉検査⑤ 大腸(15)				

研究・教育の概略研

最新医学研究コース (Advanced Medical Research)

研究指導教員

専攻分野/コース

(英文名)

清水 直樹

小児科学とは、小児の保健・健康を研究することを基礎とし、種々の疾病を有する患児の診断・治療を研究する臨床科学である。小児科学を研究するためには、小児の正常な発育・発達・栄養はじめ各種疾病の病理・病態の十分な見識に加え、高度化した医療にともなう侵襲的医療機器が装着された特異な状態における病態生理をも、正しく理解しようとする姿勢が欠かせない。複雑化する医療のなかでChildren Centered の立場からの生命倫理観や、Advocacy の素養も求められる。臨床としては、小児救急・集中治療の急性期から始まり、在宅・緩和・移行期医療の慢性期までを見すえた小児総合診療の指向性を基礎として、臓器系統別専門の道を志すことになる。研究としては、Breakthroughとなりうる新規性の高い研究を、臨床現場からの動機づけをもって遂行し、成果を論文として纏め上げる課程を通じて自立的な研究遂行能力を涵養し、後続の研究指導ができるようになることを目標とする。

研究項目

- 1. 救急集中治療: ヘリウム・酸素混合ガス (Heliox) を用いた新規治療法、体外循環 (ECMO) 中の Microvesicles と臓器障害、新興感染感症と災害・集中治療、終末期医療・蘇生科学研究
- 2. 血液:ステロイドによる血栓症発症の原因解明、第 VII 因子止血機能解明と血友病治療への応用
- 3. 腫瘍:リンパ腫に対する新しい診断・治療法開発、小児がん・造血細胞移植患者の妊孕性温存
- 4. 遺伝:AI、次世代シーケンサーなど新しい解析技術を用いた難病検査開発、疾患早期発見実践
- 5. 神経: てんかん重積に対する新しい治療戦略、小児てんかん外科適応検討と周術期管理の研究
- 6. 腎臓: Wistar ラットのミゾリビン血中濃度に与えるプレドニゾロンの影響にかかる動物実験
- 7. 内分泌代謝: SHOXとメチル化に関する研究、学校検尿による糖代謝異常早期発見の検討
- 8. アレルギー:アレルゲンコンポーネント解析、呼気一酸化窒素測定と気管支喘息管理
- 9. 感染症:小児発熱性疾患に対する multiplex PCR 法の有用性、細菌性髄膜炎疫学研究
- 10. 循環器:心筋小胞体構成蛋白発現変化、新生児左房機能の研究、川崎病の新規治療薬探索
- 11. 新生児:早産・低出生体重児薬物動態と生理的パラメーターに関する研究、ビッグデータ解析

準備学習(予習·復習)

小児科学は非常に幅の広い学問分野である。対象は新生児から学童期・思春期にまで及んでいる。 精神、運動面で発達変化していくことが大きな特徴であり、昨今は成人への移行期医療も大きな課題 となりつつある。小児科を学ぶ準備段階として、正常な新生児から学童期にわたる発育・発達を、学習 しておくことが前提である。さらに、高度医療機器・在宅緩和医療・生命倫理など、幅広い知見を柔軟 に身につける姿勢を養うことが大切である。

講義コー	ド	※ 専攻分野 最新医学研究コース									
講義題目		新生児学 I	新生児学 I								
担当教員		北東 功	上東 功 担当教員連絡先 内線 3321								
単位数		1 単位 (前期 1)	単位 (前期 1) 履修年次 1 年								
テーマと目的	J	正常新生児の適	 正常新生児の適応過程の理解								
講義計画		正常新生児症例を通して出生後の適応生理を理解し、実際に個々の管理法を体得する。 母親の泌乳過程と心理を理解し、よりよいコミュニケーション法を体得する。									
達成目標	1. 正常新生児の適応過程を説明できる。										
教科書•参考	書 母乳育児成功のための10カ条のエビデンス										
準備学習(予習・行	復習•時間)	正常新生児の基礎知識を学んでおく。 1 時間									
成績評価法	境界領域の症例シミュレーションに基づく討議内容の評価										
卒業認定・特 の方針との		新生児学の知識	に基づいて、	自立して研究を遂行し論	述する能力を習得す	する					
			講義	内 容							
前期(回)		内。	容	(出席卿)							
1	新生児の)呼吸適応・経腟分	}娩での呼吸i	適応							
2	帝王切队	뢲での呼吸適応・親	f生児一過性?	多呼吸							
3	新生児の	D循環適応·動脈管	ぎの意義・卵円	孔の意義							
4	胎盤循環	まから肺循環へ・新	生児特発性服	市高血圧症							
5	新生児体	本温調節・分娩室で	での体温低下								
6	出生直征	後の skin to skin									
7	新生児の	つ血液・貧血と多血	•								
8	母体出血	1による影響									
9	新生児の	Dエネルギー代謝・	新生児低血粉	まのしくみ・新生児低血糖	「への対処						
10	新生児責	貞疸・光線療法 の通	適応								
11	腸肝循動	景の理解									
12	新生児飢	爪餓と吸啜意欲・体	重減少と脱水	の鑑別							
13	NRP にも	とづく新生児蘇生	法•新生児仮	死の病態理解							
14	母乳栄養	&・完全母乳栄養と	:母子同室								
15	乳業メー	カー関与が母乳で	育児阻害因子	となる・母乳分泌遅延に対	対する対処法						

講義コート	?	*		専攻分野	野	最新	新医学研究コース					
講義題目		新生	生児学Ⅱ					必修/選択	必修			
担当教員		北東	北東 功 担当教員連絡先		連絡先	内線 3321						
単位数		1 単	位 (後期 1)		履修年次 1年							
テーマと目的		新生	: 児呼吸障害	Fの病態の理	態の理解							
講義計画		種々	マイス									
達成目標			1. 新生児期に特有な呼吸障害について病態を踏まえて説明できる。 2. 新生児呼吸管理法を自ら行うことができる。									
教科書•参考書	\$	Assi	ssisted Ventilation of the Neonate									
準備学習(予習・復	習•時間)	新生	生児特有の呼吸状態を学んでおく。 1 時間									
成績評価法		筆記	記•口頭試験									
	卒業認定・学位授与 の方針との関連性 新生児学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する											
				講	義片	夕						
前期(回)		内	容()	出席卿)	後期	(回)	内	容 (出席卿)			
1					1		胎児期の呼吸	器の発育・肺成熟	度評価			
2					2	}	RDS・人工サー	・ファクタント				
3					3	}	TTN•MAS					
4					4	ŀ	空気遮断•無吗	F 吸発作				
5					5	j	慢性肺疾患•肺	#の形成異常				
6					6	5	先天性食道閉	鎖・横隔膜ヘルニ	ア			
7					7	,	Dry lung syndr	ome•呼吸機能評	価			
8					8	3	新生児期管内					
9					9)	IMV•HFO•様	々な換気法(PTV	等)			
10					10	0	Lung protectiv	e policy·人工換象	えと循環			
11					11	1	気道損傷の予	防·気道吸引法·原	市理学療法			
12					12	2	体位性ドレナー	ージ・気管切開				
13					13	3	NO 吸入療法・	ЕСМО				
14					14	4	呼吸器疾患と	薬物療法				
15					15	5	テオフィリン・ス	テロイド吸入療法				

講義コー	ド	*	専攻分野	最新医生	学研究コ [、]	ース	
講義題目	l	一般小児科學	学 I			必修/選択	必修
担当教員		清水直樹		担当教員連絡	先	内線 3321	
単位数		1単位(前期1)			1年		
テーマと目的	<u> </u>	小児の栄養、小り	見保健を理解	できる。			
講義計画		小児の栄養、栄養	養所要量、小児	見保健全体につ	ついて学習で	ける。	
達成目標		1. 小児の栄養、 2. 小児保健全体					
教科書·参考	書	別途指示					
準備学習(予習・	復習•時間)	小児期それぞれ	の時期での必	要な栄養につい	いて学習して	ておく。 1 時間	
成績評価法		出席と講義内での	の発表および	受講態度による	総合評価		
卒業認定・		一般小児科学の	知識に基づい	て、自立して研	f究を遂行し	♪論述する能力を [・]	習得する
			講義	内 容			
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内容	(出席卿)
1	小児栄養	をの意義 ニューニー		1			
2	栄養素の	0代謝:糖質代謝		2			
3	栄養素の	0代謝:脂質代謝		3			
4	栄養素の	0代謝:蛋白質代護	射	4			
5	小児の第	埃養所要量:水分		5			
6	小児の第	栄養所要量:エネル	ギー	6			
7	小児の第	於養所要量:蛋白質	E	7			
8	小児の第	於養所要量:脂質・	糖質	8			
9	ビタミング	欠乏症•過剰症		9			
10	新生児~	マススクリーニング		10			
11	乳幼児的	建康調査・健康診 機	——— 新	11			
12	学校保例	*		12			
13	心臟検討	<u></u>		13			
14	腎臓検討	<u></u>		14			
15	小児保健	 連統計		15			

講義コー	ド	*	専攻分野 最新医学研究コース								
講義題目	l	一舟	设小児科·	学Ⅱ				必修/選択	必修		
担当教員		川口	敦		担当	i教員連絡	先	内線 3321			
単位数		1単	位 (後期 1)		履修	年次		1年			
テーマと目的	j	小児	月の成長・発達・成熟および発育の概念と定義を理解する。								
講義計画		小児	児期特有の発達、成長、発育を理解した上で、病的な状態を学習する。								
達成目標			. 基本的な小児の発育に関する因子を理解できる。 . 基本的な小児の身体構成と年齢的変化を理解、発表できる。								
教科書•参考	書	別途	途指示								
準備学習(予習・2	復習•時間)	正常									
成績評価法		出席	席と講義内での発表および受講態度による総合評価								
卒業認定・等		一般小児科学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する									
				講	& 内	容					
前期(回)		内	容	(出席卿)	包	後期(回)		内容	(出席卿)		
1						1	発育期の	 分類			
2						2	発育の一	般原則			
3						3	遺伝因子	•環境因子			
4						4	胎児の発	育			
5						5	成長:体重	重·身長·頭囲			
6						6	歯の成長				
7						7	骨年齢				
8						8	体脂肪				
9						9	体水分量				
10						10	骨格筋				
11											
	12 発育指数										
12						12	発育指数				
12 13						12 13	発育指数成長曲線				

講義コー	F	*	専攻分野 最新医学研究コース							
講義題目		小児血液学	I			必修/選択	必修			
担当教員		長江千愛	江千愛 担当教員連絡先 内線 3321							
単位数		2 単位 (前期 1・1	単位(前期1・後期1) 履修年次 1年							
テーマと目的	j	症例に基づき小	例に基づき小児の血液疾患の病態を理解する							
講義計画		種々の小児の血 討する。	重々の小児の血液疾患の症例を通して病態を理解し、治療方針および管理方法を核 対する。							
達成目標			基本的な小児の血液疾患について論理的に診断、鑑別できる。							
教科書·参考	書	別途指示								
準備学習(予習・	復習•時間)	小児期の血液疾	見期の血液疾患の特徴を学習準備する。 1 時間							
成績評価法		出席と講義内での	席と講義内での発表および受講態度による総合評価							
卒業認定・質の方針との		小児科血液学の	小児科血液学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する							
			講義	内 容						
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内容	(出席卿)			
1	造血のし	ノみ - 1		1	止血のし	くみ - 1				
2	造血のし	くみ - 2		2	止血のし	くみ - 2				
3	造血のし	ノみ - 3		3	止血のし	くみ - 3				
4	造血のし	ノみ - 4		4	止血のし	くみ - 4				
5	造血のし	ノみ - 5		5	止血のし	くみ - 5				
6	小児の別	卡血球系疾患 - 1	•	6	小児の出	血性疾患 - 1				
7	小児の赤	卡血球系疾患 - 2	2	7	小児の出	血性疾患 - 2				
8	小児の赤	卡血球系疾患 - 3	3	8	小児の出	血性疾患 - 3				
9	小児の赤	卡血球系疾患 - 4	Į	9	小児の出	血性疾患 - 4				
10	小児の赤	卡血球系疾患 - 5	5	10	小児の出	血性疾患 - 5				
11	小児の赤	卡血球系疾患 - 6	,	11	小児の出	血性疾患 - 6				
12	小児の赤	卡血球系疾患 - 7	,	12	小児の血	栓性疾患 - 1				
13	小児の赤	卡血球系疾患 - 8	3	13	小児の血	栓性疾患 - 2				
14	小児の赤	卡血球系疾患 - 9)	14	小児の血	栓性疾患 - 3				
15	小児の赤	卡血球系疾患 - 1	.0	15	小児の血	<u> </u>				

講義コー	·k	*	専攻分野 最新医学研究コース					
講義題目	l	小児神経疾	患	'		必修/選択	必修	
担当教員		宮本雄策		担当教員連絡		内線 3321		
単位数		2 単位 (前期 1・行	单位(前期1・後期1) 履修年次 1年					
テーマと目的	j j	症例に基づき小	児の神経疾患	の病態を理解	する			
講義計画		小児の神経疾患 を考えていく。	の症例を通し	て神経系の発	達、病態を	理解し、診断、治療	療、管理方法	
達成目標		1. 基本的な小り 2. それに伴う治			監別ができる	00		
教科書·参考	書	別途指示	指示					
準備学習(予習・	復習•時間)	正常な神経発達	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・					
成績評価法		出席と講義内での	席と講義内での発表および受講態度による総合評価					
卒業認定・4		小児神経疾患の	ト児神経疾患の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する					
			講	& 内容				
前期(回)		内 容	(出席卿)	後期(回)		内 容	(出席卿)	
1	小児の神	₱経系の発達 − 1		1	小児のけ	いれん性疾患 -	1(慢性疾患)	
2	小児の神	₱経系の発達 − 2	}	2	小児のけいれん性疾患 - 2			
3	小児の神	₱経系の発達 − 3	1	3	小児のけいれん性疾患 - 3			
4	小児の神	₱経系の発達 − 4	:	4	小児のけいれん性疾患 - 4			
5	小児の神	₱経系の発達 − 5		5	小児のけ	いれん性疾患 -	5	
6	小児の神	神経系の発達 - 6		6	神経皮膚	症候群 - 1		
7	小児のに	けいれん性疾患 -	1(急性疾患)	7	神経皮膚	症候群 - 2		
8	小児のに	けいれん性疾患 -	2	8	神経皮膚	症候群 - 3		
9	小児のに	けいれん性疾患 -	3	9	神経皮膚	症候群 - 4		
10	小児のに	けいれん性疾患 -	4	10	神経皮膚	症候群 - 5		
11	小児のに	けいれん性疾患 -	5	11	筋緊張低	下児 - 1		
12	小児のに	けいれん性疾患 -	6	12	筋緊張低	下児 - 2		
13	小児のに	けいれん性疾患 -	7	13	筋緊張低	下児 - 3		
14	小児のに	けいれん性疾患 -	8	14	筋緊張低	下児 - 4		
15	小児のに	けいれん性疾患 -	9	15	筋緊張低	下児 - 5		

講義コー	·۲	*	専攻分野	学研究コ	ース				
講義題目	1	感染症学				必修/選択	必修		
担当教員		勝田友博		担当教員連絡	先	内線 3321			
単位数		1 単位 (前期 1)	位(前期1) 履修年次 1年						
テーマと目的	ሳ	症例に基づいて	別に基づいて基本的な感染症の病態を理解する						
講義計画		種々の基本的な	マの基本的な感染症疾患を病態を通して理解し治療法を検討する						
達成目標		1.基本的な感染 2.基本的な感染							
教科書•参考	善	別途指示	金指示						
準備学習(予習・	復習•時間)	小児期に特有な	見期に特有な感染症について学習しておく。 1 時間						
成績評価法		出席と講義内での発表および受講態度による総合評価							
卒業認定・学位授与 の方針との関連性 小児感染症学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する							習得する		
			講	善内 容					
前期(回)		内 容	(出席卿)	後期(回)		内 容	(出席卿)		
1	感染症机	既論		1					
2	臓器別原	&染症 I (中枢神	経、呼吸器)	2					
3	臓器別原	&染症Ⅱ(消化器	、肝胆道系)	3					
4	臓器別原	戍染症Ⅲ(循環器	、腎泌尿器)	4					
5	臓器別愿	戍染症Ⅳ(運動器、	皮膚、その他)	5					
6	特殊なり	代況下での感染症		6					
7	細菌感夠	e症 I		7					
8	細菌感夠	快症Ⅱ		8					
9	細菌感夠	快症Ⅲ		9					
10	細菌感夠	e症IV		10					
11	ウイルス	感染症 I		11					
12	ウイルス	感染症Ⅱ		12					
13	ウイルス	感染症Ⅲ		13					
14	ウイルス	感染症Ⅳ		14					
15	マイコプ	ラズマ、リケッチア	、クラミジア	15					

講義コー	ド	*	専攻分野	最新医生	学研究コ [、]	ース			
講義題目	I	ワクチン学				必修/選択	必修		
担当教員		中村幸嗣		担当教員連絡	先	内線 3321			
単位数		1 単位(後期 1)		履修年次		1年			
テーマと目的	 j	各種予防接種(!	フクチン)につ	いて理解する					
講義計画		各種予防接種(!	フクチン)の効	果、副反応等を	:理解し接種	計画を立てる			
達成目標		1.各種予防接種2.ワクチンの基本			,,	を説明できる への対応について	説明できる。		
教科書·参考	書	 予防接種の手引	き(近代出版))					
準備学習(予習・	復習•時間)	予防接種とは何	防接種とは何かを学習しておく。 1 時間						
成績評価法		出席と講義内で	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価						
卒業認定・質の方針との		ワクチンの知識し	クチンの知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する						
			講	毚 内 容					
前期(回)		内 容	(出席卿)	後期(回)		内容	(出席卿)		
1				1	予防接種	の概要			
2				2	予防接種	のリスクマネジメン	ጉ		
3				3	疾患とワク	プチン ①(麻疹)			
4				4	疾患とワク	アチン ② (風疹)			
5				5	疾患とワク	アチン ③ (DTP)			
6				6	疾患とワク	クチン ④(ポリオ))		
7				7	疾患とワク	アチン ⑤ (BCG)			
8				8	疾患とワク	アチン ⑥(日本服	6炎)		
9				9	疾患とワク	グチン ⑦(インフィ	ルエンザ)		
10				10	疾患とワク	クチン ⑧(ムンプ	ス)		
11				11	疾患とワク	アチン ⑨ (水痘)			
12				12	疾患とワク	アチン ⑩(A 型、	B 型肝炎)		
13				13	疾患とワク	アチン ⑪(Hib、脂	i炎球菌、他)		
14				14	基礎疾患	のある児への予防	ī接種		
15				15	予防接種	と関連する法律			

講義コー	ド	*	専攻分野 最新医学研究コース					
講義題目	l	小児循環器	病学 I			必修/選択	必修	
担当教員		麻生健太郎		担当教員連絡	·先	内線 3321		
単位数		1単位(前期1)		履修年次		1年		
テーマと目的	5	小児科領域にお	ける基本的な	心疾患の病態	を理解する			
講義計画		先天性心疾患の	診断と管理を	症例に基づい	て説明できる	5 .		
達成目標						づいて説明できる 基づいて説明でき	•	
教科書•参考	書	別途指示する。						
準備学習(予習・	復習•時間)	先天性心疾患に	天性心疾患について学習しておく。 1 時間					
成績評価法		出席と講義内での発表および受講態度による総合評価						
卒業認定・学位授与 の方針との関連性 小児循環器病学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する							を習得する	
			講	入 内 容				
前期(回)		内 容	(出席卿)	後期(回)		内 容	(出席卿)	
1	チアノー	ゼ性心疾患の診断	折 1	1				
2	チアノー	ゼ性心疾患の診断	折 2	2				
3	チアノー	ゼ性心疾患の診断	折 3	3				
4	チアノー	ゼ性心疾患の管理	里 1	4				
5	チアノー	ゼ性心疾患の管理	里 2	5				
6	チアノー	ゼ性心疾患の管理	里 3	6				
7	非チアノ	ーゼ性心疾患の認	诊断 1	7				
8	非チアノ	ーゼ性心疾患の認	诊断 2	8				
9	非チアノ	ーゼ性心疾患の認	诊断 3	9				
10	非チアノ	ーゼ性心疾患の認	参断 4	10				
11	非チアノ	ーゼ性心疾患の認	参断 5	11				
12	非チアノ	ーゼ性心疾患の管	達理 1	12				
13	非チアノ	ーゼ性心疾患の管	学理 2	13				
14	非チアノ	ーゼ性心疾患の管	達理 3	14				
15	非チアノ	ーゼ性心疾患の管	学理 4	15				

講義コー	ド	*	専攻分野 最新医学研究コース						
講義題目	I	小	凡循環器:	病学Ⅱ				必修/選択	必修
担当教員		麻生	健太郎		担当	当教員連絡 ₂	先	内線 3321	
単位数		1単	位 (後期 1)		履修	多年次		1年	
テーマと目的	þ	小児	2科領域にお	ける基本的な	心疾	患の病態を	を理解する		
講義計画		小児	見期の不整脈	および後天性	上心疾	ミ患の診断	と管理を症	例に基づいて説明	できる。
達成目標			. 小児期不整脈の診断と管理を症例に基づいて説明できる。 . 後天性心疾患の診断と管理を症例に基づいて説明できる。						
教科書·参考	書	別途	途指示する。						
準備学習(予習・	復習•時間)	小児	児の循環器疾患の基礎を学習しておく。 1 時間						
成績評価法		出席	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価						
卒業認定・学位授与 の方針との関連性 小児循環器病学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する									
				講	簑 内	容			
前期(回)		内	容	(出席卿)) 1	後期(回)		内容	(出席卿)
1						1	新生児不	整脈総論 1	
2						2	新生児不	整脈総論 2	
3						3	新生児不	整脈各論 1	
4						4	新生児不	整脈各論 2	
5						5	小児期不	整脈総論 1	
6						6	小児期不	整脈総論 2	
7						7	小児期不	整脈各論 1	
8						8	小児期不	整脈各論 2	
9						9	後天性心	疾患総論 1	
10						10	後天性心	疾患総論 2	
11						11	後天性心	疾患各論 1	
12						12	後天性心	疾患各論 2	
13						13	後天性心	疾患各論 3	
14						14	後天性心	疾患各論 4	
15						15	後天性心	疾患各論 5	

講義コー	ド	*	専攻分野	最新医生	学研究コ	ース		
講義題目	I	小児内分泌・	·代謝学 I			必修/選択	必修	
担当教員		清水直樹		担当教員連絡	先	内線 3321		
単位数		2単位(前期1、往	单位(前期1、後期1) 履修年次 1年					
テーマと目的	j	小児期に発症す	児期に発症する内分泌・代謝疾患の基礎的事項と問題点を理解する					
講義計画		小児における内々	児における内分泌・代謝疾患の病態を理解し、管理方法について検討する					
達成目標			. 基本的な内分泌・代謝疾患について病態を論理的に説明できる . 基本的な内分泌・代謝疾患の病態に基づいた管理を計画できる					
教科書·参考	書	別途指示	別途指示					
準備学習(予習・	復習•時間)	小児期の代謝、戸	小児期の代謝、内分泌疾患にはどのようなものがあるか学習しておく。 1 時間					
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価							
	文業認定・学位授与 小児内分泌・代謝学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する の方針との関連性							
			講義	内 容				
前期(回)		内 容	(出席卿)	後期(回)		内容	(出席卿)	
1	総論 1:	ホルモンとその作	用について	1	各論 10:	性分化異常症		
2	総論 2:	小児の成長とホル	レモンの関係	2	症例検討会①			
3	総論 3:	マス・スクリーニン	/グについて	3	各論 11: 水·電解質異常			
4	総論 4	:内分泌·代謝疾	患と遺伝学	4	各論 12:	各論 12: 骨代謝異常		
5	総論 5	: 負荷試験の実際	数	5	各論 13:	染色体·遺伝子	異常疾患	
6	特集抄記	虎会 : 内分泌・代	謝班	6	各論 14:	小児糖尿病の疫	受学•病態	
7	各論 1:	視床下部•下垂体	本ホルモン	7	各論 15:	: 1型糖尿病•2型	!糖尿病	
8	各論 2:	成長ホルモンと関						
9	各論 3: 汎下垂体機能低下症 9 各論 17: 小児メタボリックシンドローム						その他	
	各論 3:	汎下垂体機能低						
10		汎下垂体機能低 甲状腺ホルモン	下症		各論 17:		シンドローム	
	各論 4:		下症の作用と調節	9	各論 17	小児メタボリック	シンドローム酸血症	
10	各論 4:	甲状腺ホルモンの	下症 の作用と調節 能低下症	9	各論 17 各論 18 各論 19	小児メタボリック 高脂血症・高尿	シンドローム 酸血症 疾患	
10 11	各論 4: 各論 5: 各論 6:	甲状腺ホルモンの	下症 の作用と調節 能低下症 腺疾患	9 10 11	各論 17 各論 18 各論 19	小児メタボリック高脂血症・高尿低血糖をきたす高アンモニア・乳	シンドローム 酸血症 疾患	
10 11 12	各論 4: 各論 5: 各論 6: 各論 7:	甲状腺ホルモンの	下症の作用と調節能低下症腺疾患	9 10 11 12	各論 17 各論 18 各論 19 各論 20	小児メタボリック高脂血症・高尿低血糖をきたす高アンモニア・乳会②	シンドローム 酸血症 疾患	

講義コー	- ド	*	専攻分野	最新医学	学研究コ	ース			
講義題目	1	小児悪性腫	瘍 I			必修/選択	必修		
担当教員		森 鉄也		担当教員連絡	先	内線 3321			
単位数		2 単位 (前期 1・1	後期 1)	履修年次		2年			
テーマと目的	勺	主な小児悪性腫	瘍疾患につい	て病態、診断ス	方法、治療法	去を理解する。			
講義計画		小児悪性腫瘍の	症例を通して、	病態、診断、	台療につい	 て検討する。			
達成目標		2. 代表的な小り3. 小児に対する	2. 代表的な小児悪性腫瘍の治療方針を立てることができる。 3. 小児に対する化学療法について修得する。						
教科書•参考	善	別途指示	途指示						
準備学習(予習・	復習•時間)	小児期に多い悪	小児期に多い悪性腫瘍を学習しておく。 1 時間						
成績評価法		出席と講義中の受講態度、発言による総合評価							
卒業認定・		小児悪性腫瘍学	の知識に基づ	いて、自立して	「研究を遂行	テレ論述する能力: 	を習得する		
	T		講	義 内 容	T				
前期(回)		内 容	(出席卿)	後期(回)		内容	(出席卿)		
1	小児悪性	性腫瘍の疫学		1	小児悪性リンパ腫の疫学				
2	小児悪性	性腫瘍の遺伝学		2	小児悪性	児悪性リンパ腫の病態			
3	小児急性	生リンパ性白血病の	の病態	3	小児悪性	見悪性リンパ腫の診断			
4	小児急性	生リンパ性白血病の	の診断方法	4	小児悪性	児悪性リンパ腫の治療			
5	小児急性	生リンパ性白血病の	の治療	5	小児悪性	腫瘍の遺伝子診	斯		
6	小児急性	生骨髄性白血病の	病態	6	小児悪性	腫瘍の免疫診断			
7	小児急性	生骨髄性白血病の	診断方法	7	小児悪性	腫瘍の病理診断			
8	小児急性	生骨髄性白血病の	治療	8	小児悪性	腫瘍における細菌	国感染症		
9	化学療法	去の実際		9	小児悪性	腫瘍におけるウイ	ルス感染		
10	化学療法	去の急性毒性		10	小児悪性	腫瘍における真菌	あ感染症		
11	化学療法	去の晩期障害		11	小児悪性	腫瘍患者の栄養 ^タ	管理		
12	小児慢性	生白血病の病態・語	诊断·治療	12	小児悪性	腫瘍患者の感染	予防		
13	小児悪性	生固形腫瘍の病態		13	小児悪性腫瘍患者の輸血				
14	小児悪性	生固形腫瘍の診断		14	小児悪性	腫瘍患者の緩和	医療		
15	小児悪性	生固形腫瘍の治療		15	小児悪性	腫瘍患者の疼痛を	 対策		

講義コー	- ド	*	専攻分野	最親	·············· f医学研究	コース			
講義題目	=	小児腎臓病生	児腎臓病学 I 必修/選択 必修						
担当教員		三浦慎也	三浦慎也		内線:3321				
単位数		2 単位 (前期 1・行	後期 1)	履修年次		2年			
テーマと目的	的	症例に基づき腎臓	臓∙泌尿器疾息	患の病態と	集学的治療	を理解する			
講義計画		腎臓・泌尿器の 疾患の病態と治療			解した上で、	症例に基づき代表的	な腎臓・泌尿器		
達成目標			基本的な小児の腎臓・泌尿器疾患についての診断・鑑別ができる。 基本的な小児の腎臓・泌尿器疾患について集学的治療方針が立てられる。						
教科書·参	考書	別途指示							
準備学習(予習	•復習•時間)	小児期の腎臓病の	児期の腎臓病の特徴を学習しておく。 1 時間						
成績評価法		双方向性の講義を	スカートでは、おり、講義への関与・貢献度(積極発言を含む)で評価したい スカートでは、「大学」では、「大学」で記述している。						
卒業認定・の方針との		小児腎臓病学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する							
			講	義内容	<u> </u>				
前期(回)		内 容	(出席卿)		後期(回)	内 容	(出席卿)		
1	腎臓•泌尿	R器の発生学 - 1			1	腎生検の適応と臨床	評価 - 1		
2	腎臓•泌尿	R器の発生学 - 2			2	腎生検の適応と臨床評価 - 2			
3	先天性腎	泌尿器疾患の種類と	病態と集学的	冶療 - 1	3	腎・泌尿器感染症の診断と治療 -			
4	先天性腎	泌尿器疾患の種類と	病態と集学的	冶療 - 2	4	腎・泌尿器感染症の診断と治療 -			
5	先天性腎	泌尿器疾患の種類と	病態と集学的	治療 - 3	5	検尿データが読める - 1			
6	腎臓•泌尿	永器の正常組織 -	1		6	検尿データが読める	- 2		
7	腎臓•泌原	永器の正常組織 -	2		7	学校検尿の判定と評価	洒 - 1		
8	腎臓疾患	の病理像 - 1			8	学校検尿の判定と評	価 - 2		
9	腎臓疾患	の病理像 - 2			9	乳幼児ARFの病態の	理解 - 1		
10	腎臓疾患	の病理像 - 3			10	乳幼児ARFの病態の	理解 - 2		
11	糸球体機	能と尿細管機能と	その検査法 -	1	11	乳幼児CRFの病態の	理解 - 1		
12	糸球体機	能と尿細管機能と	その検査法 -	2	12	乳幼児CRFの病態の	理解 - 2		
13	小児水・1	電解質代謝とその異	常 - 1		13	小児輸液療法の理論	と実際 - 1		
14	小児水•1	電解質代謝とその異	【常 - 2		14	小児輸液療法の理論	と実際 - 2		
15	小児水・1	電解質代謝とその	異常 - 3		15	小児輸液療法の理	論と実際 - 3		

講義コー	・ド	*	専攻分野	最新医生	学研究コース		
講義題目	I	小児アレルキ	ドー学		必修/選択	必修	
担当教員		清水直樹		担当教員連絡	先 内線 3321		
単位数		2単位(前期 1・後	後期 1)	履修年次	2年		
テーマと目的	5			·	ピー性皮膚炎、気管支喘息 えの関係、家族への対処を		
講義計画		小児呼吸器の特	性とアレルギ	ーのメカニズム	を理解し、各疾患の治療を理	解する。	
達成目標		2. アトピー性皮	 食物アレルギーの診断、食事・栄養指導ができる。 アトピー性皮膚炎、気管支喘息の診断、治療ができる。 外来フォロー、親の心理的負担などを理解し、家族への対処ができる。 				
教科書·参考	書	別途指示	川途指示				
準備学習(予習・	復習•時間)	小児期のアレル	小児期のアレルギー疾患で多いものと、アレルギーという概念を学習しておく。 1 時間				
成績評価法		講義の理解度、	理解度、積極性などを総合して評価				
卒業認定・		小児アレルギーの	の知識に基づ	いて、自立して	研究を遂行し論述する能力を	と習得する	
			講	& 内容			
前期(回)		内 容	(出席卿)	後期(回)	内容	(出席卿)	
1	アレルギ	・一のメカニズム -	1	1	小児喘息と環境 - 1		
2	アレルギ	ーのメカニズム -	2	2	小児喘息と環境 - 2		
3	アレルギ	ーのメカニズム -	3	3	小児喘息の外来フォロー -	- 1	
4	アレルギ	一の検査 - 1		4	小児喘息の外来フォロー - 2		
5	アレルギ	一の検査 - 2		5	小児気管支喘息治療・管理ガイ	ドライン - 1	
6	食物アレ	<i>√</i> ルギー - 1		6	小児気管支喘息治療・管理ガイ	ドライン - 2	
7	食物アレ	·ルギー - 2		7	小児気管支喘息治療・管理ガイ	ドライン - 3	
8	アトピー	性皮膚炎 - 1		8	食物アレルギーの外来フォ	р <u> — 1</u>	
9	アトピー	性皮膚炎 - 2		9	食物アレルギーの外来フォ	п <u> — - 2</u>	
10	アレルギ	一性鼻炎 - 1		10	One airway, one disease	‡ - 1	
11	アレルギ	·一性鼻炎 - 2		11	One airway, one disease 21	t - 2	
12	从田球の	 D使用法		12	アレルギー児を持つ家族 - 1		
14	71711 3K 0	<u> </u>) +) · () [E] 1 - 3(W)	- 1	
13		ギー薬の使用法		13	アレルギー児を持つ家族		
	抗アレル			13 14		- 2	

講義コー	·ド		専攻分野	最新医生	学研究コ [、]	ース		
講義題目	1	小児科実習				必修/選択	必修	
担当教員		長江千愛		担当教員連絡	·先	内線 3321		
単位数		1単位(前期・後	単位 (前期・後期) 履修年次 1年					
テーマと目的	ሳ	小児に対する実	児に対する実技を習得する					
講義計画		検査や手技の実	査を手技の実技、実習を実際の検査などを通じて行う					
達成目標		必要な検査・手む	。 要な検査・手技を正確に、患児に負担なく実施できる。					
教科書·参考	善	別途指示						
準備学習(予習・	復習•時間)	小児科特有の手						
成績評価法		実技の習得、到達	支の習得、到達度					
卒業認定・		- 小児科の知識に基づき各種実習を行い、自立して研究を遂行し論述する能力を習得す?						
			講	& 内容				
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内 容	(出席卿)	
1	小児診察	終法 - 1		1	乳幼児健	診 - 1		
2	小児診察	察法 - 2		2	乳幼児健診 - 2			
3	小児診察	察法 - 3		3	乳幼児健	診 - 3		
4	小児診察	察法 - 4		4	心臓カテーテル検査 - 1			
5	小児診察	察法 - 5		5	心臓カテーテル検査 - 2			
6	小児の技	采血と点滴の手技	- 1	6	心臓カテ	ーテル検査 - 3		
7	小児の技	采血と点滴の手技	- 2	7	脳波所見	の読み方 - 1		
8	小児の技	采血と点滴の手技	- 3	8	脳波所見	の読み方 - 2		
9	小児の間			9	脳波所見	の読み方 - 3		
10	小児の恂	骨髄液採取の手技		10	予防接種	の実際 - 1		
11	小児救急	急 - 気管内挿管	り手技	11	予防接種	の実際 - 2		
12	小児救急	急 - 心肺蘇生法		12	予防接種	の実際 - 3		
13	小児救急	急 - ハイムリック法	.	13	腎生検の	実際 - 1		
14	新生児	床生 - 1		14	腎生検の	実際 - 2		
15	新生児	蘇生 - 2		15	腎生検の	実際 - 3		
	•			*				

講義コー	ド	※ 専攻分野 最新医学研究コース						
講義題目	l	小児循環器	病学Ⅲ			必修/選択	選択	
担当教員		麻生健太郎		担当教員連絡	先	内線 3321		
単位数		1単位(前期 1)		履修年次		1年		
テーマと目的	<u> </u>	小児科領域にお	見科領域における基本的な心疾患の病態を理解する					
講義計画		先天性心疾患の	天性心疾患の出生前診断および出生後の管理を理解する					
達成目標			先天性心疾患の出生前診断について症例に基づいて説明できる。 出生後の管理、治療方針を症例に基づいて計画できる。					
教科書•参考	書	別途指示する。						
準備学習(予習・	復習•時間)	小児期に特有な	ト児期に特有な心疾患について学習しておく。 1 時間					
成績評価法		出席と講義内での発表および受講態度による総合評価						
卒業認定・		小児循環器病学	の知識に基づ	いて、自立して	「研究を遂行	テレ論述する能力	を習得する	
			講義	内 容				
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内容	(出席卿)	
1	出生前語	诊断総論 1		1				
2	出生前語	诊断総論 2		2				
3	出生前記	诊断各論 1		3				
4	出生前語	诊断各論 2		4				
5	出生前語	诊断各論 3		5				
6	出生後旬	管理総論 1		6				
7	出生後旬	管理総論 2		7				
8	出生後旬	管理各論 1		8				
9	出生後旬	萱理各論 2		9				
10	出生後旬	管理各論 3		10				
11	出生前沿	台療総論		11				
12	出生前剂	台療各論		12				
13	出生後滑	台療総論		13				
14	出生後滑	台療各論 1		14				
15	出生後潛	台療各論 2		15				

講義コー	·k	*	専攻分野	最新	所医学研究コ	ース			
講義題目		免疫学				必修/選択	選択		
担当教員		勝田友博		担当教員]連絡先	内線 3321			
単位数		1 単位 (前期 1)		履修年》	į,	1年			
テーマと目的	j	原発性免疫不全	症候群の基本	大を理解で	ける				
講義計画		症例を通して、原 の生化学検査に				する症状から診断	を疑い、種々		
達成目標		1.原発性免疫不全				療が説明できる			
教科書・参考	書	別途指示							
準備学習(予習・	復習•時間)	別 免疫不全とは何か学習しておく。 1 時間							
成績評価法		出席と講義内での発表および受講態度による総合評価							
	卒業認定・学位授与 の方針との関連性 小児免疫学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する								
			講	裛 内 容					
前期(回)		内 容	(出席卿)		後期(回)	内 容	(出席卿)		
1	原発性的	免疫不全症の分類			1				
2	原発性免	免疫不全症の診断			2				
3	原発性免	免疫不全症の治療			3				
4	原発性免	疫不全症患者の感染	コントロール		4				
5	各論 ①	(複合型免疫不全	注症)		5				
6	各論 ②	(抗体不全免疫不	下全症)		6				
7	各論 ③	(他に大きな欠損を	を付随した免疫	医不全症)	7				
8	各論 ④	(食細胞系異常)			8				
9	各論 ⑤	(補体因子欠損症	宦)		9				
10	各論 ⑥	(その他の免疫不	全症)		10				
11	各論 ⑦	(HIV)			11				
12	各論 ⑧	(ウイルス感染と続発	性免疫不全)		12				
13	各論 ⑨	(薬物)			13				
14	自己免疫	安とリウマチ性疾患	総論		14				
15	自己免疫	要とリウマチ性疾患	— <u>——</u> 各論		15				

講義コー	ド	*	専攻分野	・ 最新医学研究コース					
講義題目		新生児学Ⅲ				必修/選択	選択		
担当教員		北東 功 担当教員連絡		当教員連絡先	内線 3321				
単位数		1 単位 (前期 1)		履何	修年次	2年			
テーマと目的	þ	低出生体重児・5	早産児の管理						
講義計画		低出生体重児の	総合管理につ	ントハ	て学ぶ				
1. 適切な・輸液・栄養管理について理解する 2. 中枢神経保護について理解する 3. 親子関係について理解する 4. 適切な哺育環境の整備について理解する									
教科書·参考	書	Avery,Fletcher,MacDonald:Neonatology							
準備学習(予習・	・智(予習・復習・時間) 低出生体重児の特徴を学習しておく。 1 時間								
成績評価法	石頭試験								
卒業認定・等 の方針との		新生児学の知識	に基づいて、	自立	こして研究を遂行し論	述する能力を習得 ^っ	する		
	T		講	隻 Þ	夕				
前期(回)		内容	(出席卿)						
1		重児の水分代謝・不原							
2		推持能力•超低出生体			ulla ulla dada-ama				
3		3低出生体重児の哺							
4		カテーテル挿入法・高 							
5		障害の理解・低酸素性							
6		蓋内出血への対処・化	区田生体里児の	加至	*四曲の予め				
7		囲白質軟化症 マキャッの対処							
9		圣奇形への対処 平価・発達評価							
10		+価・発達評価 	丹乙八端下 4	ノ <u>む</u> ;	公				
11		・院兄の私の心理・ 型ケアとは・タッチク		ノ丹・	かい 付 ノム				
12	カンガル		<u>'</u>						
13		 境の整備・新生児	へのなだめ						
14		光環境•温度環境							
15		テ動評価・ストレス !		ョニ、	ング				
	l .								

講義コー	ド	*		専攻分野	最新医生	学研究コ	野 最新医学研究コース				
講義題目		小儿	見血液学	П	·		必修/選択	選択			
担当教員		山下	敦己		担当教員連絡	先	内線: 西部病院 3209				
単位数		1単	位 (後期 1)		履修年次		2年				
テーマと目的	J	症例	ルに基づき小	児の輸血感	染症の病態を 理	里解する					
講義計画			の小児の輸	血感染症の	定例を通して病	態を理解し	、治療方針および	ド管理方法を			
達成目標											
教科書•参考	書	別途	川途指示								
準備学習(予習・行	復習•時間)	輸血	輸血感染症にはどのようなものがあるか学習しておく。 1 時間								
成績評価法		出席	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価								
卒業認定・学 の方針との		- 小児血液学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する									
				講	& 内 容						
前期(回)		内	容	(出席卿)	後期(回)		内容	(出席卿)			
1					1	HBV - 1					
2					2	HBV - 2					
3					3	HBV - 3					
4					4	HBV - 4					
5					5	HBV - 5					
6											
					6	HCV - 1					
7					6 7						
8						HCV - 1					
					7	HCV - 1					
8					7 8	HCV - 1 HCV - 2 HCV - 3					
8					7 8 9	HCV - 1 HCV - 2 HCV - 3 HCV - 4					
8 9 10					7 8 9 10	HCV - 1 HCV - 2 HCV - 3 HCV - 4 HCV - 5					
8 9 10 11					7 8 9 10 11	HCV - 1 HCV - 2 HCV - 3 HCV - 4 HCV - 5 HIV - 1					
8 9 10 11 12					7 8 9 10 11 12	HCV - 1 HCV - 2 HCV - 3 HCV - 4 HCV - 5 HIV - 1 HIV - 2					

講義コー	ド	** 専攻分野 最新医学研究コース						
講義題目		小児救急•集	中治療医学	学		必修/選択	選択	
担当教員		清水直樹	4	担当教員連絡	先	内線 3321		
単位数		1単位(前期1)	L単位 (前期 1) 履修年次 2 年					
テーマと目的	j	小児救急•集中浴	小児救急・集中治療医学の基礎から応用までを学ぶ					
講義計画		呼吸生理学•小児	呼吸生理学・小児麻酔学の基本から、臨床応用実践、研究の動機づけまで教授する					
達成目標								
教科書·参考	書	別途指示						
準備学習(予習・	復習•時間)	Nunn's Applied Respiratory Physiology, Roger's Pediatric Intensive Care Care 3時間						
成績評価法		講義の理解度、積極性						
	卒業認定・学位授与 の方針との関連性 小児教急・集中治療学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する							
			講義	内 容				
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内容	(出席卿)	
1	呼吸生理	里学 (正常肺)		1				
2	呼吸生理	里学(疾患肺)		2				
3	小児麻	ぬと医療安全・危機	管理	3				
4	小児救急	急医学と蘇生科学		4				
5	トリアーミ	ジ・搬送医療・救急	医療体制	5				
6	アドボカ	シー・傷害防止・虐	待対応	6				
7	小児集「	户治療医学総論		7				
8	呼吸不匀	と集中治療		8				
9	循環不全	と集中治療		9				
10	意識障害	客と集中治療		10				
11	肝腎不全	と集中治療		11				
12	体外式服	莫型人工肺(ECM	O)	12				
13	ECMO 1	管理下の特殊病態	生理	13				
14	新興再興	《 感染症·災害医療	と集中治療	14				

講義コー	ド	*	※ 専攻分野 最新医学研究コース										
講義題目	I	小儿	見内分	子泌·	·代謝学	žΠ					必修	/選択	選択
担当教員		清水	直樹			担	当教員連	絡先			内線 3321		
単位数		1単	位(後期	期 1)		履	修年次				2年		
テーマと目的	j	小児	期に発	症す	る特殊など	内分泌·	代謝疾	患を理	解し	診断	•管理	能力を身に	こつける
講義計画		小児	しにおけ	る特殊	殊な内分泌	必•代謝	疾患を知	印り、病	態・	診断	法•管	埋について	で検討する
達成目標												と について理 を計画でき	
教科書·参考	書	別途	指示										
準備学習(予習・	復習•時間)	小児	期に多	い内	分泌、代認	射疾患を	を学習し	ておく。	, 1	時間			
成績評価法		出席	と講義	内での	の発表お。	はび受講	講態度に.	よる総合	合評	価			
	卒業認定・学位授与 の方針との関連性 小児内分泌・代謝学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する								を習得する				
					請	義	为 容						
前期(回)		内	容	(出)	席卿)	後期	(回)			内	容		(出席@)
1							1	総論	1:	内分	泌臟器	器の発生に	こついて
2							2	総論	2:	集団	検診の	の役割	
3						;	3	総論	3:	遺伝	子診園	断の適応と実際	
4							4	総論	4:	代謝	疾患語	診断におけ	る特殊検査
5						ļ	5	総論	5:	特殊	ミルク	による治療	きについて
6						(6	症例	検討	会 (D		
7							7	各論	1:	下垂	体発生	生に関わる	転写因子
8						8	8	各論	2:	腫瘍	性疾患	患と内分泌	異常
9							9	各論	3:	自己	免疫性	生多腺性内	可分泌障害
10						1	.0	各論	4:	先天	性副門	腎機能低 了	
11						1	.1	各論	5:	 骨系	統疾息		
12						1	.2	各論	6:	低血	 L糖をき	たす代謝	 異常症
13						1	.3	各論	7:	特殊	 な先ヲ	F代謝異常	
14						1	.4	各論	8:	稀な	染色体	本•遺伝子	異常
15						1	.5	総括	·復`	¥			

講義コー	ド	*	専攻分野	野 最新医学研究コース					
講義題目		小児悪性腫乳	寡Ⅱ			必修/選択	選択		
担当教員		森 鉄也		担当教員連絡	先	内線 3321			
単位数		1単位(前期 1)		履修年次		2年			
テーマと目的	j	主な小児悪性腫	傷疾患につい	て病態、診断	方法、治療剂	生を理解する。			
講義計画		小児悪性腫瘍の	症例を通して	、病態、診断、	治療につい	て検討する。			
1. 代表的な小児悪性腫瘍を診断できる。 2. 代表的な小児悪性腫瘍の治療方針を立てることができる。 3. 小児悪性腫瘍に対する臨床試験について理解する。 4. 小児悪性腫瘍の臨床試験を立案する。									
教科書•参考	**	別途指示							
準備学習(予習・	復習•時間)	小児期特有の悪	性疾患につい	て学習してお	く。 1 時間				
成績評価法		出席と講義中の登	受講態度、発	言による総合割	価				
	卒業認定・学位授与 の方針との関連性 小児悪性腫瘍学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する								
			講	と 内容 一	T				
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内 容	(出席卿)		
1		険の歴史 		1					
2		険の目的 		2					
3		くと臨床試験の違い 	,)	3					
4		険の計画方法 		4					
5		険の統計学 		5					
6		性腫瘍の EBM	₩	6					
7		生腫瘍の国際共同		7					
8		生腫瘍に関わる倫理 生腫瘍のデータ管理		9					
10		生腫瘍のナーダ管理		10					
11		一ムドコンセントとフ		11					
12		ームトコン ピントと) 							
13		世腫瘍の分子標的		13					
14		生腫瘍の新規治療		14					
15		生腫瘍の免疫療法		15					
10	4 / U/UY				j				

講義コー	ド	*	専攻分野	最新医生	学研究コ	ース				
講義題目	l	小児筋疾患				必修/選択	選択			
担当教員		宮本雄策		担当教員連絡	先	内線 3321				
単位数		1単位(後期1)		履修年次		2年				
テーマと目的	j	症例に基づき小	児の神経疾患	の病態を理解	する					
講義計画		小児の筋疾患の 考えていく。	症例を通して	神経系の発達	、病態を理	解し、診断、治療	、管理方法を			
達成目標		1. 基本的な小り 2. それに伴う治			りができる。					
教科書·参考	書	別途指示	川途指示							
準備学習(予習・	復習・時間)	小児期からみられ	小児期からみられる筋疾患について学習しておく。 1 時間							
成績評価法		出席と講義内での	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価							
卒業認定・等		小児筋疾患の知	小児筋疾患の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する							
			講	& 内容						
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内 容	(出席卿)			
1				1	筋ジストロ	フィー - 1				
2				2	筋ジストロ	フィー - 2				
3				3	筋ジストロフィー - 3					
4				4	筋ジストロフィー - 4					
5				5	筋ジストロフィー - 5					
6				6	筋ジストロ	フィー - 6				
7				7	筋ジストロ	フィー - 7				
8				8	筋ジストロ	フィー - 8				
9				9	ミトコンドリ	リア脳筋症 - 1				
10				10	ミトコンドリ	ア脳筋症 - 2				
11				11	ミトコンドリ	ア脳筋症 - 3				
12				12	ミトコンドリ	ア脳筋症 - 4				
13				13	ミトコンドリ	ア脳筋症 - 5				
14				14	ミトコンドリ	ア脳筋症 - 6				
15			15 ミトコンドリア脳筋症 - 7							

講義コー	·k	**	専攻分野	最新医学	研究コー	・ス				
講義題目	1	小児腎臓病	詩学Ⅱ		١	必修/選択	選択			
担当教員		三浦慎也		担当教員連絡先	Ē P	勺線:3321				
単位数		1単位(前期 1)	单位(前期1) 履修年次 2年							
テーマと目的	<u> </u>	症例に基づき	例に基づき腎臓・泌尿器疾患の病態と集学的治療を理解する							
講義計画	腎臓・泌尿器の解剖・組織、生理学を理解した上で、症例に基づき代表的な腎臓・ 議義計画 器疾患の病態と治療を学習する。									
達成目標				器疾患について 器疾患について		_ •	いる。			
教科書·参考	数科書·参考書 別途指示									
準備学習(予習・	予習・復習・時間) 小児期に多い腎疾患を学習しておく。 1 時間									
成績評価法 双方向性の講義を計画しており、講義への関与・貢献度(積						蒸発言を含む)で	評価したい			
	卒業認定・学位授与 小児腎臓病学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する の方針との関連性									
			講	襲 内 容						
前期(回)		内 容	(出席卿)		後期(回) 内容	(出席卿)			
1	ネフロー	ゼ症候群の病態と	と診断・治療 -	1	1					
2	ネフロー	ゼ症候群の病態と	と診断・治療 -	2	2					
3	急性腎疹	炎症候群の病態	上診断・治療 -	1	3					
4	急性腎疹	炎症候群の病態	上診断・治療 -	2	4					
5	慢性腎炎	炎症候群の病態	と診断・治療 -	1	5					
6	慢性腎炎	炎症候群の病態	上診断・治療 -	2	6					
7	慢性腎疹	炎症候群の病態	と診断・治療 -	3	7					
8	慢性腎炎	炎症候群の病態	と診断・治療 -	4	8					
9	乳幼児の	のARFの病態と記	诊断・治療 - 1		9					
10	乳幼児の	のARFの病態と記	診断・治療 - 2		10					
11	乳幼児CI	RFに対してCAPD	・HD腎移植と集	学的対応 一 1	11					
12	乳幼児CI	RFに対してCAPD	・HD腎移植と集生	学的対応 一 2	12					
13	乳幼児CI	RFに対してCAPD	・HD腎移植と集	学的対応 一 3	13					
14	腎生検6	の術者・介助者と	して研修 - 1		14					
15	腎生検6	の術者・介助者と	 して研修 - 2		15					

研究・教育の概略

専攻分野/コース (英文名)

最新医学研究コース (Advanced Medical Research)

研究指導教員

清水 直樹

小児科学とは、小児の保健・健康を研究することを基礎とし、種々の疾病を有する患児の診断・治療を研究する臨床科学である。小児科学を研究するためには、小児の正常な発育・発達・栄養はじめ各種疾病の病理・病態の十分な見識に加え、高度化した医療にともなう侵襲的医療機器が装着された特異な状態における病態生理をも、正しく理解しようとする姿勢が欠かせない。複雑化する医療のなかでChildren Centered の立場からの生命倫理観や、Advocacy の素養も求められる。臨床としては、小児救急・集中治療の急性期から始まり、在宅・緩和・移行期医療の慢性期までを見すえた小児総合診療の指向性を基礎として、臓器系統別専門の道を志すことになる。研究としては、Breakthrough となりうる新規性の高い研究を、臨床現場からの動機づけをもって遂行し、成果を論文として纏め上げる課程を通じて自立的な研究遂行能力を涵養し、後続の研究指導ができるようになることを目標とする。

研究項目

- 1. 救急集中治療: ヘリウム・酸素混合ガス (Heliox) を用いた新規治療法、体外循環 (ECMO) 中の Microvesicles と臓器障害、新興感染感症と災害・集中治療、終末期医療・蘇生科学研究
- 2. 血液:ステロイドによる血栓症発症の原因解明、第 VII 因子止血機能解明と血友病治療への応用
- 3. 腫瘍:リンパ腫に対する新しい診断・治療法開発、小児がん・造血細胞移植患者の妊孕性温存
- 4. 遺伝:AI、次世代シーケンサーなど新しい解析技術を用いた難病検査開発、疾患早期発見実践
- 5. 神経: てんかん重積に対する新しい治療戦略、小児てんかん外科適応検討と周術期管理の研究
- 6. 腎臓: Wistar ラットのミゾリビン血中濃度に与えるプレドニゾロンの影響にかかる動物実験
- 7. 内分泌代謝: SHOXとメチル化に関する研究、学校検尿による糖代謝異常早期発見の検討
- 8. アレルギー:アレルゲンコンポーネント解析、呼気一酸化窒素測定と気管支喘息管理
- 9. 感染症:小児発熱性疾患に対する multiplex PCR 法の有用性、細菌性髄膜炎疫学研究
- 10. 循環器:心筋小胞体構成蛋白発現変化、新生児左房機能の研究、川崎病の新規治療薬探索
- 11. 新生児:早産・低出生体重児薬物動態と生理的パラメーターに関する研究、ビッグデータ解析

準備学習(予習·復習)

小児科学は非常に幅の広い学問分野である。対象は新生児から学童期・思春期にまで及んでいる。 精神、運動面で発達変化していくことが大きな特徴であり、昨今は成人への移行期医療も大きな課題 となりつつある。小児科を学ぶ準備段階として、正常な新生児から学童期にわたる発育・発達を、学習 しておくことが前提である。さらに、高度医療機器・在宅緩和医療・生命倫理など、幅広い知見を柔軟 に身につける姿勢を養うことが大切である。

講義コー	H	** 専攻分野 最新医学研究コース							
講義題目		新生児学 I		·		必修/選択	必修		
担当教員		北東 功		担当	教員連絡先	内線 3321			
単位数		1 単位 (前期 1)	1 単位(前期 1) 履修年次 1 年						
テーマと目的	J	正常新生児の適	応過程の理解	Ž.					
正常新生児症例を通して出生後の適応生理を理解し、実際に個々の管理法を体得する。 講義計画 母親の泌乳過程と心理を理解し、よりよいコミュニケーション法を体得する。							体得する。		
1. 正常新生児の適応過程を説明できる。 達成目標 2. 新生児低血糖、新生児黄疸、水分電解質、酸-塩基平衡管理法を計画できる。 3. 母乳育児支援のしくみを説明できる。							できる。		
教科書•参考	・参考書 母乳育児成功のための10カ条のエビデンス								
準備学習(予習・行	学習(予習・復習・時間) 正常新生児の基礎知識を学んでおく。 1 時間								
成績評価法	成績評価法 境界領域の症例シミュレーションに基づく討議内容の評価								
卒業認定・学の方針との		新生児学の知識	に基づいて、	自立し	て研究を遂行し論立	さする能力を習得す	ける		
			講	卜内	容				
前期(回)		内。	容	(出	席卿)				
1	新生児の)呼吸適応・経腟分	分娩での呼吸注	適 応					
2	帝王切開	뢲での呼吸適応・親	f生児一過性:	多呼	及				
3	新生児の	D循環適応·動脈管	ぎの意義・卵円	孔の	意義				
4	胎盤循導	環から肺循環へ・新	生児特発性原	市高血	1.圧症				
5	新生児体	▲温調節・分娩室で	での体温低下						
6	出生直征	後の skin to skin							
7	新生児の)血液・貧血と多血	•						
8	母体出血	正による影響							
9	新生児の	Dエネルギー代謝・	新生児低血粉	唐のし	くみ・新生児低血糖・	への対処			
10	新生児責	黄疸・光線療法の通	遠応						
11	腸肝循鎖	環の理解 ニュー							
12	新生児飢	汎餓と吸啜意欲・体	重減少と脱水	の鑑	別				
13	NRP にも	とづく新生児蘇生	法•新生児仮	死の	病態理解				
14	母乳栄養	養・完全母乳栄養と	:母子同室						
15	乳業メーカー関与が母乳育児阻害因子となる・母乳分泌遅延に対する対処法								

講義コー	ド	*		専攻分野	野 員	最新医学研究コース				
講義題目	I	新生	生児学Ⅱ					必修/選択	必修	
担当教員		北東	. 功		担当	教員	連絡先	内線 3321		
単位数		1 単	位 (後期 1)		履修:	年次		1年		
テーマと目的	<u> </u>	新生	:児呼吸障害	手の病態の理 が	解					
講義計画		種々	重々の新生児呼吸障害の成因・病態・経過・診断・管理法について							
達成目標			1. 新生児期に特有な呼吸障害について病態を踏まえて説明できる。 2. 新生児呼吸管理法を自ら行うことができる。							
教科書•参考	書	Assi	Assisted Ventilation of the Neonate							
準備学習(予習・	復習•時間)	新生	新生児特有の呼吸状態を学んでおく。 1 時間							
成績評価法		筆記	筆記•口頭試験							
卒業認定・学位授与 の方針との関連性 新生児学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する										
				講	義内	容				
前期(回)		内	容(出席卿)	後期(回	回)	内	容()	出席卿)	
1					1		胎児期の呼吸	器の発育・肺成熟	度評価	
2					2		RDS・人工サー	ファクタント		
3					3		TTN•MAS			
4					4		空気遮断•無吗	吸発作		
5					5		慢性肺疾患•朋	の形成異常		
6					6		先天性食道閉	鎖・横隔膜ヘルニ	ア	
7					7		Dry lung syndr	ome•呼吸機能評	価	
8					8		新生児期管内			
9					9		IMV•HFO•様	々な換気法(PTV €	等)	
10					10		Lung protective	e policy·人工換象	気と循環	
11					11		気道損傷の予	防・気道吸引法・朋	市理学療法	
12					12		体位性ドレナー	-ジ・気管切開		
13					13		NO 吸入療法・	ЕСМО		
14					14		呼吸器疾患と薬	英物療法		
15					15		テオフィリン・ス	テロイド吸入療法		

講義コー	ド	*	専攻分野	最新医生	学研究コ [、]	ース		
講義題目	l	一般小児科	学 I			必修/選択	必修	
担当教員		清水直樹		担当教員連絡	先	内線 3321		
単位数		1単位(前期 1)	単位 (前期 1) 履修年次 1 年					
テーマと目的	<u> </u>	小児の栄養、小り	小児の栄養、小児保健を理解できる。					
講義計画		小児の栄養、栄養	小児の栄養、栄養所要量、小児保健全体について学習する。					
達成目標	1. 小児の栄養、栄養所要量について理解する。 達成目標 2. 小児保健全体、学校保健について理解する。							
教科書·参考	教科書•参考書 別途指示							
準備学習(予習・	復習•時間)	小児期それぞれの時期での必要な栄養について学習しておく。 1 時間						
成績評価法		出席と講義内での発表および受講態度による総合評価						
	卒業認定・学位授与 の方針との関連性 一般小児科学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する							
			講義	内 容				
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内容	(出席卿)	
1	小児栄養	後の意義		1				
2	栄養素の	の代謝:糖質代謝		2				
3	栄養素の	の代謝:脂質代謝		3				
4	栄養素の	の代謝:蛋白質代認	射	4				
5	小児の第	於養所要量:水分		5				
6	小児の第	栄養所要量:エネル	ギー	6				
7	小児の第	於養所要量:蛋白質	E	7				
8	小児の第	於養所要量:脂質·	糖質	8				
9	ビタミング	欠乏症•過剰症		9				
10	新生児~	マススクリーニング		10				
11	乳幼児的	建康調査・健康診断	——— 新	11				
12	学校保例	#		12				
13	心臟検討	<u></u>		13				
14	腎臓検討	<u></u>		14				
15	小児保健	 連統計		15				

講義コー	ド	*	* 専攻分野 最新医学研究コース							
講義題目	l	一舟	般小児科学Ⅱ 必修/選択 必修							
担当教員		川口	敦		担当	i教員連絡	先	内線 3321		
単位数		1単	位 (後期 1)		履修	年次		1年		
テーマと目的	j	小児	見の成長・発達・成熟および発育の概念と定義を理解する。							
講義計画		小児	児期特有の発達、成長、発育を理解した上で、病的な状態を学習する。							
達成目標			基本的な小児の発育に関する因子を理解できる。 基本的な小児の身体構成と年齢的変化を理解、発表できる。							
教科書•参考	書	別途	途指示							
準備学習(予習・2	復習•時間)	正常	常な小児の成長、発育について学習しておく。 1 時間							
成績評価法		出席	席と講義内での発表および受講態度による総合評価							
卒業認定・等		一般	一般小児科学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する							
				講	& 内	容				
前期(回)		内	容	(出席卿)	包	後期(回)		内容	(出席卿)	
1						1	発育期の	 分類		
2						2	発育の一	般原則		
3						3	遺伝因子	•環境因子		
4						4	胎児の発	育		
5						5	成長:体重	重·身長·頭囲		
6						6	歯の成長			
7						7	骨年齢			
8						8	体脂肪			
9						9	体水分量			
10						10	骨格筋			
11			11 成長の評価:身体計測							
12						12	発育指数			
12 13						12 13	発育指数成長曲線			

講義コー	F	*	※ 専攻分野 最新医学研究コース						
講義題目		小児血液学	I			必修/選択	必修		
担当教員		長江千愛		担当教員連絡	·先	内線 3321			
単位数		2 単位 (前期 1・1	登 位 (前期 1·後期 1) 履修 年次 1 年						
テーマと目的	j	症例に基づき小	例に基づき小児の血液疾患の病態を理解する						
講義計画		種々の小児の血 討する。	は々の小児の血液疾患の症例を通して病態を理解し、治療方針および管理方法をする。						
達成目標			基本的な小児の血液疾患について論理的に診断、鑑別できる。 基本的な小児の血液疾患について病態に基づいた治療方針が立てられる。						
教科書·参考	書	別途指示							
準備学習(予習・	復習•時間)	小児期の血液疾	患の特徴を学	習準備する。	1 時間				
成績評価法		出席と講義内での	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価						
卒業認定・質の方針との		小児科血液学の	ト児科血液学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する						
			講義	内 容					
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内容	(出席卿)		
1	造血のし	ノみ - 1		1	止血のし	くみ - 1			
2	造血のし	くみ - 2		2	止血のし	くみ - 2			
3	造血のし	ノみ - 3		3	止血のし	くみ - 3			
4	造血のし	ノみ - 4		4	止血のし	くみ - 4			
5	造血のし	ノみ - 5		5	止血のし	くみ - 5			
6	小児の別	卡血球系疾患 - 1	•	6	小児の出	血性疾患 - 1			
7	小児の赤	卡血球系疾患 - 2	2	7	小児の出	血性疾患 - 2			
8	小児の赤	卡血球系疾患 - 3	3	8	小児の出	血性疾患 - 3			
9	小児の赤	卡血球系疾患 - 4	Į	9	小児の出	血性疾患 - 4			
10	小児の赤	卡血球系疾患 - 5	5	10	小児の出	血性疾患 - 5			
11	小児の赤	卡血球系疾患 - 6	,	11	小児の出	血性疾患 - 6			
12	小児の赤	卡血球系疾患 - 7	,	12	小児の血	栓性疾患 - 1			
13	小児の赤	卡血球系疾患 - 8	3	13	小児の血	栓性疾患 - 2			
14	小児の赤	卡血球系疾患 - 9)	14	小児の血	栓性疾患 - 3			
15	小児の赤	卡血球系疾患 - 1	.0	15	小児の血	<u> </u>			

講義コー	ド	*	専攻分野 最新医学研究コース					
講義題目	l	小児神経疾	患				必修/選択	必修
担当教員		宮本雄策		担当教	員連絡:	先	内線 3321	
単位数		2 単位(前期 1,	後期 1)	履修年	次		1年	
テーマと目的	j j	症例に基づき小	児の神経疾患	する				
講義計画		小児の神経疾患 を考えていく。	児の神経疾患の症例を通して神経系の発達、病態を理解し、診断、治療、管 考えていく。					
達成目標			基本的な小児神経疾患について診断、鑑別ができる。 それに伴う治療方針が立てられる。					
教科書•参考	書	別途指示						
準備学習(予習・	復習•時間)	正常な神経発達	について学習	しておく	。 1 時			
成績評価法		出席と講義内での	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価					
卒業認定・管		小児神経疾患の	小児神経疾患の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する					習得する
			講	隻 内 容	?			
前期(回)		内 容	(出席卿)	後期	(回)		内容	(出席卿)
1	小児の神	₱経系の発達 − 1			1	小児のけいれん性疾患 - 1 (慢性療		
2	小児の神	₱経系の発達 − 2	,		2	小児のけいれん性疾患 - 2		
3	小児の神	₱経系の発達 − 3	I		3	小児のけいれん性疾患 - 3		
4	小児の神	₱経系の発達 − 4	:		4	小児のけいれん性疾患 - 4		
5	小児の神	₱経系の発達 − 5	;		5	小児のけいれん性疾患 - 5		
6	小児の神	₱経系の発達 − 6	1		6	神経皮膚症候群 - 1		
7	小児のに	けいれん性疾患 -	1(急性疾患)		7	神経皮膚	症候群 - 2	
8	小児のに	けいれん性疾患 -	2		8	神経皮膚	症候群 - 3	
9	小児のに	けいれん性疾患 -	3		9	神経皮膚	症候群 - 4	
10	小児のに	けいれん性疾患 -	4	1	.0	神経皮膚	症候群 - 5	
11	小児のに	けいれん性疾患 -	5	1	.1	筋緊張低	下児 - 1	
12	小児のに	けいれん性疾患 -	6	1	.2	筋緊張低	下児 - 2	
13	小児のに	けいれん性疾患 -	7	1	.3	筋緊張低	下児 - 3	
14	小児のに	けいれん性疾患 -	8	1	.4	筋緊張低	下児 - 4	
15	小児のに	- けいれん性疾患 -	9	1	.5	筋緊張低	下児 - 5	

講義コー	·۲	*	※ 専攻分野 最新医学研究コース						
講義題目	1	感染症学				必修/選択	必修		
担当教員		勝田友博	田友博 担当教員連絡先 内線 3321						
単位数		1 単位 (前期 1)		履修年次		1年			
テーマと目的	ሳ	症例に基づいて	基本的な感染	症の病態を理	解する				
講義計画		種々の基本的な	感染症疾患を	病態を通して理	里解し治療	生を検討する			
達成目標			基本的な感染症疾患について病態を理解し、論理的に説明できる 基本的な感染症疾患の病態に基づいた治療を計画できる						
教科書•参考	善	別途指示							
準備学習(予習・	復習•時間)	小児期に特有な	・児期に特有な感染症について学習しておく。 1 時間						
成績評価法		出席と講義内での							
	*業認定・学位授与 ・								
			講	善内 容					
前期(回)		内 容	(出席卿)	後期(回)		内 容	(出席卿)		
1	感染症机	既論		1					
2	臓器別原	&染症 I (中枢神	経、呼吸器)	2					
3	臓器別原	&染症Ⅱ(消化器	、肝胆道系)	3					
4	臓器別原	戍染症Ⅲ(循環器	、腎泌尿器)	4					
5	臓器別愿	戍染症Ⅳ(運動器、	皮膚、その他)	5					
6	特殊なり	代況下での感染症		6					
7	細菌感夠	e症 I		7					
8	細菌感夠	快症Ⅱ		8					
9	細菌感夠	快症Ⅲ		9					
10	細菌感夠	e症IV		10					
11	ウイルス	感染症 I		11					
12	ウイルス	感染症Ⅱ		12					
13	ウイルス	感染症Ⅲ		13					
14	ウイルス	感染症Ⅳ		14					
15	マイコプ	ラズマ、リケッチア	、クラミジア	15					

講義コー	ド	*	専攻分野	最新医生	最新医学研究コース					
講義題目	I	ワクチン学	クチン学 必修/選択 必修							
担当教員		中村幸嗣		担当教員連絡	先	内線 3321				
単位数		1 単位(後期 1)		履修年次		1年				
テーマと目的	 j	各種予防接種(!	锺予防接種(ワクチン)について理解する							
講義計画		各種予防接種(!	種予防接種(ワクチン)の効果、副反応等を理解し接種計画を立てる							
達成目標			各種予防接種(ワクチン)の接種時期、効果、副反応等を説明できる ワクチンの基本的な手技ができる。基礎疾患のある児への対応について説明できる。							
教科書·参考	書	 予防接種の手引	防接種の手引き(近代出版)							
準備学習(予習・	復習•時間)	予防接種とは何	防接種とは何かを学習しておく。 1 時間							
成績評価法		出席と講義内で	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価							
卒業認定・質の方針との		ワクチンの知識し	ワクチンの知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する							
			講	毚 内 容						
前期(回)		内 容	(出席卿)	後期(回)		内容	(出席卿)			
1				1	予防接種	の概要				
2				2	予防接種	のリスクマネジメン	ጉ			
3				3	疾患とワク	プチン ①(麻疹)				
4				4	疾患とワク	アチン ② (風疹)				
5				5	疾患とワク	アチン ③ (DTP)				
6				6	疾患とワク	クチン ④(ポリオ))			
7				7	疾患とワク	アチン ⑤ (BCG)				
8				8	疾患とワク	アチン ⑥(日本服	6炎)			
9				9	疾患とワク	グチン ⑦(インフィ	ルエンザ)			
10				10	疾患とワク	クチン ⑧(ムンプ	ス)			
11				11	疾患とワク	アチン ⑨ (水痘)				
12				12	疾患とワク	アチン ⑩(A 型、	B 型肝炎)			
13				13	疾患とワク	アチン ⑪(Hib、肺	i炎球菌、他)			
14				14	基礎疾患	のある児への予防	ī接種			
15				15	予防接種	と関連する法律				

講義コー	ド	*	ース					
講義題目	l	小児循環器	病学 I			必修/選択	必修	
担当教員		麻生健太郎		担当教員連絡	·先	内線 3321		
単位数		1単位(前期1)		履修年次	1年			
テーマと目的	5	小児科領域にお	ける基本的な	心疾患の病態	 心疾患の病態を理解する			
講義計画		先天性心疾患の	診断と管理を	症例に基づい	て説明できる	5 .		
達成目標			1. チアノーゼ性先天性心疾患の診断と管理を症例に基づいて説明できる。 2. 非チアノーゼ性先天性心疾患の診断と管理を症例に基づいて説明できる。					
教科書•参考	書	別途指示する。						
準備学習(予習・	復習•時間)	先天性心疾患に						
成績評価法	せい は と は は は は は は は は は は は は は は は は は							
卒業認定・学位授与 の方針との関連性 小児循環器病学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得す						を習得する		
			講	入 内 容				
前期(回)		内 容	(出席卿)	後期(回)		内 容	(出席卿)	
1	チアノー	ゼ性心疾患の診断	折 1	1				
2	チアノー	ゼ性心疾患の診断	折 2	2				
3	チアノー	ゼ性心疾患の診断	折 3	3				
4	チアノー	ゼ性心疾患の管理	里 1	4				
5	チアノー	ゼ性心疾患の管理	里 2	5				
6	チアノー	ゼ性心疾患の管理	里 3	6				
7	非チアノ	ーゼ性心疾患の認	诊断 1	7				
8	非チアノ	ーゼ性心疾患の認	诊断 2	8				
9	非チアノ	ーゼ性心疾患の認	诊断 3	9				
10	非チアノ	ーゼ性心疾患の認	参断 4	10				
11	非チアノ	ーゼ性心疾患の認	参断 5	11				
12	非チアノ	ーゼ性心疾患の管	達理 1	12				
13	非チアノ	ーゼ性心疾患の管	学理 2	13				
14	非チアノ	ーゼ性心疾患の管	達理 3	14				
15	非チアノ	ーゼ性心疾患の管	学理 4	15				

講義コー	ド	*	専攻分野 最新医学研究コース							
講義題目	I	小	凡循環器:	病学Ⅱ				必修/選択	必修	
担当教員		麻生	健太郎		担当	当教員連絡 ₂	先	内線 3321		
単位数		1単	位 (後期 1)		履修	多年次		1年		
テーマと目的	þ	小児	2科領域にお							
講義計画		小児	見期の不整脈	および後天性	上心疾	ミ患の診断	と管理を症	例に基づいて説明	できる。	
達成目標			小児期不整脈の診断と管理を症例に基づいて説明できる。 後天性心疾患の診断と管理を症例に基づいて説明できる。							
教科書·参考	書	別途	途指示する。							
準備学習(予習・	復習•時間)	小児	児の循環器疾患の基礎を学習しておく。 1 時間							
成績評価法		出席	開と講義内での発表および受講態度による総合評価							
卒業認定・第		──一小児循環器病学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する ──―								
				講	簑 内	容				
前期(回)		内	容	(出席卿)) 1	後期(回)		内容	(出席卿)	
1						1	新生児不	整脈総論 1		
2						2	新生児不	整脈総論 2		
3						3	新生児不	整脈各論 1		
4						4	新生児不	整脈各論 2		
5						5	小児期不	整脈総論 1		
6						6	小児期不	整脈総論 2		
7						7	小児期不	整脈各論 1		
8						8	小児期不	整脈各論 2		
9						9	後天性心	疾患総論 1		
10						10	後天性心	疾患総論 2		
11						11	後天性心	疾患各論 1		
12						12	後天性心	疾患各論 2		
13						13	後天性心	疾患各論 3		
14						14	後天性心	疾患各論 4		
15						15	後天性心	疾患各論 5		

講義コー	ド	*	専攻分野	最新医生	学研究コ	ース		
講義題目	I	小児内分泌・	·代謝学 I			必修/選択	必修	
担当教員		清水直樹		担当教員連絡	先	内線 3321		
単位数		2単位(前期1、往	後期1)	履修年次		1年		
テーマと目的	j	小児期に発症す	る内分泌・代謝	対疾患の基礎的	り事項と問題	夏点を理解する		
講義計画		小児における内々	分泌•代謝疾患	の病態を理解	心、管理方	法について検討す	トる	
達成目標			. 基本的な内分泌・代謝疾患について病態を論理的に説明できる . 基本的な内分泌・代謝疾患の病態に基づいた管理を計画できる					
教科書·参考	書	別途指示						
準備学習(予習・	復習•時間)	小児期の代謝、戸	内分泌疾患に	はどのようなもの	のがあるか当	学習しておく。 1 ほ	寺間	
成績評価法		出席と講義内での	の発表および	受講態度による	総合評価			
卒業認定・学		小児内分泌•代謝	学の知識に基	づいて、自立し	て研究を遂	行し論述する能力	を習得する	
			講義	内 容				
前期(回)		内 容	(出席卿)	後期(回)		内容	(出席卿)	
1	総論 1:	ホルモンとその作	用について	1	各論 10:	性分化異常症		
2	総論 2:	小児の成長とホル	レモンの関係	2	症例検討	会①		
3	総論 3:	マス・スクリーニン	/グについて	3	各論 11: 水•電解質異常			
4	総論 4	:内分泌·代謝疾	患と遺伝学	4	各論 12:	5論 12: 骨代謝異常		
5	総論 5	: 負荷試験の実際	数	5	各論 13:	論 13: 染色体•遺伝子異常疾患		
6	特集抄記	虎会 : 内分泌・代	謝班	6	各論 14:	小児糖尿病の疫	受学•病態	
7	各論 1:	視床下部•下垂体	本ホルモン	7	各論 15:	: 1型糖尿病•2型	!糖尿病	
8	各論 2:	成長ホルモンと関	11年作 由	8		インスリン治療・		
9 各論 3: 汎下垂体機能低下症					各論 16:	1 1 2 7 1 7 1 1 1 1 M	その他	
	各論 3:	汎下垂体機能低		9		・小児メタボリック		
10		汎下垂体機能低 甲状腺ホルモン	下症		各論 17:		シンドローム	
	各論 4:		下症の作用と調節	9	各論 17	小児メタボリック	シンドローム酸血症	
10	各論 4:	甲状腺ホルモンの	下症 の作用と調節 能低下症	9	各論 17 各論 18 各論 19	小児メタボリック 高脂血症・高尿	シンドローム 酸血症 疾患	
10 11	各論 4: 各論 5: 各論 6:	甲状腺ホルモンの	下症 の作用と調節 能低下症 腺疾患	9 10 11	各論 17 各論 18 各論 19	小児メタボリック高脂血症・高尿低血糖をきたす高アンモニア・乳	シンドローム 酸血症 疾患	
10 11 12	各論 4: 各論 5: 各論 6: 各論 7:	甲状腺ホルモンの	下症の作用と調節能低下症腺疾患	9 10 11 12	各論 17 各論 18 各論 19 各論 20	小児メタボリック高脂血症・高尿低血糖をきたす高アンモニア・乳会②	シンドローム 酸血症 疾患	

講義コー	- ド	*	専攻分野	最新医学	学研究コ	ース		
講義題目	1	小児悪性腫	瘍 I			必修/選択	必修	
担当教員		森 鉄也		担当教員連絡	先	内線 3321		
単位数		2 単位 (前期 1・1	後期 1)	履修年次	2年			
テーマと目的	勺	主な小児悪性腫	瘍疾患につい	て病態、診断ス	方法、治療治	去を理解する。		
講義計画		小児悪性腫瘍の	症例を通して、	病態、診断、	台療につい	 て検討する。		
達成目標		 代表的な小児悪性腫瘍を診断できる。 代表的な小児悪性腫瘍の治療方針を立てることができる。 小児に対する化学療法について修得する。 化学療法の急性および慢性の合併症に対する予防と対策について修得する。 						
教科書•参考	善	別途指示						
準備学習(予習・	復習•時間)	小児期に多い悪	上間					
成績評価法		出席と講義中の	受講態度、発言	言による総合評	価			
卒業認定・		小児悪性腫瘍学	の知識に基づ	いて、自立して	「研究を遂行	テレ論述する能力: 	を習得する	
	T		講	義 内 容	T			
前期(回)		内 容	(出席卿)	後期(回)		内容	(出席卿)	
1	小児悪性	性腫瘍の疫学		1	小児悪性	リンパ腫の疫学		
2	小児悪性	性腫瘍の遺伝学		2	小児悪性	児悪性リンパ腫の病態		
3	小児急性	生リンパ性白血病の	の病態	3	小児悪性	小児悪性リンパ腫の診断		
4	小児急性	生リンパ性白血病の	の診断方法	4	小児悪性	小児悪性リンパ腫の治療		
5	小児急性	生リンパ性白血病の	の治療	5	小児悪性腫瘍の遺伝子診断			
6	小児急性	生骨髄性白血病の	病態	6	小児悪性	腫瘍の免疫診断		
7	小児急性	生骨髄性白血病の	診断方法	7	小児悪性	腫瘍の病理診断		
8	小児急性	生骨髄性白血病の	治療	8	小児悪性	腫瘍における細菌	国感染症	
9	化学療法	去の実際		9	小児悪性	腫瘍におけるウイ	ルス感染	
10	化学療法	去の急性毒性		10	小児悪性	腫瘍における真菌	あ 感染症	
11	化学療法	去の晩期障害		11	小児悪性	腫瘍患者の栄養 ^タ	管理	
12	小児慢性	生白血病の病態・語	诊断·治療	12	小児悪性	腫瘍患者の感染	予防	
13	小児悪性	生固形腫瘍の病態		13	小児悪性腫瘍患者の輸血			
14	小児悪性	生固形腫瘍の診断		14	小児悪性	腫瘍患者の緩和	医療	
15	小児悪性	生固形腫瘍の治療		15	小児悪性	腫瘍患者の疼痛を	 対策	

講義コー	- ド	*	※ 専攻分野 最新医学研究コース					
講義題目	=	小児腎臓病生	必修/選択	必修				
担当教員		三浦慎也		担当教員	連絡先	内線:3321		
単位数		2 単位 (前期 1・行	後期 1)	履修年次		2年		
テーマと目的	的	症例に基づき腎臓	臓∙泌尿器疾息	患の病態と	集学的治療	を理解する		
講義計画		腎臓・泌尿器の 疾患の病態と治療		症例に基づき代表的	な腎臓・泌尿器			
達成目標			. 基本的な小児の腎臓・泌尿器疾患についての診断・鑑別ができる。 . 基本的な小児の腎臓・泌尿器疾患について集学的治療方針が立てられる。					
教科書·参	考書	別途指示						
準備学習(予習	•復習•時間)	小児期の腎臓病の	の特徴を学習し	ノておく。	1 時間			
成績評価法		双方向性の講義を	を計画しており)関与•貢献度	度(積極発言を含む)で評価したい			
卒業認定・学位授与 の方針との関連性 小児腎臓病学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する						習得する		
			講	義内容	<u> </u>			
前期(回)		内 容	(出席卿)		後期(回)	内 容	(出席卿)	
1	腎臓•泌尿	R器の発生学 - 1			1	腎生検の適応と臨床	評価 - 1	
2	腎臓•泌尿	R器の発生学 - 2			2	腎生検の適応と臨床評価 - 2		
3	先天性腎	泌尿器疾患の種類と	病態と集学的	冶療 - 1	3	腎・泌尿器感染症の語	诊断と治療 − 1	
4	先天性腎	泌尿器疾患の種類と	病態と集学的	冶療 - 2	4	腎・泌尿器感染症の語	诊断と治療 − 2	
5	先天性腎	泌尿器疾患の種類と	病態と集学的	治療 - 3	5	検尿データが読める	- 1	
6	腎臓•泌尿	永器の正常組織 -	1		6	検尿データが読める	- 2	
7	腎臓•泌原	永器の正常組織 -	2		7	学校検尿の判定と評価	 一 1	
8	腎臓疾患	の病理像 - 1			8	学校検尿の判定と評	価 - 2	
9	腎臓疾患	の病理像 - 2			9	乳幼児ARFの病態の	理解 - 1	
10	腎臓疾患	の病理像 - 3			10	乳幼児ARFの病態の	理解 - 2	
11	糸球体機	能と尿細管機能と	その検査法 -	1	11	乳幼児CRFの病態の	理解 - 1	
12	糸球体機	能と尿細管機能と	その検査法 -	2	12	乳幼児CRFの病態の	理解 - 2	
13	小児水・1	電解質代謝とその異	常 - 1		13	小児輸液療法の理論	と実際 - 1	
14	小児水•1	電解質代謝とその異	【常 - 2		14	小児輸液療法の理論	と実際 - 2	
15	小児水・1	電解質代謝とその	異常 - 3		15	小児輸液療法の理	論と実際 - 3	

講義コー	・ド	*	※ 専攻分野 最新医学研究コース					
講義題目	I	小児アレルキ	ドー学		必修/選択	必修		
担当教員		清水直樹		担当教員連絡	先 内線 3321			
単位数		2単位(前期 1・後	後期 1)	履修年次	2年			
テーマと目的	5			·	ピー性皮膚炎、気管支喘息 えの関係、家族への対処を			
講義計画		小児呼吸器の特	性とアレルギ	ーのメカニズム	を理解し、各疾患の治療を理	解する。		
達成目標		 食物アレルキ アトピー性皮 外来フォロー 	膚炎、気管支	喘息の診断、				
教科書·参考	書	別途指示						
準備学習(予習・	復習•時間)	小児期のアレル	レギーという概念を学習してお	3く。 1 時間				
成績評価法		講義の理解度、	遺極性などを	総合して評価				
卒業認定・		小児アレルギーの	の知識に基づ	いて、自立して	研究を遂行し論述する能力を	と習得する		
			講	& 内容				
前期(回)		内 容	(出席卿)	後期(回)	内容	(出席卿)		
1	アレルギ	・一のメカニズム -	1	1	小児喘息と環境 - 1			
2	アレルギ	ーのメカニズム -	2	2	小児喘息と環境 - 2			
3	アレルギ	ーのメカニズム -	3	3	小児喘息の外来フォロー -	- 1		
4	アレルギ	一の検査 - 1		4	小児喘息の外来フォロー - 2			
5	アレルギ	一の検査 - 2		5	小児気管支喘息治療・管理ガイ	ドライン - 1		
6	食物アレ	<i>√</i> ルギー − 1		6	小児気管支喘息治療・管理ガイ	ドライン - 2		
7	食物アレ	·ルギー - 2		7	小児気管支喘息治療・管理ガイ	ドライン - 3		
8	アトピー	性皮膚炎 - 1		8	食物アレルギーの外来フォ	р <u> — 1</u>		
9	アトピー	性皮膚炎 - 2		9	食物アレルギーの外来フォ	п <u> — - 2</u>		
10	アレルギ	一性鼻炎 - 1		10	One airway, one disease	‡ - 1		
11	アレルギ	·一性鼻炎 - 2		11	One airway, one disease 21	t - 2		
10	12 外用薬の使用法			12	アレルギー児を持つ家族 - 1			
12	71711 3K 0	<u> </u>) +) · () [E] 1 - 3(W)	- 1		
13		ギー薬の使用法		13	アレルギー児を持つ家族			
	抗アレル			13 14		- 2		

講義コー	·ド		専攻分野 最新医学研究コース						
講義題目	1	小児科実習				必修/選択	必修		
担当教員		長江千愛		担当教員連絡	·先	内線 3321			
単位数		1単位(前期・後	位(前期・後期) 履修年次 1年						
テーマと目的	ሳ	小児に対する実	技を習得する						
講義計画		検査や手技の実	査や手技の実技、実習を実際の検査などを通じて行う						
達成目標		必要な検査・手む	要な検査・手技を正確に、患児に負担なく実施できる。						
教科書·参考	善	別途指示							
準備学習(予習・	復習•時間)	小児科特有の手	技について学	習しておく。	1 時間				
成績評価法		実技の習得、到達	達 度						
卒業認定・		小児科の知識に基	N児科の知識に基づき各種実習を行い、自立して研究を遂行し論述するf						
			講	& 内容					
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内 容	(出席卿)		
1	小児診察	終法 - 1		1	乳幼児健	診 - 1			
2	小児診察	察法 - 2		2	乳幼児健診 - 2				
3	小児診察	察法 - 3		3	乳幼児健診 - 3				
4	小児診察	察法 - 4		4	心臓カテーテル検査 - 1				
5	小児診察	察法 - 5		5	心臓カテ	ーテル検査 - 2			
6	小児の技	采血と点滴の手技	- 1	6	心臓カテ	ーテル検査 - 3			
7	小児の技	采血と点滴の手技	- 2	7	脳波所見	の読み方 - 1			
8	小児の技	采血と点滴の手技	- 3	8	脳波所見	の読み方 - 2			
9	小児の間			9	脳波所見	の読み方 - 3			
10	小児の恂	骨髄液採取の手技		10	予防接種	の実際 - 1			
11	小児救急	急 - 気管内挿管	り手技	11	予防接種	の実際 - 2			
12	小児救急	急 - 心肺蘇生法		12	予防接種	の実際 - 3			
13	小児救急	急 - ハイムリック法	.	13	腎生検の実際 - 1				
14	新生児	床生 - 1		14	腎生検の	実際 - 2			
15	新生児	蘇生 - 2		15	腎生検の	実際 - 3			
	•			*					

講義コー	ド	*	専攻分野	最新医生	学研究コ [、]	ース	
講義題目	l	小児循環器	病学Ⅲ			必修/選択	選択
担当教員		麻生健太郎		担当教員連絡	先	内線 3321	
単位数		1単位(前期 1)		履修年次		1年	
テーマと目的	<u> </u>	小児科領域にお	ける基本的な	心疾患の病態を	を理解する		
講義計画		先天性心疾患の	出生前診断お	よび出生後の	管理を理解	ける	
達成目標		1. 先天性心疾 2. 出生後の管理				-	
教科書•参考	書	別途指示する。					
準備学習(予習・	復習•時間)	小児期に特有な	心疾患につい	て学習しておく	。 1 時間		
成績評価法		出席と講義内での	の発表および	受講態度による	総合評価		
卒業認定・		小児循環器病学	の知識に基づ	いて、自立して	「研究を遂行	テレ論述する能力	を習得する
講義内容							
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内容	(出席卿)
1	出生前語	诊断総論 1		1			
2	出生前語	诊断総論 2		2			
3	出生前語	诊断各論 1		3			
4	出生前語	诊断各論 2		4			
5	出生前語	诊断各論 3		5			
6	出生後旬	管理総論 1		6			
7	出生後旬	管理総論 2		7			
8	出生後旬	管理各論 1		8			
9	出生後旬	萱理各論 2		9			
10	出生後旬	管理各論 3		10			
11	出生前治療総論			11			
12	出生前剂	台療各論		12			
13	出生後滑	台療総論		13			
14	出生後滑	台療各論 1		14			
15	出生後潛	台療各論 2		15			

講義コー	·k	*	専攻分野	最新	所医学研究コ	ース			
講義題目		免疫学				必修/選択	選択		
担当教員		勝田友博		担当教員]連絡先	内線 3321			
単位数		1 単位 (前期 1)		履修年》	1年				
テーマと目的	j	原発性免疫不全	症候群の基本	大を理解で	ける				
講義計画		症例を通して、原 の生化学検査に				する症状から診断	を疑い、種々		
達成目標		1.原発性免疫不全				療が説明できる			
教科書•参考	書	別途指示							
準備学習(予習・	復習•時間)	免疫不全とは何次	か学習してお	く。 1 時	 間				
成績評価法		出席と講義内での	の発表および	受講態度	による総合評価				
卒業認定・等		小児免疫学の知	識に基づいて	、自立し	て研究を遂行し諸	論述する能力を習	得する		
講義内				裛 内 容					
前期(回)		内 容	(出席卿)		後期(回)	内 容	(出席卿)		
1	原発性的	免疫不全症の分類			1				
2	原発性免	免疫不全症の診断			2				
3	原発性免	免疫不全症の治療			3				
4	原発性免	疫不全症患者の感染	コントロール		4				
5	各論 ①	(複合型免疫不全	注症)		5				
6	各論 ②	(抗体不全免疫不	下全症)		6				
7	各論 ③	(他に大きな欠損を	を付随した免疫	医不全症)	7				
8	各論 ④	(食細胞系異常)			8				
9	各論 ⑤	(補体因子欠損症	宦)		9				
10	各論 ⑥ (その他の免疫不全症)				10				
11	各論 ⑦	-論 ⑦ (HIV)			11				
12	各論 ⑧	S論 ⑧ (ウイルス感染と続発性免疫不全)			12				
13	各論 ⑨	(薬物)			13				
14	自己免疫	安とリウマチ性疾患	総論		14				
15	自己免疫	要とリウマチ性疾患	— <u>——</u> 各論		15				

講義コー	ド	*	専攻分野	*	最新医学研究コ	ース		
講義題目		新生児学Ⅲ	担当教員連絡先 内線 3321 ② (2年) ・早産児の管理 の総合管理について学ぶ 変・栄養管理について理解する ・護について理解する ・プルで理解する ・プルで理解する ・プルでのadd:Neonatology の特徴を学習しておく。1時間 職に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する 講義内容 (出席側)					
担当教員		北東 功		担	当教員連絡先	内線 3321		
単位数		1 単位 (前期 1)		履何	修年次	2年		
テーマと目的	þ	低出生体重児・5	早産児の管理					
講義計画		低出生体重児の	総合管理につ	ントハ	て学ぶ			
達成目標		 2. 中枢神経保護 3. 親子関係につ 	 適切な・輸液・栄養管理について理解する 中枢神経保護について理解する 親子関係について理解する 適切な哺育環境の整備について理解する 					
教科書·参考	書	Avery,Fletcher,N	/lacDonald:Ne	ona	tology			
準備学習(予習・	復習•時間)	低出生体重児の	出生体重児の特徴を学習しておく。 1 時間					
成績評価法		口頭試験	口頭試験					
	定・学位授与 新生児学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する							
	T		講	隻 Þ	夕			
前期(回)		内容						
1		重児の水分代謝・不原						
2					ulla ulla dada-ama			
3								
4								
5								
6		蓋内出血への対処・化	区田生体里児の	加至	*四皿の予め			
7		囲白質軟化症 マキャッの対処						
9		圣奇形への対処 平価・発達評価						
10			丹乙八端下 4	ノ <u>む</u> ;	公			
11	NICU 入院児の親の心理・母子分離下の母乳育児 親参加型ケアとは・タッチケア							
12			<u>'</u>					
13	カンガルーケア NICU 環境の整備・新生児へのなだめ							
14		光環境•温度環境						
15		テ動評価・ストレス !		ョニ、	ング			
	l .							

講義コード	*	専攻分野	最新医生	学研究コ	ース	
講義題目	小児血液学	П			必修/選択	選択
担当教員	山下敦己		担当教員連絡	先	内線:西部病院3	3209
単位数	1単位(後期1)		履修年次		2年	
テーマと目的	症例に基づき小	児の輸血感染	染症の病態を 理	里解する		
講義計画	種々の小児の輸 検討する。	血感染症の症	定例を通して病	態を理解し	、治療方針および	ド管理方法を
達成目標			症について論: 症について病:		、鑑別できる。 た治療方針が立 [、]	てられる。
教科書•参考書	別途指示					
準備学習(予習・復習・時間)	輸血感染症には	どのようなもの	があるか学習し	ておく。 1	時間	
成績評価法	出席と講義内での	の発表および	受講態度による	総合評価		
卒業認定・学位授与 の方針との関連性	小児血液学の知	識に基づいて	、自立して研究	記を遂行し齢	記する能力を習行	导する
	講義内容					
前期(回)	内 容	(出席卿)	後期(回)		内 容	(出席卿)
1			1	HBV - 1		
2			2	HBV - 2		
3			3			
4				HBV - 3		
			4	HBV - 3		
5						
			4	HBV - 4		
5			4 5	HBV - 4		
5			4 5 6	HBV - 4 HBV - 5 HCV - 1		
5 6 7			4 5 6 7	HBV - 4 HBV - 5 HCV - 1 HCV - 2		
5 6 7 8			4 5 6 7 8	HBV - 4 HBV - 5 HCV - 1 HCV - 2 HCV - 3		
5 6 7 8 9			4 5 6 7 8 9	HBV - 4 HBV - 5 HCV - 1 HCV - 2 HCV - 3		
5 6 7 8 9			4 5 6 7 8 9	HBV - 4 HBV - 5 HCV - 1 HCV - 2 HCV - 3 HCV - 4		
5 6 7 8 9 10			4 5 6 7 8 9 10 11	HBV - 4 HBV - 5 HCV - 1 HCV - 2 HCV - 3 HCV - 4 HCV - 5 HIV - 1		
5 6 7 8 9 10 11 12			4 5 6 7 8 9 10 11 12	HBV - 4 HBV - 5 HCV - 1 HCV - 2 HCV - 3 HCV - 4 HCV - 5 HIV - 1 HIV - 2		

講義コー	k	*	専攻分野	最新医学	学研究コ [、]	ース		
講義題目		小児救急•集	中治療医学	学		必修/選択	選択	
担当教員		清水直樹	4	担当教員連絡	先	内線 3321		
単位数		1単位(前期1))	愛修年次		2年		
テーマと目的	j	小児救急•集中浴	台療医学の基礎	から応用まで	を学ぶ			
講義計画		呼吸生理学•小児	見麻酔学の基本	から、臨床応	用実践、研	究の動機づけまで	で教授する	
達成目標						っる医療安全を理解 生命倫理の重要性		
教科書·参考	書	別途指示						
準備学習(予習・	復習•時間)	Nunn's Applied F	Respiratory Phy	vsiology, Roge	er's Pediatr	ic Intensive Care	Care 3時間	
成績評価法		講義の理解度、稅	責極性					
卒業認定・当		小児救急・集中治療学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する 					習得する	
講義内容								
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内容	(出席卿)	
1	呼吸生理	里学 (正常肺)		1				
2	呼吸生理	里学(疾患肺)		2				
3	小児麻	ぬと医療安全・危機	管理	3				
4	小児救急	急医学と蘇生科学		4				
5	トリアージ	ジ・搬送医療・救急	医療体制	5				
6	アドボカ	シー・傷害防止・虐	待対応	6				
7	小児集「	户治療医学総論		7				
8	呼吸不匀	と集中治療		8				
9	循環不全	と集中治療		9				
10	意識障害	客と集中治療		10				
11	肝腎不生	と集中治療		11				
12	体外式服	莫型人工肺(ECM	O)	12				
13	ECMO 1	管理下の特殊病態	生理	13				
14	新興再興	《 感染症·災害医療	と集中治療	14				

講義コー	ド	*			専攻分	矛野	最新图	医学硕	开究	: ニュー	ース		
講義題目	I	小儿	見内分	子泌·	·代謝学	žΠ					必修	/選択	選択
担当教員		清水	直樹			担	当教員連	終先			内線3	3321	
単位数		1単	位(後其	期 1)		履	修年次				2年		
テーマと目的	j	小児	期に発	症す	る特殊など	内分泌·	代謝疾	患を理	解し	診断	断・管理能力を身につける		
講義計画		小児	しにおけ	る特殊	殊な内分泌	必•代謝	疾患を知	即り、病	態・	診断	法·管	理について	で検討する
達成目標												について理 を計画でき	•
教科書·参考	書	別途	指示										
準備学習(予習・	復習•時間)	小児	期に多	い内	分泌、代割	射疾患を	を学習し	ておく。	, 1	時間			
成績評価法		出席	と講義	内での	の発表お』	はび受講	講態度に.	よる総々	合評	価			
卒業認定・等		小児	内分泌	・代謝	学の知識	に基づい	基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する					を習得する	
					講	講義内容							
前期(回)		内	容	(出)	席卿)	後期(回) 内			内	容		(出席@)	
1							1	総論	1:	内分	泌臟	器の発生に	ついて
2						:	2	総論	2:	集団	検診の	の役割	
3						;	3	総論	3:	遺伝	子診	断の適応と	実際
4							4	総論	4:	代謝	挟患	診断におけ	る特殊検査
5						ļ	5	総論	5:	特殊	ミルク	による治療	きについて
6						(6	症例	検討	会 (D		
7							7	各論	1:	下垂	体発	生に関わる	転写因子
8						}	8	各論	2:	腫瘍	性疾	患と内分泌	異常
9							9	各論	3:	自己	免疫	生多腺性内	分泌障害
10						1	.0	各論	4:	先天	性副學	腎機能低了	 症
11						1	.1	各論	5:	骨系	統疾	 患	
12						1	.2	各論	6:	低血	糖をき	たす代謝	異常症
13						1	.3	各論 7: 特殊な先天代謝異常症			症		
14						1	.4	各論	8:	稀な	染色	本•遺伝子	異常
15						1	.5	総括	•復習	¥			

講義コー	ド	*	専攻分野	最新医	学研究コ	ース	
講義題目		小児悪性腫乳	寡Ⅱ			必修/選択	選択
担当教員		森 鉄也		担当教員連絡	先	内線 3321	
単位数		1単位(前期 1)		履修年次		2年	
テーマと目的	j	主な小児悪性腫	傷疾患につい	て病態、診断	方法、治療剂	生を理解する。	
講義計画		小児悪性腫瘍の	症例を通して	、病態、診断、	治療につい	て検討する。	
達成目標		 代表的な小り 代表的な小り 小児悪性腫乳 小児悪性腫乳 	見悪性腫瘍の 瘍に対する臨	治療方針を立 床試験につい			
教科書•参考	**	別途指示					
準備学習(予習・	復習•時間)	小児期特有の悪	性疾患につい	て学習してお	く。 1 時間		
成績評価法		出席と講義中の登	受講態度、発 ⁻	言による総合剤	萨価		
	業認定・学位授与 方針との関連性 小児悪性腫瘍学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する					を習得する	
			講	と 内容 一	1		
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内 容	(出席卿)
1		険の歴史 		1			
2		険の目的 		2			
3		く これ アインド	,)	3			
4		険の計画方法 		4			
5		険の統計学 		5			
6		性腫瘍の EBM	₩	6			
7		生腫瘍の国際共同		7			
8		生腫瘍に関わる倫理 生腫瘍のデータ管理		9			
10		生腫瘍のナーダ管理		10			
11		一ムドコンセントとフ		11			
12		ームトコン ピントと) 					
13		世腫瘍の分子標的		13			
14		生腫瘍の新規治療		14			
15		生腫瘍の免疫療法		15			
10	4 / U/UVI.			1.0			

講義コー	ド	*	専攻分野	最新医生	学研究コ	ース			
講義題目		小児筋疾患		 必修/選択 担当教員連絡先 内線 3321 履修年次 2年 想の病態を理解する て神経系の発達、病態を理解し、診断、治療、管理方法を いて診断、鑑別ができる。 					
担当教員		宮本雄策		担当教員連絡	先	内線 3321			
単位数		1単位(後期1)		履修年次		2年			
テーマと目的	į	症例に基づき小り	児の神経疾患	の病態を理解	する				
講義計画		小児の筋疾患の 考えていく。	症例を通して	神経系の発達	、病態を理	解し、診断、治療	、管理方法を		
達成目標		1. 基本的な小り 2. それに伴う治			りができる。				
教科書·参考	書	別途指示							
準備学習(予習・2	復習•時間)	小児期からみられ	1る筋疾患に [・]	ついて学習して	おく。 1 時	間			
成績評価法		出席と講義内での	の発表および	受講態度による	5総合評価				
卒業認定・等		小児筋疾患の知	識に基づいて	、自立して研タ	究を遂行し諸	全部では は対る能力を習	导する		
		講義内容							
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内 容	(出席卿)		
1				1	筋ジストロ	フィー - 1			
2				2	筋ジストロ	フィー - 2			
3				3	筋ジストロフィー - 3				
4				4	筋ジストロフィー - 4				
5				5	筋ジストロ	フィー - 5			
6				6	筋ジストロ	フィー - 6			
7				7	筋ジストロ	フィー - 7			
8				8	筋ジストロ	フィー - 8			
9				9	ミトコンドリ	ア脳筋症 - 1			
10				10	ミトコンドリ	ア脳筋症 - 2			
11				11	ミトコンドリ	ア脳筋症 - 3			
12				12	ミトコンドリ	ア脳筋症 - 4			
13				13	ミトコンドリア脳筋症 - 5				
14				14	ミトコンドリ	ア脳筋症 - 6			
15				15	ミトコンドリ	 Jア脳筋症 - 7			

講義コー	·ķ	**	専攻分野	最新医学	研究コー	ンス		
講義題目	1	小児腎臓病	詩学Ⅱ		اد	必修/選択	選択	
担当教員		三浦慎也		担当教員連絡先	Ē P	勺線:3321		
単位数		1単位(前期 1))	履修年次	2年			
テーマと目的	 វា	症例に基づき	腎臓∙泌尿器疾	・ 患の病態と集学的	 内治療を理角	軍する		
講義計画		腎臓・泌尿器の 器疾患の病態と	,	三理学を理解した る。	上で、症例に	こ基づき代表的	な腎臓・泌尿	
達成目標				器疾患について 器疾患について		_ •	いる。	
教科書·参考	書	別途指示						
準備学習(予習・	復習•時間)	小児期に多い腎	済疾患を学習して	(おく。 1 時間				
成績評価法		双方向性の講弟	を計画しており	、講義への関与・	貢献度(積極	発言を含む)で	評価したい	
	業認定・学位授与 ・学位授与 ・小児腎臓病学の知識に基づいて、自立して研究を遂行し論述する能力を習得する						習得する	
			講	毚 内 容				
前期(回)		内 容	(出席卿)		後期(回) 内容	(出席卿)	
1	ネフロー	ゼ症候群の病態と	と診断・治療 -	1	1			
2	ネフロー	ゼ症候群の病態と	と診断・治療 -	2	2			
3	急性腎炎	炎症候群の病態 と	と診断・治療 -	1	3			
4	急性腎炎	炎症候群の病態	上診断・治療 -	2	4			
5	慢性腎炎	炎症候群の病態	上診断・治療 -	1	5			
6	慢性腎炎	炎症候群の病態	上診断・治療 -	2	6			
7	慢性腎炎	炎症候群の病態	上診断・治療 -	3	7			
8	慢性腎炎	炎症候群の病態	上診断・治療 -	4	8			
9	乳幼児の	DARFの病態と記	診断・治療 - 1		9			
10	10 乳幼児のARFの病態と診断・治療 - 2				10			
11	乳幼児CI	RFに対してCAPD	・HD腎移植と集	学的対応 一 1	11			
12	乳幼児CI	RFに対してCAPD	・HD腎移植と集生	学的対応 一 2	12			
13	乳幼児CI	RFに対してCAPD	・HD腎移植と集	学的対応 一 3	13			
14	腎生検6	の術者・介助者と	して研修 - 1		14			
15	腎生検6	の術者・介助者と	 して研修 - 2		15			

専攻分野/コース
(英文名)最新医学研究コース
(Advanced Course for Medical Research)研究指導教員古茶 大樹

精神医学は、精神症状(異常精神現象)の診断と治療に力点を置くと同時に、幅広く人間の精神現象 (正常精神現象も含む)を扱う学問である。「医学的方法にて心の悩み・ゆがみを如何に解決するか」が治療である。そして治療法には、精神療法と身体療法(薬物療法・電気けいれん療法など)がある。精神は、あらゆる人間の機能の中ですべてを統括する高度な機能である。ゲノム科学の発達により、物質的に生命活動 (精神活動を含む)を解明できる期待感があり、臓器(脳科学)中心主義に傾く可能性がある。しかし、現状における解明は未だ困難であるため、心を重視し、ヒト全体を把握する必要性が生じる。

とトの心を診るとは目の前にいる患者の眼差し、表情、動作、身繕いなど、その一挙手一投足を真剣に見つめ、入念な面接を繰り返しながら、その異変を構成している精神医学的徴候を丹念に解き明かしていくプロセスである。これが精神医学の『臨床』というべきものであり、大変に興味深い。精神医学において、臨床的な客観徴候の大部分は患者そのものから表出されるので、このプロセスなくして精神医学の臨床は成立しない。その際、自らを客観的に中立的に置き、監視し、対応することが重要である。

その次に生じてくる興味は、おそらく眼の前にある精神現象の異変がなぜ起こってくるのかということに向けられてくるはずである。患者をよく診れば診るほど、「何故」という疑問は深くなってくる。これを解き明かしていくプロセスが『研究』で、疑問が素朴であるほど重要な研究テーマになることが多く、従って患者を目の前にした時、常に「何故」という姿勢が重要になってくる。精神医学的方法論には、理科系の方法として、生物学的精神医学、精神薬理学、分子遺伝学、大脳病理学など、文化系の方法として、精神病理学(記述精神医学)、精神分析学(力動精神医学)、社会精神医学、司法精神医学などがある。

本分野では臨床へ還元しうる教育、研究を行う。講義・実習の内容は大学院生の研究成果、修得状況を勘案し柔軟に対応する。

研究項

目

- 1. 臨床精神病理学的研究(統合失調症、気分障害、発達障害、老年精神医学)
- 2. 精神医学史に関する歴史的研究
- 3. 司法精神医学的研究(精神鑑定、刑事責任能力)

準備学習(予習·復習)

- 1. 事前より担当教員と連絡をとり、指導を仰ぐこと
- 2. 事前に参考資料を読むこと
- 3. 事後に要点を確認すること

講義コー	·ド	*	専攻分野	最	新医学	学研究コ	ース	
講義題目	1	精神科関連	灰患 I				必修/選択	必修
担当教員		小野 和哉		担当拳	数 員連絡	先	内線 3202	
単位数		2 単位(前期 1・後	後期 1)	履修年	 三次		1年	
テーマと目的	 的	精神科関連疾患について基礎的		的な知	 識を得る	<u> </u>		
講義計画		様々な精神科関	連疾患につい	いて基礎的な知識を得、臨床への応用を検討する。				
達成目標		1. 基本的な精神 2. 臨床への応用		いて基礎的な知識を説明できる。 に計画できる。				
教科書•参	考書	別途指示						
準備学習(予習・	復習•時間)						書院 加藤忠史著 読んでおくこと 1	
成績評価法	平価法 出席と講義内での発表および受			受講態度による総合評価				
卒業認定・4		精神医学の知識	学の知識に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する					る
			講	& 内 🦠	容			
前期(回)		内容	(出席卿)	後期	期(回)		内容	(出席卿)
1	大うつ病	性障害の診断基準	準		1	双極性障害の概念		
2	大うつ病	i性障害の症状 I			2	双極性障害の診断基準		
3	大うつ病	性障害の症状 Ⅱ			3	双極 I 型障害の症状 I		
4	大うつ病	性障害の症状 Ⅲ	[4	双極 I 型	障害の症状 II	
5	大うつ病	性障害の症状 IV	7		5	双極 Ⅰ 型障害の症状 Ⅲ		
6	器質性料	青神障害、抑うつを	:伴うもの		6	双極Ⅱ型	障害の症状 I	
7	物質関連	車障害、抑うつを伴	<u></u> ≦うもの		7	双極Ⅱ型	障害の症状 II	
8	症状精神	申病、抑うつを伴う	 もの		8	双極Ⅱ型		
9	大うつ病	性障害の疫学			9	混合状態	の特徴、注意点	
10	老年期記	 つ病の特徴 I			10	双極性障	 害の疫学	
11	老年期の				11	器質性精	 神障害、躁症状を	 ::伴うもの
12	老年期の				12	物質関連	 障害、躁症状を伴	<u></u> ≤うもの
13	希死念属	量について			13	症状精神病、躁症状を伴うもの		
14	うつ病の				14	基本的治		
15	口頭試問	 月			15	口頭試問		

講義コー	·k	*	専攻分野	F	最新医学	学研究コ	ース		
講義題目	ı	精神科関連	疾患Ⅱ				必修/選択	必修	
担当教員		古茶 大樹		担当	á教員連絡	先	内線 3202		
単位数		2 単位 (前期 1・	後期 1)	履修	年次		1年		
テーマと目的	内	精神科関連疾患	こついて基礎	的な知	知識を得る	00			
講義計画		様々な精神科関	連疾患につい	で基	礎的な知識	織を得、臨足	末への応用を検	討する。	
達成目標		1. 基本的な精神 2. 臨床への応用				識を説明て	ぎる。		
教科書•参	考書	別途指示							
準備学習(予習・	復習•時間)	事前に参考資料	を読むこと 1	時間					
成績評価法		出席と講義内での	の発表および	受講館	態度による	総合評価			
卒業認定・学		精神医学の知識	申医学の知識に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する					トる	
			講 義 内 容						
前期(回)		内 容	(出席卿)	後	後期(回)		内 容	(出席卿)	
1	統合失調	周症の概念			1	失調感情	障害の診断基準	I	
2	統合失調	燗症の疫学			2	失調感情	障害の症状 I		
3	統合失調	燗症の診断基準			3	失調感情	障害の症状 Ⅱ		
4	統合失調	周症の病型			4	統合失調	症と失調感情障	害の鑑別	
5	統合失調	開症の症状 I			5	基本的治療法			
6	統合失調	周症の症状 Ⅱ			6	短期精神	病性障害の診断	基準	
7	統合失調	周症の症状 Ⅲ			7	短期精神	病性障害の症状		
8	統合失調	開症の症状 Ⅳ			8	基本的治	療法、対処法		
9	統合失詞	周症の症状 V			9	二人組精	神病の診断基準	•	
10	器質性料	青神障害、幻覚妄	想を伴う		10	妄想性障	害の診断基準		
11	物質関連	車障害、幻覚妄想	を伴う		11	基本的治	療法		
12	症状精神	申病、幻覚妄想を何	———— 半う		12	PANSS の	基礎知識		
13	統合失調	周症の基本的治療	法 I		13	DIEPSS O	基礎知識		
14	統合失詞	周症の基本的治療	法 Ⅱ		14	統合失調	症関連疾患の鑑	別ポイント	
15	口頭試問				15	口頭試問			

講義コー	ド	*	専攻分野	;	最新医生	学研究コ	ース	
講義題目	I	精神科治療生	学 I				必修/選択	必修
担当教員		小野 和哉		担	当教員連絡	先	内線 3202	
単位数		2 単位 (前期 2)		履	修年次		1年	
テーマと目的	的	精神科関連疾患の	の治療につい	で基	一体的な知識	哉を得る。		
講義計画		様々な精神科関連	重疾患の治療に	こつ	いて基礎的	な知識を得	、臨床への応用を	倹討する。
達成目標		1. 基本的な精神 2. 臨床への応用			ついて基礎	的な知識を	ど説明できる。	
教科書•参表	 	別途指示						
準備学習(予習・	復習•時間)	1. 事前に参考資 2. 事後に要点を			時間時間			
成績評価法		出席と講義内での	の発表および	受講	態度による	総合評価		
卒業認定・等		精神医学の知識	精神医学の知識に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する					る
		講 義 内 容						
前期(回)		内 容	(出席卿)		後期(回)		内容	(出席卿)
1	精神科剂	台療の歴史			1	感情障害	の治療法	
2	身体療法	去について I			2	抗うつ薬	I	
3	身体療法	法について Ⅱ			3	抗うつ薬	П	
4	向精神	薬の歴史			4	感情調節	薬	
5	向精神	薬の概要			5	抗不安薬	の使用法	
6	統合失調	閒症急性期治療 、!	興奮		6	大うつ病性	生障害の薬物治療	₹I
7	統合失調	閒症急性期治療、	香迷		7	大うつ病性	生障害の薬物治療	₹Ⅱ
8	基本的な	な抗精神病薬の使	 用法		8	双極性障	害の薬物治療 I	
9	統合失調	調症治療の効果判	定		9	双極性障	害の薬物治療 Ⅱ	
10	維持期の	の治療			10	ECT の歴	史	
11	慢性期級	売合失調症の薬物	治療		11	現在の E	СТ	
12	アカシジ	ア、薬原性錐体外	路症状		12	維持療法	•	
13	急性期シ	ジストニア、遅発性ジ	ジスキネジア		13	精神療法		
				-		1		
14	口頭試問	生期ジストニア、遅発性ジスキネジ 頁試問			14	口頭試問		

講義コー	·ド	*	専攻分野	最親	斯医 ⁴	学研究コ	ース		
講義題目		精神科診断生	学概論 I				必修/選択	必修	
担当教員		小野 和哉		担当教員	連絡	先	内線 3202		
単位数		2 単位 (前期 2)		履修年次	ار		1年		
テーマと目的	·····································	精神科関連疾患は	こついて基礎	的な診断	基準0	り修得。			
講義計画		様々な精神科関	々な精神科関連疾患について基礎的な診断基準の修得し、鑑別診断を検討する。						
達成目標			基本的な精神科疾患について基礎的な診断基準を説明できる。 系統だった鑑別診断を説明できる。						
教科書•参	考書	別途指示							
準備学習(予習・	復習•時間)	教科書、参考書の	(科書、参考書の該当部分を読んでおくこと 1 時間						
成績評価法		出席と講義内での	の発表および	受講態度	による	総合評価			
	図定・学位授与 精神医学の知識に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する								
			講	入 内容					
前期(回)		内 容	(出席卿)	後期((回)		内容	(出席卿)	
1	状態像と	:症候群について		1		統合失調	症の診断基準		
2	抑うつ状	態		2		大うつ病エピソードの診断基準			
3	不安症值	柔群		3		躁病エピソードの診断基準			
4	精神運動	動抑制状態		4		パニック発作の診断基準			
5	昏迷状態			5		広場恐怖	の診断基準		
6	不眠症例	类群		6		社会不安	障害の診断基準		
7	摂食障害	手群		7		全般性不	安障害の診断基準	性	
8	精神運動	助興奮状態		8		強迫性障	害の診断基準		
9	躁状態			9		転換性障	害の診断基準		
10	脱抑制壮	大態		10)	心気症の	診断基準		
11	幻覚妄想	想状態		11		解離性健	忘、とん走の診断	基準	
12	せん妄り	 犬態		12	2	境界性人	格障害の診断基準		
13	健忘症値	 类群		13	3	自己愛性	人格障害の診断を	 基準	
14	見当識障	章害		14	Į	反社会性	人格障害の診断る	基準	
15	口頭試問			15	5	口頭試問			

講義コー	·ŀ	*	専攻分野	最新医	学研究コ	専攻分野 最新医学研究コース					
講義題目		精神科診断生	学概論実習	ZI		必修/選択	必修				
担当教員		古茶 大樹		担当教員連絡	先	内線 3202					
単位数		1 単位(後期)		履修年次		1年					
テーマと目的	·····································	基礎的な精神科	 疾患について	の面接技法の							
講義計画		様々な精神科疾	々な精神科疾患について基礎的な面接技法を実習、修得し、診断を検討する。								
達成目標			. 実際に患者さんと面接し、基礎的な面接技法を修得する。 . 系統だった面接によって診断に至ることができる。								
教科書·参	考書	別途指示									
準備学習(予習・	復習•時間)	実施後にレポート	実施後にレポート提出 1時間								
成績評価法	•	出席と講義内での実習内容および患者さんに対する面接態度による総合評価									
	業認定・学位授与 特神医学の知識に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する										
			講	と 内 容							
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内容	(出席卿)				
1	統合失調	周症患者の面接概	要	1	精神運動	抑制に関する面接	接技法				
2	いわゆる	ラポールについて	•	2	思考抑制に関する面接技法						
3	幻覚に関	見する面接技法		3	心気念慮に関する面接技法						
4	妄想に関	 引する面接技法		4	自責感に関する面接技法						
5	自我障害	等に関する面接技	法	5	不眠、食思不振に関する面接技法						
6	睡眠、摂	そで関する面接±	支法	6	家族教育						
7	緊張病、	昏迷状態での面接	妾技法	7	例題 I						
8	例題 I			8	例題 Ⅱ						
9	例題 Ⅱ			9	例題 Ⅲ						
10	例題 Ⅲ			10	人格障害	患者の面接概要					
11	感情障害	善 ・ 患者の面接概要		11	共感の重	要性					
12	基本的創	態度		12	怒りの転利	多					
13	抑うつ気	分に関する面接も	支法	13	抑うつ感に	こ関する面接技法					
14	不安に関	関する面接技法		14	イライラ感	関する面接技法					
15	焦燥感	こ関する面接技法		15	例題						

講義コー	ド	*	専攻分野	専攻分野 最新医学研究コース						
講義題目	l	精神科治療生	学Ⅱ	·			必修/選択	必修		
担当教員		古茶 大樹		担当教員	真連絡	先	内線 3202			
単位数		2 単位 (前期 2)		履修年》	欠		2年			
テーマと目的	的	精神科関連疾患の	の治療につい	て基礎的	な知識	を得る。				
講義計画		様々な精神科関	連疾患の治療	まについて	の知言	識を得、臨り	末への応用を検討	ける。		
達成目標		1. 精神科疾患の 2. 臨床への応用			きる。					
教科書•参	考	別途指示								
準備学習(予習・	復習•時間)		事前に参考資料を読むこと 1時間 事後に要点を確認すること 1時間							
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価									
	卒業認定・学位授与 おおとの関連性 精神医学の知識に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する							る		
			講	と 内 容						
前期(回)		内容	(出席卿)	後期	(回)		内容	(出席卿)		
1	老年期料	青神障害治療の概	要	1		認知症の	認知症の診断、治療について			
2	老年期の	Dストレス I		2		認知症のタイプ I				
3	老年期の	ウストレス Ⅱ		3		認知症のタイプ Ⅱ				
4	老年期の	ウストレス 🎹		4	:	認知症のタイプ Ⅲ				
5	老年期の	ウストレス IV		5		認知症のタイプ IV				
6	老年期の	D代謝 I		6	ı	認知症の	タイプ V			
7	老年期の	D代謝 Ⅱ		7		画像診断	Ι			
8	老年期の	○代謝 Ⅲ		8		画像診断	П			
9	老年期の	つ病の特徴		9		画像診断	Ш			
10	重度うつ	病に伴う幻覚妄想	ļ	10)	認知機能	評価 I			
11	心気念属			11	1	認知機能	評価 Ⅱ			
12	治療薬の	D 選 択		12	2	認知機能	評価 Ⅲ			
13	処方量			13	3	治療薬				
14	電気けい	いれん療法		14	1	これからの)治療薬の試み			
15	口頭試問			15	5	口頭試問				

講義コー	·ド	*	専攻分野 最新医学研究コース						
講義題目	l	精神科関連	疾患Ⅲ	·		必修/選択	必修		
担当教員		古茶 大樹		担当教員連	————— 絡先	内線 3202			
単位数		2 単位 (前期 1・行	後期 1)	履修年次		2年			
テーマと目的	的	精神科関連疾患	こついての最	近の知見を得	る。				
講義計画		様々な精神科関	連疾患につい	て最近の知り	見を得、研究	への応用を検討す	⁻ る。		
達成目標		 特定の精神和 研究への応用 			を説明できる) _o			
教科書·参	考書	別途指示							
準備学習(予習・	復習•時間)	事前に参考資料	を読むこと 1	時間					
成績評価法	遺評価法 出席と講義内での発表および受講態度による総合評価								
卒業認定・学位授与 の方針との関連性 精神医学の知識に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する									
			講	& 内容					
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内容	(出席卿)		
1	統合失調	間症治療の最近の	動向	1	処方薬と	薬剤性認知機能阿	章害		
2	いわゆる	CATIE study につ	ついて	2	大量処方 I				
3	baselin	e study について		3	大量処方 Ⅱ				
4	各種抗精	背神病薬の有効性、	副作用 I	4	大量処方	大量処方 Ⅲ			
5	各種抗精	背神病薬の有効性、	副作用 Ⅱ	5	抗コリン薬	抗コリン薬の有効性、副作用 I			
6	各種抗精	背神病薬の有効性、	副作用 Ⅲ	6	抗コリン薬	抗コリン薬の有効性、副作用 Ⅱ			
7	各種抗精	背神病薬の有効性、	副作用 IV	7	統合失調	統合失調症の認知機能低下			
8	各種抗精	青神病薬の作用機 原	序の差異 I	8	抗精神病	薬による神経保護	 隻作用		
9	各種抗精	青神病薬の作用機 原	序の差異Ⅱ	9	抗精神病	薬による認知機能	記障害 		
10	各種抗精	青神病薬の作用機 原	序の差異 Ⅲ	10	抗コリン事	薬による認知機能	章 善		
11	各種抗精	青神病薬の作用機 原	序の差異 IV	11	主観的ウ	ェルビーイング			
12	各種抗料	青神病薬のコスト、	 効果 I	12	GLYT1	且害薬			
13	各種抗料	青神病薬のコスト、		13	NK3 受容	F体拮抗薬			
14	perphei	nazine の意味する	 5こと	14	プラセボ	対照試験			
15	口頭試問			15	口頭試問]			

講義コー	ド	*	専攻分野	最	是新医 生	学研究コ	ース			
講義題目	l	精神科関連	疾患IV				必修/選択	必修		
担当教員		小野 和哉		担当	教員連絡	先	内線 3202			
単位数		2 単位 (前期 1・行	後期 1)	履修金	年次		2年			
テーマと目的	约	精神科関連疾患	こついての最	近の知	1見を得る	00				
講義計画		様々な精神科関	連疾患につい	て最近	丘の知見る	を得、研究・	への応用を検討す	⁻ る。		
達成目標		 特定の精神和 研究への応用 			-	説明できる	0			
教科書•参表	垮書	別途指示								
準備学習(予習・	復習•時間)	「臨床精神薬理ハンドブック」樋口輝彦、小山司、「神庭重信編集」医学書院を読んなくこと 1時間								
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価									
	定・学位授与 ・との関連性 精神医学の知識に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する							· る		
			講	& 内	容					
前期(回)		内容	(出席卿)	後:	期(回)		内容	(出席卿)		
1	感情安定	産薬について			1	抗精神病	薬の副作用につい	ハて		
2	炭酸リチ	ウム I			2	アカシジア				
3	炭酸リチ	ウム II			3	錐体外路症状				
4	炭酸リチ	ウム III			4	薬剤性パーキンソニズム I				
5	バルプロ	酸ナトリウム Ι			5	薬剤性パーキンソニズム Ⅱ				
6	バルプロ	『酸ナトリウム Ⅱ			6	急性ジストニア				
7	カルバマ	ゲピン I			7	遅発性ジスキネジア I				
8	カルバマ	'ゼピン Ⅱ			8	遅発性ジ	スキネジア II			
9	蛋白リン	酸化			9	遅発性ジ	ストニア I			
10	プロテイ	ンキナーゼ C			10	遅発性ジ	ストニア Ⅱ			
11	セカンド	メッセンジャー			11	悪性症候	群 I			
12	遺伝子~	への関与			12	悪性症候	群Ⅱ			
13	GAP 43				13	横紋筋融	解症			
14	神経成長	長因子、神経保護	作用		14	高プロラク	チン血症			
15	口頭試問	1			15	口頭試問	口頭試問			

講義コー	·ド	*	専攻分野	最新医	学研究コ	ロース			
講義題目	1	精神科治療生	学Ⅲ	·		必修/選択	必修		
担当教員		古茶 大樹		担当教員連絡	各先	内線 3202			
単位数		2 単位 (前期 2)		履修年次		2年			
テーマと目的	的	精神科関連疾患の	の治療につい	て基礎的な知	識を得る。				
講義計画		様々な精神科関	々な精神科関連疾患の治療についての知識を得、臨床への応用を検討する。						
達成目標		1. 精神科疾患の 2.臨床への応用		-					
教科書•参	考書	別途指示							
準備学習(予習・	復習•時間)	習・時間) 事前に参考資料を読むこと 1時間							
成績評価法	成績評価法 出席と講義内での発表および受講態度による総合評価								
	卒業認定・学位授与 の方針との関連性 精神医学の知識に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する								
			講	& 内容					
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内容	(出席卿)		
1	第2世代	弋抗精神病薬の概	要	1	日本の精	神科薬物治療の	現実		
2	第2世代	弋抗精神病薬 I		2	大量多剤投与の弊害				
3	第2世代	弋抗精神病薬 Ⅱ		3	大量多剤投与の原因 I				
4	第2世代	弋抗精神病薬 Ⅲ		4	大量多剤投与の原因 II				
5	第2世代	弋抗精神病薬 Ⅳ		5	大量多剤投与の原因 Ⅲ				
6	第2世代	弋抗精神病薬 V		6	処方改善	処方改善を阻む因子 I			
7	単剤処プ	<u></u>		7	処方改善	処方改善を阻む因子 Ⅱ			
8	治療効果	果の評価について		8	処方改善	を阻む因子 Ⅲ			
9	主観的点	フェルビーイング		9	単剤処方	へのスイッチング			
10	神経保護	雙作用		10	スイッチン	グ過程の諸問題	I		
11	脳由来夠	於養因子		11	スイッチン	グ過程の諸問題	П		
12	スイッチ	ングについて I		12	スイッチン	/グ過程の諸問題	Ш		
13	スイッチ	ングについて Ⅱ		13	スイッチン	/グの実際 I			
14	スイッチ	ングについて Ⅲ		14	スイッチン	⁄グの実際 Ⅱ			
15	口頭試問	明		15	口頭試問	j			

講義コー	ド	*		専攻分野	F	最新医生	学研究コ	ース		
講義題目	l	精神	科治療	学 IV				必修/選択	必修	
担当教員		小野	和哉		担	当教員連絡	先	内線 3202		
単位数		1 単位	【(後期 1)		履俑	修年 次		2年		
テーマと目的	内	精神和	科関連疾患の	の治療につい	て基	礎的な知識	せん しゅうしゅ しゅうしゅ はんしゅう しゅうしゅう しゅうしゅう しゅうしゅう しゅうしゅう しゅうしゅう しゅうしゅう はんしゅう しゅうしゅう はんしゅう はんしゅう はんしゅう しゅうしゅう しゅう			
講義計画		様々な	涂精神科 関	連疾患の治療	景にて	ついての知	識を得、臨り	末への応用を検診	する。	
達成目標)治療につい		明できる。				
教科書·参表	考書	別途排	旨示							
準備学習(予習・	復習·時間)	事前に	工参考資料	を読むこと 1	時間	ı				
成績評価法		出席と講義内での発表および受講態度による総合評価								
卒業認定・等									·····································	
				講	> 人	7 容				
前期(回)		内:	容	(出席卿)) ;	後期(回)		内 容	(出席卿)	
1						1	向精神薬	の神経保護作用	I	
2						2	向精神薬	の神経保護作用	П	
3						3	向精神薬の神経保護作用 Ⅲ			
4						4	脳由来栄	養因子		
5						5	サイトカイ	ン		
6						6	統合失調	症患者の画像検	査	
7						7	統合失調	症と頭部 MRI 画	象 I	
8						8	統合失調	症と頭部 MRI 画	象 Ⅱ	
9						9	統合失調	症と頭部 MRI 画		
10						10	向精神薬	と頭部 PET 画像	I	
11						11	向精神薬	と頭部 PET 画像	П	
12						12	向精神薬	と頭部 PET 画像	ш	
13						13	evidence	based medicine	- I	
14						14	evidence	based medicine	• II	
15						15	口頭試問			

講義コー	ド	*	専攻分野	最新医療	学研究コ	ース			
講義題目		精神科診断	学概論Ⅱ			必修/選択	必修		
担当教員		古茶 大樹		担当教員連絡	先	内線 3202			
単位数		2 単位 (前期 2)		履修年次		2年			
テーマと目的	'n	精神科関連疾患に	こついて基礎に	りな診断基準の	の修得。				
講義計画		様々な精神科関	々な精神科関連疾患について基礎的な診断基準の修得し、鑑別診断を検討する。						
達成目標			1. 基本的な精神科疾患について基礎的な診断基準を説明できる。 2. 系統だった鑑別診断を説明できる。						
教科書•参表	考書	別途指示							
準備学習(予習・	復習•時間)	1.事前に参考資料を読むこと 1時間 2.事後に要点を確認すること 1時間							
成績評価法		出席と講義内での							
	定・学位授与						る		
			講義	内 容					
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内容	(出席卿)		
1	長谷川云	代簡易知能評価ス	ケール	1	画像診断	(MRI と SPECT) I		
2	STM-CO	OMET		2	画像診断	(MRI と SPECT) II		
3	MMSE			3	画像診断	(MRI と SPECT) III		
4	アルツハ	イマー型認知症の認知	和能低下 I	4	画像診断	診断 (MRIとSPECT) IV			
5	アルツハ	イマー型認知症の認知	和能低下 II	5	レビー小	一小体型認知症の特徴 Ι			
6	アルツハ	イマー型認知症の認知	中能低下 Ⅲ	6	レビー小	本型認知症の特徴	tΠ		
7	アルツハ	イマー型認知症の認知	和能低下 IV	7	レビー小	本型認知症の特徴	t III		
8	mild co	gnitive impairme	ent	8	前頭側頭	型認知症の特徴	I		
9		単のあいまいさ			前頭側頭型認知症の特徴 Ⅱ				
	10月45-	声 <i>いめい</i> はいさ		9	前頭側頭	型認知症の特徴	<u> </u>		
10		辺症状 I		9		型認知症の特徴型認知症の特徴			
10 11	AD の周				前頭側頭				
	AD の周 AD の周	辺症状 I		10	前頭側頭血管性認	型認知症の特徴			
11	AD の周 AD の周 AD の周	辺症状 Ⅰ	うつ病	10	前頭側頭血管性認クロイツフ	型認知症の特徴知症の診断基準			
11 12	AD の周 AD の周 AD の周 アルツハ	辺症状 I 辺症状 II 辺症状 II		10 11 12	前頭側頭 血管性認 クロイツフ 大脳皮質	型認知症の特徴知症の診断基準エルトーヤコブ病			

講義コード	*	専攻分野	最新医生	学研究コ	ニース			
講義題目	精神科診断	学概論Ⅲ			必修/選択	必修		
担当教員	小野 和哉		担当教員連絡	先	内線 3202			
単位数	1 単位 (後期 1)		履修年次		2年			
テーマと目的	精神科関連疾患	について基礎	的な診断基準	の修得。				
講義計画	様々な精神科関	連疾患につい	て基礎的な診	断基準の修	そ得し、鑑別診断を	検討する。		
達成目標		. 基本的な精神科疾患について基礎的な診断基準を説明できる。 2. 系統だった鑑別診断を説明できる。						
教科書·参考書	別途指示	川途指示						
準備学習(予習·復習·時間		.事前に参考資料を読むこと 1時間 2.事後に要点を確認すること 1時間						
成績評価法	出席と講義内で	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価						
卒業認定・学位授与 の方針との関連性	精神医学の知識	申医学の知識に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する						
		講義	内 容					
前期(回)	内 容	(出席卿)	後期(回)		内 容	(出席卿)		
1			1	せん妄 I				
2			2	せん妄Ⅱ				
3			3	せん妄Ⅲ				
4			4	器質性精	神障害 I			
5			5	器質性精	神障害 Ⅱ			
6			6	器質性精	神障害 Ⅲ			
7			7	症状精神	病 I			
8			8	症状精神	病 II			
9			9	症状精神	病Ⅲ			
10			10	物質関連				
11			11	物質関連	障害Ⅱ			
12			12	物質関連				
13			13	睡眠障害	. I			
14			14	睡眠障害	п			
15			15	口頭試問				

講義コー	ド	*	専攻分野	最新医	ミ学研究コース				
講義題目		臨床精神医療	学特論			必修/运	選択	選択	
担当教員		古茶 大樹		担当教員連絡	內線 3202				
単位数		1 単位(通年第3	3土曜日)	履修年次	1年				
テーマと目的	'n	精神科臨床上の	現在の問題を	とりあげ、臨床	上に生かす				
講義計画		精神科関連疾患 講師を招聘し、講		こなっているこ	と、問題、現	象、疾患、	、治療に	こついて特別	
達成目標	1. 精神科臨床上の最近の問題について説明できる。 2. 臨床への応用を計画できる。								
教科書·参	考書	別途指示							
準備学習(予習・	復習•時間)	事前に参考資料							
成績評価法		出席と講義内での							
卒業認定・学位授与 の方針との関連性 精神医学の知識に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する						る			
			講	と 内 容					
前期(回)		内容	(出席卿)		後期(回	i) F	内 容	(出席卿)	
1	SSRI の	最近の話題			1				
2	前方型認	8知症について			2				
3	精神疾息	患における認知行	動療法		3				
4	分子イメー	ージングで探る精神疾	患の病態と治療	<u> </u>	4				
5	軽度発達	達障害の病態・診 り	折•治療		5				
6	癌治療に	おける精神医学的	な問題とその	対応について	6				
7	認知症と	生活習慣病			7				
8	口頭試問	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			8				
9	SSRI の	最近の話題			9				
	1			10					
10	前方型認	8知症について			10				
10 11	前方型認	図知症について 			10				
	前方型詞	密知症について							
11	前方型認	密知症について			11				
11 12	前方型認	恩知症について			11 12				

講義コー	·۲	*	専攻分野	最	新医学研究	コース		
講義題目	I	精神療法特	論			必修/選択	選択	
担当教員		笠貫 浩史		担当参	大員連絡先	内線 3202		
単位数		1 単位(前期4回	•後期4回)	履修年	类	1年		
テーマと目的	的	力動的精神療法	を学習し、臨	床面接に	こ応用する	•		
講義計画		様々な臨床場面 (前期4回、後期				学習し、問題点を検討	する。	
達成目標		1. 力動的精神療法について説明できる 2. 精神療法の適応の可否を理解できる						
教科書·参	考書	別途指示						
準備学習(予習・	復習•時間)	間) 参考資料を読んでおくこと 1 時間						
成績評価法		出席と講義内での発表および受講態度による総合評価						
卒業認定・								
			講	島 内 名	容			
前期(回)		内 容	(出席卿)	1	後期(回)	内 容 (上	出席卿)	
1	力動的料	青神療法について			1	操作的診断基準の限界		
2	虐待を行	ってしまう母親への	治療的なアプ	ローチ	2	思春期の個人精神療法		
3	力動面排	接について			3	小児科における心理	上の臨床活動	
4	子どもの	のアセスメントと	治療構造		4	口頭試問		
5					5			
6					6			
7					7			
8					8			
9					9			
10					10			
11					11			
12		2			12			
13					13			
14					14			
15					15			

講義コー	ド	*	** 専攻分野 最新医学研究コース				
講義題目		うつ病治療学	<u> </u>			必修/選択	選択
担当教員		笠貫 浩史		担当教員連絡	格先	内線 3202	
単位数		1 単位(通年第1	1 土曜日)	履修年次		2年	
テーマと目的	勺	薬物療法、精神療	療法などうつ病	病の治療全般に	こついて		
講義計画		うつ病の治療につ	ついての知識	を得、臨床への	の応用を検討	けする。	
達成目標		1.うつ病治療につ 2.臨床への応用	·	-			
教科書·参	考	別途指示					
準備学習(予習・	復習•時間)	「臨床精神薬理/おくこと 1時間	ヽンドブック」	樋口輝彦、小	山司、「神庭	重信編集」医学	書院を読んで
成績評価法		出席と講義内での	の発表および	受講態度によ	る総合評価		
卒業認定・等		精神医学の知識	に基づいて、	自身の研究を	遂行し論述	する能力を習得す	る
			講	& 内容			
前期(回)		内 容	(出席卿)	後期(回)		内 容	(出席卿)
1	うつ病の	病態		1			
2	うつ病の	生化学的解釈		2			
3	抗うつ薬	の作用機序		3			
4	SSRI の	塩床的使用方法		4			
5	SNRI の	臨床的使用方法		5			
6	三環形技	売うつ薬の臨床的値	吏用方法	6			
7	認知行動	勋療法		7			
8	口頭試問			8			
9				9			
10				10			
11				11			
12				12			
12 13				12 13			

講義コー	ド	※ 専攻分野 最新医学研究コース						
講義題目	I	不安障害治	療学			必修/選択	選択	
担当教員		笠貫 浩史		担当教員連絡	先	内線 3202		
単位数		1 単位(通年第	2 土曜日)	履修年次		2年		
テーマと目的	'n	薬物療法、精神	医物療法、精神療法など不安障害の治療全般について					
講義計画		不安障害の治療	についての知	識を得、臨床〜	への応用を	検討する。		
達成目標		1. 不安障害治療 2. 臨床への応用						
教科書•参	考書	別途指示	別途指示					
準備学習(予習・	復習•時間)	「臨床精神薬理/おくこと 1時間	臨床精神薬理ハンドブック」樋口輝彦、小山司、「神庭重信編集」 医学書院を読ん おくこと 1時間					
成績評価法		出席と講義内での	の発表および	受講態度による	総合評価			
卒業認定・学		精神医学の知識	に基づいて、	自身の研究を遂	整行し論述 な	ける能力を習得す	る	
			講	& 内容				
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内容	(出席卿)	
1	不安障害	手の病態		1				
2	不安障害	事の生化学的解釈						
			•	2				
3	抗不安勢	薬の作用機序	•	3				
3								
	抗不安率	薬の作用機序	法 -1	3				
4	抗不安勢抗不安勢	薬の作用機序 薬の臨床的使用方	法 - 1	3 4				
4 5	抗不安勢抗不安勢	薬の作用機序 薬の臨床的使用方 薬の臨床的使用方 NRI の臨床的使用	法 - 1	3 4 5				
4 5 6	抗不安勢 抗不安勢 SSRI/S	薬の作用機序 薬の臨床的使用方 薬の臨床的使用方 NRI の臨床的使用 助療法	法 - 1	3 4 5 6				
4 5 6 7	抗不安對 抗不安對 SSRI/S 認知行動	薬の作用機序 薬の臨床的使用方 薬の臨床的使用方 NRI の臨床的使用 助療法	法 - 1	3 4 5 6 7				
4 5 6 7 8	抗不安對 抗不安對 SSRI/S 認知行動	薬の作用機序 薬の臨床的使用方 薬の臨床的使用方 NRI の臨床的使用 助療法	法 - 1	3 4 5 6 7 8				
4 5 6 7 8 9	抗不安對 抗不安對 SSRI/S 認知行動	薬の作用機序 薬の臨床的使用方 薬の臨床的使用方 NRI の臨床的使用 助療法	法 - 1	3 4 5 6 7 8 9				
4 5 6 7 8 9	抗不安對 抗不安對 SSRI/S 認知行動	薬の作用機序 薬の臨床的使用方 薬の臨床的使用方 NRI の臨床的使用 助療法	法 - 1	3 4 5 6 7 8 9				
4 5 6 7 8 9 10	抗不安對 抗不安對 SSRI/S 認知行動	薬の作用機序 薬の臨床的使用方 薬の臨床的使用方 NRI の臨床的使用 助療法	法 - 1	3 4 5 6 7 8 9 10				
4 5 6 7 8 9 10 11 12	抗不安對 抗不安對 SSRI/S 認知行動	薬の作用機序 薬の臨床的使用方 薬の臨床的使用方 NRI の臨床的使用 助療法	法 - 1	3 4 5 6 7 8 9 10 11 12				

講義コー	ド	※ 専攻分野 最新医学研究コース						
講義題目	l	統合失調症	冶療学			必修/選択	選択	
担当教員		古茶 大樹		担当教員連絡	先	内線 3202		
単位数		1 単位(通年第	単位(通年第3土曜日) 履修年次 2年					
テーマと目的	的	薬物療法、精神	療法など統合の	失調症の治療会	全般につい	7		
講義計画		 統合失調症の治	療についての	知識を得、臨月	たへの応用	を検討する。		
達成目標		1. 統合失調症浴 2. 臨床への応用		·	きる。			
教科書•参	考書	別途指示						
準備学習(予習・	復習•時間)	事前に参考資料	を読むこと 1	時間				
成績評価法		出席と講義内では	の発表および	受講態度による	総合評価			
卒業認定・		精神医学の知識	に基づいて、	自身の研究を遂	遂行し論述で	ける能力を習得す	る	
			講義	内 容				
前期(回)		内 容	(出席卿)	後期(回)		内容	(出席卿)	
1	統合失調	間症の病態		1				
2								
L	統合失調	間症の生化学的解	釈	2				
3		間症の生化学的解 病薬の作用機序	釈	3				
3 4	抗精神病							
-	抗精神病第2世代抗	病薬の作用機序	使用方法 1	3				
4	抗精神病 第2世代抗 第2世代抗	対薬の作用機序	使用方法 1	3 4				
4 5	抗精神病第2世代抗 第2世代抗 抗精神病	病薬の作用機序 立精神病薬の臨床的 立精神病薬の臨床的	使用方法 1 使用方法 2 用方法 1	3 4 5				
4 5 6	抗精神病第2世代抗 第2世代抗 抗精神病	病薬の作用機序 立精神病薬の臨床的 立精神病薬の臨床的 病薬の臨床的使用 病薬の臨床的使用	使用方法 1 使用方法 2 用方法 1	3 4 5 6				
4 5 6 7	抗精神病第2世代抗第2世代抗精神病抗精神病	病薬の作用機序 立精神病薬の臨床的 立精神病薬の臨床的 病薬の臨床的使用 病薬の臨床的使用	使用方法 1 使用方法 2 用方法 1	3 4 5 6 7				
4 5 6 7 8	抗精神病第2世代抗第2世代抗精神病抗精神病	病薬の作用機序 立精神病薬の臨床的 立精神病薬の臨床的 病薬の臨床的使用 病薬の臨床的使用	使用方法 1 使用方法 2 用方法 1	3 4 5 6 7 8				
4 5 6 7 8 9	抗精神病第2世代抗第2世代抗精神病抗精神病	病薬の作用機序 立精神病薬の臨床的 立精神病薬の臨床的 病薬の臨床的使用 病薬の臨床的使用	使用方法 1 使用方法 2 用方法 1	3 4 5 6 7 8 9				
4 5 6 7 8 9	抗精神病第2世代抗第2世代抗精神病抗精神病	病薬の作用機序 立精神病薬の臨床的 立精神病薬の臨床的 病薬の臨床的使用 病薬の臨床的使用	使用方法 1 使用方法 2 用方法 1	3 4 5 6 7 8 9				
4 5 6 7 8 9 10	抗精神病第2世代抗第2世代抗精神病抗精神病	病薬の作用機序 立精神病薬の臨床的 立精神病薬の臨床的 病薬の臨床的使用 病薬の臨床的使用	使用方法 1 使用方法 2 用方法 1	3 4 5 6 7 8 9 10 11				
4 5 6 7 8 9 10 11 12	抗精神病第2世代抗第2世代抗精神病抗精神病	病薬の作用機序 立精神病薬の臨床的 立精神病薬の臨床的 病薬の臨床的使用 病薬の臨床的使用	使用方法 1 使用方法 2 用方法 1	3 4 5 6 7 8 9 10 11 12				

研究・教育の概略

専攻分野/コース (英文名)

最新医学研究コース (Advanced Course for Medical Research)

研究指導教員

三村 秀文

放射線医学は進化した生体画像解析の最先端技術を診断、治療に応用し低侵襲医療を推進する新たな手法やシステムを研究、開発する分野である。大きく画像診断部門、画像ガイド下治療(IVR)、放射線治療3部門に分けられるがいずれも画像診断の基礎に則って研究を遂行する。

画像診断部門は CT、MRI、超音波を中心とした最先端技術の臨床応用を産学協同で進めている。 騰器 の機能と形態解析に主眼を置いた専門分野として脳神経診断部門、呼吸器診断部門、心臓循環器部門、乳腺部門、消化器部門、泌尿生殖器部門、骨軟部部門と臓器を超えた救急画像診断部門、核医学部門、超音波部門がある。 先端画像診断機器を利用した呼吸器疾患の肺機能解析、新しいソフトを用いた MRI による乳腺、骨軟部、その他の腫瘍画像診断、画像診断による外傷臓器損傷分類、救急領域における CT の合理利用方法の研究、動脈硬化の画像解析ソフトの開発、乳がん専用超音波診断装置の開発や医療経済における画像診断の役割の定量化などのテーマで具体的に進めている。

IVR 部門は新しい球状塞栓物質の臨床研究、進行乳がんの新しい局所治療、大動脈ステントグラフト治療、血管腫・血管奇形に対する IVR 治療のほか治療補助用具の開発を産学協同で行っている。

放射線治療部門はIMRTを用いた高精度放射線治療の他、動注化学療法とのコンビネーションによる 集学的治療の開発に努めている。またこのような新しい治療の評価方法としてQOLを用いた解析を幅広く 行い評価方法の開発にも取り組んでいる。

いずれの分野も大学院生の参入を期待している領域であり実際の研究に当たっての必要な時間、研究 費および国内外の留学など個々の研究テーマに応じて柔軟に対応する。

研究項目

準備学習(予習·復習)

- 1. CT、MRI を中心とした先端画像診断技術の開発
- 2. 救急疾患における合理的な画像診断システムの開発
- 3. 乳腺専用超音波診断装置の開発
- 4. 新しい IVR 治療の開発

下記参考 Textbook を適時読破し、学習、実習にそなえる。

- $\cdot\,$ Fundamentals of Diagnostic Radiology. By William E. Brant and Clyde A. Helms.
- ・新臨床腫瘍学.南江堂. By 日本臨床腫瘍学会
- · Primer of Diagnostic Imaging. By Palph Weissleder.

講義コー	·۲̈	※ 専攻分野 最新医学研究コース						
講義題目	1	臨床呼吸器	診断学特認	論(I)		必修/選択	必修	
担当教員		藤川 あつ子		担当教員連絡	先	内線 3442		
単位数		2単位 (前期 1・	単位(前期1・後期1) 履修年次 1年					
テーマと目的	的	多様の呼吸器が	ミ患の画像診断	を理解する				
講義計画		週1回実施される 画像診断法と臨			れる on goir	ng の呼吸器疾患	症例を通じて	
達成目標		臨床的に頻度のできるようにする		『像について分	がし、理解	し、他科の医療関	関係者に説明	
教科書·参	考書	High Resolution	CT of the lung	g. By W. Rich	ard Webb.			
準備学習(予習・	復習•時間)		参考にして症 時間	例のプレチェ	ック及び必	必要な症例を医局	品症例検討会	
成績評価法	.	出席と講義内で	ごの発表、積極	姓、受講態度	による総合	許価		
卒業認定・4		放射線医学の知	叩識に基づいて	、自身の研究を	を遂行し論え	上する能力を習得	する	
	1		講義	内 容	I			
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内 容	(出席卿)	
1	Case stu	•		1	Case stud	•		
2	Case stu	•		2	Case stud	y 17		
3	Case stu	•		3	l	tudy 18		
4	Case stu	ıdy 4		-	Case stud	-		
5	Case stu			4	Case stud	y 19		
6				4 5	Case stud	y 19 y 20		
_	Case stu	ıdy 6		5 6	Case stud	y 19 y 20 y 21		
7	Case stu	dy 6		4 5 6 7	Case stud Case stud Case stud Case stud	y 19 y 20 y 21 y 22		
8	Case stu	dy 6 dy 7 dy 8		4 5 6 7 8	Case stud Case stud Case stud Case stud Case stud	y 19 y 20 y 21 y 22 y 23		
8	Case stu Case stu Case stu Case stu	dy 6 dy 7 dy 8 dy 9		4 5 6 7 8 9	Case stud Case stud Case stud Case stud Case stud Case stud	y 19 y 20 y 21 y 22 y 23 y 24		
8 9 10	Case stu Case stu Case stu Case stu Case stu	dy 6 dy 7 dy 8 dy 9 dy 10		4 5 6 7 8 9	Case stud	y 19 y 20 y 21 y 22 y 23 y 24 y 25		
8 9 10 11	Case stu Case stu Case stu Case stu Case stu Case stu	ady 6 ady 7 ady 8 ady 9 ady 10 ady 11		4 5 6 7 8 9 10	Case stud	y 19 y 20 y 21 y 22 y 23 y 24 y 25 y 26		
8 9 10 11 12	Case stu	ady 6 ady 7 ady 8 ady 9 ady 10 ady 11 ady 12		4 5 6 7 8 9 10 11 12	Case stud	y 19 y 20 y 21 y 22 y 23 y 24 y 25 y 26		
8 9 10 11 12 13	Case stu	ady 6 ady 7 ady 8 ady 9 ady 10 ady 11 ady 12 ady 13		4 5 6 7 8 9 10 11 12 13	Case stud	y 19 y 20 y 21 y 22 y 23 y 24 y 25 y 26 y 27 y 28		
8 9 10 11 12	Case stu	ady 6 ady 7 ady 8 ady 9 ady 10 ady 11 ady 12 ady 13 ady 14		4 5 6 7 8 9 10 11 12	Case stud	y 19 y 20 y 21 y 22 y 23 y 24 y 25 y 26 y 27 y 28 y 29		

講義コード	P	*	専攻分野	最新医	学研究	コース		
講義題目		臨床呼吸器	診断学特認	侖 (Ⅱ)		必修/選択	必修	
担当教員		松岡 伸		担当教員連絡	先	内線 3442		
単位数		1単位(後期1)	单位(後期1) 2年					
テーマと目的		多様の呼吸器疾	様の呼吸器疾患の画像診断を理解する					
講義計画		週1回実施される 画像診断法と臨り			れる on goir	ng の呼吸器疾患	症例を通じて	
達成目標		臨床的に頻度の できるようにする	高い疾患の画	画像について分	↑析し、理解	し、他科の医療関	関係者に説明	
教科書·参考	書	Chest Radiology	6 edition. B	y James C. Ree	ed.			
準備学習(予習・復習	習・時間)	上記参考書を参 報告する 1時		可のプレチェッ	ック及び必望	要な症例を医局症	定例検討会で	
成績評価法		出席と講義内で	の発表、積極	E性、受講態 度	ことる総合	合評価		
卒業認定・学位の方針との関		放射線医学の知	識に基づいて	、自身の研究を	を遂行し論え	************************************	する	
			講 衤	大 容				
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内容	(出席卿)	
1 C	Case stu	dy 1		1				
2 0	Case stu	dy 2		2				
3 (Case stu	dy 3		3				
4 (Case stu	dy 4		4				
5 C	Case stu	dy 5		5				
6 0	Case stu	dy 6		6				
7 0	Case stu	dy 7		7				
8 0	Case stu	dy 8		8				
9 0	Case stu	dy 9		9				
10 C	Case stu	dy 10		10				
11 C	Case stu	dy 11		11				
1 [1				
12 C	Case stu	dy 12		12				
	Case stu Case stu			12				
13 C		dy 13						

講義コー	・ド	*	専攻分野	最新医	学研究	コース					
講義題目	1	Intervention	al Radiolog	y の基礎	(I)	必修/選択	必修				
担当教員		三村 秀文	村 秀文 担当教員連絡先 内線 3442								
単位数		2単位(前期1・後	後期 1)	履修年次		1年					
テーマと目的	的	血管系、非血管系	系疾患におけ	る経カテーテル	的治療の理	里解					
講義計画		経カテーテル的	怡療手技、使	用器具、適応条	件、合併症	について解説す	る				
達成目標		経カテーテル的	怡療の適応疾	患、治療方法に	こついて理	解し、概説できる					
教科書·参	 考 書	•Radiology Case	Review Series	s:Interventiona	l Radiology	By Matthew D T	Tam.				
準備学習(予習・	復習•時間)	上記参考書を参 報告する 1時	•	引のプレチェッ	ク及び必	要な症例を医局類	定例検討会で				
成績評価法		出席と講義内で	の発表、積極	E性、受講態 度	による総合	合評価					
卒業認定・等		放射線医学の知	識に基づいて	、自身の研究を	を遂行し論法	述する能力を習得	する				
			講	& 内 容	講義内容						
前期(回)		内 容	(出席卿)	後期(回)		内 容	(出席卿)				
前期(回)	IVR の	内 容 基礎 1: 血管内治		後期(回)	IVR の基	内 容 礎:症例検討	(出席卿)				
			涂				(出席卿)				
1	IVR の	基礎 1: 血管内治	治療	1	IVR の基	礎:症例検討	(出席卿)				
1 2	IVR の記 IVR の記	基礎 1: 血管内治基礎 2: 非血管内	済療 J治療 Aの IVR	1 2	IVR の基 IVR の基	礎:症例検討 礎:症例検討	(出席卿)				
1 2 3	IVR OF	基礎 1: 血管内治 基礎 2: 非血管内 基礎 3: 救急疾患	療 i治療 dの IVR	1 2 3	IVR の基 IVR の基 IVR の基	礎:症例検討 礎:症例検討 礎:症例検討	(出席卿)				
1 2 3 4	IVR の記 IVR の記 IVR の記 IVR の基	基礎 1: 血管内治 基礎 2: 非血管内 基礎 3: 救急疾患 基礎 4: 使用機器	清療 日治療 Aの IVR は 放射線被爆	1 2 3 4	IVR の基 IVR の基 IVR の基	礎:症例検討 礎:症例検討 礎:症例検討 礎:症例検討	(出席卿)				
1 2 3 4 5	IVR の記 IVR の記 IVR の記 IVR の基	基礎 1: 血管内治 基礎 2: 非血管内 基礎 3: 救急疾患 基礎 4: 使用機器 礎 5: 患者と術者の	清療 日治療 Aの IVR は 放射線被爆	1 2 3 4 5	IVR の基 IVR の基 IVR の基 IVR の基	礎:症例検討 礎:症例検討 礎:症例検討 礎:症例検討 礎:症例検討	(出席卿)				
1 2 3 4 5 6	IVR の記 IVR の記 IVR の基 IVR の基 IVR の基	基礎 1: 血管内治 基礎 2: 非血管内 基礎 3: 救急疾患 基礎 4: 使用機器 礎 5: 患者と術者の 礎 6: インフォームト	清療 日治療 Aの IVR は 放射線被爆	1 2 3 4 5 6	IVR の基 IVR の基 IVR の基 IVR の基 IVR の基	礎:症例検討 礎:症例検討 礎:症例検討 礎:症例検討 礎:症例検討	(出席卿)				
1 2 3 4 5 6 7	IVR の記 IVR の記 IVR の基 IVR の基 IVR の記 IVR の記	基礎 1: 血管内治 基礎 2: 非血管内 基礎 3: 救急疾患 基礎 4: 使用機器 礎 5: 患者と術者の 礎 6: インフォームト 基礎:症例検討	清療 日治療 Aの IVR は 放射線被爆	1 2 3 4 5 6 7	IVR の基 IVR の基 IVR の基 IVR の基 IVR の基	礎:症例検討 礎:症例検討 礎:症例検討 礎:症例検討 礎:症例検討 礎:症例検討	(出席卿)				
1 2 3 4 5 6 7 8	IVR の記 IVR の記 IVR の基 IVR の基 IVR の記 IVR の記	基礎 1: 血管内治 基礎 2: 非血管内 基礎 3: 救急疾患 基礎 4: 使用機器 礎 5: 患者と術者の 礎 6: インフォームト 基礎:症例検討	清療 日治療 Aの IVR は 放射線被爆	1 2 3 4 5 6 7 8	IVR の基 IVR の基 IVR の基 IVR の基 IVR の基 IVR の基	礎:症例検討 礎:症例検討 礎:症例検討 礎:症例検討 礎:症例検討 礎:症例検討 礎:症例検討	(出席卿)				
1 2 3 4 5 6 7 8 9	IVR の記 IVR の記 IVR の基 IVR の基 IVR の記 IVR の記 IVR の記	基礎 1: 血管内治 基礎 2: 非血管内 基礎 3: 救急疾患 基礎 4: 使用機器 礎 5: 患者と術者の 礎 6: インフォームト 基礎:症例検討 基礎:症例検討	清療 日治療 Aの IVR は 放射線被爆	1 2 3 4 5 6 7 8 9	IVRの基 IVRの基 IVRの基 IVRの基 IVRの基 IVRの基 IVRの基	礎:症例検討	(出席卿)				
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	IVR の記 IVR の記 IVR の基 IVR の記 IVR の記 IVR の記 IVR の記 IVR の記	基礎 1: 血管内治 基礎 2: 非血管内 基礎 3: 救急疾患 基礎 4: 使用機器 礎 5: 患者と術者の 礎 6: インフォームト 基礎:症例検討 基礎:症例検討 基礎:症例検討	清療 日治療 Aの IVR は 放射線被爆	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	IVRの基	礎:症例検討 礎:症例検討 礎:症例検討 礎:症例検討 礎:症例検討 礎:症例検討 礎:症例検討 礎:症例検討	(出席卿)				
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11	IVR の記 IVR の記 IVR の基 IVR の記 IVR の記 IVR の記 IVR の記 IVR の記 IVR の記	基礎 1: 血管内治 基礎 2: 非血管内 基礎 3: 救急疾患 基礎 4: 使用機器 礎 5: 患者と術者の 礎 6: インフォームト 基礎:症例検討 基礎:症例検討 基礎:症例検討 基礎:症例検討	清療 日治療 Aの IVR は 放射線被爆	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11	IVRの基	礎:症例検討 礎:症例検討 礎:症例検討 礎:症例検討 礎:症例検討 礎:症例検討 礎:症例検討 礎:症例検討 礎:症例検討	(出席卿)				
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	IVR の記 IVR の記 IVR の基 IVR の記 IVR の記 IVR の記 IVR の記 IVR の記 IVR の記 IVR の記	基礎 1: 血管内治 基礎 2: 非血管内 基礎 3: 救急疾患 基礎 4: 使用機器 礎 5: 患者と術者の 礎 6: インフォームト 基礎:症例検討 基礎:症例検討 基礎:症例検討 基礎:症例検討	清療 日治療 Aの IVR は 放射線被爆	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	IVRの基	礎:症例検討 礎:症例検討 礎:症例検討 酸:症例検討 酸:症例 檢討 碰:症例 檢討 碰:症例 檢討 碰:症例 檢討 碰:症例 檢討 碰:症例 檢討 討 碰:症例 檢討	(出席卿)				

講義コー	・ド	*	* 専攻分野 最新医学研究コース					
講義題目	i	Intervention	al Radiology	ァの基礎	(II)	必修/選択	必修	
担当教員		八木橋 国博		担当教員連絡	先	内線 3442		
単位数		2単位(前期 1・征	単位 (前期 1·後期 1) 履修年次 2年					
テーマと目的	的	血管系、非血管	系疾患における	経カテーテル	か治療の理	 里解		
講義計画		経カテーテル的	冶療手技、使用	器具、適応条	件、合併症	について解説する	3	
達成目標		経カテーテル的	怡療の適応疾息	患、治療方法に	こついて理解	解し、概説できる		
教科書·参	考書	• Radiology Cas	e Review Serie	s:Intervention	al Radiology	v. By Matthew D'	Γam.	
準備学習(予習・2	復習•時間)	上記参考書を読	破し、学習、	 実習にそな <i>え</i>	る 1時間	『		
成績評価法		出席と講義内で	の発表、積極	性、受講態度	こによる総合	合評価		
卒業認定・学		放射線医学の知	識に基づいて、	自身の研究を	を遂行し論え	述する能力を習得	する	
			講義	内 容				
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内容	(出席卿)	
1	血管内剂	台療の IVR		1	IVR の症	例提示		
2	IVR の担	 定例提示		2	IVR の症	例提示		
3	IVR の担	正例 提 示		3	IVR の症	例提示		
4	IVR の担	正例 提 示		4	IVR の症	例提示		
5	IVR の担	正 例提示		5	IVR の症	例提示		
6	IVR の担	正 例提示		6	救急疾患	の IVR		
7	IVR の担	正 例提示		7	IVR の症	例提示		
8	IVR の担	定例提示		8	IVR の症	例提示		
9	IVR の担	定例提示		9	IVR の症	例提示		
10	IVR の担	定例提示		10	IVR の症	例提示		
11	非血管₽	内治療の IVR		11	IVR の症	例提示		
12	IVR の担	定例提示		12	IVR の症	例提示		
13	IVR の担	定例提示		13	IVR の症	例提示		
14	IVR の担	定例提示		14	IVR の症	例提示		
					IVR の症			

講義コード	事攻分野 最新医学			学研究コース
講義題目	断層撮影読	影実習		必修/選択 必修
担当教員	森本 毅		担当教員連絡	5先 内線 3442
単位数	4単位(前期 2・後	後期 2)	1年	
テーマと目的	CT・MRI 読影の2	基本技術、診路	新に導く方法を	学ぶ
講義計画	部位別にCTある 所見から導かれる			当教員指導の元、異常像の検出ポイント、
達成目標				がいできる。 指摘し、診断に導くことができる。
教科書•参考書				Bの CT 腹部の MRI よくわかる脳 MRI
準備学習(予習・復習・時間)	上記参考書を読	破し、学習、	実習にそなえ	2る 1時間
成績評価法	出席と講義内で	の発表、積極	性、受講態度	Eによる総合評価
卒業認定・学位授与 の方針との関連性	放射線医学の知	識に基づいて	、自身の研究を	を遂行し論述する能力を習得する
		講義	内 容	
前期(回)	内容	(出席卿)	後期(回)	内 容 (出席卿)
1 頭部CT	` 1 基礎		1	頭部MRI 1 基礎 I
2 頭部CT	` 2 応用		2	頭部MRI 2 基礎 II
3 胸部CT	1 基礎		3	頭部MRI 3 応用 I
4 胸部CT	` 2 応用 I		4	頭部MRI 4 応用 II
5 胸部CT	3 応用 Ⅱ		5	頭部MRI 5 応用 Ⅲ
6 胸部CT	`4 応用 Ⅲ		6	腹部MRI 6 基礎
7 腹部CT	1 基礎		7	腹部MRI 1 肝
8 腹部CT	` 2 応用 I		8	
				腹部MRI 2 MRCP
	3 応用 Ⅱ		9	腹部MRI 2 MRCP 腹部MRI 3 その他
9 腹部CT				
9 腹部CT 10 腹部CT	`3 応用 Ⅱ		9	腹部MRI 3 その他
9 腹部CT 10 腹部CT 11 骨盤CT	3 応用 Ⅱ		9	腹部MRI 3 その他 骨盤MRI 1 基礎
9 腹部CT 10 腹部CT 11 骨盤CT 12 骨盤CT	` 3 応用 Ⅱ ` 4 応用 Ⅲ ` 1 基礎		9 10 11	腹部MRI 3 その他 骨盤MRI 1 基礎 骨盤MRI 2 応用 I
9 腹部CT 10 腹部CT 11 骨盤CT 12 骨盤CT 13 骨盤CT	3 応用 Ⅱ4 応用 Ⅲ1 基礎2 応用 Ⅰ		9 10 11 12	腹部MRI 3 その他 骨盤MRI 1 基礎 骨盤MRI 2 応用 I 骨盤MRI 3 応用 II

講義コー	ド 専攻分野 最新医学研究コージ					コース		
講義題目	I	プレゼンテー	プレゼンテーション学概論 (I) 必修/選択 必修					
担当教員		森本 毅		担当教員連絡	先	内線 3442		
単位数		2単位(前期 1・征	後期 1)	履修年次		1年		
テーマと目的	内	科学的事象を他	人に説明する	ために必要不可	可欠な技術	を取得する		
講義計画		典型的な症例の インターペンショナルラ 学会発表のプレ	ジオロジー症例	の目的、手技の)内容を解	-		
達成目標		科学的事象を他人パワーポイントスラ				テーションを行えるよ	うになる。	
教科書•参	考書	Diagnostic imagi	ng series (Sau	nders)				
準備学習(予習・名	復習•時間)		上記参考書を参考にして症例のプレチェック及び必要な症例を医局症例検討会で					
成績評価法		出席と講義内で	の発表、積極	性、受講態度	による総合	}評価		
卒業認定・等		放射線医学の知	識に基づいて	、自身の研究を	ど遂行し論え	述する能力を習得	する	
			講義	内 容				
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内容	(出席卿)	
1	症例呈表	示 脳神経 1		1	症例呈示	核医学 1		
2	症例呈表	示 脳神経 2		2	症例呈示	核医学 2		
3	症例呈表	示 脳神経 3		3	症例呈示	骨軟部 1		
4	症例呈表	示 頭頸部 1		4	症例呈示	骨軟部 2		
5	症例呈え	示 頭頸部 2		5	症例呈示	心血管 1		
6	症例呈表	永 胸部 1		6	症例呈示	心血管 2		
7	症例呈え	於 胸部 2		7	症例呈示	IVR 1		
8	症例呈表	示 胸部 3		8	症例呈示	IVR 2		
9	症例呈え	示 乳腺 1		9	症例呈示	IVR 3		
10	症例呈表	示 乳腺 2		10	症例呈示	放射線治療 1		
11	症例呈表	成部 1		11	症例呈示	放射線治療 2		
12	症例呈示	永 腹部 2		12	症例呈示	放射線治療 3		
13	症例呈示	示 腹部 3		13	学会発表	1		
14	症例呈え	示 骨盤部 1		14	学会発表	2		
15	症例呈表	元 骨盤部 2		15	学会発表	3		

講義コー	ド	*	専攻分野	野最新医学研究コース				
講義題目	I	プレゼンテー	ーション学根	揺論(Ⅱ)		必修/選択	必修	
担当教員		橋本 一樹		担当教員連絡	先	内線 3442		
単位数		2単位(前期 1・征	2 単位 (前期 1·後期 1) 履修年 次 2年					
テーマと目的	的	科学的事象を他	人に説明する	ために必要不可	可欠な技術	を取得する		
講義計画		インターヘンショナルラ	典型的な症例の画像診断のプレゼンテーション方法を解説する。 インターベンショナルラジオロジー症例の目的、手技の内容を解説する。 学会発表のプレゼンテーション作成法を解説する。					
達成目標		科学的事象を他人パワーポイントスラ				テーションを行えるよ	うになる。	
教科書•参	考書	Diagnostic imagi	ng series (Sau	nders)				
準備学習(予習・行	復習•時間)		上記参考書を参考にして症例のプレチェック及び必要な症例を医局症例検討会で 報告する 1 時間					
成績評価法	•	出席と講義内で	の発表、積極	姓、受講態度	こによる総合	}評価		
卒業認定・特の方針との		放射線医学の知	識に基づいて	、自身の研究を	を遂行し論う	述する能力を習得	する	
	T		講義	内容	T			
前期(回)		内 容	(出席卿)	後期(回)		内 容	(出席卿)	
1	症例呈表	示 脳神経 1		1	症例呈示	核医学 1		
2	症例呈表	示 脳神経 2		2	症例呈示	核医学 2		
3	症例呈表	示 脳神経 3		3	症例呈示	骨軟部 1		
4	症例呈表	示 頭頸部 1		4	症例呈示	骨軟部 2		
5	症例呈表	示 頭頸部 2		5	症例呈示	心血管 1		
6	症例呈表	示 胸部 1		6	症例呈示	心血管 2		
7	症例呈表	示 胸部 2		7	症例呈示	IVR 1		
8	症例呈表	示 胸部 3		8	症例呈示	IVR 2		
9	症例呈表	示 乳腺 1		9	症例呈示	IVR 3		
10	症例呈表	示 乳腺 2		10	症例呈示	放射線治療 1		
11	症例呈表	元 腹部 1		11	症例呈示	放射線治療 2		
12	症例呈え	形腹部 2		12	症例呈示	放射線治療 3		
10	I	二 11年+17 O		13	学会発表	1		
13	症例呈	元 腹部 3 		10	于五元权			
13		元 假船 3 元 一		14	学会発表			

講義コー	·K	*	専攻分野	. 是新匠			
神我一			守 处刀判	1 取利区	工一切元		
講義題目	İ	胸部画像診	断の基礎			必修/選択	必修
担当教員		松岡 伸		担当教員連絡	先	内線 3442	
単位数		2単位(前期 1・征	後期 1)	履修年次		1年	
テーマと目的	的	画像の成り立ちゃ					
講義計画		1回1時間で、一	つのテーマを	理解し、出席者	「全員で実際	 学の症例を検討す	る。
達成目標		各々の分野の画	像を一通り理	解し、画像診断	ができるよう		
教科書•参	 考書	Fundamentals of	Fundamentals of Diagnostic Radiology. By William E. Brant and Clyde A. Helms.				
準備学習(予習・2	復習•時間)	上記参考書を読	上記参考書を読破し、学習、実習にそなえる 1時間				
成績評価法		実際の読影の際	実際の読影の際に各個人の理解度を評価する。				
卒業認定・4		- 放射線医学の知識に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する					する
			講	& 内容			
前期(回)		内 容	(出席卿)	後期(回)		内 容	(出席卿)
1	空気と軟	で部組織と石灰化と	:金属	1	スリガラス	影の分布とその意	義
2	胸部単純	吨でのものの厚さと	:見え方	2	浸潤影と	気管支壁肥厚	
3	縦隔の棒	構造と見え方		3	acinar shadow と結核		
4	散乱線と	ものの見え方		4	娘気管支	とマイコプラズマ朋	市炎
5	胸部単純	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・		5	Kerley li	nes と癌性リンパ ⁹	管症
6	横隔膜の	の構造と見え方		6	石灰化を	伴った肺腫瘤	
7	吸気の種	星度と tenting(下脈	市間膜)	7	気腫性変	化と蜂巣肺	
8	年齢と吸	気の程度と横隔膜	英の形	8	空洞病変	とその特徴	
9	シルエッ	トサインと病変部位	立	9	胸部単純	と心臓の拍動	
10	無気肺と	:見え方		10	吸気の程	度と心陰影の見え	<u>·</u> 方
11	無気肺と	<u>-</u> - 胸水		11	体位による	5心陰影・縦隔影	の変化
12	肺の構造	きと機能		12	vascular	pedicle とその意	義
13	経気道性	生病変のCT画像		13	胸水の量	と見え方	
14	間質病変	変とCT画像−その1	L-	14	肺うっ血と	胸部単純所見る	と の1-
15	間質病変	変とCT画像-その:	2-	15	肺うっ血と	胸部単純所見ーぞ	と の 2-

講義コー	ド	*	専攻分野	最新医学研究コース				
講義題目		乳腺内分泌	学 画像診	冰斯特論		必修/選択	必修	
担当教員		濱口 真吾		担当教員連絡	各先	内線 3442		
単位数		2単位(前期 1・後	单位(前期 1·後期 1) 履修年 次 1年					
テーマと目的	勺	乳がんの臨床の	実際を学習し	画像診断研究	究の方向性	を理解する		
講義計画		1 乳腺内分泌外 2 画像診断の臨	-					
達成目標		乳がんの診療に いて解説できる		诊断の役割に [、]	ついて理解	し個々の症例の画	画像診断につ	
教科書·参	考書	乳腺 MRI 実践力	バ 著者・戸	崎光宏 文光	堂			
準備学習(予習・行	复習•時間)	上記参考書を読	破し、学習、	実習にそな	える 1時	間		
成績評価法		出席と講義内で	の発表、積極	極性、受講態	度による総介	合評価		
卒業認定・等		放射線医学の知	識に基づいて	、自身の研究	を遂行し論法	述する能力を習得	する	
			講	養 内 容				
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内容	(出席卿)	
1	乳腺疾息	息の画像診断の基	礎 1	1	乳癌スクリ	Jーニングの画 像 認	诊断 1	
2	乳腺疾患	息の画像診断の基	礎 2	2	乳癌スクリ	Jーニングの画像記	诊断 2	
3	乳腺疾患	患の画像診断の基	礎 3	3	乳癌スクリ	乳癌スクリーニングの画像診断 3		
4	乳腺疾患	患の画像診断の基	礎 4	4	乳癌の切除	徐範囲決定における 画	可像診断 1	
5	乳腺疾息	患の画像診断特論	1	5	乳癌の切除	余範囲決定における画	可像診断 2	
6	乳腺疾息	患の画像診断特論	2	6	乳癌の切除	余範囲決定における画	 可像診断 3	
7	乳腺疾息	息の画像診断特論	3	7	乳癌の切除	余範囲決定における画	重像診断 4	
8	乳腺疾息	息の画像診断特論	4	8	乳癌の非手	術治療の経過観察にお	ける画像診断 1	
9	乳腺疾息	息の画像診断特論	5	9	乳癌の非手	術治療の経過観察にお	ける画像診断 2	
10	乳腺の卵	房理と画像診断 1		10	乳癌の非手	術治療の経過観察にお	ける画像診断 3	
11	乳腺の症	房理と画像診断 2		11	乳癌の非手	術治療の経過観察にお	ける画像診断 4	
12	乳腺の卵	房理と画像診断 3		12	乳癌の IV	/R 治療 1		
13	乳腺の症	房理と画像診断 4	:	13	乳癌のIN	/R 治療 2		
14	乳腺の症	房理と画像診断 5		14	乳癌の I\	/R 治療 3		
15	乳腺の卵	房理と画像診断 6		15	乳癌の八	/R 治療 4		

講義コー	ド	*	※ 専攻分野 最新医学研究コース					
講義題目	l	核医学概論				必修/選択	必修	
担当教員		中村 尚生		担当教員連絡	先	内線 3442		
単位数		2単位(前期 1・後	後期 1)	履修年次		1年		
テーマと目的	内	核医学診断·治療	の概念を学る	,, ,,				
講義計画			則核医学診断の症例を検討するが、核医学治療の患者が現れた場合は、外来担 の一人として治療計画を策定する。					
達成目標		核医学の診断が	一通りできる	ることを目標と	:する。			
教科書·参和	考書	わかりやすい核固	かりやすい核医学(文光堂) 玉木 長良 , 真鍋 治 (編集)					
準備学習(予習・	復習•時間)	上記参考書を読	記参考書を読破し、学習、実習にそなえる 1時間					
成績評価法		出席と講義内で	出席と講義内での発表、積極性、受講態度による総合評価					
卒業認定・		放射線医学の知識に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する						
			講	& 内 容				
前期(回)		内 容	(出席卿)	後期(回)		内容	(出席卿)	
1	核医学0	り基礎 (物理)		1	核医学治	療		
2	核医学0	り基礎 (物理)		2	核医学治療			
3	核医学0	り基礎 (薬学)		3	核医学治療			
4	核医学0	り基礎 (薬学)		4	核医学治療			
5	シングル	フォトン核医学		5	核医学治	療		
6	シングル	フォトン核医学		6	核医学治	療		
7	シングル	フォトン核医学		7	核医学治	療		
8	シングル	フォトン核医学		8	核医学治	療		
9	シングル	フォトン核医学		9	核医学治	療		
10	ポジトロン	ン核医学 -		10	核医学治	療		
11	ポジトロン	少核医学		11	核医学治	療		
12	ポジトロン	少核医学		12	核医学治療			
13	ポジトロン	少核医学		13	核医学治	療		
14	ポジトロン	少核医学		14	核医学治	療		
15	ポジトロン	/核医学		15	核医学治			

講義コー	·F	*	専攻分野	最新医	学研究	コース		
講義題目	ı	画像診断 ca	ase study			必修/選択	選択	
担当教員		和田 慎司		担当教員連絡	先	内線 3442		
単位数		2単位(前期 1・征	後期 1)	履修年次		1年・2年		
テーマと目的	的	様々な疾患の画	像診断の基本	を学ぶ				
講義計画		各週に見られたり	週に見られた興味深い症例の画像を review する					
達成目標		画像診断の考え	像診断の考え方を学ぶ					
教科書•参	考書	_	aul and Juhl's Essentials of Radiologic Imaging ppin Cott Williams & Wilkins 1998					
│ │ 準備学習(予習• [;]	復習•時間)	・ 上記参考書を読破し、学習、実習にそなえる 1時間						
成績評価法		出席と講義内での発表、積極性、受講態度による総合評価						
卒業認定・学位授与 が対線医学の知識に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する							する	
			講	& 内容				
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内 容	(出席卿)	
1	Case stu	ıdy 1		1	Case stud	ly 16		
2	Case stu	ıdy 2		2	Case stud	Case study 17		
3	Case stu	ıdy 3		3	Case study 18			
4	Case stu	ıdy 4		4	Case stud	Case study 19		
5	Case stu	ıdy 5		5	Case stud	Case study 20		
6	Case stu	ıdy 6		6	Case stud	ly 21		
7	Case stu	ıdy 7		7	Case stud	ly 22		
8	Case stu	ıdy 8		8	Case stud	ly 23		
9	Case stu	ıdy 9		9	Case stud	ly 24		
10	Case stu	ıdy 10		10	Case stud	ly 25		
11	Case stu	ıdy 11		11	Case study 26			
12	Case stu	ıdy 12		12	Case study 27			
13	Case stu	ıdy 13		13	Case study 28			
14	Case stu	ıdy 14		14	Case stud	ly 29		
15	Case stu	ıdy 15		15	Case stud	ly 30		

講義コー	٠٢	*	専攻分野	最新医	学研究	コース		
講義題目	1	Intervention	al Radiolog	gy の応用		必修/選択	選択	
担当教員		三村 秀文		担当教員連絡	先	内線 3442		
単位数		2単位(前期 1・後	多期 1)	履修年次		1年・2年		
テーマと目に	的	血管系、非血管	 系疾患におけ	 る経カテーテル		 里解		
講義計画		経カテーテル的	一 <u></u> 治療手技、使	用器具、適応条	·件、合併症	こについて解説す	<u>る</u>	
達成目標		経カテーテル的	ーーー 治療を応用し	、他治療との併	用、集学治	療について理解で	ける	
教科書·参	考書	Abrams's Angios	brams's Angiography: Interventional Radiology.3 rd ed.					
準備学習(予習・	復習•時間)		:記参考書を参考にして症例のプレチェック及び必要な症例を医局症例検討会で {告する 1 時間					
成績評価法	.	出席と講義内での	出席と講義内での発表、積極性、受講態度による総合評価					
卒業認定・空	- 放射線医学の知識に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する						する	
		l	講	養内容				
前期(回)		内 容	(出席卿)	後期(回)		内 容	(出席卿)	
1	IVR の	芯用 1: 血管内治	溹	1	IVR の応	用:症例検討		
2	IVR の	芯用 2: 非血管内	沿療	2	IVR の応用:症例検討			
3	IVR の	芯用 3:救急疾患	の IVR	3	IVR の応用:症例検討			
4	IVR の	芯用 4:使用機器	}	4	IVR の応用:症例検討			
5	IVR の応	7月 5: 患者と術者の	の放射線被曝	5	IVR の応用:症例検討			
6	IVR の応	□用 6: インフォー♪	ドコンセント	6	IVR の応	用:症例検討		
7	IVR の	芯用:症例検討		7	IVR の応	用:症例検討		
8	IVR の	芯用:症例検討		8	IVR の応	用:症例検討		
9	IVR の	芯用:症例検討		9	IVR の応	用:症例検討		
10	IVR の	芯用:症例検討		10	IVR の応	用:症例検討		
11	IVR の	芯用:症例検討		11	IVR の応用:症例検討			
12	IVR の	芯用:症例検討		12	IVR の応用:症例検討			
13	IVR のA	芯用:症例検討		13	IVR の応用:症例検討			
14	IVR OF	芯用:症例検討		14	IVR の応	用:症例検討		
15	IVR OF	芯用:症例検討		15	IVR の応	用:症例検討		

講義コー	ド	*	専攻分野	最新医学研究コース						
講義題目		頭部•頭頚部	『の画像診	断			必修	/選択	選択	
担当教員		冨田 隼人		担当	新 員連絡	先	内線	3442		
単位数		2単位(前期 1・後	後期 1)	履修	年次		1年・2	2年		
テーマと目的	均	診断に必要な解	剖の知識、正	常像	と疾患の典	型像を理解	解する			
講義計画		正常を知り、異常	の検出法							
達成目標		適格に異常所見	を指摘し、総合	合的に	こ診断をつ	ける				
教科書·参表	考書	よくわかる脳MR 頭頚部のCT・M	_	_	_	l and neck				
準備学習(予習・名	復習•時間)	上記参考書を参 報告する 1時		別のフ	プレチェッ	ク及び必᠑	要な症	例を医局症	E例検討会で	
成績評価法	当法出席と講義中の発言、積極性、態度による総合評価									
	卒業認定・学位授与 の方針との関連性 放射線医学の知識に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する						する			
			講	& 内	容					
前期(回)		内容	(出席卿)	後	後期(回)		内 容	<u> </u>	(出席卿)	
1	MRIの	最像 ·sequence			1	聴器の解	剖(1)	外•中耳		
2	正常解語	刊 (脳)			2	聴器の解	剖(2)	内耳		
3	正常解語	刊(脳神経)			3	聴器の奇	形			
4	奇形(1)			4	聴器の炎	聴器の炎症			
5	奇形(2	2)			5	聴器の外	傷·腫獡	易		
6	炎症性療	英 惠			6	大唾液腺	の解剖	と疾患		
7	代謝·内	分泌疾患			7	副鼻腔の	解剖•纱	於 症		
8	脱髄·変	性疾患(1)			8	副鼻腔の	腫瘍			
9	脱髄•変	性疾患(2)			9	咽頭•周囲	囲間隙0	の解剖		
10	外傷				10	咽頭•周囲	囲間隙ℓ	り炎症		
11	腫瘍性病	苪変 (1)			11	咽頭•周囲	期間隙0	の腫瘍		
12	腫瘍性病	72								
13	腫瘍性病	涛変(3)			13	眼窩の解剖・外傷				
14	血管性病	声————— 芮変			14	眼窩の炎症・腫瘍				
15	総合				15	総合				

講義コー	·k	*	専攻分野	野最新医学研究コース				
講義題目	I	骨軟部画像	診断の基礎	*		必修/選択	選択	
担当教員		濱口 真吾		担当教員連絡	先	内線 3442		
単位数		2単位(前期 1・後	後期 1)	履修年次		1年•2年		
テーマと目的	·····································	骨軟部画像診断	に必要な知識	を取得する				
講義計画			純X線写真、CT、MRIにおける画像解剖を解説する 型的な症例の画像所見を解説する					
達成目標		各種画像診断法 典型的な疾患の画						
教科書•参	考	Diagnosis of bone	e and joint dis	sorders 4 th ed.(1	resnick)			
準備学習(予習・	復習・時間)		記参考書を参考にして症例のプレチェック及び必要な症例を医局症例検討会で 告する 1時間					
成績評価法		出席、受講態度、	出席、受講態度、積極性による総合評価					
卒業認定・等								
講義内容								
			講 第	夏 内 容				
前期(回)		内容	(出席卿)			内 容	(出席卿)	
前期(回)	画像解剖	内 容 1				内 容 の の の の の の の の の の の の の の の の の の	(出席卿)	
	画像解剖画像解剖	別 脊椎 1		後期(回)	炎症 関節		(出席卿)	
1	画像解剖	別 脊椎 1		後期(回)	炎症 関節	命リウマチ 1	(出席卿)	
1 2	画像解剖画像解剖	刊 脊椎 1 刊 脊椎 2		後期(回) 1 2	炎症 関節 炎症 関節 炎症 関節	がリウマチ 1 がリウマチ 2		
1 2 3	画像解剖画像解剖画像解剖	刊 脊椎 1 刊 脊椎 2 刊 脊椎 3		後期(回) 1 2 3	炎症 関節 炎症 関節 炎症 関節	がリウマチ 1 がリウマチ 2 がリウマチ 3	外) 1	
1 2 3 4	画像解音画像解音画像解音画像解音	刊 脊椎 1 刊 脊椎 2 刊 脊椎 3 刊 肩関節		後期(回) 1 2 3 4	炎症 関節 炎症 関節 炎症 関節	がリウマチ 1 がリウマチ 2 がリウマチ 3 京病(リウマチ以タ 京病(リウマチ以タ	外) 1	
1 2 3 4 5	画像解音画像解音画像解音画像解音画像解音	刊 脊椎 1 刊 脊椎 2 刊 脊椎 3 刊 肩関節 刊 肘・手関節		後期(回) 1 2 3 4 5	炎症 関節 炎症 関節 炎症 関節 炎症 廖原	がリウマチ 1 がリウマチ 2 がリウマチ 3 京病 (リウマチ以タ 京病 (リウマチ以タ	外) 1	
1 2 3 4 5 6	画像解音画像解音画像解音画像解音画像解音	門 脊椎 1 門 脊椎 2 門 脊椎 3 門 肩関節 門 肘・手関節 門 股・膝関節 門 足関節、筋肉		後期(回) 1 2 3 4 5 6	炎症 関節 炎症 関節 炎症 関節 炎症 廖 炎症 廖 炎症 廖 炎症 廖 炎症 廖 炎症 感染	がリウマチ 1 がリウマチ 2 がリウマチ 3 京病 (リウマチ以タ 京病 (リウマチ以タ シ症 1 や症 2	外) 1	
1 2 3 4 5 6 7	画像解語 画像解語 画像解語 画像解語 画像解語 画像解語 画像解語	門 脊椎 1 門 脊椎 2 門 脊椎 3 門 肩関節 門 肘・手関節 門 股・膝関節 門 足関節、筋肉		後期(回) 1 2 3 4 5 6 7	炎症 関節 炎症 関節 炎症 関節 炎症 下 変症 下 変症 下 変症 下 変症 下 変元 変元 変元 変元 変元 変元 変元 変元 変元 変元 変元 変元 変元	がリウマチ 1 がリウマチ 2 がリウマチ 3 京病 (リウマチ以タ 京病 (リウマチ以タ を症 1 や症 2 脊椎 1	外) 1	
1 2 3 4 5 6 7 8	画像解語画像解語画像解語画像解語画像解語画像解語画像解語画像解語画像解語画像解語	刊 脊椎 1 刊 脊椎 2 刊 脊椎 3 刊 肩関節 刊 肘·手関節 刊 股·膝関節 刊 足関節、筋肉 性 1		後期(回) 1 2 3 4 5 6 7 8	炎症 関係 炎症 関係 炎症 関係 炎症 医原体 炎症 感感 炎症 感感 炎性疾患	がリウマチ 1 がリウマチ 2 がリウマチ 3 京病 (リウマチ以タ 京病 (リウマチ以タ を症 1 を症 2 脊椎 1 脊椎 2	外) 1	
1 2 3 4 5 6 7 8	画像像像像像像像像像像像像像像像像像像像像像像像像像像像像像像像像像像像像像像	刊 脊椎 1 刊 脊椎 2 刊 脊椎 3 刊 肩関節 刊 肘·手関節 刊 股·膝関節 刊 足関節、筋肉 性 1		後期(回) 1 2 3 4 5 6 7 8 9	炎症 関係 炎症 関係 炎症 関係 炎症 療	ボリウマチ 1 ボリウマチ 2 ボリウマチ 3 京病 (リウマチ以タ 京病 (リウマチ以タ を症 1 を症 2 脊椎 1 脊椎 2 脊椎 3	外) 1	
1 2 3 4 5 6 7 8 9	画像像像像像像像像像像像像像像像像像像像像像像像像像像像像像像像像像像像像像像	門 脊椎 1 門 脊椎 2 門 脊椎 3 門 肩関節 門 肘・手関節 門 足関節、筋肉 性 1 性 2 列 関節		後期(回) 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	炎症 関係 炎症 関係 炎症 医阴道 医阴道 医阴道 医阴道 医阴道 医阴道 医阴道 医阴道 医阴道 医阴道	ボリウマチ 1 ボリウマチ 2 ボリウマチ 3 京病 (リウマチ以タ 京病 (リウマチ以タ を症 1 を症 2 脊椎 1 脊椎 2 脊椎 3 股関節	外) 1	
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	画画画画画外外外外解解解解解解解解解解解解解解解解解解	門 脊椎 1 門 脊椎 2 門 脊椎 3 門 肩関節 門 肘・野関節 門 足関節、筋肉 性 1 性 2 関節 ・手関節		後期(回) 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11	炎 炎 炎 炎 炎 変 変 変 変 変 変 変 変 変 変 変 変 変 変 変	ボリウマチ 1 ボリウマチ 2 ボリウマチ 3 京病 (リウマチ以タ 京病 (リウマチ以タ を症 1 を症 2 脊椎 1 脊椎 2 脊椎 3 股関節	外) 1	
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	画画画画画外外外外外解解解解解解解解解解解解解解解解解	門 脊椎 1 門 脊椎 2 門 脊椎 3 門 肩関節 門 肘・膝関節 門 足関節、筋肉 椎 1 椎 2 「関節 ・手関節 ・関節		後期(回) 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	炎炎炎炎炎炎 変変変変 腫症症症症症 症性性性 赐 感感患患患患	ボリウマチ 1 ボリウマチ 2 ボリウマチ 3 京病 (リウマチ以タ 京病 (リウマチ以タ を症 1 を症 2 脊椎 1 脊椎 2 脊椎 3 股関節 膝関節	外) 1	

[51–7	】2024年度 大学院:	シラバス
卓	厚攻分野/コース (英文名)	最新医学研究コース (Advanced Course for Medical Research)
	研究指導教員	中村 直樹
研究・教育の概略	の向上を目指し、新規治 るいは放射線物理学的な 放射線治療分野では、 産学連携による新規放射 放射線生物学的あるいは 放射線治療分野の大統 臨床腫瘍学、緩和医療学	極物療法と並んで、がん治療の中心を担う。放射線腫瘍学は放射線治療成績療の開発、新規治療装置あるいは新規治療方法の開発、放射線生物学的あき基礎研究を行う学問である。 強度変調放射線治療などの高精度放射線治療を用いた新規治療の開発、線治療装置あるいは新規放射線治療方法の開発、臨床応用の前段階となる法放射線物理学的な基礎研究を行う。 学院では、放射線腫瘍学に加えて、研究実施にあたり重要な知識となりえる。 生物統計学、放射線生物学、放射線物理学を学ぶ。 この必要な時間、研究費および国内外の留学など個々の研究テーマに応じて
研究項目	 新規治療の開発 新規放射線治療装置 放射線生物学的基礎 放射線物理学的基礎 	
準備学習(予習·復習)	・放射線基礎医学 金売・米国 SWOG に学ぶが・ICRweb https://www・新臨床腫瘍学 南江	inciples and Practice of Radiation Oncology, Wolters Kluwer, Halperin E.C. 芳堂 ぶん臨床試験の実践 医学書院 w.icrweb.jp

講義コー	・ド	*	専攻分野	最新医	学研究コ	ース		
講義題目		放射線腫瘍	学総論			必修/選択	必修	
担当教員		中村 直樹		担当教員連絡	先	内線 3480		
単位数		2単位(前期 1・征	後期 1)	履修年次		1年		
テーマと目的	的	放射線腫瘍学の	根幹となる基	遊知識を理解 す	する			
講義計画		放射線腫瘍学の	総論的事項に	こついて解説す	る			
達成目標		放射線腫瘍学の	総論的事項を	理解し、自身の	の研究に生活	かす		
教科書·参	考書	Perez and Brady Halperin E.C.	erez and Brady's Principles and Practice of Radiation Oncology, Wolters Kluwer,					
準備学習(予習・	復習·時間)	上記参考書を参考にして講義内容の該当箇所を予習・復習する 1時間						
成績評価法	ける では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、							
卒業認定・学位授与 自身の研究を遂行し論述する能力を習得する								
			講	& 内容				
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内容	(出席卿)	
1	放射線服	重瘍学の修練方法		1	強度変調	放射線治療		
2	分割照射	寸		2	画像誘導放射線治療			
3	正常組約	畿の耐容線量		3	呼吸移動対策			
4	急性期本	有害事象		4	定位照射 (脳)			
5	晚期有領	害事象		5	体幹部定位照射			
6	放射線均	曾感剤、放射線防調	護剤	6	陽子線治	療		
7	放射線剂	台療と化学療法の代	————— 并用	7	炭素線治	·療		
8	放射線剂	台療と免疫療法の付	 并用	8	ホウ素中	性子捕捉療法		
9	治療計画	画の基礎		9	術中照射			
10	患者の固	固定		10	全身照射			
11	X 線を用	いた治療計画		11	再照射			
12	電子線を	と用いた治療計画		12	線量計算			
13	原体照射	<u></u>		13	品質管理·品質保証			
14	密封小約	泉源療法		14	被曝管理			
15	非密封/	小線源治療		15	放射線治	療に関連する法令	÷	

講義コー	·K	*	専攻分野						
叶我一	1'	^	可处刀到	取利区-	ナッパー・ハ				
講義題目	1	生物統計学			必修/選択	必修			
担当教員		中村 直樹		担当教員連絡	内線 3480				
単位数		2 単位 (通年)		履修年次	1年				
テーマと目的	的	生物統計学の基	本的事項を理	解する					
講義計画		がんの標準治療	の理解に必要	な生物統計知	識について解説する				
達成目標		生物統計学的事	項に関する用	語や基本的な	 概念を理解する				
教科書·参	考書	ICRweb https:/	/www.icrweb.	jp					
準備学習(予習・	復習•時間)	上記サイトを参	考にして講拿	義内容の該当箇	前所を予習・復習する 1	時間			
成績評価法	•	出席と講義内で	の発表、積極	返性、受講態 度	Eによる総合評価				
卒業認定・		自身の研究を遂	行し論述する	能力を習得する	力を習得する				
			講	& 内容					
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)	内容	(出席卿)			
1	データの	記述(1)		1	ケースコントロール研究(2)			
2	データの)記述(2)		2	多重性の調整 (1)				
3	仮説検知	定(1)		3	多重性の調整 (2)				
4	仮説検知	宦 (2)		4	サンプルサイズ計算 (1)				
5	生存時間	間解析(1)		5	サンプルサイズ計算(2)				
6	生存時間	間解析(2)		6	傾向スコア(1)				
7	ランダム	化と交絡(1)		7	傾向スコア (2)				
8	ランダム	化と交絡(2)		8	診断法の評価 (1)				
9	多変量無	解析(1)		9	診断法の評価 (2)				
10	多変量無	解析(2)		10	系統的レビューとメタアナ	リシス (1)			
11	レトロ研究	究(1)		11	系統的レビューとメタアナ	リシス (2)			
12	レトロ研究	究 (2)		12	コクランとメタアナリシス(1)			
13	コホート	研究(1)		13	コクランとメタアナリシス(2)			
14	コホート	研究(2)		14	ネットワークメタアナリシス	(1)			
15	ケースコ	ントロール研究(1)	15	ネットワークメタアナリシス	(2)			

講義コー	·F	*	専攻分野	最新医生	学研究コー	ース		
講義題目	i	放射線生物質	学			必修/選択	必修	
担当教員		岡田 幸法		担当教員連絡	先	内線 3480		
単位数		2単位(前期1・後	後期 1)	履修年次		1年		
テーマと目的	的	放射線治療の背	対線治療の背景となっている放射線生物学的理論の理解					
講義計画		放射線治療の放	対線治療の放射線生物学的原理を理解する					
達成目標								
教科書•参	 考 書	放射線基礎医学	金芳堂					
準備学習(予習・	復習•時間)	上記参考書を参	上記参考書を参考にして講義内容の該当箇所を予習・復習する 1時間					
成績評価法		出席と講義内で	の発表、積極	返性、受講態 度	まによる総合	?評価		
卒業認定・		自身の研究を遂	行し論述する	能力を習得する	5			
			講	& 内容				
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内 容	(出席卿)	
1	放射線生	上物作用の一般的	特徴	1	組織の放射線感受性			
2	ヒット論と	:標的論		2	組織の放射線病理学			
3	ラジカル	の生成		3	免疫系と放射線			
4	直接作用	用と間接作用		4	感染防御機構への影響			
5	低 LET	放射線と高 LET	放射線	5	抗体産生	阻止作用		
6	酸素効果	<u></u>		6	免疫担当	細胞の放射線感		
7	シグナル			7	骨髄移植			
8	チェック	ポイントの誘導		8	免疫監視	機構への影響		
9	増殖死と	:間期死		9	放射線治	療の原理		
10	アポトー	シスとネクローシス		10	治療可能	<u></u>		
11	DNA 損	傷と修復		11	線量分割			
12	2 本鎖切	り 断と修復		12	腫瘍組織の放射線感受性			
13	ゲノム突	然変異		13	放射線防護剤			
14	染色体织	突然変異		14	放射線増	感剤		
15	バイスタ	ンダー効果		15	効果予測			

講義コー	·۲	*	・ 専攻分野 最新医学研究コース					
	•	12 th 12 th					N. 22.	
講義題目		放射線物理學	学			必修/選択	必修	
担当教員		中村 直樹		担当教員連絡	先	内線 3480		
単位数		2単位(前期 1・後	後期 1)	履修年次		2年		
テーマと目的	的	放射線治療の背	景となっている	る放射線物理学	学的理論の理	上解		
講義計画		放射線治療の放	射線治療の放射線物理学的原理を理解する					
達成目標		放射線物理学的	対線物理学的原理を理解し、臨床・研究に役立てる					
教科書•参	 考書	放射線基礎医学	対線基礎医学 金芳堂					
準備学習(予習・	復習・時間)	習·時間) 上記参考書を参考にして講義内容の該当箇所を予習・復習する 1時間						
成績評価法	おおり 出席と講義内での発表、積極性、受講態度による総合評価							
卒業認定・	学位授与	自身の研究を遂		能力を羽組する				
の方針との	関連性	日为少别九亿经		一一一一	ر 			
			講	& 内 容				
前期(回)		内 容	(出席卿)	後期(回)		内 容 ————————————————————————————————————	(出席卿)	
1	原子•元	素・原子核の構造		1	X線CT ∅	D原理 		
2	X線の乳	8生機構 		2	シンチグラフィーの原理			
3		対線の発生機構 		3	MRIの原理			
4	核反応と	:中性子		4	直線加速器の構造			
5	X 線と物	質の相互作用		5	密封小線	原治療の原理		
6	X 線の間	対乱と吸収		6	陽子線治	寮の原理		
7	β線と物	質の相互作用		7	重荷電粒	子による治療の原	理	
8	α線と物	質の相互作用		8	二次電子	平衡		
9	中性子と	物質の相互作用		9	後方散乱			
10	LET			10	深部線量	分布の測定		
11	線量の和	重類と定義		11	X 線の線	量分布		
12	生物学的	内効果比		12	電子線の線量分布			
13	放射線》	則定器の原理		13	粒子線の線量分布			
14	線量の液	則定		14	密封小線	源による線量計算	ĭ	
15	X 線撮影	どの原理		15	非密封小	線源治療の線量	 計算	

講義コー	·۲	*	専攻分野 最新医学研究コース					
講義題目		放射線腫瘍	学各論()	I)		必修/選択	必修	
担当教員		中村 直樹		担当教員連絡	先	内線 3480		
単位数		2 単位 (前期 1・1	後期 1)	履修年次		1年		
テーマと目的	的	各疾患に対する	放射線治療の	適応、照射方	去、有効性、	有害事象につい	て学ぶ	
講義計画		各疾患に対する	放射線治療の	適応、照射方	生、有効性、	有害事象につい	て解説する	
達成目標		放射線治療の適	対線治療の適応を判断し、臨床で実践できるようになる					
教科書·参	考書	Perez and Brady Halperin E.C.	erez and Brady's Principles and Practice of Radiation Oncology, Wolters Kluwer, Ialperin E.C.					
準備学習(予習・	復習•時間)	上記参考書を参	ニ記参考書を参考にして講義内容の該当箇所を予習・復習する 1時間					
成績評価法	•	出席と講義内で	の発表、積極	医性、受講態 度	ことる総合	 今評価		
卒業認定・*		自身の研究を遂	行し論述する	能力を習得する	5			
			講	& 内容				
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内容	(出席卿)	
1	中枢神紀	圣系腫瘍 ①		1	婦人科腫	·瘍 ①		
2	中枢神経	圣系腫瘍 ②		2	婦人科腫瘍 ②			
3	頭頚部腫	重瘍 ①		3	大腸癌			
4	頭頚部腫	重瘍 ②		4	肛門癌			
5	肺·縦隔	腫瘍 ①		5	血液系腫	瘍 ①		
6	肺·縦隔	腫瘍 ②		6	血液系腫	瘍 ②		
7	食道癌	①		7	骨•軟部	重瘍		
8	食道癌	2		8	皮膚癌			
9	乳癌 ①			9	小児腫瘍	•		
10	乳癌 ②	1		10	脳転移			
11	肝臓癌			11	骨転移(D		
12	膵癌		12 骨転移 ②					
13	胆道系肌	重瘍		13	脊髄圧迫			
14	泌尿器腫	重瘍 ①		14	オリゴメタ	スタシス		
15	泌尿器腫	重瘍 ②		15	良性疾患			

講義コー	・ド	*	専攻分野	最新医	学研究コ	ース		
講義題目	l	放射線腫瘍	学各論(]	1)		必修/選択	必修	
担当教員		岡田 幸法		担当教員連絡	先	内線 3480		
単位数		2単位(前期 1・征	後期 1)	履修年次		2年		
テーマと目的	的	各疾患に対する	放射線治療の	適応、照射方法	去、有効性、	有害事象につい	て学ぶ	
講義計画		各疾患に対する	放射線治療の	適応、照射方	去、有効性、	有害事象につい	て解説する	
達成目標		放射線治療の適	対線治療の適応を判断し、臨床で実践できるようになる					
教科書·参	考書	Perez and Brady Halperin E.C.	Perez and Brady's Principles and Practice of Radiation Oncology, Wolters Kluwer, Halperin E.C.					
準備学習(予習・	復習•時間)	上記参考書を参	考にして講拿	えい とうない とうしゅ とうしゅ しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう しゅう	節所を予習	・復習する 1時	計間	
成績評価法	•	出席と講義内で	の発表、積極	返性、受講態 度	ここと る総合			
	卒業認定・学位授与 の方針との関連性 自身の研究を遂行し論述する能力を習得する							
			講	& 内容				
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内容	(出席卿)	
1	中枢神紀	圣系腫瘍 ①		1	婦人科腫瘍 ①			
2	中枢神経	圣系腫瘍 ②		2	婦人科腫瘍 ②			
3	頭頚部腫	重瘍 ①		3	大腸癌			
4	頭頚部腫	重瘍 ②		4	肛門癌			
5	肺·縦隔	腫瘍 ①		5	血液系腫	瘍 ①		
6	肺·縦隔	腫瘍 ②		6	血液系腫	瘍 ②		
7	食道癌	①		7	骨•軟部腫	重瘍		
8	食道癌	2		8	皮膚癌			
9	乳癌 ①			9	小児腫瘍	;		
10	乳癌 ②			10	脳転移			
11	肝臓癌			11	骨転移(D		
12	膵癌			12	骨転移(2		
13	胆道系肌	重瘍		13	脊髄圧迫	-		
14	泌尿器腫	重瘍 ①		14	オリゴメタ	スタシス		
15	泌尿器腫	重瘍 ②		15	良性疾患			

講義コー	ド	*		専攻分野	F	最新医学	学研究コー	ーフ	ζ.	
講義題目		臨月	末腫瘍学	(I)				必	修/選択	必修
担当教員		砂川	優		担	当教員連絡	先	内流	線 3316	
単位数		2単位	立(前期 1·1	炎期 1)	履	修年次		1 左	 年	
テーマと目的	的	放射線治療に関連する実例を通じて標準治療を理解する								
講義計画		実際に放射線治療に紹介された症例を提示し、手術療法、薬物療法を含めて現在標準治療に関して議論する					含めて現在の			
達成目標		標準治療の成立過程やその問題点を理解する								
教科書•参	考書	新臨	新臨床腫瘍学 南江堂							
準備学習(予習・	復習•時間)	上記参考書を参考にして講義内容の関連箇所を予習・復習する 1時間						謂		
成績評価法		出席	と講義内で	の発表、積極	亟性	、受講態度	による総合	評	価	
卒業認定・等		自身	の研究を遂	行し論述する	能力	を習得する	5			
				講	姜 P	内 容				
前期(回)		内	容	(出席卿))	後期(回)		内	容	(出席卿)
1	症例検討	4 ①				1	症例検討	16		
2	症例検討	1 ②				2	症例検討	17)		
3	症例検討	43				3	症例検討	18		
4	症例検討	₹ <u>4</u>				4	症例検討	19		
5	症例検討	4 ②				5	症例検討	20		
6	症例検討	4 @				6	症例検討	21)		
7	症例検討	1 ⑦				7	症例検討	22		
8	症例検討	4 8				8	症例検討	23		
9	症例検討	4 @				9	症例検討	24)		
10	症例検討	4 W				10	症例検討	25		
11	症例検討	4 W				11	症例検討	26		
12	症例検討	寸 ⑫				12	症例検討	27)		
13	症例検討	寸 ①				13	症例検討	28		
14	症例検討	寸 ⑭				14	症例検討	29		
15	症例検討	1 15				15	症例検討	30		

講義コー	・ド	*		専攻分野	手	是新医 学	学研究コー	·ス	
講義題目	1	臨月	末腫瘍学	(II)			١	必修/選択	必修
担当教員		伊澤	直樹		担当	教員連絡	·先	为線 3316	
単位数		2単	位 (前期 1・	後期 1)	履修	年次	4	2年	
テーマと目的	的	放射	線治療に関	連する実例を	通じて	将来的に	二有望な治療	法を理解する	
講義計画				お療に紹介され 新規治療に関			し、アンメット	ニーズと手術、	薬物療法を含
達成目標		アン	メットニーズ	と有望な新規	冶療を	理解する			
教科書•参	考書	新臨床腫瘍学 南江堂							
準備学習(予習・	復習•時間)	上記参考書を参考にして講義内容の関連箇所を予習・復習する 1時間						時間	
成績評価法		出席	おと講義内で	での発表、積極	亟性、 2	受講態度	による総合	評価	
卒業認定・		自身	の研究を遂	行し論述する	能力を	習得する)		
				講	& 内	容			
前期(回)		内	容	(出席卿)	後	期(回)	内	了容	(出席卿)
1	症例検討	4 ①				1	症例検討(16	
2	症例検討	寸 ②				2	症例検討(17)	
3	症例検討	43				3	症例検討(18	
4	症例検討	寸 ④				4	症例検討(19	
5	症例検討	1 ⑤				5	症例検討(20	
6	症例検討	1 6				6	症例検討(21)	
7	症例検討	寸 ⑦				7	症例検討(22	
8	症例検討	4 8				8	症例検討(23	
9	症例検討	4 @				9	症例検討(24	
10	症例検討	4 10				10	症例検討(<u>2</u> 5	
11	症例検討	4 11				11	症例検討(<u> </u>	
12	症例検討	寸 ⑫				12	症例検討(
13	症例検討	寸 ①				13	症例検討(<u> </u>	
14	症例検討	寸 ⑭				14	症例検討(29	
15	症例検討	1 15				15	症例検討(30	

講義コー	·ķ	*	専攻分野	最新医学	学研究コー	-ス		
講義題目	1	臨床試験の	基礎			必修/選択	必修	
担当教員		中村 直樹		担当教員連絡	先	内線 3480		
単位数		2単位(前期 1・後	後期 1)	履修年次		1年		
テーマと目的	的	がん臨床試験の	方法論を理解	する				
講義計画		がん臨床試験の方法論を解説する						
達成目標		臨床試験のプロトコールを批判的に吟味できるようになる						
教科書•参	———— 考 書	米国 SWOG に学	国 SWOG に学ぶがん臨床試験の実践 医学書院					
準備学習(予習・	復習•時間)	上記参考書を参考にして講義内容の該当箇所を予習・復習する 1時間					宇間	
成績評価法		実際の読影の際	に各個人の理	解度を評価す	ー 折する。			
卒業認定・管 の方針との		自身の研究を遂	究を遂行し論述する能力を習得する					
			講	と 内 容				
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)	P	内 容	(出席卿)	
1	臨床試験	険の目的		1	3 群以上の	試験		
2	臨床試験	険の適格性		2	中間解析			
3	治療群			3	プロトコールの作成			
4	ランダム	割付		4	中央判定			
5	エンドポ	イント		5	症例報告書			
6	検出する	べき差と推定の精度	隻	6	検体			
7	モニタリ	ング		7	データ収集	データ収集		
8	倫理的和	 等 察		8	データベー	 -ス管理		
9	第I相記			9	監査			
10	単群第]	I相試験		10	結果の公表	·····································		
11	多群第]	I相試験		11	結果の解析	ŕ		
12	第Ⅲ相詞	式験		12	ヒストリカル	コントロール		
13	非劣性語	式験		13	競合リスク			
14	サンプル	√サイズ、検出力、	有意水準	14	サブセットケ	 解析		
15	片側検知	と両側検定		15	メタアナリシ	ノス		

講義コー	ド	*	専攻分野	最新医	学研究コー	ス	
講義題目	İ	放射線腫瘍	学実習			必修/選択	必修
担当教員		岡田 幸法		担当教員連絡	各先	内線 3480	
単位数		1 単位(前期 0.5・後期 0.5) 履修年次				2年	
テーマと目的	的	放射線治療の治療計画を習得する					
講義計画		実際の患者の CT を用いて、治療計画を行う					
達成目標		典型的な治療計画を実践できる					
教科書•参	考 書	放射線治療計画ガイドライン 2020 年版 南江堂					
準備学習(予習・	復習•時間)	該当部位を抄読する 1時間					
成績評価法		出席と講義内での発表、積極性、受講態度による総合評価					
卒業認定・		放射線治療の実際を学ぶことで研究に必要な素養を獲得する					
			講	& 内容			
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)	F	内 容	(出席卿)
1	骨転移			1	リアルタイム	ムの患者に対する	治療計画①
2	全脳照射	†		2	リアルタイム	るの患者に対する	治療計画②
3	全乳房脈	割		3	リアルタイム	の患者に対する	治療計画③
4	胸壁+旬	[域リンパ節照射		4	リアルタイム	の患者に対する	治療計画④
5	全骨盤照	剝		5	リアルタイム	ムの患者に対する	治療計画⑤
6	Ⅲ期肺癌			6	リアルタイム	の患者に対する	治療計画⑥
7	食道癌			7	リアルタイム	の患者に対する	治療計画⑦
8	前立腺瘤			8	リアルタイム	の患者に対する	治療計画⑧
9	頭頸部瘤	E (1)		9	リアルタイム	の患者に対する	治療計画⑨
10	頭頸部瘤	E 2		10	リアルタイム	ふの患者に対する	治療計画⑩
11	腔内照射	†		11	リアルタイム	ふの患者に対する	治療計画⑪
12	全身照射	1		12	リアルタイム	ふの患者に対する	治療計画⑫
13	全脳全衛	f髄 照射		13	リアルタイム	の患者に対する	治療計画⑬
14	脳転移に	対する定位照射		14	リアルタイム	の患者に対する	治療計画⑭
15	I期肺瘤	属に対する定位照象	t	15	リアルタイム	の患者に対する	治療計画⑮

講義コー	ド	*		専攻分野	?	最新医学	学研究コ	一フ	ζ	
講義題目	l	緩和	和医療学					必	修/選択	必修
担当教員		橋口	さおり		担	当教員連絡	先	内流	線 3670	
単位数		2単	位(前期 1・後	後期 1)	履	修年次		2 年	F.	
テーマと目的	的	緩和	医療の基本	的な考え方と	上緩	和的放射線	!治療の役割	削を	理解する	
講義計画		緩和	緩和医療の基本的事項を緩和的放射線治療との関連に主眼をおきつつ解説する					解説する		
達成目標		各症	各症状の評価法と治療法を理解し、臨床で実践できるようになる							
教科書・参	考書	専門	専門家をめざす人のための緩和医療学 南江堂							
準備学習(予習・	復習•時間)	上記	上記参考書を参考にして講義内容の該当箇所を予習・復習する 1時間						間	
成績評価法		出席	出席と講義内での発表、積極性、受講態度による総合評価							
卒業認定・等		自身の研究を遂行し論述する能力を習得する								
				講	ショウ ショウ ショウ ショウ ショウ ショウ ショウ ショウ ショウ ショウ	内 容				
前期(回)		内	容	(出席卿)		後期(回)		内	容	(出席卿)
1	症例検討	4 ①				1	症例検討	16		
2	症例検討	寸 ②				2	症例検討	17		
3	症例検討	4 3				3	症例検討	18		
4	症例検討	寸 ④				4	症例検討	19		
5	症例検討	4 ⑤				5	症例検討	20		
6	症例検討	4 @				6	症例検討	21)		
7	症例検討	寸 ⑦				7	症例検討	22		
8	症例検討	4 ®				8	症例検討	23		
9	症例検討	4				9	症例検討	24)		
10	症例検討	4 1				10	症例検討	25		
11	症例検討	4 (II)				11	症例検討	26		
12	症例検討	寸 ⑫				12	症例検討	27		
13	症例検討	寸 ①				13	症例検討	28		
14	症例検討	寸 ⑭				14	症例検討	29		
					-		<u> </u>			

講義題目 高精度放射線治療 必修/選生 担当教員 中村 直樹 担当教員連絡先 内線 3480 単位数 2単位(前期1・後期1) 履修年次 1年・2年 テーマと目的 高精度放射線治療の概略 講義計画 講義により意義、原理、適応疾患について知る。実際の症例で治療計経験する 達成目標 高精度放射線治療の適応疾患を理解する)
単位数 2単位(前期 1・後期 1) 履修年次 1年・2年 テーマと目的 高精度放射線治療の概略 講義により意義、原理、適応疾患について知る。実際の症例で治療計 経験する 高精度放射線治療の適応疾患を理解する	
テーマと目的 高精度放射線治療の概略 講義により意義、原理、適応疾患について知る。実際の症例で治療計 経験する 高精度放射線治療の適応疾患を理解する	十画の実際を
講義計画 講義により意義、原理、適応疾患について知る。実際の症例で治療計 経験する 高精度放射線治療の適応疾患を理解する	十画の実際を
議義計画 経験する 高精度放射線治療の適応疾患を理解する	十画の実際を
高精度放射線治療の適応疾患を理解する	
高精度放射線治療の原理と実際を理解する	
教科書・参考書 体幹部定位放射線治療-ガイドラインの詳細と照射マニュアルー ロ	中外医学社
準備学習(予習・復習・時間) 上記参考書を読破し、学習、実習にそなえる 1 時間	
成績評価法 出席と講義内での発表、積極性、受講態度による総合評価	
卒業認定・学位授与 の方針との関連性 放射線医学の知識に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を	:習得する
講義内容	
前期(回) 内容 (出席卿) 後期(回) 内容	(出席卿)
1 高精度放射線治療 総論 講義 1 症例を用いた治療計	画実習
2 高精度放射線治療 総論 講義 2 症例を用いた治療計	画実習
3 高精度放射線治療 総論 講義 3 症例を用いた治療計	画実習
4 高精度放射線治療 総論 講義 4 症例を用いた治療計画	画実習
5 高精度放射線治療 総論 講義 5 症例を用いた治療計画	画実習
6 高精度放射線治療 総論 講義 6 症例を用いた治療計画	画実習
7 高精度放射線治療 総論 講義 7 症例を用いた治療計画	画実習
8 高精度放射線治療 総論 講義 8 症例を用いた治療計画	画実習
9 高精度放射線治療 総論 講義 9 症例を用いた治療計画	画実習
10 高精度放射線治療 総論 講義 10 症例を用いた治療計	画実習
11 高精度放射線治療 総論 講義 11 症例を用いた治療計	画実習
12 高精度放射線治療 総論 講義 12 症例を用いた治療計	画実習
13 高精度放射線治療 総論 講義 13 症例を用いた治療計	画実習
14 高精度放射線治療 総論 講義 14 症例を用いた治療計画	画実習
15 高精度放射線治療 総論 講義 15 総合討論	

講義コー	٠۲	** 専攻分野 最新医学研究コース							
講義題目	1	臨床試験プ	の作成		必修/選択	選択			
担当教員		中村 直樹		担当教員連絡	先	内線 3480			
単位数		2 単位(前期 1・1	後期 1)	履修年次	1年・2年				
テーマと目的	的	臨床試験プロトコ	臨床試験プロトコールコンセプトの構成を理解する						
講義計画		臨床試験プロトコールコンセプトの構成を解説する							
達成目標		臨床試験プロトコールコンセプトが作成できる							
教科書•参	 考書	米国 SWOG に学ぶがん臨床試験の実践 医学書院							
	復習・時間)	上記参考書を参考にして講義内容の該当箇所を予習・復習する 1 時間							
成績評価法	<u> </u>	出席と講義内で	の発表、積極	性、受講態度による総合評価					
卒業認定・ <u>*</u> の方針との		自身の研究の遂	行能力を高め	්					
			講	& 内容					
前期(回)		内 容	(出席卿)	後期(回)		内容	(出席卿)		
1	プロトコ・	ールコンセプトの棒	 構成	1	臨床試験	コンセプトの批判	的吟味		
2	臨床試	険の枠組み		2	臨床試験	臨床試験コンセプトの批判的吟味			
3	Clinical	Question		3	臨床試験	臨床試験コンセプトの批判的吟味			
4	Social V	alue		4	臨床試験	臨床試験コンセプトの批判的吟味			
5	適格規準	、除外規準		5	臨床試験	臨床試験コンセプトの批判的吟味			
6	標準治療	ŧ		6	臨床試験コンセプトの批判的吟味				
7	試験治療	·····································		7	臨床試験コンセプトの批判的吟味				
8	エンドポ	イント		8	臨床試験	臨床試験コンセプトの批判的吟味			
9	PRO/Q	OL		9	臨床試験	コンセプトの批判	的吟味		
10	盲検化			10	臨床試験	コンセプトの批判	的吟味		
11	症例数請			11	臨床試験	コンセプトの批判	的吟味		
12	優越性語	式験		12	臨床試験	コンセプトの批判	的吟味		
13	非劣性語	式験		13	臨床試験	コンセプトの批判	的吟味		
14	探索的語	 式験		14	臨床試験	コンセプトの批判	的吟味		
15	検証的語	 式験		15	臨床試験	コンセプトの批判	 的吟味		

1 77T
究
•
教
育
の
概
略

孤

専攻分野/コース	最新医学研究コース
(英文名)	(Advanced Course for Medical Research)
研究指導教員	(代) 遊道 和雄

臨床検査医学は、臨床検査を中心として病態解析を行う臨床医学の一分野であり、臨床検査情報学、 臨床生理機能検査医学、臨床血液学、臨床化学、臨床微生物学、臨床免疫学などから構成される。 また付属病院においては、臨床検査部と協力し診療に不可欠な臨床検査の質の維持・向上を行うとと もに、診断に直結する検査所見の判定を行っている。すなわち、臨床検査医学は基礎医学と臨床医 学を結ぶ架け橋となるような病態解析に関する研究を行い、さらに種々の検査を通して診断や治療に 役立つ検査結果と関連する情報を臨床医に提供する役割を担っている。 従って本コースは、各種臨 床検査の持つ意義、内容を理解し、日常臨床における臨床検査の有効活用のための専門的知識と技 術の修得を目標とする。

教育の概略は、まず総論的事項として、精度管理を含めた全般的な検査成績管理法、検査部における廃棄物処理法や安全対策など検査部の運営に関する事項、Evidence Based Laboratory Medicine: EBLM の実際など、臨床検査の基本について学ぶ。次に各論的事項として、一般臨床検査医学、医化学、血液検査、血清生化学検査、感染症検査、輸血などについて学ぶ。さらに本大学院の臨床検査医学の特色として、心電図、脳波、呼吸機能検査などの各種生理機能検査と超音波検査について、専門的知識と技術の習得を到達目標としていることが挙げられる。また選択科目には、心臓電気生理学と血行動態・循環力学特論、臨床検査教育概論があり、臨床検査を中心とした心循環系の病態生理のみならず、医学教育や人材育成についてもより深く修得することが可能である。

一方、研究面においては、臨床検査医学が扱う領域は広範であり、超音波検査、心循環領域、および医学教育に関連する領域にある程度的を絞って研究を行う。 具体的な研究項目は、1. 循環器疾患における各種非観血的指標の臨床的意義、2. 超音波の各種臨床応用に関する研究、3. 医学教育と人材育成に関する研究、などである。

研究項目

準備学習(予習·復習)

- 1. 循環器疾患における各種非観血的指標の臨床的意義
- 2. 超音波の各種臨床応用に関する研究
- 3. 医学教育と人材育成に関する研究

1. 「標準臨床検査医学」(医学書院)を基本的な参考書とし、該当項目の概要を理解しておくこと 2. 超音波検査については、「超音波医学」(日本超音波医学会編)、または「超音波の基礎と装置」

- 2. 超音波検査については、「超音波医学」(日本超音波医学会編)、または「超音波の基礎と装置」 (ベクトル・コア)を基本的な参考書とし、該当項目の概要を理解しておくこと
- 3. 循環系については心機能と血流の計測法を理解しておくこと

講義コー	ド	*	専攻分野	最新医	学研究コース			
講義題目	I	臨床検査医療	学総論(1)	必修/選択 必修			
担当教員		右田王介		担当教員連絡	格先 内線 3158			
単位数		2 単位(前期 1・	後期 1)	履修年次	1年			
テーマと目的	的	臨床検査の基本について理解する。						
講義計画		各種臨床検査法、検査成績管理法、EBLM、など臨床検査に関する総論的事項にて に詳述する。						
達成目標		臨床検査の基本的事項を説明できる。						
教科書·参	考書	「標準臨床検査医学」医学書院、「臨床検査法提要」金原出版						
準備学習(予習・	復習•時間)	「標準臨床検査医学」第1章の概要を理解しておくこと 1 時間						
成績評価法		出席と質疑応答の内容、および受講態度により総合的に評価する。						
卒業認定・管		臨床検査医学の基礎的事項に関連する知見やこれまでの情報を評価・理解する。						
			講	的 容				
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)	内 容 (出席印			
1	診療にお	おける臨床検査の流	急義	1	基本的測定法および測定装置(1)			
2	臨床検査	をガイドライン(1)		2	基本的測定法および測定装置(2)			
3	臨床検査	をガイドライン(2)		3	基本的測定法および測定装置(3)			
4	臨床検査	をガイドライン(3)		4	基本的測定法および測定装置(4)			
5	適正な検	後体採取と取り扱い	(1)	5	基本的測定法および測定装置 (5)			
6	適正な権	食体採取と取り扱V	(2)	6	基本的測定法および測定装置(6)			
7	精度管理	里(1)		7	基本的測定法および測定装置(7)			
8	精度管理	里 (2)		8	基本的測定法および測定装置(8)			
9	精度管理	里 (3)		9	遺伝子検査の基礎技術 (1)			
10	精度管理	里 (4)		10	遺伝子検査の基礎技術 (2)			
11	基準値・	臨床判断値(1)		11	遺伝子検査の基礎技術 (3)			
11	22 1 112			<u></u>	12 F 17 Dt = 1 2 JCD 1117 (17)			
12		臨床判断値(2)		12	検査成績管理法(1)			
	基準値・			12 13				
12	基準値・ 基準値・	臨床判断値(2)			検査成績管理法(1)			

講義コー	·۲		専攻分野	最新医学	学研究コ [、]	ース		
講義題目	1	臨床検査医療	学総論(2	;)		必修/選択	必修	
担当教員		右田王介		担当教員連絡	格先 内線 3158			
単位数		1単位(前期 1)		履修年次	2年			
テーマと目的	的	臨床検査部の管	理運営に関す	る総論的事項	について習	熟する。		
講義計画		検体管理、人事管理、検査部における安全対策など臨床検査部の管理運営に関 る総論的事項について詳述する。					営に関す	
達成目標		臨床検査の基本的事項を述べることができる。 臨床検査部の管理運営を実践できる。						
教科書•参添	考書	「標準臨床検査図	「標準臨床検査医学」医学書院、「臨床検査法提要」金原出版					
準備学習(予習・	復習•時間)	「標準臨床検査医学」第1章の概要を理解しておくこと 1時間						
成績評価法		出席と質疑応答の内容、および受講態度により総合的に評価する。						
卒業認定・		臨床検査医学の基礎的事項に関連する知見やこれまでの情報を評価・理解する。					解する。	
			講義	内 容				
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内容	(出席卿)	
1	臨床検査	を おの体制		1				
2	臨床検査	査部の管理(1)		2				
3	臨床検査	査部の管理(2)		3				
4	臨床検査	査部の運営(1)		4				
5	臨床検査	査部の運営(2)		5				
6	職員教育	育(1)		6				
7	職員教育	育(2)		7				
8	多職種選	連携(1)		8				
9	多職種追	連携(2)		9				
10	多職種通	連携(3)		10				
11	多職種通	連携(4)		11				
12	医療安全	と対策(1)		12				
13	医療安全	と対策 (2)		13				
14	医療安全	と対策(3)		14				
15	医療安全	と対策(4)		15				

講義コー	ド		専攻分野 最新医学研究コース				
講義題目		一般臨床検	查医学特認	命(1)		必修/選択	必修
担当教員		右田王介		担当教員連絡	先	内線 3158	
単位数		2 単位(前期1・	後期 1)	履修年次		1年	
テーマと目的	勺	病態解析と診断に必要な一般臨床検査の基本的事項を理解する。					
講義計画		一般臨床検査について、意義、目的、実施上の注意点、結果の解釈について詳述す					詳述する。
達成目標		各一般臨床検査の意義、目的、実施上の注意点について述べることができる。 各一般臨床検査の結果の解釈と日常診療における注意点を述べることができる。					•
教科書•参表	考書	「標準臨床検査医学」医学書院、「臨床検査ガイド」文光堂					
準備学習(予習・2	復習•時間)	「標準臨床検査医学」第3、7、8、10 章の概要を理解しておくこと 1 時間					
成績評価法		出席と質疑応答の内容、および受講態度により総合的に評価する。					
卒業認定•	学位授与	受与 研究テーマを決め、科学的データの収集と解析を行って研究を遂行し、かつ発表を行					 つ発表を行う
の方針との関連性能力を習得する。							
			講義	克内容	T		
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内 容	(出席卿)
1	尿検査	(1)		1			
2					臨床細菌	検査(1) 	
	尿検査	(2)		2	臨床細菌		
3	尿検査 尿検査				臨床細菌		
_		(3)		2	臨床細菌	検査 (2)	
3	尿検査	(3)		2 3	臨床細菌臨床細菌	検査 (2) 検査 (3) 検査 (4)	
3	尿検査 糞便検3	(3) <u></u> <u></u> <u></u> <u></u>		2 3 4	臨床細菌臨床細菌臨床細菌	検査 (2) 検査 (3) 検査 (4) 査 (1)	
3 4 5	尿検査 糞便検査 穿刺液板	(3) 查 查 交 検査		2 3 4 5	臨床細菌 臨床細菌 臨床細菌 抗酸菌検	検査 (2) 検査 (3) 検査 (4) 査 (1) 査 (2)	
3 4 5 6	尿検査 糞便検3 穿刺液植 脳脊髄液	(3) 查 検査 変検査		2 3 4 5 6	臨床細菌 臨床細菌 抗酸菌検 抗酸菌検	検査 (2) 検査 (3) 検査 (4) 査 (1) 査 (2)	
3 4 5 6 7	尿検查 糞便検亞 穿刺液植 脳脊髓液 精液検査 体液量液	(3) 查 検査 変検査		2 3 4 5 6 7	臨床細菌 臨床細菌 抗酸菌検 抗酸菌検 ウイルス原	検査 (2) 検査 (3) 検査 (4) 査 (1) 査 (2)	
3 4 5 6 7 8	尿検查 糞便検查 穿刺液材 脳脊髓液 精液検查 体液量液	(3) 查 検査 支検査 E		2 3 4 5 6 7 8	臨床細菌臨床細菌抗酸素細菌抗酸菌検抗酸菌検	検査 (2) 検査 (3) 検査 (4) 査 (1) 査 (2)	検査法
3 4 5 6 7 8 9	尿 養 療 療 療 療 療 が 精 液 を 量 が に で に に に に に に に に に に に に に	(3) 查 検査 支検査 查 则定 浸透圧測定(1)		2 3 4 5 6 7 8 9	臨床細菌臨床細菌抗酸素細菌抗酸菌検抗酸菌検	検査 (2) 検査 (3) 検査 (4) 査 (1) 査 (2) 染症と検査 ・クラミジア感染症	検査法
3 4 5 6 7 8 9 10	尿 類 療 類 類 類 精 液 大 で に で に で に に に に に に に に に に に に に	(3) 查 查 交 檢查 查 题定 浸透 圧測定(1) 浸透 圧測定(2)		2 3 4 5 6 7 8 9	臨床細菌臨床細菌抗酸菌焼抗酸菌検ウイルス原ウイルス原	検査 (2) 検査 (3) 検査 (4) 査 (1) 査 (2)	検査法
3 4 5 6 7 8 9 10 11	尿 類 療 類 類 類 精 液 で で で で で で で の で の で の で の で の の で の の の の の の の の の の の の の	(3) 查 查 交 検查 查 题定 浸透圧測定(1) 浸透圧測定(2) 平衡検査(1)		2 3 4 5 6 7 8 9 10	臨床細菌菌の	検査(2) 検査(3) 検査(4) 査(1) 査(2)	検査法
3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	尿糞穿脳精体電電酸酸輸	(3) 查 查 查 查 使 使 查 是 是 透 是 是 透 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是 是		2 3 4 5 6 7 8 9 10 11	臨床細菌菌素 は 一	検査(2) 検査(3) 検査(4) 査(1) 査(2) ※染症と検査 ※染症検査法 ・クラミジア感染症 査法 査(1)	検査法

講義コード	Ī	専攻分野	最新医学码	最新医学研究コース			
講義題目	一般臨床検査	医学特論	i (2)		必修/選択	必修	
担当教員	信岡祐彦	-	担当教員連絡先	当教員連絡先 内線 3158			
単位数	1 単位 (前期 1)	J	履修年次		1年		
テーマと目的	動脈硬化検査法、	とくに血管壁	硬化の指標につ	いて理解	を深める。		
講義計画	血管壁硬化の指標 一、の4つの面から		能検査、画像検 査	至、血管 🛚	内皮機能、血液・生	生化学マーカ	
達成目標	 血管壁硬化の評価法 	よの理論と方法	、それぞれの利点	と欠点に [・]	ついて詳述すること	ができる。	
教科書·参考書	「標準臨床検査医学	学」医学書院	、「臨床検査法提	要」金原	出版		
準備学習(予習・復習・時間)	臨床的な狭窄の評	価法について	て基礎的事項を管	学習して	おくこと 1時間		
成績評価法	出席と質疑応答の	内容、および	受講態度により終	総合的に	評価する。		
卒業認定•学位授与	研究テーマを決め	、科学的デー	・タの収集と解析	を行って	研究を遂行し、か	つ発表を行う	
の方針との関連性	能力を習得する。						
		講義	内 容	I			
前期(回)	内 容	(出席卿)	後期(回)		内 容	(出席卿)	
1 生理機能	能検査(1) 電気生	理学的検査	1				
2 生理機能	能検査(2) 脈波伝	播速度	2				
3 生理機能	能検査(3) ABPI		3				
4 生理機能	能検査(4) 血圧、A	AI	4				
5 生理機能	能検査(5) 時相解	析、STI	5				
6 画像検3	査(1)頸動脈エコー	<u> </u>	6				
7 画像検	奎(2)心臓エコー		7				
8 画像検	查(3) 超音波 Dop	pler 法	8		2		
9 画像検	査(4) 下肢血管エ	.a	9				
10 画像検3	査(5) 血管内エコ		10				
11 画像検	奎(6)動脈造影、第	冠動脈造影	11				
12 血管内层	女機能		12				
13 血液・生	化学マーカー(1)	感染症関連	13				
14 血液・生	化学マーカー (2)	凝固線溶系	14				
15 血液・生	化学マーカー (3)	脂質関連	15				

講義コー	ド			専攻分野	F	最新医	学研究コ	ース	
講義題目		<u></u> —∯	一般臨床検査医学特論(3) 必修/選択 必修						
担当教員		信岡	l祐彦		担	当教員連	絡先	内線 3158	
単位数		1 単	位(後期 1)	履值	修年次		1年	
テーマと目的	勺	各種	各種臨床検査の臨床応用について習熟する。						
講義計画		各種	臨床検査法	よの臨床応用、	身体	亦見、画	「像所見との対	対比を詳述する。	
達成目標			・種臨床検査法と他の所見との対比を述べることができる。 ・種臨床検査法の日常臨床への応用について述べることができる。						
教科書•参孝	考書	「標 ⁱ	票準臨床検査医学」医学書院、「臨床検査法提要」金原出版						
準備学習(予習・	復習•時間)	主要	要な症候/病態と検査の適応について学習しておくこと 1時間						
成績評価法		出席	出席と質疑応答の内容、および受講態度により総合的に評価する。						
卒業認定・	学位授与	研究	研究テーマを決め、科学的データの収集と解析を行って研究を遂行し、かつ発表						かつ発表を行う
の方針との	関連性	能力	を習得する	0					
				講	義内	7 容			
前期(回)		内	容	(出席卿)	後其	期(回)	内	容	(出席卿)
1						1	検体検査の	臨床応用(1)	
2						2	検体検査の	臨床応用(2)	
3						3	生理機能検	査の臨床応用	(1)
4						4	生理機能検	査の臨床応用	(2)
5						5	生理機能検	査の臨床応用	(3)
6						6	生理機能検	査の臨床応用	(4)
7						7	超音波検査	(1)	
8						8	超音波検査	(2)	
9						9	エックス線(СТ	
10						10	核医学イメー	ージング(1)	
11						11	核医学イメー	ージング(2)	
12						12	磁気共鳴イ	メージング	
13						13	臨床検査と	他の所見との対	比(1)
14						14	臨床検査と	他の所見との対	比 (2)
15						15	臨床検査と	他の所見との対	比 (3)

講義題目							
	加文 四部 / 个 1 央 1	査医学特 諸	侖 (4)		必修/選択	必修	
担当教員	右田王介		担当教員連絡	先	内線 3158		
単位数 2	2 単位(前期 1・	後期 1)	履修年次		2年		
テーマと目的	各種臨床検査の	相互の関連に	ついて理解す	る。			
講義計画		種臨床検査法の相互の関連性について理解し、検査の重複や異なった結り 解釈について解説する。					
達成目標	各種臨床検査法 異なった結果に対			- •			
教科書•参考書	「標準臨床検査図	原準臨床検査医学」医学書院、「臨床検査法提要」金原出版					
準備学習(予習・復習・時間)	主要な症候/病	要な症候/病態と検査の適応について学習しておくこと 1時間					
成績評価法	出席と質疑応答の	出席と質疑応答の内容、および受講態度により総合的に評価する。					
		研究テーマを決め、科学的データの収集と解析を行って研究を遂行し、かつ発 能力を習得する。					
	講義内容						
前期(回)	内 容	(出席卿)	後期(回)		内 容	(出席卿)	
1 初期診療	(1)		1	甲状腺疾患			
2 初期診療	(2)		2	代謝性疾患(1)			
3 救急診療	(1)		3	代謝性疾	代謝性疾患 (2) 膠原病 (1)		
4 救急診療	(2)		4	膠原病(
5 肝・胆疾患	慧(1)		5	膠原病(2)			
6 肝・胆疾患	悬 (2)		6	膠原病(3)		
7 膵疾患			7	循環器系	疾患(1)		
8 血液疾患	(1)		8	循環器系	疾患(2)		
9 血液疾患	(2)		9	循環器系	疾患(3)		
10 血液疾患	(3)		10	循環器系	疾患(4)		
11 腎疾患(1)		11	循環器系	疾患(5)		
12 腎疾患(2)		12	呼吸器系	疾患(1)		
13 内分泌疾	患(1)		13	呼吸器系疾患(2)			
14 内分泌疾	患(2)		14	神経・筋疾患(1)			
15 内分泌疾	患(3)		15	神経・筋疾患 (2)			

担当教員 右田王介 担当教員連絡先 内線 3158 単位数 2 単位(前期1・後期1) 履修年次 1年 テーマと目的 血液・凝固系検査、輸血検査法について学ぶ。 血液・凝固系検査と輸血に関連する検査法の意義、目的、実施上の注意点、結論 釈、臨床応用について詳述する。	講義コー	۲		専攻分野	最新图	医学研究コ	ース			
単位数 2 単位 (前期1・後期1) 履修年次 1年 テーマと目的 血液・凝固系検査、輸血検査法について学ぶ。 血液・凝固系検査と輸血に関連する検査法の意義、目的、実施上の注意点、結果の解釈、臨床成目について詳述する。 血液・凝固系検査、輸血検査の意義、目的、実施上の注意点、結果の解釈、臨床成目標 を述べることができる。 数科書・参考書 「標準臨床検査医学」医学書院、「臨床検査ガイド」文光堂	講義題目		臨床血液生化	化学特論	(1)		必修/選択	必修		
テーマと目的 血液・凝固系検査・輸血検査法について学ぶ。 血液・凝固系検査・輸血に関連する検査法の意義、目的、実施上の注意点、結果の解釈、臨床成目標 無限 を述べることができる。 数科書・参考書 「標準臨床検査医学」医学書院、「臨床検査ガイド」文光堂 事業学習(予習・複習・時間) 「標準臨床検査医学」第4、9章の概要を理解しておくこと 1 時間 成績評価法 出席と質疑応答の内容、および受講態度により総合的に評価する。 本業認定・学位授与 研究テーマを決め、科学的データの収集と解析を行って研究を遂行し、かつ発表能力を習得する。 講義 内容 前期(回) 内容 (出席®) 後期(回) 内容 (出席题) 未終落の機序と検査(2) 3 血液凝固・線溶の機序と検査(3) 4 血液形態検査(1) 4 血液凝固・線溶の機序と検査(3) 4 血液形態検査(2) 5 血液形態検査(3) 6 血管系および血小板機能検査(3) 7 血液形態検査(4) 7 血管系および血小板機能検査(5) 8 溶血性貧血に関する検査(1) 8 血管系および血小板機能検査(5) 9 溶血性貧血に関する検査(2) 9 血管系および血小板機能検査(5) 10 血液核医学的検査(2) 9 血管系および血小板機能検査(5) 11 血液核医学的検査(2) 11 血管系および血小板機能検査(5) 11 血液核医学的検査(2) 11 血管系および血小板機能検査(6) 11 血液核医学的検査(2) 11 血管系および血小板機能検査(6) 11 血液核医学的検査(2) 11 血管系および血小板機能検査(6) 11 血液核医学的検査(2) 11 血管系および血小板機能検査(6) 11 血液核医学的検査(2) 11 血管系および血小板機能検査(6) 12 その他の血液関連検査 (1) 線溶系の検査(1)	担当教員		右田王介		担当教員連	基絡先	内線 3158			
講義計画 血液・凝固系検査と輸血に関連する検査法の意義、目的、実施上の注意点、結果、臨床応用について詳述する。 血液・凝固系検査、輸血検査の意義、目的、実施上の注意点、結果の解釈、臨床 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	単位数		2 単位 (前期 1・	単位(前期1・後期1) 履修年次 1年						
議義計画 釈、臨床応用について詳述する。 血液・凝固系検査、輪血検査の意義、目的、実施上の注意点、結果の解釈、臨居を成目標 を述べることができる。 教科書・参考書 「標準臨床検査医学」医学書院、「臨床検査ガイド」文光堂 準備学習(予習・複習・時間) 「標準臨床検査医学」第4、9章の概要を理解しておくこと 1 時間 成績評価法 出席と質疑応答の内容、および受講態度により総合的に評価する。 卒業認定・学位授与の方針との関連性 能力を習得する。	テーマと目的	5	血液•凝固系検査	至、輸血検査法	去について学	±\$;				
遊科書・参考書	講義計画									
プログラー では、	達成目標		-		主意点、結果の解	釈、臨床応用				
成績評価法 出席と質疑応答の内容、および受講態度により総合的に評価する。 卒業認定・学位授与 の方針との関連性 能力を習得する。 講 義 内 容 前期(回) 内 容 (出席側) 後期(回) 内 容 (出 1 採血法と抗凝固薬 1 血液凝固・線溶の機序と検査(1) 2 血球計数検査(1) 2 血液凝固・線溶の機序と検査(2) 3 血球計数検査(2) 3 血液凝固・線溶の機序と検査(3) 4 血液形態検査(1) 4 血液凝固・線溶の機序と検査(3) 4 血液形態検査(2) 5 血液凝固・線溶検査の試材・器具 5 血液形態検査(2) 5 血液凝固・線溶検査の基礎的検査 6 血液形態検査(3) 6 血管系および血小板機能検査(3) 7 血液形態検査(4) 7 血管系および血小板機能検査(3) 8 溶血性貧血に関する検査(1) 8 血管系および血小板機能検査(3) 9 溶血性貧血に関する検査(1) 8 血管系および血小板機能検査(3) 10 血液核医学的検査(1) 10 血管系および血小板機能検査(4) 11 血液核医学的検査(2) 11 血管系および血小板機能検査(4) 11 血液核医学的検査(2) 11 血管系および血小板機能検査(4) 12 その他の血液関連検査 12 線容系の検査(1)	教科書·参考	書	「標準臨床検査図	医学」医学書院	完、「臨床検 3	査ガイド」文光	堂			
卒業認定・学位授与の方針との関連性 研究テーマを決め、科学的データの収集と解析を行って研究を遂行し、かつ発表能力を習得する。 前期(回) 内容 (出席側) 後期(回) 内容 (出席側) 1 採血法と抗凝固薬 1 血液凝固・線溶の機序と検査(1) 2 血球計数検査(1) 2 血液凝固・線溶の機序と検査(2) 3 血球計数検査(2) 3 血液凝固・線溶の機序と検査(3) 4 血液形態検査(1) 4 血液凝固・線溶検査の試材・器具 5 血液形態検査(2) 5 血液凝固・線溶検査の基礎的検査 6 血液形態検査(3) 6 血管系および血小板機能検査(3) 6 血管系および血小板機能検査(3) 6 血管系および血小板機能検査(3) 8 溶血性貧血に関する検査(1) 8 血管系および血小板機能検査(3) 9 溶血性貧血に関する検査(2) 9 血管系および血小板機能検査(4) 10 血液核医学的検査(1) 10 血管系および血小板機能検査(4) 11 血液核医学的検査(2) 11 血管系および血小板機能検査(4) 12 表容系の検査(1) 血管系および血小板機能検査(4)	準備学習(予習・復	复習•時間)	「標準臨床検査図	€学」第4、9章	: 1時間					
の方針との関連性 能力を習得する。 前期(回) 内容 (出席⑩) 後期(回) 内容 (出 1 採血法と抗凝固薬 1 血液凝固・線溶の機序と検査(1) 2 血球計数検査(1) 2 血液凝固・線溶の機序と検査(2) 3 血球形数検査(2) 3 血液凝固・線溶検査の試材・器具 4 血液形態検査(1) 4 血液凝固・線溶検査の試材・器具 5 血液形態検査(3) 6 血管系および血小板機能検査(3) 6 血液形態検査(3) 6 血管系および血小板機能検査(3) 7 血液形態検査(4) 7 血管系および血小板機能検査(3) 8 溶血性貧血に関する検査(1) 8 血管系および血小板機能検査(3) 9 溶血性貧血に関する検査(2) 9 血管系および血小板機能検査(3) 10 血液核医学的検査(1) 10 血管系および血小板機能検査(3) 11 血液核医学的検査(2) 11 血管系および血小板機能検査(4) 12 表容の他の血液関連検査(1) 12 線溶系の検査(1)	成績評価法		出席と質疑応答の	出席と質疑応答の内容、および受講態度により総合的に評価する。						
講義内容 前期(回) 内容 (出席郵) 後期(回) 内容 (出 1 採血法と抗凝固薬 1 血液凝固・線溶の機序と検査(1) 2 血球計数検査(1) 2 血液凝固・線溶の機序と検査(2) 3 血球計数検査(2) 3 血液凝固・線溶の機序と検査(3) 4 血液形態検査(1) 4 血液凝固・線溶検査の試材・器具 5 血液形態検査(2) 5 血液凝固・線溶検査の基礎的検査(3) 6 血液形態検査(3) 6 血管系および血小板機能検査(3) 7 血液形態検査(4) 7 血管系および血小板機能検査(3) 8 溶血性貧血に関する検査(1) 8 血管系および血小板機能検査(3) 9 溶血性貧血に関する検査(2) 9 血管系および血小板機能検査(3) 10 血液核医学的検査(1) 10 血管系および血小板機能検査(4) 11 血液核医学的検査(2) 11 血管系および血小板機能検査(4) 12 その他の血液関連検査(1) 12 線溶系の検査(1)	卒業認定•学	2位授与	研究テーマを決る							
前期(回) 内容 (出席®) 後期(回) 内容 (出席®) 1 採血法と抗凝固薬 1 血液凝固・線溶の機序と検査(1) 2 血球計数検査(1) 2 血液凝固・線溶の機序と検査(2) 3 血液形態検査(2) 3 血液凝固・線溶検査の試材・器具 5 血液形態検査(2) 5 血液凝固・線溶検査の基礎的検査 6 血液形態検査(3) 6 血管系および血小板機能検査(3) 7 血液形態検査(4) 7 血管系および血小板機能検査(3) 8 溶血性貧血に関する検査(1) 8 血管系および血小板機能検査(3) 9 溶血性貧血に関する検査(2) 9 血管系および血小板機能検査(4) 10 血液核医学的検査(1) 10 血管系および血小板機能検査(4) 11 血液核医学的検査(2) 11 血管系および血小板機能検査(4) 12 その他の血液関連検査 12 線溶系の検査(1)	の方針との	関連性	能力を習得する。							
1 採血法と抗凝固薬 1 血液凝固・線溶の機序と検査(1) 2 血球計数検査(1) 2 血液凝固・線溶の機序と検査(2) 3 血液半数検査(2) 3 血液凝固・線溶検査の試材・器具 4 血液形態検査(1) 4 血液凝固・線溶検査の試材・器具 5 血液形態検査(2) 5 血液凝固・線溶検査の基礎的検査 6 血液形態検査(3) 6 血管系および血小板機能検査(2) 7 血液形態検査(4) 7 血管系および血小板機能検査(2) 8 溶血性貧血に関する検査(2) 9 血管系および血小板機能検査(3) 10 血液核医学的検査(1) 10 血管系および血小板機能検査(3) 11 血液核医学的検査(2) 11 血管系および血小板機能検査(4) 12 その他の血液関連検査 12 線溶系の検査(1)					1					
2 血球計数検査(1) 2 血液凝固・線溶の機序と検査(2) 3 血液形態検査(2) 3 血液凝固・線溶の機序と検査(3) 4 血液形態検査(1) 4 血液凝固・線溶検査の試材・器具 5 血液形態検査(2) 5 血液凝固・線溶検査の基礎的検査 6 血液形態検査(3) 6 血管系および血小板機能検査(3) 7 血液形態検査(4) 7 血管系および血小板機能検査(3) 8 溶血性貧血に関する検査(1) 8 血管系および血小板機能検査(3) 9 溶血性貧血に関する検査(2) 9 血管系および血小板機能検査(4) 10 血液核医学的検査(1) 10 血管系および血小板機能検査(4) 11 血液核医学的検査(2) 11 血管系および血小板機能検査(4) 12 その他の血液関連検査 12 線溶系の検査(1)	前期(回)		内 容	(出席卿)	後期(回)				
3 血球計数検査(2) 3 血液凝固・線溶の機序と検査(3) 4 血液形態検査(1) 4 血液凝固・線溶検査の試材・器具 5 血液形態検査(2) 5 血液凝固・線溶検査の基礎的検査 6 血液形態検査(3) 6 血管系および血小板機能検査(3) 7 血液形態検査(4) 7 血管系および血小板機能検査(3) 8 溶血性貧血に関する検査(1) 8 血管系および血小板機能検査(3) 9 溶血性貧血に関する検査(2) 9 血管系および血小板機能検査(4) 10 血液核医学的検査(1) 10 血管系および血小板機能検査(4) 11 血液核医学的検査(2) 11 血管系および血小板機能検査(4) 12 その他の血液関連検査 12 線溶系の検査(1)	1	採血法と	:抗凝固薬 		1	血液凝固				
4 血液形態検査(1) 4 血液凝固・線溶検査の試材・器具 5 血液形態検査(2) 5 血液凝固・線溶検査の基礎的検査 6 血液形態検査(3) 6 血管系および血小板機能検査(3) 7 血液形態検査(4) 7 血管系および血小板機能検査(3) 8 溶血性貧血に関する検査(1) 8 血管系および血小板機能検査(3) 9 溶血性貧血に関する検査(2) 9 血管系および血小板機能検査(4) 10 血管系および血小板機能検査(4) 11 血液核医学的検査(2) 11 血管系および血小板機能検査(6) 12 その他の血液関連検査 12 線溶系の検査(1)	2	血球計数	放検査(1) 		2	血液凝固				
5 血液形態検査(2) 5 血液凝固・線溶検査の基礎的検査 6 血液形態検査(3) 6 血管系および血小板機能検査(3) 7 血液形態検査(4) 7 血管系および血小板機能検査(3) 8 溶血性貧血に関する検査(1) 8 血管系および血小板機能検査(3) 9 溶血性貧血に関する検査(2) 9 血管系および血小板機能検査(4) 10 血液核医学的検査(1) 10 血管系および血小板機能検査(4) 11 血液核医学的検査(2) 11 血管系および血小板機能検査(4) 12 その他の血液関連検査 12 線溶系の検査(1)	3	血球計数	放検査(2)		3	血液凝固	経固・線溶の機序と検査(3) 			
6 血液形態検査(3) 6 血管系および血小板機能検査(3) 7 血液形態検査(4) 7 血管系および血小板機能検査(2) 8 溶血性貧血に関する検査(1) 8 血管系および血小板機能検査(2) 9 溶血性貧血に関する検査(2) 9 血管系および血小板機能検査(2) 10 血液核医学的検査(1) 10 血管系および血小板機能検査(2) 11 血液核医学的検査(2) 11 血管系および血小板機能検査(6) 12 その他の血液関連検査 12 線溶系の検査(1)	4	血液形態	態検査(1)		4	血液凝固	固・線溶検査の試材・器具			
7 血液形態検査(4) 7 血管系および血小板機能検査(2) 8 溶血性貧血に関する検査(1) 8 血管系および血小板機能検査(2) 9 溶血性貧血に関する検査(2) 9 血管系および血小板機能検査(4) 10 血液核医学的検査(1) 10 血管系および血小板機能検査(4) 11 血液核医学的検査(2) 11 血管系および血小板機能検査(4) 12 その他の血液関連検査 12 線溶系の検査(1)	5	血液形態	態検査(2)		5	血液凝固	液凝固・線溶検査の基礎的検査法			
8 溶血性貧血に関する検査(1) 8 血管系および血小板機能検査(3) 9 溶血性貧血に関する検査(2) 9 血管系および血小板機能検査(4) 10 血液核医学的検査(1) 10 血管系および血小板機能検査(5) 11 血液核医学的検査(2) 11 血管系および血小板機能検査(6) 12 その他の血液関連検査 12 線溶系の検査(1)	6	血液形態	 態検査(3)		6	血管系お	血管系および血小板機能検査(1)			
9 溶血性貧血に関する検査(2) 9 血管系および血小板機能検査(4) 10 血液核医学的検査(1) 10 血管系および血小板機能検査(5) 11 血液核医学的検査(2) 11 血管系および血小板機能検査(6) 12 その他の血液関連検査 12 線溶系の検査(1)	7	血液形態	態検査(4)		7	血管系お	血管系および血小板機能検査(2)			
10 血液核医学的検査(1) 10 血管系および血小板機能検査(2) 11 血液核医学的検査(2) 11 血管系および血小板機能検査(6) 12 その他の血液関連検査 12 線溶系の検査(1)	8	溶血性貧	貧血に関する検査	(1)	8	血管系お	よび血小板機能	倹査(3)		
11 血液核医学的検査(2) 11 血管系および血小板機能検査(6) 12 その他の血液関連検査 12 線溶系の検査(1)	9	溶血性貧	貧血に関する検査	(2)	9	血管系お	よび血小板機能	负査(4)		
12 その他の血液関連検査 12 線溶系の検査(1)	10	血液核图	医学的検査(1)		10	血管系お	よび血小板機能	 负査(5)		
	11	血液核图	医学的検査(2)		11	血管系お	よび血小板機能	金金(6)		
13 輸血関連検査(1) 13 線溶系の検査(2)	12	その他の	 D血液関連検査		12	線溶系の	· 検査(1)			
	13	輸血関連	 車検査(1)		13	線溶系の				
14 輸血関連検査(2) 14 凝固・線溶活性の分子マーカー (14	輸血関連	 基検査(2)		14	凝固・線	凝固・線溶活性の分子マーカー(1)			
15 組織適合性抗原 (HLA) 検査 15 凝固・線溶活性の分子マーカー (15	組織適合	合性抗原(HLA)	検査	15	凝固•線	容活性の分子マー	カー (2)		

講義コー	ド		専攻分野	手	是新 图	医学研究コ	ース		
講義題目		臨床血液生	化学特論	(2)			必修/選択	必修	
担当教員		右田王介		担当教員連絡先			内線 3158	内線 3158	
単位数		2 単位(前期 1・	後期 1)	履修	年次		2年		
テーマと目的	勺	臨床化学、臨床	免疫検査法に	ついて	学ぶ	0			
講義計画		臨床化学、臨床 床応用について		検査法	の意	義、目的、実施	国上の注意点、結	果の解釈、臨	
達成目標		臨床化学、臨床免疫検査法(述べることができる。			目的	、実施上の注意	意点、結果の解釈	、臨床応用を	
教科書・参え	善	「標準臨床検査	医学」医学書際	完、「臨	床検3	査ガイド」文光』	堂		
 準備学習(予習・行	復習•時間)	「標準臨床検査[医学」第5、6章	ぎの概!	要を理	解しておくこと	1時間		
成績評価法		出席と質疑応答	の内容、および	び受講	態度に	こより総合的に	評価する。		
卒業認定・	学位授与	研究テーマを決	め、科学的デ	ータの	収集と	解析を行って	研究を遂行し、か	つ発表を行う	
の方針との	関連性	能力を習得する	5						
			講	多内	容				
前期(回)		内 容	(出席卿)	後期(回)	内	容	(出席卿)	
1	臨床化學	学分析の基礎 		1		免疫検査総計	論		
2	測定法0	り標準化と標準物質	質	2		免疫グロブリン・補体系の検査(1)			
3	血漿蛋白	<u> </u>		3		免疫グロブリン・補体系の検査(2)			
4	非蛋白窒	置素化合物		4		リンパ球・食糸	パ球・食細胞(好中球)機能検査 (1)		
5	糖質とそ	の代謝関連物質	(有機酸)	5		リンパ球・食細胞(好中球)機能検査(2)			
6	血清脂質	質とリポ蛋白(1)		6		サイトカイン・	ケモカイン・接着な	子(1)	
7	血清脂質	質とリポ蛋白(2)		7		サイトカイン・	ケモカイン・接着を	子 (2)	
8	生体色素	K		8		アレルギー検	査 (1)		
9	微量元素	K		9		アレルギー検	査 (2)		
10	酵素とア	インザイム測定法	(1)	10		自己免疫疾患	息に関する検査(1)	
11	酵素とア	イソザイム測定法	(2)	11		自己免疫疾患	息に関する検査(2)	
12	腫瘍マー	-カー		12		自己免疫疾患	息に関する検査(3)	
13	虚血性心	公疾患の生化学的	フマーカー	13		免疫血清学的検査(1)			
14	骨代謝、	マーカー		14		免疫血清学的検査(2)			
					<u> </u>	感染症(非ウイルス性)の免疫検査			

講義コー	·ド		専攻分野	予最	新医学研究コ [、]	ース			
講義題目	1	超音波検査	医学			必修/選択	必修		
担当教員		信岡祐彦		担当教	員連絡先	内線 3158			
単位数		2 単位(前期 1・	後期 1)	履修年	次	1年			
テーマと目的	·····································	超音波医学の基	本的事項に~	ついて習	熟する。				
講義計画		超音波検査法の	原理、意義、	結果の角	解と注意点、臨床	応用について詳	述する。		
達成目標					ついて述べることが a床応用についてi	_ •	·o		
教科書・参	考書	「超音波医学」日本超音波医学会編、「超音波の基			「超音波の基礎と物	長置」ベクトル・コア			
準備学習(予習・	復習•時間)	「超音波の基礎と 学習しておくこと	図音波の基礎と装置」の物理性質、原理と方式、プローブ、安全・管 習しておくこと 1 時間						
成績評価法	•	出席と質疑応答の	疑応答の内容、および受講態度により総合的に評				評価する。		
卒業認定・		研究テーマを決め能力を習得する。	め、科学的データの収集と解析を行って研究を遂行し、かっ				つ発表を行う		
			講 義 内 容						
前期(回)		内 容 (出	出席 (1) 後	期(回)	内名	出)	席卿)		
1	物理性質	1		1	超音波検査の臨	床応用 : 甲状腺	(1)		
2	原理と力	式 (1)		2	超音波検査の臨)臨床応用 : 甲状腺(2)			
3	原理と力	式 (2)		3	超音波検査の臨	臨床応用 : 頸動脈			
4	プローフ	y		4	超音波検査の臨	塩床応用 : 乳腺(1)			
5	装置の認	周整		5	超音波検査の臨	臨床応用 : 乳腺(2)			
6	アーチフ	ファクト		6	超音波検査の臨	床応用 : 消化器	录(1)		
7	表示系			7	超音波検査の臨	床応用 : 消化器	₹ (2)		
8	計測の原	京理(1)		8	超音波検査の臨	床応用 : 消化器	· (3)		
9	計測の原	京理(2)		9	超音波検査の臨	床応用 : 腎・泌			
10	超音波	Doppler 法(1)		10	超音波検査の臨	床応用 : 腎・泌	尿器(2)		
11	超音波	Doppler 法(2)		11	超音波検査の臨	床応用 : 産婦人	科 (1)		
12	記録装置			12	超音波検査の臨	床応用 : 産婦人	.科(2)		
13	安全•管	·····································		13	超音波検査の臨	床応用 : リンパ			
14	新しい超	迢音波技術(1)		14	超音波検査の臨	検査の臨床応用 : 末梢血管 (1)			
15	新しい超	迢音波技術(2)		15	超音波検査の臨	床応用 : 末梢血	1管(2)		

講義コー	ド		専攻分野	最新医	学研究コ	最新医学研究コース			
講義題目		超音波検査[超音波検査医学実習 必修/選択 必修						
担当教員		信岡祐彦		担当教員連絡	各先	内線 3158			
単位数		2 単位 (前期 1・	単位(前期 1・後期 1) 履修年次 2年						
テーマと目的	内	超音波検査法の	基本的な技術	を習得する。	,				
講義計画				理や機器の構造、 を手技を習得する	-				
達成目標		超音波検査実施 基本的な超音波			べることがて	ぎ きる。			
教科書·参	考書	「超音波医学」日	本超音波医学	全会編、「超音	皮の基礎と装	長置」ベクトル・コア			
準備学習(予習・	復習•時間)		超音波の基礎と装置」のプローブ、装置の調整、アーチファクト、計測の原置の項の概要を学習しておくこと 1時間						
成績評価法		出席と質疑応答の	の内容、およて	ド受講態度に 』	け総合的に	評価する。			
卒業認定・		高度に専門的な業務に従事するに必要な研究能力を習				得する。			
			講義	内 容					
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内容	(出席卿)		
1	甲状腺	(1)		1	腎·泌尿器(1)				
2	甲状腺	(2)		2	腎·泌尿器 (2)				
3	頸動脈	(1)		3	臀·泌尿器(3)				
4	頸動脈	(2)		4	腎・泌尿器(4)				
5	乳腺(1	.)		5	産科・婦/	(1)			
6	乳腺(2	2)		6	産科・婦/	(2)			
7	乳腺(3	3)		7	産科・婦/	(3)			
8	乳腺 (4	<u>l</u>)		8	産科・婦/	(4)			
9	消化器•	复部(1) 9 超音波 Doppler 法(1)							
10	消化器·	腹部(2)		10		oppler 法(2)			
10 11				10 11		oppler 法(2)			
	消化器・	腹部(2)			超音波 D	oppler 法(2)			
11	消化器· 消化器·	腹部(2) 腹部(3)		11	超音波 D 眼科領域	oppler 法(2)			
11 12	消化器• 消化器•	腹部 (2) 腹部 (3) 腹部 (4)		11 12	超音波 D 眼科領域整形外科	oppler 法(2) 領域			

講義コー	ド	専攻分野 最新医学研究=					ース		
講義題目		臨床生理機能	能検査医学	学			必修/選抜	7	必修
担当教員		信岡祐彦		担当	当教員連絡先	内線 3158			
単位数		4単位(前期 2•	後期 2)	履修	多年次		1年		
テーマと目的	勺	各種生理機能検	査の基本的事	項に	こついて習熟さ	する。			
講義計画		各種生理機能検査	を法の原理、意	義、	結果の解釈と	注意点、	臨床応用につ	いて	詳述する。
達成目標		各種生理機能検 各種生理機能検							ぶできる。
 教科書·参表	香書	「標準臨床検査図	医学」医学書院	老、「 臣	臨床検査法提	要」金原	(出版		
準備学習(予習・	復習•時間)	「標準臨床検査図	「標準臨床検査医学」第 11、12、13、14 章の概要を理					1 眡	計間
成績評価法		出席と質疑応答の	の内容、および	グ受討	構態度により約	合的に	評価する。		
卒業認定・	学位授与	研究テーマを決る	か、科学的デ [、]	ータの	の収集と解析を	を行って	研究を遂行し	、か	つ発表を行う
の方針との	関連性	能力を習得する。							
			講	6 内	容				
前期(回)		内 容	(出席卿)		後期(回)		内 容		(出席卿)
1	生理機能				1	呼吸機	能検査(1)		
2	循環機能	能検査(1): 血圧	•		2	呼吸機	能検査(2)		
3	循環機能	龙検査(2):末梢	血管検査		3	消化管	消化管機能検査		
4	循環機能	能検査(3): 心機	図-1		4	膵機能	ᄨ機能検査		
5	循環機能	北検査(4): 心機	図-2		5	肝·胆	肝・胆道機能検査(1)		
6	循環機能		図-1		6	肝·胆;	道機能検査(2)	
7	循環機能		图-2		7	腎機能	検査 (1)		
8	循環機能		図-1		8	腎機能	後 (2)		
9	循環機能		図-2		9	神経・角	筋機能検査(1)	筋電図
10	循環機能	- - - - - - - - - - - - - - - - - - -	超音波-1		10	神経・角	筋機能検査(2)	脳波−1
11	循環機能				11	神経・角	 筋機能検査(3)	———— 脳波−2
12	循環機能	 北検査(11): 心臓	 カテーテル-1	-	12	自律神		(1)	
13	循環機能		 カテーテル-2	?	13	自律神	経機能検査	(2)	
14	循環機能		生理学的検査	:	14	サーモ	グラフィー		
15	循環機能				15	感覚機			
					1				

講義コー	·F	*	専攻分野	最新医生	学研究コ [、]	ース		
講義題目	I	心臟電気生	理学特論			必修/選択	選択	
担当教員		信岡祐彦		担当教員連絡	各先	内線 3158		
単位数		2 単位(前期 1・	単位(前期 1・後期 1) 履修年次 1年					
テーマと目的	的	心電図判読の基	礎的事項であ	る心臓電気生	理学につい	て理解する。		
講義計画		心臓の電気現象 電図の意味につ			関連、心電	図記録の基礎的	事項、異常心	
達成目標		心臓の電気現象	と心電図波形	の成り立ちとの	関係を述べ	べることができる。		
教科書・参	考書	「診断のための心	い電図とベクト	レ心電図」、Ha	rold Friedm	an 著、真島三郎記	沢、廣川書店	
準備学習(予習・	復習•時間)	心電図の正常波	形を理解して	Ī				
成績評価法		出席と質疑応答	の内容、および	り総合的に	評価する。			
卒業認定・		専攻分野の知見	「攻分野の知見を理解し、高いレベルの論文を執筆できる能力を習得					
			講	喜内 容				
前期(回)		内 容	(出席卿)	後期(回)		内容	(出席卿)	
1	膜電位、	脱分極、再分極		1	虚血性心	疾患(1)		
2	心臓刺激	敵伝導系の生理と	解剖	2	虚血性心疾患(2)			
3	心電図の	の誘導法		3	心筋疾患 / 心筋症			
4	ベクトル	の概念		4	心膜疾患	心膜疾患		
5	正常心智	電 図		5	先天性心	先天性心疾患		
6	正常べん	ナトル心電図		6	肺疾患	肺疾患		
7	体表面~	マッピング、遅延電	位	7	電解質異	常		
8	異常 Q	波		8	薬剤の心	電図への影響		
9	ST 部分	、T 波、QT 時間		9	全身性疾	患と心電図所見		
10	軸偏位			10	不整脈の	生理学的考察		
11	心房の昇	星常		11	異所性調	律 / 期外収縮		
			-		頻脈性上室不整脈			
12	心室拡大	大、肥大		12	頻脈性上	室不整脈		
12 13		大、肥大 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三		12	+	室不整脈 ———— 室不整脈		
	心室内位	•			+	室不整脈		

講義コー	ド	*	専攻分野	最新	医学研究コ	ース		
講義題目		 臨床検査教 ⁻	育概論			必修/選択	選択	
担当教員		右田王介		担当教員证	連絡先 内線 3158			
単位数		2 単位(前期 1・	後期 1)	履修年次	2年			
テーマと目的	勺	医学教育の理論	と実践の基礎	を学ぶ				
講義計画		教育計画の立案	、方略、評価	の手法につ	いての基本を	詳述する。		
達成目標		1. 教育計画を立 2. 評価法の種類	- , ,			ぶできる。 選択することができ	さる 。	
教科書•参表	芳書	 「医学教育の理論 	論と実践」、J Æ	A Dent、R M	Harden 編著	、篠原出版新社		
準備学習(予習・	復習•時間)	上記教科書の第	1部の概要を	∵理解してお	くこと 1時間			
成績評価法		出席と質疑応答の	の内容、および	び受講態度	により総合的に	上評価する。		
卒業認定・等		豊かな人間性や	人類社会に貢	貢献できる能	力について理	解を深め、医学・研	研究倫理につ	
			講	奏 内 容				
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)	内	容	(出席卿)	
1	カリキュラ	ラムの要素		1	教育支援(1) バーチャル学習		
2	カリキュ	ラム開発の基礎		2	教育支援(2)シミュレーション	/教育	
3	アウトカ・	ム基盤型カリキュラ	٠,	3	教育支援(3) e-learning		
4	授業形態	5		4	カリキュラムの	のテーマ(1)基礎	姓•臨床医学	
5	必修科目	目と選択科目		5	カリキュラムの	テーマ(2)コミュニケ	ケーションスキル	
6	効果的な	2生涯教育		6	カリキュラムの	のテーマ(3)倫理	型と態度	
7	教育方式	各(1)講義		7	評価(1)記	平価の原則		
8	教育方岡	各(2)実習		8	評価 (2) 台	合否判定基準		
9	教育方式	各(3)自主学習		9	評価 (3) 評	平価手法の選択		
10	教育方式	各(4)PBLとTB	L	10	評価 (4) 筆	É記試験と客観試験)	
11	教育方式	各(5)アクティブ	ラーニング	11	評価 (5) ノ	ペフォーマンス評価	İ	
12	教育方岡	各(6)専門職種間	間教育	12	評価 (6) 諸	参療現場における 詞	平価	
13	学習環境	竟(1)外来教育		13	評価 (7) オ	ポートフォリオ		
14	学習環境	竟(2)ベッドサイ	ド教育	14	評価(8)夕	卜部評価者		
15	学習環境	竟(3)地域におん	ける教育	15	教育に関する	る研究手法		

講義コート	7	*	専攻分野	最新医生	学研究コ [、]	最新医学研究コース			
講義題目		血行動態、循	盾環力学 特	論		必修/選択	選択		
担当教員		信岡祐彦		担当教員連絡	先	内線 3158			
単位数		2 単位(前期 1・	後期 1)	履修年次		2年			
テーマと目的	J	心循環系の機能	と血行動態、	盾環力学につい	いて理解する	5 .			
講義計画		心機能、心室-動脈連関を主体とする心循環系の機能と血行力学、 詳述する。					力学について		
達成目標		心循環力学の基 心循環系の血行			-				
教科書·参考	書	別途指示する。							
準備学習(予習・復	[習・時間)	心機能の評価法	機能の評価法の種類を列挙しておくこと 1 時間						
成績評価法		出席と質疑応答の	の内容、および	ド受講態度によ	り総合的に	評価する。			
卒業認定・学 の方針との		高度な研究能力	馬度な研究能力の遂行の基礎となる知識を習得する。						
			講義内容						
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内容	(出席卿)		
1	心 館 ID 級								
	10.1371 JUN	留の分子機構		1	形態学的	アプローチ(1)			
2		留の分子機構 上筋変力機序		2		アプローチ(1) アプローチ(2)			
		と筋変力機序			形態学的				
3	Ca 動態 遊離心館	と筋変力機序		2	形態学的形態学的	アプローチ(2)			
3 4	Ca 動態 遊離心館	と筋変力機序 筋の収縮 歯の機械的特性		2 3	形態学的 形態学的 力学的ア	アプローチ (2)			
3 4 5	Ca 動態 遊離心館 心筋収網 心臓の収	と筋変力機序 筋の収縮 歯の機械的特性		2 3 4	形態学的 形態学的 力学的ア 力学的ア	アプローチ (2) アプローチ (3) プローチ (1)			
3 4 5 6	Ca 動態 遊離心館 心筋収網 心臓の収	と筋変力機序 筋の収縮 歯の機械的特性 又縮性 は機能曲線		2 3 4 5	形態学的 形態学的 力学的ア 力学的ア 力学的ア	アプローチ (2) アプローチ (3) プローチ (1) プローチ (2)			
3 4 5 6 7	Ca 動態 遊離心筋 心筋収納 心臓の収 基本的な 局所的機	と筋変力機序 筋の収縮 歯の機械的特性 又縮性 は機能曲線		2 3 4 5 6	形態学的 形態学的 力学的ア 力学的ア 力学的ア	アプローチ (2) アプローチ (3) プローチ (1) プローチ (2) プローチ (3)	(1)		
3 4 5 6 7 8	Ca 動態 遊離心筋 心筋収納 心臓の収 基本的な 局所的機 ポンプと	と筋変力機序 筋の収縮 歯の機械的特性 又縮性 は機能曲線 機能曲線		2 3 4 5 6 7	形態学的 形態学的 力学的ア 力学的ア 力学的ア 力学的ア	アプローチ (2) アプローチ (3) プローチ (1) プローチ (2) プローチ (3) プローチ (4)	· ·		
3 4 5 6 7 8 9	Ca 動態 遊離心態 心筋収納 心臓の収 基本的な 局所的機 ポンプと 圧一容和	と筋変力機序 の収縮 歯の機械的特性 又縮性 は機能曲線 機能曲線 しての心臓		2 3 4 5 6 7 8	形態学的 形態学的 力学的ア 力学的ア 力学的ア 力学的ア	アプローチ (2) アプローチ (3) プローチ (1) プローチ (2) プローチ (3) プローチ (4) 学的アプローチ 学的アプローチ	· ·		
3 4 5 6 7 8 9	Ca 動態 遊離心筋 心臓の心 基本的な 局所の ポンプと 不 に 一 容和	と筋変力機序 筋の収縮 歯の機械的特性 又縮性 は機能曲線 機能曲線 しての心臓 責関係(1)	1)	2 3 4 5 6 7 8 9	形態学的 形態学的 力学的ア 力学的ア 力学的ア 電気生理	アプローチ (2) アプローチ (3) プローチ (1) プローチ (2) プローチ (3) プローチ (4) 学的アプローチ 学的アプローチ (1)	· ·		
3 4 5 6 7 8 9 10	Ca動態 遊離心解 心臓の心 基本所プと 局ポンプ容和 エー動脈	と筋変力機序 筋の収縮 筋の機械的特性 及縮性 は機能曲線 ・機能曲線 ・機能曲線 ・関係 (1) ・責関係 (2)		2 3 4 5 6 7 8 9	形態学的 形態学的 力学的ア 力学的ア 力学的ア 電気生理 電流計測	アプローチ (2) アプローチ (3) プローチ (1) プローチ (2) プローチ (3) プローチ (4) 学的アプローチ 学的アプローチ (1) (2)	· ·		
3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	Ca動態 心臓のが 心臓のが を が を が が が が が が が が が が が が り が り り り り	と筋変力機序 の収縮 をの機械的特性 な機能曲線 機能曲線 関係 (1) 関係 (2)		2 3 4 5 6 7 8 9 10	形態学的 形態学的 力学的 力学の 力学の する では では ない ので がい ので ので ので ので ので ので ので ので ので ので ので ので ので	アプローチ (2) アプローチ (3) プローチ (1) プローチ (2) プローチ (3) プローチ (4) 学的アプローチ 学的アプローチ (1) (2) (1)			
3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13	Ca動態 心心基局ポ圧圧大大心 基局ポモー動動室 かがなる容が 動態 動態	と筋変力機序 の収縮 歯の機械的特性 な機能曲線 機能曲線 しての心臓 責関係 (1) 責関係 (2) コンプライアンス (2)		2 3 4 5 6 7 8 9 10 11	形態学的的アクターを対している。 形態学的的のアクターを対している。 からいる。 いるいる。 からいる。 のもいる。	アプローチ (2) アプローチ (3) プローチ (1) プローチ (2) プローチ (3) プローチ (4) 学的アプローチ 学的アプローチ (1) (2) (1)			

研
究
•
教
育
の
概
略

専攻分野/コース	最新医学研究コース
(英文名)	(Advanced Course for Medical Research)
研究指導教員	佐々木 信幸

現在わが国では、男性は9年、女性は13年もの間、要介護状態にある。2025年問題・2040年問題を目前に控え、リハビリテーション医学の需要はますます高まっているといえよう。過去には、後遺症に対する機能代償がリハビリテーションの主要素であったが、今日ではより積極的に障害そのものを改善させる治療的医学、そもそも障害を残さないための急性期リハビリテーションが急速に発展している。

特に脳卒中など中枢神経症状に対するニューロリハビリテーションの発展は著しく、聖マリアンナ医科大学リハビリテーション科では、まだ保険適用されていない反復性経頭蓋磁気刺激(rTMS)による中枢神経治療を世界に先駆けて臨床に用いている。急性期~慢性期脳卒中の麻痺や高次脳機能障害、治療法のない神経難病の歩行障害などに対する効果が明らかにされており、こういった成果は患者のみならず、健康寿命の延伸が喫緊の課題であるわが国の医療体制にとって有益である。

また元々聖マリアンナ医科大学リハビリテーション部門は循環・呼吸などの内部疾患に対するリハビリテーション治療において、国内でも有数の実績を有している。2020年のリハビリテーション医学講座の開設とともに、より生理学・生化学的に精度の高い有効性を発信すべく臨床研究を継続している。

本大学院では、これからますます需要の高くなるリハビリテーション医学において、世界をリードする人 材を育成することを目的とする。

研究

項

目

- 1. 急性期脳卒中に対する反復性経頭蓋磁気刺激 (rTMS)
- 2. 高次脳機能障害に対する反復性経頭蓋磁気刺激 (rTMS)
- 3. 神経難病に対する反復性経頭蓋磁気刺激 (rTMS)
- 4. 高次脳機能と脳血流量の関係
- 5. 心不全における運動負荷と循環応答
- 6. 侵襲状態における筋の分解と合成

準備学習(予習·復習)

リハビリテーション自体は古くからあるものの、リハビリテーション医学はまだ新しく、今のところブルーオーシャンである。そのためちょっとした臨床的疑問が非常に重要であり、大きな成果につながる可能性も高い。そういったヒントというべき臨床的疑問に対し、現状どの程度の解決が世界でなされているのか、その論拠やエビデンスについて整理しておく。

講義コー	ド	*	専攻分野	最新医	学研究=	ュース			
講義題目	I	リハビリテー	ション医学	既要		必修/選択	必修		
担当教員		佐々木 信幸		担当教員連絡	8先	PHS81164			
単位数		2 単位(前期1,	後期1)	履修年次		1年(2年でも可)		
テーマと目的	的	リハビリテーション	/医学・医療の	概要を把握し	疑問につな	げる			
講義計画			リハビリテーションの歴史、現在一般的に行われているリハビリテーション治療につい [、] 講義を通じて学習する						
達成目標			現在までのリハビリテーション医学を知り、現状における限界を把握する。 そこから新たな疑問点を見つける。						
教科書・参	考書	最新リハビリテー	ション医学 第	3版 医歯薬	出版株式会	·····································			
準備学習(予習・	復習•時間)	参考図書を読む	、疑問点を整理	里する。1 時間	程度。				
成績評価法		出席、講義内での	出席、講義内での討論による総合評価						
	図定・学位授与 以ハビリテーション医学の知識に基づき研究を企画・遂行し、論文を投稿する能力 針との関連性								
			講義	内 容					
前期(回)		内 容	(出席卿)	後期(回)		内 容	(出席卿)		
1	リハビリラ	テーション医学の定	三義	1	診療の機	能分化と連携			
2	リハビリラ	テーション医学の歴	歷史:米国	2	リハ医療と保険・予防				
3	リハビリラ	テーション医学の歴	医史:欧州	3	リハ医療と福祉・介護				
4	リハビリラ	テーション医学の歴	を史:アジア	4	リハと地域	込括ケア			
5	リハビリラ	テーション医学の歴	歷史:日本	5	臨床連携	の必要性と効果			
6	わが国の	Dリハビリテーション	/医学の課題	6	分担と統合				
7	リハビリラ	テーションの理念		7	介護保険	介護保険の仕組み			
8	障害と疾	患		8	臨床連携				
9	疾病分類	質と障害分類		9	地域連携				
10	ICF の根	斑要		10	リハビリテ	ーション工学			
11	障害と環	境		11	リハ工学の	の成り立ち			
12	障害者の	の人口比		12	リハ工学の	の現状			
13	急性期の	クリハビリテーション	/	13	福士用具	を用いた生活支援	호		
13 14		Dリハビリテーション Dリハビリテーション		13 14	福士用具課題と今後		오		

講義コー	ド	*	専攻分野	最新医	学研究コ	ース		
講義題目		リハビリテー	ション診療	1		必修/選択	必修	
担当教員		佐々木 信幸		担当教員連絡	各先	PHS81164		
単位数		2 単位(前期1,	後期1)	1年(2年でも可)			
テーマと目的	内	リハビリテーション	リハビリテーション診療における流れや評価を学び疑問につなげる					
講義計画		リハビリテーション診療に用いる手技や標準化されている評価を講義を通じて学習す					て学習する	
達成目標		現在の診療や評価	現在の診療や評価における客観性・標準化・エビデンスを意識し今後の研究につなげる					
教科書·参	考書	最新リハビリテー	ション医学 第	等3版 医歯薬	出版株式会	·····································		
準備学習(予習・	復習•時間)	参考図書を読む	、疑問点を整	理する。1 時間	程度。			
成績評価法		出席、講義内での	の討論による約	総合評価				
	卒業認定・学位授与 の方針との関連性 リハビリテーション医学の知識に基づき研究を企画・遂行し、論文を投稿する能力							
			講	& 内 容				
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内容	(出席卿)	
1	リハビリラ	テーション診療の医	医師の役割	1	機能画像			
2	リハビリラ	テーション評価の力	法	2	脳出血の画像診断			
3	リハビリラ	テーション診察の進	進め方	3	脳梗塞の画像診断			
4	診断のフ	プロセス		4	くも膜下出	くも膜下出血の画像診断		
5	結果のま	きとめ		5	脳外傷の画像診断			
6	ADLの	定義と位置づけ		6	電気診断の意義			
7	ADL 評化	価の意義と要点		7	神経伝導	検査総論		
8	基本的点	ADL 評価スケール	/	8	神経障害	の分類		
9	手段的』	ADL 評価スケール	<u> </u>	9	感覚神経	伝導検査		
10	単純X約	線撮影		10	運動神経	伝導検査		
11	尿路系0	の画像診断		11	後期応答	:		
12	СТ			12	筋電図総	論		
13	MRI			13	安静時異	常電位		
14	MRI の描	最像 法		14	運動単位	電位		
15	MRI と C	CT		15	表面筋電			

講義コー	·F	*	※ 専攻分野 最新医学研究コース					
講義題目	I	リハビリテー:	ション診療	2		必修/選択	必修	
担当教員		佐々木 信幸		担当教員連絡	先	PHS81164		
単位数		2 単位(前期1,	後期1)	履修年次		1年(2年でも可)	
テーマと目的	的	リハビリテーション	ハビリテーション診療における流れや評価を学び疑問につなげる					
講義計画		リハビリテーション	リハビリテーション診療に用いる手技や標準化されている評価を講義を通じて学習する					
達成目標		 現在の診療や評値 	西における客 種	見性・標準化・エ	ビデンスを意	「識し今後の研究」	こつなげる	
教科書•参	考書	最新リハビリテー	ション医学 第	第3版 医歯薬	出版株式会	社		
準備学習(予習・	復習•時間)	参考図書を読む	、疑問点を整理	理する。1 時間	程度。			
成績評価法		出席、講義内での討論による総合評価						
卒業認定・4		リハビリテーション	/医学の知識(こ基づき研究を	·企画·遂行	し、論文を投稿す	る能力	
			講	& 内容				
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内容	(出席卿)	
1	電気診断	新における病巣診	斯	1	装具療法			
2	上肢遠位	立麻痺		2	福士用具			
3	肩挙上降	章害		3	在宅リハビリテーション			
4	下垂足			4	QOL 評価			
5	ニューロ	パチー		5	QOL の概念と定義			
6	ミオパチ				QOL の棚	記と定義		
	ミタハア	_		6	QOL の相 QOL 評価			
7	機能予復				QOL 評価			
8	機能予復			6	QOL 評句	近尺度	旦度との関係	
	機能予復	後診断 支のあらまし		6 7	QOL 評価 QOL 測定 運動障害	耐尺度 ごの留意点		
8	機能予復治療手打	後診断 支のあらまし ※療		6 7 8	QOL 評価 QOL 測定 運動障害 QOL に対	「R尺度 『の留意点 、ADL や介護負担	军积	
8	機能予復治療手持	後診断 支のあらまし <u></u>		6 7 8 9	QOL 評価 QOL 測気 運動障害 QOL に対	「R度 Eの留意点 、ADL や介護負担 けする介入とその角	アジ理論	
8 9 10	機能予復治療手持チーム医理学療法	後診断 支のあらまし 医療 去 1 去 2		6 7 8 9 10	QOL 評価 QOL 測気 運動障害 QOL に対 障害者の 障害の需	「尺度 この留意点 、ADL や介護負担 けする介入とその角 心理的反応とステ	アジ理論	
8 9 10 11	機能予征 治療手持 チーム医 理学療活 理学療活	後診断 支のあらまし 医療 去 1 去 2 去 1		6 7 8 9 10 11	QOL 評価 QOL 測気 運動障害 QOL に対 障害者の 障害の需	「尺度 この留意点 、ADL や介護負担 けする介入とその角 心理的反応とステ 要と障害への適応 と対応方法	アジ理論	
8 9 10 11 12	機能予征 治療手打 チーム医 理学療法 作業療法	後診断 支のあらまし 医療 去 1 去 2 去 1		6 7 8 9 10 11 12	QOL 評価 QOL 測点 運動障害 QOL に対 障害者の 障害の需	「尺度 この留意点 、ADL や介護負担 けする介入とその角 心理的反応とステ 要と障害への適応 と対応方法	アジ理論	

講義コー	・ド	*	専攻分野	最新医学	学研究コ [、]	※ 専攻分野 最新医学研究コース					
講義題目	1	障害の病態を	生理と評価	i·治療 1		必修/選択	必修				
担当教員		佐々木 信幸	大 信幸 担当教員連絡先		先	PHS81164					
単位数		2 単位(前期1,	後期1)	履修年次		1年(2年でも可)				
テーマと目的	的	障害の病態生理	章害の病態生理を学び、医学的に適切なリハビリテーション治療を選択する								
講義計画		各障害の原因と適切な治療について講義を通じて学習する									
達成目標		症状には必ず理	由があり、治療	そには根拠が必	要である。	その科学的洞察力	ラを学ぶ				
教科書•参	考書	最新リハビリテー	ション医学 第	53版 医歯薬	出版株式会	社					
準備学習(予習・	復習•時間)	参考図書を読む	、疑問点を整理	理する。1 時間	程度。						
成績評価法	•	出席、講義内での討論による総合評価									
	卒業認定・学位授与 の方針との関連性 リハビリテーション医学の知識に基づき研究を企画・遂行し、論文を投稿する能力										
			講義	克内 容							
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内容	(出席卿)				
1	廃用症値			1	運動失調						
I											
2	概要と歴	生的背景		2	歩行障害	総論					
2 3	.,	を 要群の内容		3	歩行障害 正常歩行						
	廃用症値		助能力低下	_		周期					
3	廃用症値	実群の内容 いと筋力低下、運動	助能力低下	3	正常歩行	周期 動学					
3 4	廃用症例	戻群の内容 少と筋力低下、運動	助能力低下	3 4	正常歩行歩行の運	周期 動学 と筋活動					
3 4 5	廃用症例 筋量減少 骨粗鬆症 循環系の	戻群の内容 少と筋力低下、運動	助能力低下	3 4 5	正常歩行 歩行の運 下肢運動	周期 動学 と筋活動 と重症度					
3 4 5 6	廃用症例 筋量減少 骨粗鬆症 循環系の	戻群の内容 いと筋力低下、運動 定 の変化 戻群の新たな展開	协能力低下	3 4 5 6	正常歩行 歩行の運 下肢運動 歩行評価	周期 動学 と筋活動 と重症度 評価					
3 4 5 6 7	廃用症例 筋量減少 骨粗鬆症 循環系の 廃用症例 運動障害	戻群の内容 いと筋力低下、運動 定 の変化 戻群の新たな展開		3 4 5 6 7	正常歩行 歩行の運 下肢運動 歩行評価 歩行機能	周期 動学 と筋活動 と重症度 評価					
3 4 5 6 7 8	廃用症的 筋量減少 骨粗鬆症 循環系の 廃用症的 運動障害 運動制	奏群の内容 いと筋力低下、運動 定 の変化 奏群の新たな展開 唇総論	神経系	3 4 5 6 7 8	正常歩行 歩行の運 下肢運動 歩行評価 歩行機能 逃避歩行	周期 動学 と筋活動 と重症度 評価					
3 4 5 6 7 8 9	廃用症例 筋量減少 骨粗鬆系 循環系症例 運動制御 大脳皮質	奏群の内容 いと筋力低下、運動 定 の変化 奏群の新たな展開 唇総論 即に関与する中枢	神経系	3 4 5 6 7 8 9	正常歩行 歩行の運 下肢運動 歩行評価 歩行機能 逃避歩行 麻痺性歩	周期 動学 と筋活動 と重症度 評価					
3 4 5 6 7 8 9	廃用症例 筋量減少 骨粗鬆系 循環系症例 運動制御 大脳皮質	戻群の内容 いと筋力低下、運動 定 の変化 戻群の新たな展開 唇総論 即に関与する中枢 質と皮質脊髄路・皮	神経系	3 4 5 6 7 8 9 10	正常歩行 歩行の運 下肢運動 歩行機能 歩行機能 水準性歩行 極性歩行	周期 動学 と筋活動 と重症度 評価					
3 4 5 6 7 8 9 10 11	廃用症例 筋量減少 循環無 原動制 運動制度 大 大	戻群の内容 いと筋力低下、運動 定 の変化 戻群の新たな展開 唇総論 即に関与する中枢 質と皮質脊髄路・皮	神経系	3 4 5 6 7 8 9 10 11	正常歩行 歩行の運 下肢運郵 歩行機・歩 を 選集性・歩 を 大瀬 大海 大海 大海 大海 大海 大海 大海 大海 大海 大海 大海 大海 大海	周期 動学 と筋活動 と重症度 評価 行					
3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	廃用症例	会群の内容 いと筋力低下、運動 定 の変化 会群の新たな展開 客総論 即に関与する中枢 質と皮質脊髄路・皮質をします。	神経系	3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	正常が変更を表示の運動を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を	周期 動学 と筋活動 と重症度 評価 行	į.				

講義コー	·ķ	※ 専攻分野 最新医学研究コース						
講義題目	l	障害の病態	生理と評価	i•治療 2		必修/選択	必修	
担当教員		佐々木 信幸		担当教員連絡	先	PHS81164		
単位数		2 単位(前期1,	後期1)	履修年次		1年(2年でも可)	
テーマと目的	的	障害の病態生理	章害の病態生理を学び、医学的に適切なリハビリテーション治療を選択する					
講義計画		各障害の原因と適切な治療について講義を通じて学習する						
達成目標		症状には必ず理	由があり、治療	景には根拠が必	要である。	その科学的洞察力	アを学ぶ	
教科書·参	芳書	最新リハビリテー	ション医学 第	第3版 医歯薬	出版株式会	社		
準備学習(予習・	復習•時間)	参考図書を読む	、疑問点を整理	亜する。1 時間	 程度。			
成績評価法		出席、講義内での	出席、講義内での討論による総合評価					
卒業認定・等		リハビリテーション	/医学の知識/	こ基づき研究を	·企画•遂行	し、論文を投稿す	る能力	
			講	遠 内 容				
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内容	(出席卿)	
1	循環機能	上 障害総論		1	不整脈の	 治療		
2	体内循斑	 景システム		2	呼吸障害	<u></u> 終論		
3	循環動態	本内循環システム			7 2011 1	시마다 Hittl		
4		臣		3	呼吸の基			
	冠循環と	® ∶心筋エネルギーſ	機が	3 4		礎		
5	冠循環と 運動と循	・心筋エネルギーイ	弋謝		呼吸の基呼吸器の	礎		
5 6	運動と循	・心筋エネルギーイ	弋謝	4	呼吸の基呼吸器の	礎 構造 呼吸筋力測定		
	運動と循	さ心筋エネルギーイ 「環動態 対態生理	弋謝	4 5	呼吸の基呼吸器の呼吸筋と	機 構造 呼吸筋力測定		
6	運動と循心臓の症	さ心筋エネルギーイ 「環動態 対態生理	弋謝	4 5 6	呼吸の基 呼吸器の 呼吸筋と 呼吸器と	機 構造 呼吸筋力測定		
6 7	運動と循心臓の病虚血性心	さ心筋エネルギーイ 「環動態 対態生理	弋謝	4 5 6 7	呼吸の基 呼吸器の 呼吸筋と 呼吸器量 肺胞換気 ガス交換	機 構造 呼吸筋力測定		
6 7 8	運動と循 心臓の症 虚血性心 心不全 不整脈	さ心筋エネルギーイ 「環動態 対態生理		4 5 6 7 8	呼吸の基 呼吸器の 呼吸筋と 呼吸器量 肺胞換気 ガス交換 肺胞動脈	礎 構造 呼吸筋力測定		
6 7 8 9	運動と循 心臓の症 虚血性心 心不全 不整脈 循環障害	:心筋エネルギー作 環動態 病態生理 心疾患		4 5 6 7 8 9	呼吸の基 呼吸器の 呼吸筋と 呼吸器量 肺胞換気 がなり があり がない。 があり がない。 があり がない。 があり がない。 があり があり があり。 があり、 があり、 があり、 があり、 があり、 があり、 があり、 があり、	機 構造 呼吸筋力測定 血酸素較差		
6 7 8 9	運動と循 心臓の症 虚血性心 心不全 不整脈 循環障害 心拍数・	:心筋エネルギー作 環動態 病態生理 心疾患 害の自覚症状・Bor	rg 指数	4 5 6 7 8 9	呼吸の基 呼吸器の 呼吸筋と 呼吸器量 肺胞換気 がな換 肺胞動脈 血液によ	機構造 呼吸筋力測定 血酸素較差 るガス運搬 るpH 調節		
6 7 8 9 10 11	運動と循 心臓の症 虚血性心 心不全 不整脈 循環障害 心拍数・	:心筋エネルギー作 環動態 対態生理 心疾患 事の自覚症状・Bor 脈拍数・血圧 酸素濃度モニター	rg 指数	4 5 6 7 8 9 10 11	呼吸の基 呼吸器の 呼吸器と が 呼吸器量 が が が が が が が が が が が が が が が が が が が	機構造 呼吸筋力測定 血酸素較差 るガス運搬 るpH 調節		
6 7 8 9 10 11	運動と循 心臓の症 心血性心 心整障 心水 で で で で で で で が の が の が の が の が の り い り い り い り り り り り り り り り り り り り	:心筋エネルギー作 環動態 対態生理 心疾患 事の自覚症状・Bor 脈拍数・血圧 酸素濃度モニター	rg 指数	4 5 6 7 8 9 10 11 12	呼吸器の 呼吸器の 呼吸器 が呼吸器 量が がったい がったい がったい がったい かんしょう かんしょく かんしん しんしん しんしん しんしん しんしん しんしん しんしん しんし	機 構造 呼吸筋力測定 血酸素較差 るガス運搬 るpH 調節		

講義コー	ド	*	※ 専攻分野 最新医学研究コース					
講義題目		障害の病態	生理と評価	i•治療 3		必修/選択	必修	
担当教員		佐々木 信幸		担当教員連	絡先	PHS81164		
単位数		2 単位(前期1,	後期1)	履修年次		1年(2年でも可)	
テーマと目的	ሳ	障害の病態生理	を学び、医学	的に適切なり	ハビリテーシ	ョン治療を選択する	る	
講義計画		各障害の原因と適切な治療について講義を通じて学習する						
達成目標		症状には必ず理	由があり、治療	そには根拠が	必要である。	その科学的洞察力	力を学ぶ	
教科書·参表	善	最新リハビリテー	ション医学 第	第3版 医歯炎	東出版株式会	社		
準備学習(予習・	復習•時間)	参考図書を読む	、疑問点を整理	埋する。1 時間	『程度。			
成績評価法		出席、講義内での	の討論による終	合評価				
卒業認定・等 の方針との	·	リハビリテーション	/医学の知識(こ基づき研究	を企画・遂行	し、論文を投稿す	る能力	
			講	克 内 容				
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内容	(出席卿)	
1	摂食嚥	下障害総論		1	尿排出障	尿排出障害		
2	嚥下の神	神経制御		2	畜尿障害	畜尿障害		
3	呼吸と嚥	下		3	自覚症状	自覚症状の評価と客観的評価		
4	嚥下にお	おける発達と加齢		4	リハビリテ	リハビリテーション対応		
5	原因と病	i態:偽性球麻痺		5	褥瘡総論	褥瘡総論		
6	原因と病	i態:球麻痺		6	褥瘡の病	褥瘡の病態生理		
7	誤嚥の分	分類と咽頭残留		7	褥瘡評価	iと予防		
8	嚥下障害	喜スクリーニング		8	褥瘡の治	療		
9	嚥下障害			9	痙縮•固約	宿総論		
10	重症度分			10	古典的病	態生理		
11	薬物療法	去 		11	上位運動	ニューロン障害と	 痙縮	
12	リハビリラ	テーション		12	固縮と関			
13	外科的流	台寮		13	痙縮•固約	宿の評価		
14	排尿障害	 手総論		14	痙縮•固約	宿の治療		
15	ᅔᆸᆚᄖ			15	公田松	 対論と発表		

講義コー	·ド	*	専攻分野	最新医	学研究コ	ース		
講義題目	I	高次脳機能				必修/選択	必修	
担当教員		佐々木 信幸		担当教員連絡	各先	PHS81164		
単位数		2 単位(前期1,	後期1)	履修年次		1年(2年でも可)	
テーマと目的	的	脳局所の機能と	凶局所の機能とその連携について学ぶ					
講義計画		様々な高次脳機能	様々な高次脳機能についてその解剖と機序について講義および臨床実習を通じて学習する					
達成目標		局所機能の連携	からどのような	治療が適切か	、今後の発	展を含め考えられ	る	
教科書•参	考書	最新リハビリテー	ション医学 第	第3版 医歯薬	出版株式会	☆社		
準備学習(予習・	復習•時間)	参考図書を読む	、疑問点を整	理する。1 時間	程度。			
成績評価法	•	出席、講義内での	出席、講義内での討論による総合評価					
卒業認定・4		リハビリテーション	/医学の知識(こ基づき研究を	∵企画•遂行	し、論文を投稿す	る能力	
			講	卷 内 容				
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内容	(出席卿)	
1	高次脳構	機能障害と認知症		1	構音障害	の評価と治療		
2	記憶障害			2	前頭葉機	能障害総論		
3	記憶障害	手の評価・重症度 詞	平価	3	注意障害	注意障害の病態生理		
4	記憶障害	手のリハビリテーシ	ョン	4	注意障害	注意障害の評価		
5	記憶障害	害者の復職支援		5	注意障害	注意障害の治療		
6	失行•失	認総論		6	遂行機能	遂行機能障害の病態生理		
7	失行のリ	ハビリテーション		7	遂行機能	遂行機能障害の評価		
8	失認のリ	ハビリテーション		8	遂行機能	障害の治療		
9	Balint-H	Iolmes 症候群		9	認知症総	論		
10	Gerstma	nn 症候群		10	定義と用	語、疫学		
11	失語症絲	念論		11	アルツハ	イマー型認知症		
12	失語の症	岗態生理		12	Lewy 小体	本型認知症		
13	失語症語	平価		13	前頭側頭	型認知症		
14	失語症(Dリハビリテーション	/	14	その他認	知症		
15	運動性標			15	後期総合	討論と発表		

講義コー	・ド	*	専攻分野	最新医学研究コース				
講義題目	1	脳卒中と脳タ	卜傷			必修/選択	必修	
担当教員		佐々木 信幸		担当教員連絡	 各先	PHS81164		
単位数		2 単位(前期1,	後期1)	履修年次		1年(2年でも可)	
テーマと目的	的	リハビリテーション	/医学の主とな	る脳卒中・脳:	外傷リハビリ	テーションについ	て学ぶ	
講義計画		発症・受傷機転ぐ	発症・受傷機転や病期に応じた適切な脳賦活について講義や臨床実習を通じて学習する					
達成目標		発展著しいニューロリハビリテーションを更に推進できる画期的治療的介入を考える						
教科書·参	考書	最新リハビリテー	最新リハビリテーション医学 第3版 医歯薬出版株式会社					
準備学習(予習・	復習・時間)	参考図書を読む	、疑問点を整	埋する。1 時間	温度。			
成績評価法		出席、講義内での	出席、講義内での討論による総合評価					
	*業認定・学位授与リハビリテーション医学の知識に基づき研究を企画・遂行し、論文を投稿する能力 の方針との関連性						る能力	
			講	ま 内 容				
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内容	(出席卿)	
1	脳卒中以	リハビリテーション糸	※論	1	回復期ケ	アプロセス		
2	急性期終	念論		2	維持期総論			
3	脳卒中0	の病型と急性期リス	シク	3	医学的管	医学的管理および評価		
4	初診時語	平価~ベッドサイド		4	維持期の	維持期の障害評価		
5	離床~四	 室 位		5	医学的アプローチ			
6	急性期间	こおける投薬治療		6	リハビリテ	リハビリテーションアプローチ		
7	急性期為	ら回復期リハへ		7	脳外傷リハビリテーション総論			
8	回復期終	念論		8	脳外傷に	おける特徴		
9	回復期以	ハの意義		9	原因と疫生	学		
10	リハの有	効性のエビデンス		10	受傷機転	と分類		
11	回復期以	リハ病棟の創設と虫	を備	11	急性期の	管理		
12	病棟の貿	質評価の導入		12	障害像			
13	脳卒中植	機能回復の特徴		13	低酸素脳	症の遅発性神経	虚状	
14	回復期以	リハにおけるリハ・ク	ア介入	14	評価と認	知リハビリテーショ	ン	
15	回復期以	ハにおける合併症	王管理	15	後期総合	計論と発表		

講義コー	ド	*	専攻分野	最新医	学研究コ	ース		
講義題目	l	脊髄損傷と神	申経筋疾患	ţ		必修/選択	必修	
担当教員		佐々木 信幸		担当教員連絡	各先	PHS81164		
単位数		2 単位(前期1,	後期1)	履修年次		1年(2年でも可)	
テーマと目的	的	脊髄損傷と神経	筋疾患に対す	る具体的なリノ	ヽ ビリテーシ	ョンを学ぶ		
講義計画	脊髄レベルに応じた後遺症、代表的な神経筋疾患について講義や臨床実習を通じ 学習する						 実習を通じて	
達成目標		代償手段がメインとなるこれらの疾患に対する画期的な未来の治療法を考えられる						
教科書•参	考書	最新リハビリテーション医学 第3版 医歯薬出版株式会社						
準備学習(予習・	復習•時間)	参考図書を読む、疑問点を整理する。1 時間程度。						
成績評価法		出席、講義内での	の討論による約	8合評価				
卒業認定・学位授与 の方針との関連性 リハビリテーション医学の知識に基づき研究を企画・遂行し、論文を投稿する能力						る能力		
			講義	き 内 容				
前期(回)		内 容	(出席卿)	後期(回)		内 容	(出席卿)	
1	脊髄損傷			1	主な症候	:		
2	機能障害	客レベルの評価		2	診断と評価			
3	活動レヘ	ジルの評価		3	治療とリノ	治療とリハビリテーション		
4	社会参加	加レベルの評価		4	多発性硬	多発性硬化症総論		
5	急性期の	の合併症対策		5	概要と評	概要と評価		
6	回復期の	の合併症対策		6	診断と薬	物療法		
7	慢性期0	の合併症対策		7	リハビリテ	ーション		
8	リハビリラ	テーションの実際		8	ALS 総論	ì		
9	再生医療	蒙と Robotics		9	概要と評価	価		
10	パーキン	ソン病総論		10	病期に応	じたリハビリテーシ	ラン	
11	概要と評	· 适価		11	ポストポリ	才総論		
12	診断と薬	医物療法		12	概要と疫生	学		
13	リハビリラ	テーションとその限	 界	13	リハビリテ	ーション治療		
14	脊髄小朋	凶変性症総論		14	新たな治	療展開		
15	概要と評	·····································		15	後期総合	討論と発表		

講義コー	ド	※ 専攻分野 最新医学研究コース						
講義題目	I	上下肢切断。	と義肢義足			必修/選択	必修	
担当教員		佐々木 信幸		担当教員連絡	先	PHS81164		
単位数		2 単位(前期1,	後期1)	履修年次		1年(2年でも可))	
テーマと目的	Ŕ	リハ工学やスポー	ーツにも関わる	切断後のリハヒ	ジリテーション	/について学ぶ		
講義計画		上肢切断と下肢・ じて学習する	上肢切断と下肢切断の根本的差異、多岐にわたる対応について講義や臨床実習を じて学習する					
達成目標		現状のリハ工学・	義肢装具の関	表界を知り、新た	こな治療を考	5祭できる		
教科書•参孝	考書	最新リハビリテー	ション医学 第 	第3版 医歯薬	出版株式会	·····································		
準備学習(予習・	復習•時間)	参考図書を読む	、疑問点を整	里する。1 時間	程度。			
成績評価法		出席、講義内での	出席、講義内での討論による総合評価					
卒業認定・当		リハビリテーション	/医学の知識に	こ基づき研究を	企画•遂行	し、論文を投稿す	る能力	
			講	喜内 容				
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内 容	(出席卿)	
前期(回)	末梢血行	内 容		後期(回)	義足歩行		(出席卿)	
	. ,,,		龄化			訓練	(出席卿)	
1	. ,,,	「障害の増加と高齢 所者に対するチー、	龄化	1	義足歩行 上肢切断	訓練	(出席卿)	
1 2	下肢切脚	「障害の増加と高齢 所者に対するチー、	齢化	1 2 3	義足歩行 上肢切断	訓練 総論 の疫学と背景	(出席卿)	
1 2 3	下肢切断 専門職和 下肢切断	「障害の増加と高い が者に対するチー、 重の役割	齢化	1 2 3	義足歩行 上肢切断 上肢切断	訓練 総論 の疫学と背景 と名称	(出席卿)	
1 2 3 4	下肢切断 専門職和 下肢切断 下肢切断	「障害の増加と高い 所者に対するチー、 重の役割 所術前評価と切断い	齢化 ムリハ	1 2 3 4	義足歩行 上肢切断 上肢切断 切断部位	訓練 総論 の疫学と背景 と名称 本構造	(出席卿)	
1 2 3 4 5	下肢切断 専門職和 下肢切断 下肢切断	「障害の増加と高齢が者に対するチー、重の役割 「新術前評価と切断し 「新術の原則 直後断端ケアの実	齢化 ムリハ	1 2 3 4 5	義足歩行 上肢切断 上肢切断 切断部位 義手の基	訓練 総論 の疫学と背景 と名称 本構造	(出席卿)	
1 2 3 4 5 6	下肢切断 専門職和 下肢切断 下肢切断 切断術面	「障害の増加と高い 所者に対するチー、 重の役割 所術前評価と切断し 所術の原則 直後断端ケアの実	齢化 ムリハ	1 2 3 4 5 6	義足歩行 上肢切断 上肢切断 切断部位 義手の分 義手の分	訓練 総論 の疫学と背景 と名称 本構造 類	(出席卿)	
1 2 3 4 5 6 7	下肢切断 専門職和 下肢切断 で 切断術面 義足パー	「障害の増加と高い 所者に対するチー、 重の役割 所術前評価と切断し 所術の原則 直後断端ケアの実	齢化 ムリハ	1 2 3 4 5 6 7	義足歩行 上肢切断 切断部位 義手の分 義手の分 義手の仕	訓練 総論 の疫学と背景 と名称 本構造 類 ーツと役割		
1 2 3 4 5 6 7 8	下肢切りでする。下肢切りでは、大きない。 下肢切りの 切りの 切りの がっこう しょう かいいん かいいん かいいん かいいん かいいん かいいん かいいん かいい	「障害の増加と高い 所者に対するチー、 重の役割 所術前評価と切断し 所術の原則 直後断端ケアの実	齢化 ムリハ	1 2 3 4 5 6 7 8	義足歩行 上肢切断 切断部位 義手の分 義手の分 義手の仕	訓練 総論 の疫学と背景 と名称 本構造 類 一ツと役割 組みと動かし方 のリハビリテーショ		
1 2 3 4 5 6 7 8 9	下専門技術の大学を表している。 下専門技術の大学を表している。 下のでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	「障害の増加と高い 所者に対するチー、 重の役割 所術前評価と切断し 所術の原則 直後断端ケアの実	齢化 ムリハ	1 2 3 4 5 6 7 8 9	義足歩行上肢切断 が	訓練 総論 の疫学と背景 と名称 本構造 類 一ツと役割 組みと動かし方 のリハビリテーショ		
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	下専門技験がある。	「障害の増加と高い 所者に対するチー、 重の役割 所術前評価と切断い 所術の原則 直後断端ケアの実際 一ツ	齢化 ムリハ	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	義足歩行上肢切断 が	訓練 総論 の疫学と背景 と名称 本構造 類 一ツと役割 組みと動かし方 のリハビリテーショ プローチ ーションの流れ		
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11	下専下下切義ソケ継部に対している。	「障害の増加と高い 所者に対するチー、 重の役割 所術前評価と切断い 所術の原則 直後断端ケアの実際 一ツ	齢化 ムリハ	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11	義足歩行上肢切断が一般を表します。 一般を表します。 一般を表します。 一般を表します。 一般を表します。 「はいいった」	訓練 総論 の疫学と背景 と名称 本構造 類 一ツと役割 組みと動かし方 のリハビリテーショ プローチ ーションの流れ		
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	下専下「切義ソケ継の部で、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、対し、	丁障害の増加と高い 所者に対するチー、 重の役割 所術前評価と切断い 所術の原則 直後断端ケアの実際 一ツ を足、最近の動向 ルの設定の目安	齢化 ムリハ	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	義足が断める。	訓練 総論 の疫学と背景 と名称 本構造 類 一ツと役割 組みと動かし方 のリハビリテーショ プローチ ーションの流れ		

講義コー	·ド	*	専攻分野	最新医生	学研究コ	ース		
講義題目	I	実習				必修/選択	必修	
担当教員		佐々木 信幸		担当教員連絡	先	PHS81164		
単位数		1単位(前期1,	2年					
テーマと目的	的	多様な障害に対	多様な障害に対する実際の評価やハンドリングを学ぶ					
講義計画		障害別の評価や	障害別の評価やリハビリテーション治療について実習を行う					
達成目標		 実臨床において 	適切な評価お	よび治療が遂	行できる			
教科書•参	考書	特になし、文献格	· 索					
準備学習(予習・	復習•時間)	文献を読む、疑問	問点を整理する	る。1 時間程度	0			
成績評価法		実習中の総合評	価					
卒業認定・ の方針との		リハビリテーション	/医学の知識(こ基づき研究を	·企画·遂行	し、論文を投稿す	る能力	
			講	& 内 容				
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内容	(出席卿)	
1	筋力			1	構音障害			
2	中枢性原	妹連		2	失行			
3	末梢性제	朱連		3	視覚失認			
4	関節可重	助域		4	半側空間無視			
5	表在感覚	党		5	座位耐性	座位耐性試験		
6	深部感覚	 		6	CPX			
7	異常反射	村 		7	用手的呼	用手的呼吸介助法		
8	歩行と歩	容		8	スクイーシ	シング		
9	装具			9	装具作成	::下肢		
10	義肢			10	装具作成	:上肢		
11	前頭葉树	機能障害		11	嚥下造影			
12	記憶障害	<u> </u>		12	嚥下内視	鏡		
13	失語症			13	ボツリヌス	毒素注射		
14	横隔膜と	<u>-</u> -臥床		14	Motor po	int block		
15	下腿カフ	パポンプ機能		15	rTMS			
				-				

講義コー	ド	*	専攻分野	最新医学研究コース					
講義題目	I	内部障害の	リハビリテー	ーション		必修/選択	選択		
担当教員		佐々木 信幸		担当教員連絡	各先	PHS81164			
単位数		2 単位(前期1,	後期1)	履修年次		1年(2年でも可)		
テーマと目的	的	生理学·生化学的	りにリハビリテー	ーション治療を	理解する	1			
講義計画		循環呼吸•腎疾患		ス運動角帯に	ついて講義名				
達成目標		生理学・生化学の観点からリハビリテーション治療を考察し、最適な治療を生み出せる							
教科書•参	考書	 最新リハビリテー 	最新リハビリテーション医学 第3版 医歯薬出版株式会社						
準備学習(予習・	復習•時間)	参考図書を読む	参考図書を読む、疑問点を整理する。1 時間程度。						
成績評価法		出席、講義内での	出席、講義内での討論による総合評価						
卒業認定・*		- リハビリテーション医学の知識に基づき研究を企画・遂行し、論文を投稿する能力							
			講義	内 容					
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内容	(出席卿)		
1	内部障害	事とは		1	腎疾患ス	腎疾患ステージごとの運動負荷			
2	急増する	5内部障害者		2	腎機能の評価				
3	内部障害	事リハの概念		3	腎機能障害のリハビリテーション				
4	循環器級	矣患総論		4	代謝総論				
5	狭心症、	心筋梗塞		5	好気性代謝と嫌気性代謝				
6	虚血性心	心疾患の評価		6	ミトコンドリアに対する運動の役割				
7	リハビリラ	テーションの実際		7	ATP				
8	心不全の	の概要		8	乳酸・ピル	レビン酸			
9	評価と診	>断		9	赤筋•白角	筋と筋単位参加			
10	心不全见	リハビリテーションの	実際	10	交感神経	と副交感神経			
11	呼吸器	矣患総論		11	重力と体	位の及ぼす循環調	郡整		
12	呼吸器0	の仕組み		12	重力と体	位の及ぼす呼吸訓	郡整		
13	COPD 0	クリハビリテーション	/	13	脳内モノ	アミンに対する重フ	りの影響		
14	ARDS Ø	リハビリテーション	,	14	異化亢進	における筋分解と	:筋合成		
15	腎疾患約	 総論		15	後期総合	·討論と発表			

講義コー	ド	※ 専攻分野 最新医学研究コース						
講義題目		運動器疾患の	のリハビリラ	テーション		必修/選択	選択	
担当教員		佐々木 信幸		担当教員連絡	先	PHS81164		
単位数		2 単位(前期1,	後期1)	履修年次		1年(2年でも可)	
テーマと目的	勺	骨関節疾患に対	するリハビリテ	ーション治療を	理解する			
講義計画		骨関節疾患に対	するステージ	ごとの運動につ	いて講義や	臨床実習を通じて	て学習する	
達成目標	整形外科的治療の進歩に対応する新たなリハビリテーション治療戦略を考察できる						察できる	
教科書·参表	善	最新リハビリテーション医学 第3版 医歯薬出版株式会社						
準備学習(予習・	復習•時間)	参考図書を読む、	参考図書を読む、疑問点を整理する。1 時間程度。					
成績評価法		出席、講義内での討論による総合評価						
	「業認定・学位授与 リハビリテーション医学の知識に基づき研究を企画・遂行し、論文を投稿する能力 の方針との関連性							
			講	ま 内 容				
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内容	(出席卿)	
1	骨折の棚	既要		1	腰痛症			
2								
_	骨折治療	象の原則		2	腰痛の原	因と診断・評価		
3		をの原則 ビリテーションの基	本	3		因と診断・評価		
		ビリテーションの基	本			ハビリテーション		
3	骨折リハ	ビリテーションの基		3	腰痛のリク	ヽビリテーション		
3	骨折リハ骨折の割具体的な	ビリテーションの基		3 4	腰痛のリグ薬物療法	ハビリテーション		
3 4 5	骨折リハ 骨折の割 具体的な 大腿骨類	ビリテーションの基 平価 なリハビリテーション		3 4 5	腰痛のリン 薬物療法 物理療法 下肢痛の	ハビリテーション	ーション	
3 4 5 6	骨折リハ 骨折の割 具体的な 大腿骨類	ビリテーションの基 平価 よリハビリテーション 頁部骨折 骨幹部骨折		3 4 5 6	腰痛のリン 薬物療法 物理療法 下肢痛の	ハビリテーション 評価 としてのリハビリテ	ーション	
3 4 5 6 7	骨折リハ 骨折の割 具体的な 大腿骨類 大腿骨質	ビリテーションの基 平価 よリハビリテーション 頁部骨折 骨幹部骨折		3 4 5 6 7	腰痛のリン 薬物療法 物理療法 下肢痛の 保存療法 人工関節	ハビリテーション 評価 としてのリハビリテ	ーション	
3 4 5 6 7 8	骨折リハ 骨折の計 具体的な 大腿骨質 大腿骨質 下腿骨質	ビリテーションの基 平価 なリハビリテーション 頂部骨折 骨幹部骨折 骨折		3 4 5 6 7 8	腰痛のリン 薬物療法 物理療法 下肢痛の 保存療法 人工関節 スポーツタ	ハビリテーション 評価 としてのリハビリテ 置換術		
3 4 5 6 7 8 9	骨折リハ 骨折の割 具体的な 大腿骨型 大腿骨質 下腿骨質 足部骨切	ビリテーションの基 平価 ペリハビリテーション 頂部骨折 骨幹部骨折 骨折 「 「重計画		3 4 5 6 7 8 9	腰痛のリン 薬物療法 物理療法 下肢痛の 保存療法 人工関節 スポーツタ	トビリテーション 評価 としてのリハビリテ 置換術 外傷の概要		
3 4 5 6 7 8 9	骨折リハ 骨折の割 具体的な 大腿骨骨 下腿骨骨 足部 式と荷	ビリテーションの基 呼価 なリハビリテーション 頂部骨折 骨幹部骨折 骨折 「重計画		3 4 5 6 7 8 9	腰痛のリン 薬物療法 物理療法 下肢痛の 保存療法 人工関節 スポーツタ スポーツタ	トビリテーション 評価 としてのリハビリテ 置換術 外傷の概要		
3 4 5 6 7 8 9 10	骨折リハ 骨折の割 具体 関係 骨骨 下 服 骨骨 で は で は で で は で で で で で で で で で で で	ビリテーションの基 呼価 なリハビリテーション 頂部骨折 骨幹部骨折 骨折 「重計画 骨折		3 4 5 6 7 8 9 10 11	腰痛のリン 薬物療法 物理療法 下肢痛の 保存療法 人工関節 スポーツタ スポーツタ	ハビリテーション 評価 としてのリハビリテ 置換術 外傷の概要 外傷の評価とリハヒ SD) 病態生理と治療		
3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	骨折リハ 骨折の 大 大 下 展 部 代 ト 大 下 展 部 代 上 関 節 の	ビリテーションの基 呼価 なリハビリテーション 頂部骨折 骨幹部骨折 骨折 「重計画 骨折		3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	腰痛のリン 薬物療法 物理療法 下肢痛の 保存療法 人工関節 スポーツタ CRPS の利 疼痛の評	ハビリテーション 評価 としてのリハビリテ 置換術 外傷の概要 外傷の評価とリハヒ SD) 病態生理と治療	ヹリテーション	

講義コー	Ļ	※ 専攻分野 最新医学研究コース								
講義題目	l	ニューロリハ	ビリテーシ	ョン		必修/選択	選択			
担当教員		佐々木 信幸		担当教員連絡	各先	PHS81164				
単位数		2 単位(前期1,	後期1)	履修年次		1年				
テーマと目的	的	神経症状に対す	る新たな治療	体系を理解する	る					
講義計画		最新のリハビリテ	ーションについ	て講義や臨足	ま 実習を通じ	に学習する				
達成目標		これまでにない新規性の高い有効なリハビリテーション治療を考案できる								
教科書•参	考書	特になし、文献権	特になし、文献検索							
準備学習(予習・	復習・時間)	文献を読む、疑問	文献を読む、疑問点を整理する。1 時間程度。							
成績評価法		出席、講義内では	出席、講義内での討論による総合評価							
卒業認定・学							る能力			
			講	多内容						
前期(回)		内 容	(出席卿)	後期(回)		内 容	(出席卿)			
1	ニューロ	リハビリテーション	とは	1	rTMS の材					
2					111110 12	死 安 ————————				
	従来のリ	ハビリテーションの)限界	2	•	歴史と現状				
3		ハビリテーションの		2 3	•	歴史と現状				
3	新たなリ				rTMS の別 大脳半球	歴史と現状	TMS			
	新たなリ Brain Ma	ハビリテーションの		3	rTMS の別 大脳半球 脳卒中上	歴史と現状間抑制				
4	新たなリ Brain Ma	ハビリテーションの achine Interface1 achine Interface2		3 4	rTMSの別 大脳半球 脳卒中上 脳卒中下	歴史と現状 間抑制 肢麻痺に対する r				
4 5	新たなリ Brain Ma Brain Ma	ハビリテーションの achine Interface1 achine Interface2		3 4 5	rTMSの別 大脳半球 脳卒中上 脳卒中下 失語症に	歴史と現状 間抑制 肢麻痺に対する r 肢麻痺に対する r				
4 5 6	新たなリ Brain Ma Brain Ma 川平法1	ハビリテーションの achine Interface1 achine Interface2		3 4 5 6	rTMSの別 大脳半球 脳卒中上 脳卒中下 失語症に アパシー	歴史と現状 間抑制 肢麻痺に対するr 肢麻痺に対するr 対するrTMS				
4 5 6 7	新たなリ Brain Ma Brain Ma 川平法1 川平法2	ハビリテーションのachine Interface1 achine Interface2		3 4 5 6 7	rTMSの別 大脳半球 脳卒中上 脳卒中下 失語症に アパシー	歴史と現状 間抑制 肢麻痺に対するr 肢麻痺に対するr 対するrTMS に対するrTMS				
4 5 6 7 8	新たなリ Brain Ma Brain Ma 川平法1 川平法2 CI 療法	ハビリテーションのachine Interface1 achine Interface2		3 4 5 6 7 8	rTMSの 大脳半球 脳卒中上 脳卒中下 失語症に アパシー 嚥下障害 TBS、tDC	歴史と現状 間抑制 肢麻痺に対するr 肢麻痺に対するr 対するrTMS に対するrTMS	TMS			
4 5 6 7 8 9	新たなリ Brain Ma Brain Ma 川平法1 川平法2 CI 療法2	ハビリテーションのachine Interface1 achine Interface2 c 2 1		3 4 5 6 7 8 9	rTMSの 大脳半球 脳卒中上 脳卒中下 失語症に アパシー 嚥下障害 TBS、tDC rTMSの	歴史と現状 間抑制 肢麻痺に対するr 肢麻痺に対するr 対するrTMS に対するrTMS に対するrTMS	TMS			
4 5 6 7 8 9	新たなリ Brain Ma Brain Ma 川平法1 川平法2 CI療法: CI療法:	ハビリテーションのachine Interface1 achine Interface2 c 1 2 51		3 4 5 6 7 8 9	rTMSの 大脳半球 脳卒中上 脳卒中下 失語症に アパシー 嚥下障害 TBS、tDC rTMSのこ	歴史と現状 間抑制 肢麻痺に対するr 肢麻痺に対するr 対するrTMS に対するrTMS に対するrTMS に対するrTMS	TMS			
4 5 6 7 8 9 10 11	新たなリ Brain Ma Brain Ma 川平法1 川平法2 CI療法 CI療法 Robotics	ハビリテーションのachine Interface1 achine Interface2 2 1 2 51 52		3 4 5 6 7 8 9 10 11	rTMSの 大脳半球 脳卒中上 脳卒中下 失語症に アパシー 嚥下障害 TBS、tDC rTMSのコ rTMSのコ	歴史と現状 間抑制 肢麻痺に対するr 肢麻痺に対するr 対するrTMS に対するrTMS に対するrTMS こまするrTMS	TMS			
4 5 6 7 8 9 10 11 12	新たなリ Brain Ma Brain Ma 川平法1 川平法2 CI療法 CI療法 Robotics Robotics	ハビリテーションのachine Interface1 achine Interface2 2 1 2 51 52		3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	rTMSの別 大脳半球 脳卒中上 脳卒中下 失語症に アパシー 嚥下障害 TBS、tDC rTMSのコ rTMSのコ パーキング	歴史と現状 間抑制 肢麻痺に対するr 肢麻痺に対するr 対するrTMS に対するrTMS に対するrTMS に対するrTMS ニューロプロテクシ ニューロモジュレー ソン病へのrTMS	TMS			

講義コー	ド	*	専攻分野	学研究コ	ース			
講義題目	I	運動負荷試	験			必修/選択	選択	
担当教員		佐々木 信幸		担当教員連絡	先	PHS81164		
単位数		2 単位(前期1,	後期1)	履修年次		2年		
テーマと目的	ď	様々な病態に対	する運動負荷	について理解	する			
講義計画	CPX や座位耐性試験などを講義や臨床実習を通じて学習する							
達成目標		病態リスクに応じ	た生理学・生化	化学的反応を	考案できる			
教科書·参	考書	特になし、文献検索						
準備学習(予習・	復習•時間)	文献を読む、疑問	文献を読む、疑問点を整理する。1 時間程度。					
成績評価法		出席、講義内での討論による総合評価						
卒業認定・学位授与 の方針との関連性 リハビリテーション医学の知識に基づき研究を企画・遂行し、論文を投稿する能力							る能力	
			講	喜内 容				
ALIE /								
前期(回)		内 容	(出席卿)	後期(回)		内容	(出席卿)	
前期(回)	運動負荷	内 容 前の功罪1	(出席卿)	後期(回)	BCAA の		(出席卿)	
			(出席卿)				(出席卿)	
1	運動負荷	苛の功罪1		1	BCAA Ø	作用	(出席卿)	
1 2	運動負荷	帯の功罪1 帯の功罪2		1 2	BCAA の mTORC1 カルニチ	作用	(出席卿)	
1 2 3	運動負荷	前の功罪1 前の功罪 2 末のメリットとデメリッ phase2 まで		1 2 3	BCAA の mTORC1 カルニチ	作用 ンと透析 ase Proteins	(出席卿)	
1 2 3 4	運動負荷 早期離戶 AVERT AVERT	前の功罪1 前の功罪 2 末のメリットとデメリッ phase2 まで		1 2 3 4	BCAA の mTORC1 カルニチ、 Acute pha	作用 ンと透析 ase Proteins 安応答	(出席卿)	
1 2 3 4 5 5	運動負荷 早期離戶 AVERT AVERT 脳血流自	前の功罪1 前の功罪 2 末のメリットとデメリッ phase2 まで phase3	ット	1 2 3 4 5	BCAA の mTORC1 カルニチン Acute pha 運動と免犯	作用 ンと透析 ase Proteins 皮応答	(出席卿)	
1 2 3 4 5 6	運動負荷 早期離戶 AVERT AVERT 脳血流自 Dallas B	ボの功罪1 ボの功罪 2 ボのメリットとデメリッ phase2 まで phase3 自動調節能	ット ing Study	1 2 3 4 5 6	BCAA の mTORC1 カルニチン Acute pha 運動と免 TNF- a と 遺伝子の	作用 ンと透析 ase Proteins 皮応答	(出席卿)	
1 2 3 4 5 6 7	運動負荷 早期離戶 AVERT AVERT 脳血流自 Dallas B	前の功罪1 前の功罪 2 末のメリットとデメリッ phase2 まで phase3 自動調節能 ed Rest and Train	ット ing Study	1 2 3 4 5 6 7	BCAA の mTORC1 カルニチン Acute pha 運動と免え TNF- a と 遺伝子の 遺伝子多	作用 ンと透析 ase Proteins 皮応答 : IL-6 仕組み	(出席卿)	
1 2 3 4 5 6 7 8	運動負荷 早期離戶 AVERT AVERT 脳血流自 Dallas B 最大酸素 動脈血戶	ボの功罪1 ボの功罪 2 ドのメリットとデメリッ phase2 まで phase3 自動調節能 ed Rest and Traini 素摂取量と最高酸素	小 ing Study 素摂取量	1 2 3 4 5 6 7 8	BCAA の mTORC1 カルニチン Acute pha 運動と免え TNF- a と 遺伝子の 遺伝子多	作用 ンと透析 ase Proteins 安応答 : IL-6 仕組み 型と脳機能回復 脳可塑性	(出席卿)	
1 2 3 4 5 6 7 8 9	運動負荷 早期離り AVERT AVERT 脳血流り Dallas B 最大酸素 動脈血り 体位とノ	ボの功罪1 ボの功罪2 ボのメリットとデメリッ phase2 まで phase3 自動調節能 ed Rest and Traini 関類取量と最高酸 正圧受容器反応	小 ing Study 素摂取量	1 2 3 4 5 6 7 8 9	BCAA の mTORC1 カルニチン Acute pha 運動と免約 TNF- αと 遺伝子の 遺伝子の 急性期の 悪玉架橋	作用 ンと透析 ase Proteins 安応答 : IL-6 仕組み 型と脳機能回復 脳可塑性	(出席卿)	
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	運動負荷 早期離り AVERT AVERT 脳血流り Dallas B 最大酸す 動脈血り 体位とノ	前の功罪1 前の功罪2 末のメリットとデメリッ phase2 まで phase3 自動調節能 ed Rest and Traini 素摂取量と最高酸 正圧受容器反応 ルアドレナリン、セ	小 ing Study 素摂取量	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	BCAA の mTORC1 カルニチン Acute pha 運動と免約 TNF- αと 遺伝子の 遺伝子の 急性期の 悪玉架橋	作用 ンと透析 ase Proteins 安応答 : IL-6 仕組み 型と脳機能回復 脳可塑性 lal volume	(出席卿)	
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11	運動負荷 早期離り AVERT AVERT 脳血流り Dallas B 最大酸素 動脈血り 体位とノ レニンア 静脈灌剤	ボの功罪1 ボの功罪2 ボのメリットとデメリッ phase2 まで phase3 動調節能 ed Rest and Traini 表摂取量と最高酸 E圧受容器反応 ルアドレナリン、セ	小 ing Study 素摂取量	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11	BCAAの mTORC1 カルニチン Acute pha 運動と免犯 TNF- なと 遺伝子の 遺伝子の 悪玉架橋 体位と tid	作用 ンと透析 ase Proteins 安応答 : IL-6 仕組み 型と脳機能回復 脳可塑性 lal volume	(出席卿)	
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	運動負荷 早期離り AVERT AVERT 脳血流り Dallas B 最大酸素 動脈血り 体位とノ レニンア 静脈灌剤	ボの功罪1 ボの功罪2 ボのメリットとデメリッ phase2 まで phase3 自動調節能 ed Rest and Traini 表摂取量と最高酸 E圧受容器反応 ルアドレナリン、セ ンギオテンシン系 だと右房圧 こよるポンプ機能	小 ing Study 素摂取量	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	BCAAの mTORC1 カルニチン Acute pha 運動と免犯 TNF- なと 遺伝子の 遺伝子の 悪玉架橋 体位と tid	作用 ンと透析 ase Proteins 皮応答 : IL-6 仕組み 型と脳機能回復 脳可塑性 lal volume マッチ 分画変化	(出席卿)	

専攻分野/コース	最新医学研究コース
(英文名)	(Advanced Course for Medical Research)
研究指導教員	小林 泰之

近年、人工知能(Al: Artificial Intelligence)を含む ICT(Information and Communication Technology) が格段に進化し、医療の世界においてもその臨床応用が非常に期待されている。医療情報処理技術応用研究分野では、既存の医療ICTの利活用方法に限定することなく、広く世の中の様々な最新デジタル技術の応用に取り組むことで新たなICT機器やツールの開発を進め、医療や健康産業におけるイノベーションを創出することを目的としている。さらに、ICT技術を人々の健康な生活レベルの維持・向上、及び、疾病の早期発見・疾患予防に積極的に活用して、患者さんや住民も加えた包括的な先進的地域連携へルスケアシステムを構築する。また、知財を創出する新たな機器開発や臨床アプリケーションの開発、AIの活用による精度の高い治療効果予測・予後評価を実現し、Precision Medicine 時代に対応した新たな診断学を確立することを目的としている。ICT に特化した大学院講座を設けることにより、医学の知識だけでなく、新しい ICT技術に加えて医療政策・医療経済など健康関連領域を包含した広い視野を持ち、次世代医療をリードする人材育成を行う。上記目的を実現させるため、他施設のAI研究者や様々な企業との共同研究を積極的に推進する。当講座のミッションは、最新のICT・AI技術を活用して医療・ヘルスケアを飛躍的に進化させ、寿命 120 歳時代に向けて人類のより良い社会を実現することである。

研究項

目

- 1. AI (Machine Learning/Deep Learning 等)を用いた予測アルゴリズムの作成
- 2. 画像診断における AI を用いた診断システムの開発
- 3. 医療における AI の特殊性(データ数・プロセス解析)を解決する手法の開発
- 4. 医療における ICT の新たな利活用法及びシステムの開発
- 5. 病院内の臨床上での様々な課題に対する AI を用いた解決手法の開発

準備学習(予習·復習)

- 1. 事前に AI、IoT(Internet of Things)、VR(Virtual Reality)/AR(Augmented Reality)、Robotics 等に関して、興味を持った書籍や Internet で情報を収集すること(推薦書籍:人工知能は人間を超えるか、松尾豊著、角川 EPUB 選書、2015)。
- 2. 講義や配布資料の内容を理解して、参考文献を読み、プレゼンテーションの準備をすること。
- 3. 講義終了後にはレポートを提出すること。

講義コー	ド	*	専攻分野	最新医学研究コース					
講義題目	1	医療における	る最新テク	ノロジー	概論	必修/選択	必修		
担当教員		小林 泰之		担当教員	連絡先	内線 4070			
単位数		2単位(前期 1・1	後期 1)	履修年次		1年			
テーマと目的	的	医療・ヘルスケア	領域における	最新テクノ	ロジーに関する	る概論を理解する			
講義計画		医療・ヘルスケア	領域における	各最新テク	フノロジーの活	用や影響を概説す	る		
達成目標		医療・ヘルスケア	領域における	最新テクノ	ロジーに関して	ご説明できる			
教科書•参	考書	ヘルスケア産業のデジタル経営革命(永田満監訳、日経 BP 社)、人工知能と経済の未来(井上智洋著、文藝春秋)							
準備学習(予習・	復習•時間)	上記参考書のガ	記参考書のガイドラインを理解する 2時間						
成績評価法		出席と講義内では	出席と講義内での発表、積極性、受講態度による総合評価						
卒業認定•	学位授与	医療・ヘルスケア	医療・ヘルスケア領域における最新テクノロジーを理解して研究を行い、論文を作成し						
の方針との	関連性	て発表する							
	T		講	内 容					
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回	国)	内 容	(出席卿)		
1	総論			1	新ビジネ	スモデル I (2)			
2	総説人	工知能		2	新ビジネ	ごジネスモデルⅡ(1)			
3	総説 Io	T		3	新ビジネ	スモデルⅡ(2)			
4	総説 Ro	botics		4	新ビジネ	fビジネスモデルⅢ(1)			
5	総説 VE	C/AR/MR		5	新ビジネ	スモデルⅢ(2)			
6	人工知能	2と経済の未来		6	新ビジネ	新ビジネスモデルⅡ(1)			
7	人工知能	2と経済の未来		7	新ビジネ	新ビジネスモデルⅢ (2)			
8	人工知能	2と経済の未来		8	新ビジネ	スモデルⅡ(1)			
9	人工知能	2と経済の未来		9	新ビジネ	スモデルⅢ(2)			
10	人工知能	2と経済の未来		10	新しい組	織 I (1)			
11	押し寄せ	さ変化 I (1)		11	新しい組	織 I (2)			
12	押し寄せ	さ変化 I (2)		12	新しい組	織Ⅱ (1)			
13	押し寄せ	さ変化Ⅱ(1)		13	新しい組	織Ⅱ (2)			
14	押し寄せ	こる変化Ⅱ(2)		14	ヘルスケ	ア新時代(1)			
15	新ビジネ	スモデル I (1)		15	ヘルスケ	ア新時代 (2)			

講義コー	F	*	専攻分野	学研究コ	ニース			
講義題目		人工知能概認	論			必修/選択	必修	
担当教員		小林 泰之		担当教員連絡	先	内線 4070		
単位数		2単位(前期 1・往	後期 1)	履修年次		1年		
テーマと目的	ሳ	人工知能に関す	る概略を理解	する				
講義計画 人工知能に関する様々な手法を説明する								
達成目標	達成目標 人工知能に関して説明できる							
教科書·参表	考書 人工知能概論(谷口忠大著、講談社、2014)							
準備学習(予習・	復習•時間)	上記参考書のガ						
成績評価法		出席と講義内での発表、積極性、受講態度による総合評価						
	業認定・学位授与 方針との関連性 人工知能を活用して研究を行い、論文を作成して発表する							
			講	大 容				
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内 容	(出席卿)	
1	総論 I			1	強化学習 Ⅱ			
2	総論 Ⅱ			2	ベイズフィルタ Ι			
3	総論 Ⅲ			3	ベイズフィ	ベイズフィルタ Ⅱ		
4	総論 IV			4	粒子フィバ	粒子フィルタ Ι		
5	基本的な	c探索 I		5	粒子フィバ	立子フィルタ Ⅱ		
6	基本的な	·探索 II		6	クラスタリン	ング I		
7	最適経路			7	クラスタリン	ング Ⅱ		
8	最適経路	各探索 Ⅱ		8	パターン記	認識 I		
9	ゲーム理	l論 I		9	パターン記	認識 Ⅱ		
10	ゲーム理	■論 Ⅱ		10	自然言語	処理 I		
11	多段決定	定:動的計画 I		11	自然言語	処理 Ⅱ		
12	多段決定	È:動的計画 Ⅱ		12	記号論理	I		
13	ベイズ理	!論の基礎 I		13	記号論理	П		
14	ベイズ理	!論の基礎 Ⅱ		14	証明と質	疑応答 I		
15	強化学習	I I		15	証明と質	疑応答 Ⅱ		

講義コー	·ド	※ 専攻分野 最新医学研究コース						
講義題目	1	IoT•Robotics	s•VR/AR/	/MR 各論		必修/選択	必修	
担当教員		小林 泰之		担当教員連絡	先	内線 4070		
単位数		2単位(前期 1・行	後期 1)	履修年次		1年		
テーマと目的	的	IoT•Robotics•VF	R/AR/MR に	関する詳細な知	職を得る			
講義計画		IoT•Robotics•VF	oT・Robotics・VR/AR/MR に関する各論を説明する					
達成目標		IoT•Robotics•VF	oT・Robotics・VR/AR/MR の詳細を説明できる					
教科書·参	考書	VR/AR 医療の衝撃(杉本真樹著、ボーンデジタル)、IoT まるわかり(三菱総合研究所編、日本経済新聞出版社)、RPAの威力(安部慶喜・金弘潤一郎、日経 BP 社)						
準備学習(予習・	復習•時間)	上記参考書のガ	上記参考書のガイドラインを理解する 2時間					
成績評価法	;	出席と講義内での	出席と講義内での発表、積極性、受講態度による総合評価					
	卒業認定・学位授与 の方針との関連性 IoT・Robotics・VR/AR/MRを活用して研究を行い、論文を作成して発表する						ర	
			講	& 内容				
前期(回)		内 容	(出席卿)	後期(回)		内 容	(出席卿)	
1	IoT (Ir	nternet of Things)総論 I	1	Robotics	総論VI		
2	IoT (In	nternet of Things)総論Ⅱ	2	Robotics	tics 総論VII		
3	IoT (In	nternet of Things)総論Ⅲ	3	Robotics	otics 総論VII		
4	IoT (Ir	nternet of Things)総論IV	4	Robotics	Robotics 総論IX		
5	IoT (Ir	nternet of Things)総論V	5	Robotics	ootics 総論X		
6	IoT (Ir	nternet of Things)総論VI	6	VR/AR/N	MR 総論 I		
7	IoT (In	nternet of Things)総論Ⅶ	7	VR/AR/N	⁄IR 総論Ⅱ		
8	IoT (In	nternet of Things)総論Ⅷ	8	VR/AR/N	⁄IR 総論Ⅲ		
9	IoT (In	nternet of Things	総論IX	9	VR/AR/N	//R 総論Ⅳ		
10	IoT (In	nternet of Things	総論X	10	VR/AR/N	AR 総論V		
11	Robotics	s 総論 I		11	VR/AR/N	MR 総論VI		
12	Robotics	;総論Ⅱ		12	VR/AR/N	MR 総論Ⅶ		
13	Robotics	; 総論Ⅲ		13	VR/AR/N	MR 総論VⅢ		
14	Robotics	s 総論IV		14	VR/AR/N	∕IR 総論IX		
15	Robotics	s 総論V		15	VR/AR/N	MR 総論X		

講義コー	ド	*	専攻分野	;	最新医学研	千究コース		
講義題目	l	テクノロジー	・ロードマッ	プ		必修/選択 必修		
担当教員		小林 泰之		担当	自教員連絡先	内線 4070		
単位数		2単位(前期 1・1	後期 1)	履修	季年次	1年		
テーマと目的	约	テクノロジーのロ	ケノロジーのロードマップを理解する					
講義計画		ロードマップの意	ロードマップの意義や利用法、様々な領域のテクノロジー・ロードマップを概説する					
達成目標		 ロードマップを理 	解し、様々な代	領域(のテクノロジー・	ロードマップを説明できる		
教科書·参表	考書	実践ロードマップ入門(出川通著、言視舎)						
準備学習(予習・	復習•時間)	上記参考書のガ	上記参考書のガイドラインを理解する 2時間					
成績評価法		出席と講義内での	出席と講義内での発表、積極性、受講態度による総合評価					
卒業認定・等								
			講	& 内	容			
前期(回)		内容	(出席卿)		後期(回)	内 容 (出席卿)		
1	総論				1	ヘルスケア 生活の質の向上 I		
2	ロードマ	ップ作成の必要性			2	ヘルスケア 生活の質の向上 Ⅱ		
3	ロードマ	ップ作成の基礎	I		3	ヘルスケア 社会的課題 Ι		
4	ロードマ	ップ作成の基礎]	П		4	ヘルスケア 社会的課題 Ⅱ		
5	ロードマ	ップ作成の基礎 I	П		5	ヘルスケア ビジネス Ι		
6	ロードマ	ップのパターン分類	類		6	ヘルスケア ビジネス Ⅱ		
7	ロードマ	ップの統合化			7	医療 生活の質の向上 I		
8	ロードマ	ップの検証			8	医療 生活の質の向上 II		
9	経営·事	業部門でのコミュニ	ケーション		9	医療 社会的課題 I		
10	研究開系	き部門でのコミュニク	ケーション		10	医療 社会的課題 II		
11	アライア	ンス、顧客とのコミ	ュニケーション	,	11	医療 ビジネス Ι		
					12	医療 ビジネス Ⅱ		
12	意思のあ	うるロードマップ:維	1織と個人		14			
12 13		らるロードマップ:組 或におけるロードマ			13	食の問題 生活の質の向上		
	医学領域		ップ概論 Ι					

講義コー	ド	*	専攻分野 最新医学研究コース						
講義題目	l	医療•画像情	う報システ.	<u>ل</u>		必修/選択	必修		
担当教員		小林 泰之		担当教員連絡	先	内線 4070			
単位数		2単位(前期 1・1	後期 1)	履修年次		1年			
テーマと目的	的 的	画像情報システム	ムに関して理解	解する					
講義計画		画像情報システム	ムの基礎からん	 芯用まで概説す					
達成目標		画像情報システムに関して説明できる							
教科書·参	考書	医療情報 第5版 医療情報システム編							
準備学習(予習・	復習•時間)	上記参考書のガ	上記参考書のガイドラインを理解する 2時間						
成績評価法		出席と講義内では	出席と講義内での発表、積極性、受講態度による総合評価						
卒業認定・*		── 画像情報システムに関して理解する							
			講	& 内 容					
前期(回)		内 容	(出席卿)	後期(回)		内 容	(出席卿)		
1	画像情報	根システム基礎		1	医療情報	医療情報システム基礎			
2	画像情報	根システム基礎		2	医療情報システム基礎				
3	画像情報	根システム基礎		3	医療情報システム基礎				
4	画像情報	根システム基礎		4	医療情報	医療情報システム基礎			
5	画像情報	限システム基礎		5	医療情報システム基礎				
6	画像情報	限システム基礎		6	医療情報	システム基礎			
7	画像情報	限システム各論		7	医療情報システム各論				
8	画像情報	限システム各論		8	医療情報	システム各論			
9	画像情報	限システム各論		9	医療情報	システム各論			
10	画像情報	限システム各論		10	医療情報	システム各論			
11	画像情報	限システム各論		11	医療情報	システム各論			
12	画像情報	限システム各論		12	医療情報	システム各論			
13	画像情報	限システム各論		13	医療情報	システム各論			
14	画像情報	限システム各論		14	医療情報	システム各論			
15	画像情報	根システム各論		15	医療情報	システム各論			

講義コー	ド	*	* 専攻分野 最新医学研究コース							
講義題目	Ì	人工知能開	発に必要な	よ基礎	約		必修/選択	必修		
担当教員		小林 泰之		担当拳	数 員連絡	先	内線 4070			
単位数		2単位(前期 1・征	後期 1)	履修年	F次		2年			
テーマと目的	ሳ	人工知能の開発	に必要な基礎	知識を	:理解する	3				
講義計画		人工知能の開発	に必要な基礎	知識を	:各論別(こ概説する				
達成目標	人工知能の開発に必要な基礎知識を説明できる									
教科書·参	学書	言書 あたらしい人工知能の教科書(石井一夫監修、翔泳社)								
準備学習(予習・	復習•時間)	上記参考書のガ	上記参考書のガイドラインを理解する 2 時間							
成績評価法		出席と講義内での発表、積極性、受講態度による総合評価								
	卒業認定・学位授与 の方針との関連性 人工知能を活用して研究を行い、論文を作成して発表する									
			講	& 内 !	容					
前期(回)		内容	(出席卿)	後期	朝(回)		内容	(出席卿)		
1	総論 (1)			1	統計的機	統計的機械学習 II(2)			
2	総論 (2)			2	強化学習(1)				
3	人工知能	ヒの過去・現在・未	来(1)		3	強化学習	(2)			
4	人工知能	ヒの過去・現在・未	来 (2)		4	深層学習	(1)			
5	ルール~	ベース (1)			5	深層学習	(2)			
6	ルール~	ベース (2)			6	画像や音	声のパターン認識	(1)		
7	人工知俞	もプログラム (1)			7	画像や音	声のパターン認識	(2)		
8	人工知俞	セプログラム (2)			8	自然言語	処理 (1)			
9	最適解抗	深索(1)			9	自然言語	処理 (2)			
10	最適解抗	深索(2)			10	知識表現	(1)			
11	最適化ス	プログラム(1)			11	知識表現	(2)			
12	最適化ス	プログラム (2)			12	分散コント	ニューティング (1)			
13	統計的模	幾械学習 I(1)			13	分散コント	ニューティング (2)			
14	統計的構	幾械学習 I (2)			14	大規模デ	ータ・IoT (1)			
15	統計的模	機械学習Ⅱ(1)			15	大規模デ	ータ・IoT (2)			

講義コー	·۲	*	専攻分野	最新医学研究コース				
講義題目	1	人工知能	を行うための	環境設定		必修/選択	必修	
担当教員		小林 泰之		担当教員連絡	先	内線 4070		
単位数		2単位(前期	1•後期 1)	履修年次		2年		
テーマと目的	的	人工知能を行	fうための 環境 i	没定を理解して	実際に環境	竟設定を行う		
講義計画		人工知能を行	人工知能を行うための環境設定に関して解説する					
達成目標		人工知能を行	人工知能を行うための環境設定を理解して、実際に環境設定を行える					
教科書·参	考書		新しい Linux の教科書(三宅英明著、SB Creative)、Azure 実践ガイド(インプレス)、初めての Watson(井上研一著、リックテレコム)、TensorFlow(Nick McClure 著、インプレス)					
準備学習(予習・	復習•時間)	上記参考書の	上記参考書のガイドラインを理解する 2時間					
成績評価法	\	出席と講義内	出席と講義内での発表、積極性、受講態度による総合評価					
卒業認定・4		自分で環境設定を行う						
			講	義 内 容				
前期(回)		内 容	(出席卿)	後期(回)		内 容	(出席卿)	
1	総論			1	Chainer			
2	総論			2	Chainer			
3	Azure			3	Chainer			
4	Azure			4	Chainer			
5	Watson			5	TensorFlo	ow		
6	Watson			6	TensorFlo	ow		
7	Linux			7	TensorFlo	ow		
8	Linux			8	TensorFlo	ow		
9	Linux			9	Keras			
10	Linux			10	Keras			
11	Linux			11	Keras			
12	Linux			12	Keras			
13	Linux			13	Caffe			
14	Linux			14	Caffe			
15	Linux			15	Caffe			

講義コー	·ド	*	専攻分野	最新医	学研究コ	ナース			
講義題目	1	プログラミング	プログラミングの基礎 I 必修/選択						
担当教員		小林 泰之	小林 泰之						
単位数		2単位(前期 1・1	後期 1)	履修年次		2年			
テーマと目的	的	プログラミングのえ							
講義計画		プログラミングの	基礎に関して	解説する					
達成目標		プログラミングのえ	基礎を理解す	る					
教科書•参	考書	ゼロから作る Dee	ep Learning (斎藤康毅著、	オライリー・ミ	ジャパン)			
準備学習(予習・	復習・時間)	上記参考書のガ	イドラインを理	解する 2時間]				
成績評価法		出席と講義内での	の発表、積極性	生、受講態度に	よる総合評	—————————————————————————————————————			
	卒業認定・学位授与 の方針との関連性								
			講	路内 容					
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内容	(出席卿)		
1	プログラ	ミング概説		1	ニューラルネットワーク IV				
2	インストー	ール		2	ニューラバ	ニューラルネットワーク V			
3	Python	入門 I		3	ニューラルネットワーク VI				
4	Python	入門 Ⅱ		4	誤差逆伝播法 I				
5	Python	入門 Ⅲ		5	誤差逆伝播法 Ⅱ				
6	Python	入門 IV		6	誤差逆伝播法 Ⅲ				
7	Python	入門 V		7	学習に関するテクニック I				
8	Python	入門 VI		8	学習に関	するテクニック Ⅱ			
9	Python	入門 VII		9	学習に関	するテクニック Ⅲ			
10	パーセフ	プトロン I		10	畳み込み	ニューラルネットワ			
11	パーセフ	プトロン II		11	畳み込み	畳み込みニューラルネットワーク Ⅱ			
12	パーセフ	プトロン III		12	畳み込み	ニューラルネットワ	ー ク Ⅲ		
13	ニューラ	ルネットワーク I		13	ディープラーニング I				
14	ニューラ	ルネットワーク II		14	ディープ	ラーニング II			
15	ニューラ	ルネットワーク 🎹		15	ディープ	ラーニング III			

講義コー	·F	*	※ 専攻分野 最新医学研究コース						
講義題目	l	プログラミング	プログラミングの基礎 II (実習) 必修/選択 必						
担当教員		小林 泰之	林 泰之 担当教員連絡先 内線 4070						
単位数		2単位(前期 1・行	単位(前期 1・後期 1) 履修年次 2 年						
テーマと目的	的	基礎的なプログラ	基礎的なプログラミングを実際に行って理解する						
講義計画		基礎的なプログラ	ミングに関し	て、実習を通	じて理解して	もらう			
達成目標		 基礎的なプログラ	ミングを自分	でできるように	<u>-</u> する				
教科書•参	考書	ゼロから作る Dee	ep Learning	(斎藤康毅著	オライリー・	ジャパン)			
準備学習(予習・	復習•時間)	上記参考書のガ	イドラインを理	解する 4時	間				
成績評価法		出席と講義内での	の発表、積極的	生、受講態度	による総合割	益価			
卒業認定・空		自分でプログラミ	ングを行ってる	研究し、論文	を作成して発	表する			
			講	& 内容					
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内 容 (出席卿)			
1,2	プログラ	ミング概説		1,2	ニューラル	ニューラルネットワーク IV			
3,4	インストー	ール		3,4	ニューラル	ニューラルネットワーク V			
5,6	Python	入門 I		5,6	ニューラル	ニューラルネットワーク VI			
7,8	Python	入門 Ⅱ		7,8	誤差逆伝	誤差逆伝播法 I			
9,10	Python	入門 Ⅲ		9,10	誤差逆伝	誤差逆伝播法 Ⅱ			
11,12	Python	入門 IV		11,12	誤差逆伝	誤差逆伝播法 Ⅲ			
13,14	Python	入門 V		13,14	学習に関	学習に関するテクニック I			
15,16	Python	入門 VI		15,16	学習に関	する テクニック Ⅱ			
17,18	Python	入門 VII		17,18	学習に関	学習に関するテクニック Ⅲ			
19,20	パーセン	プトロン I		19,20	畳み込み	ニューラルネットワ	ーク I		
21,22	パーセフ	プトロン II		21,22	畳み込み	畳み込みニューラルネットワーク Ⅱ			
23,24	パーセフ	プトロン III		23,24	畳み込み	畳み込みニューラルネットワーク Ⅲ			
25,26	ニューラ	ルネットワーク I		25,26	ディープ	ラーニング I			
27,28	ニューラ	ルネットワーク Ⅱ		27,28	ディープ	ラーニング II			
29,30	ニューラ	ルネットワーク III		29,30	ディープ	ディープラーニング Ⅲ			

講義コー	·ド	*	※ 専攻分野 最新医学研究コース						
講義題目	1	医療における	医療におけるテクノロジーの適応と課題 必修/選択 必						
担当教員		小林 泰之	林 泰之 担当教員連絡先 内線 4070						
単位数		2単位(前期 1・	単位 (前期 1・後期 1) 履修年次 2 年						
テーマと目的	的	医療・ヘルスケア	医療・ヘルスケア領域における AI/ICT の活用と課題に関して理解する						
講義計画		医療・ヘルスケア	領域における	AI/ICT の活用と	と課題に関し	て、テクノロジー別	に講義する		
達成目標		医療・ヘルスケア	領域における	AI/ICT の活月	用と課題に関	関して説明できる			
教科書•参	考書	人工知能時代の	医療と医学教	育(髙橋優三	著、篠原出	版新社)			
準備学習(予習・	復習•時間)	上記参考書のガ	イドラインを理	解する 2 時間	Ī				
成績評価法	;	出席と講義内での	の発表、積極は	生、受講態度に	よる総合評	価			
	卒業認定・学位授与 の方針との関連性 医療においてテクノロジーを活用する企画書を作成する								
			講	& 内容					
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内 容	(出席卿)		
1	人工知能	¥		1	バーチャ	ルリアリティー			
2	人工知能	¥		2	バーチャルリアリティー				
3	人工知能	ži.		3	バーチャルリアリティー				
4	人工知能	¥		4	バーチャルリアリティー				
5	人工知能	¥		5	バーチャルリアリティー				
6	人工知能	¥		6	ロボティク	'ス			
7	人工知能			7	ロボティク	·'ス			
8	人工知能			8	ロボティク	·'ス			
9	人工知能	¥		9	ロボティク	·'ス			
10	人工知能	¥		10	ロボティク	'ス			
11	センサー	・・ウェラブル機器		11	その他のテクノロジー				
12	センサー	-・ウェラブル機器		12	その他のテクノロジー				
13	センサー	-・ウェラブル機器		13	その他のテクノロジー				
14	センサー	-・ウェラブル機器		14	その他の	テクノロジー			
15	センサー	センサー・ウェラブル機器 15 その他のテクノロジー							

講義コー	ド	*	※ 専攻分野 最新医学研究コース							
講義題目	I	人	人工知能最新情報 必修/選択 必須							
担当教員		小林	泰之		内線 4070					
単位数		1単位	位 (後期 1)		履俑	修年次		2年		
テーマと目的	'n	人工	人工知能等の最新テクノロジーに関する最新知見を学ぶ							
講義計画		各種	学会(国内•	海外)、展示会	会、1	セミナー等で	で得られた知	印見を紹介する		
達成目標		人工	知能等の最	新テクノロジー	ーに	関する最新	知見を理解	する		
教科書·参	考書	なし								
準備学習(予習・	復習•時間)	授業	内容を理解	する 2 時間						
成績評価法		出席	出席と講義内での発表、積極性、受講態度による総合評価							
卒業認定・等		- 1 自分の研究に最新知見を活用する - 1 自分の研究に最新知見を活用する - 1 自分の研究に最新知見を活用する - 1 自分の研究に最新知見を活用する - 1 自分の研究に最新知見を活用する - 1 自分の研究による - 1 自分の研究を持定する - 1 自分の研究を持定する - 1 自分の研究を持定する - 1 自分の研究を持定する - 1 自分の研究を持定する - 1 自分の研究を持定する - 1 自分の研究を持定する - 1 自分の研究を持定する - 1 自分の研究を持定する - 1 自分の研究を持定する - 1 自分の研究を持定する - 1 自分の研究を持定する - 1 自分の研究を持定する - 1 自分の研究を持定する - 1 自分の研究を持定する - 1 自分の可能を対象を対象を可能による - 1 自分の可能による - 1 自分の								
				講	遠 卢	勺 容				
前期(回)		内	容	(出席卿)	, ;	後期(回)		内 容	(出席卿)	
1						1	人工知能	に関する最新情報	ł I	
2						2	人工知能	に関する最新情報	ł II	
3						3	人工知能に関する最新情報 III			
4						4	人工知能	に関する最新情報	ł IV	
5						5	IoT に関っ	する最新情報 I		
6						6	IoT に関っ	する最新情報 Ⅱ		
7						7	IoT に関っ	する最新情報 Ⅲ		
8						8	IoT に関っ	する最新情報 IV		
9						9	VR/AR/N	//R に関する最新情	f報 I	
10						10	VR/AR/N	/IR に関する最新情	青報 Ⅱ	
11						11	VR/AR/N	/IR に関する最新情	野報 Ⅲ	
12						12	VR/AR/N	MR に関する最新情	f報 IV	
13						13	Robotics	に関する最新情報	I	
14						14	Robotics	に関する最新情報	П	
15						15	Robotics	に関する最新情報	Ш	

講義コー	ド	*	専攻分野	ース					
講義題目		画像診断 C	Γ	必修/選択	選択				
担当教員		小林 泰之	小林 泰之 担当教員連絡先 内線 4070						
単位数		1単位 (前期 1)	L単位 (前期 1) 履修年次 1年						
テーマと目的	ሳ	CT に関して学ぶ	CT に関して学ぶ						
講義計画		CT の基礎から各	論に関して講	義する					
達成目標		CT に関して概説	Ĺ できる						
教科書•参考	考書	MDCT の基本パ	ワーテキスト(メディカルサイン	エンスインタ	ーナショナル)			
準備学習(予習・	復習•時間)	上記参考書のガ	イドラインを理	解する 2時間					
成績評価法	:	出席と講義内での	の発表、積極性	生、受講態度に	よる総合評	価			
	*業認定・学位授与 CT の基礎から各論に関して理解する								
			講	& 内容					
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内 容	(出席卿)		
1	CT 基礎			1					
2	CT 基礎			2					
3	CT 基礎			3					
4	CT 基礎			4					
5	CT 基礎			5					
6	CT 基礎			6					
7	CT 各論			7					
8	CT 各論	i		8					
9	CT 各論			9					
10	CT 各論	•		10					
11	CT 各論	ţ		11					
12	CT 各論	ţ		12					
13	CT 各論			13	13				
14	CT 各論			14					
15	まとめ			15					

講義コー	·ド	*	専攻分野	最新医生	学研究コ	医学研究コース				
講義題目	1	画像診断 MI	画像診断 MRI 必修/選打							
担当教員		小林 泰之	卜林 泰之 担当教員連絡先 内線 4070							
単位数		1単位(前期 1)	単位 (前期 1) 履修年 次 2年							
テーマと目的	的	MRI に関して学	57		,					
講義計画		MRI の基礎から	各論に関して討	構義する						
達成目標		MRI に関して概認	兑できる							
教科書•参	考書	決定版 MRI 完全	全解説 第2版	〔(荒木 力著、	秀潤社)					
準備学習(予習・	復習•時間)	上記参考書のガ	イドラインを理	解する 2時間						
成績評価法		出席と講義内での	の発表、積極性	生、受講態度に	よる総合評	価				
卒業認定・ の方針との		MRI の基礎から	各論に関して理	里解する						
			講義	内 容						
前期(回)		内容	(出席卿)	後期(回)		内容	(出席卿)			
1	MRI 基础	*		1						
2	MRI 基础	*		2						
3	MRI 基础	姓		3						
4	MRI 基础	*		4						
5	MRI 基础	E		5						
6	MRI 基础	楚		6						
7	MRI 各部	侖		7						
8	MRI 各部	侖		8						
9	MRI 各部			9	9					
10	MRI 各計	侖		10						
11	MRI 各計	一		11						
12	MRI 各計	一		12						
13	MRI 各計	·····································		13						
14	MRI 各計			14						
15	まとめ			15						

講義コー	ド	事攻分野 最新医学研究=						ース		
講義題目		医规	療政策 [。]	·医療経済				必修/選択	選択	
担当教員		小林	泰之		連絡先	内線 4070				
単位数		1 単	位(後期	1)	履	修年次	:	1年		
テーマと目的	均	医療	経済や医	医療政策に関し	て理解	解する	'			
講義計画		日本	における	医療経済や医	療政策	策に関	して概説する			
達成目標		医療	経済や医	医療政策に関し	て説り	明できる	5			
教科書·参表	考書			い直す(島崎 『講義(東京大			ま書房)、 大学院編、医学	書院)		
準備学習(予習・	復習•時間)	上記	と参考書の	ガイドラインを	≥理解	する 1	時間			
成績評価法		出席	お講義内	での発表、積	極性、	受講態	度による総合評	価		
卒業認定・等		医療	経済や医	医療政策に関し	て理例	解し、自	分の研究に役立	なてる		
				講	義	为 容				
前期(回)		内	容((出席卿)	後期	(回)	内	容 (出席卿)		
1					1		日本の国民皆			
2					2		日本の国民皆	保険 Ⅱ		
3					3		歴史 I			
4					4		歴史 Ⅱ			
5					5		人口構造の変化	化 I		
6					6		人口構造の変化	化Ⅱ		
7					7		人工構造の変物	容が医療制度に及	をす影響 I	
8					8		人工構造の変物	容が医療制度に及	及す影響 Ⅱ	
9					9		医療政策 I			
10					10)	医療政策 II			
11					1:	L	地域包括ケア・	地域医療構想]		
12					12	2	地域包括ケア・		[
13					13	3	医療保険制度	I		
14					14	1	医療保険制度	П		
15					15	5	まとめ			
	•			L L						

※ 専攻分野 最新医学研究コース									
人工知能の流	人工知能の法的保護・知財申請 必修/選択 選択								
小林 泰之									
1 単位 (後期 1)	単位 (後期 1) 2 年								
人工知能の法的保護・知財申請に関して理解する									
人工知能の法的	保護·知財申詢	青に関して総論	・各論に分	けて講義する	3				
人工知能の法的	保護·知財申記	青に関して説明	見できる						
ビジネスの法律実	寒務(人工知能	法務研究所編	ā、日本加除	出版株式会	社)				
上記参考書のガ	イドラインを理/	解する 1時間							
出席と講義内での	り発表、積極性	生、受講態度に	よる総合評	価					
	保護•知財申請	青に関して理解	翼し、自分の	研究に役立る	てる				
	講義	内 容	講 義 内 容						
内容 (出席卿) 後期(回) 内容 (出席卿									
内容	(出席卿)	後期(回)		内容		(出席卿)			
内 容	(出席卿)	後期(回)		内 容 の法的保護	総論	(出席卿)			
内容	(出席卿)		人工知能						
内容	(出席卿)	1	人工知能	の法的保護	各論	I			
内容	(出席卿)	1 2	人工知能 人工知能	の法的保護の法的保護	各論	I II			
内容	(出席卿)	1 2 3	人工知能 人工知能 人工知能	の法的保護の法的保護の法的保護	各論 各論 各論	I II			
内 容	(出席卿)	1 2 3 4	人工知能 人工知能 人工知能 人工知能 人工知能	の法的保護 の法的保護 の法的保護 の法的保護	各論 各論 各論	I II III			
内 容	(出席卿)	1 2 3 4 5	人工知能 人工知能 人工知能 人工知能 人工知能 人工知能	の法的保護 の法的保護 の法的保護 の法的保護 の法的保護	各論各論各論各論	I II III IV V			
内 容	(出席卿)	1 2 3 4 5 6	人工知能 人工知能 人工知能 人工知能 人工知能 人工知能	の法的保護 の法的保護 の法的保護 の法的保護 の法的保護	各論各論各論各論各論各論	I II III IV V			
内 容	(出席卿)	1 2 3 4 5 6 7	人工知能 人工知能 人工知能 人工知能 人工知能 人工知能 人工知能	の法的保護 の法的保護 の法的保護 の法的保護 の法的保護 の法的保護	各	I II III IV V VI			
内 容	(出席卿)	1 2 3 4 5 6 7 8	人工知能 人工知能 人工知知能 人工工知知能 人工工知知能 人工工知能	の法的保護 の法的保護 の法的保護 の法的保護 の法的保護 の法的保護 の法的保護	各备备备备备	I II III IV V VI I			
内 容	(出席@)	1 2 3 4 5 6 7 8	人工知知能 化 人人 人人 人人 人人 人人 人人 人人 人人 人人 人人 人人 人人 人	の法的保護 の法的保護 の法的保護 の法的保護 の法的保護 の法的保護 の法的保護 の知財申請	各各各各各条絡各	I II III V V VI I I II			
内 容	(出席@)	1 2 3 4 5 6 7 8 9	人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人	の法的保護の法的保護の法的保護の法的保護の法的保護の法的保護の法的保護の知知財申請の知財申請の知財申請の知知財申請	各各各各各総各各各	I II II III III III III III III III II			
内 容	(出席@)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11	人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人	の法的保護の法的保護の法的保護の法的保護の公法的保護の公法的保護の公法との公法を対しているのの知知を対しているのののののののというでは、これには、これには、これには、これには、これには、これには、これには、これに	各 各 各 各 各 卷 备 备 备 論 論 論 論 論 論 論 論 論 論 論 論 論 論 論 論	I II II III III IIV			
内 容	(出席@)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人人	の法的保護の法的保護のの法とのののののののののののののののののののののののののののののののののの	各 各 各 各 各 卷 卷 各 各 各 各 备 备 論 論 論 論 論 論 論 論 論 論 論 論 論 論	I II III III III IIV V			
	小林 泰之 1 単位(後期1) 人工知能の法的 人工知能の法的 人工知能の法的 ビジネスの法律 上記参考書のガー	小林 泰之 1 単位(後期1) 人工知能の法的保護・知財申記 人工知能の法的保護・知財申記 人工知能の法的保護・知財申記 人工知能の法的保護・知財申記 ビジネスの法律実務(人工知能 上記参考書のガイドラインを理例 出席と講義内での発表、積極性 人工知能の法的保護・知財申記	1単位(後期1) 履修年次 人工知能の法的保護・知財申請に関して理解 人工知能の法的保護・知財申請に関して総論 人工知能の法的保護・知財申請に関して説明 ビジネスの法律実務(人工知能法務研究所編 上記参考書のガイドラインを理解する 1時間 出席と講義内での発表、積極性、受講態度に 人工知能の法的保護・知財申請に関して理解	小林 泰之	小林 泰之 担当教員連絡先 内線 4070 1 単位 (後期 1) 履修年次 2年 人工知能の法的保護・知財申請に関して理解する 人工知能の法的保護・知財申請に関して総論・各論に分けて講義する 人工知能の法的保護・知財申請に関して説明できる ビジネスの法律実務(人工知能法務研究所編、日本加除出版株式会 上記参考書のガイドラインを理解する 1 時間 出席と講義内での発表、積極性、受講態度による総合評価 人工知能の法的保護・知財申請に関して理解し、自分の研究に役立て	小林 泰之 担当教員連絡先 内線 4070 1 単位 (後期 1) 履修年次 2 年 人工知能の法的保護・知財申請に関して理解する 人工知能の法的保護・知財申請に関して総論・各論に分けて講義する 人工知能の法的保護・知財申請に関して説明できる ビジネスの法律実務(人工知能法務研究所編、日本加除出版株式会社) 上記参考書のガイドラインを理解する 1 時間 出席と講義内での発表、積極性、受講態度による総合評価 人工知能の法的保護・知財申請に関して理解し、自分の研究に役立てる			

講義コー	ド	事攻分野 最新医学研究					ニース	
講義題目	l	新規事業戦闘	咯•企業変	革			必修/選択	選択
担当教員		小林 泰之		担	先	内線 4070		
単位数		1単位(前期1)		2年				
テーマと目的	内	新規事業戦略・소	企業変革に関	して				
講義計画		1年生では基本	事項を学び、2	2 年	生で医療に	おける新規	上事業戦略に関して	講義する
達成目標		1 年生では基本 ¹ 題と紐付けて企業			2 年生では	AI などの	ICT をどのように医	医療現場の課
教科書•参考	垮書	成功する事業計	画書の作り方	(秦	充洋著、オ	ーツメ社)		
準備学習(予習・	復習•時間)	上記参考書のガ	イドラインを理	解	する 2 時間			
成績評価法		出席と講義内での	の発表、積極の	性、	受講態度に	よる総合評	価	
卒業認定・等		新規事業戦略・1	企業変革に関	して	理解し、自然	分の研究に	役立てる	
			講	蹇 阝	为 容			
前期(回)		内容	(出席卿))	後期(回)		内 容	(出席卿)
1	事業計画	町(1)			1			
2	事業計画	蓟(2)			2			
3	事業発想	思(1)			3			
4	事業発想	思 (2)			4			
5	顧客への)提供価値(1)			5			
6	顧客への)提供価値(2)			6			
7	ビジネス・	モデル(1)			7			
8	ビジネス・	モデル(2)			8			
9	マネタイ	ズモデル(1)			9			
10	マネタイ	ズモデル(2)			10			
11	事業計画	画書(1)			11			
12	事業計画	画書 (2)			12			
13	新しい個	 f値(1)			13			
14	新しい個	 f値(2)			14			
15	まとめ				15			